

# リアホナ



## 総大会の説教

ニール・L・アンダーセン長老、  
十二使徒に召される



## 十二使徒定員会

前列左から、ボイド・K・パッカー会長、L・トム・ベリー長老、ラッセル・M・ネルソン長老、ダリン・H・オークス長老、M・ラッセル・バラード長老。  
後列左から、リチャード・G・スコット長老、ロバート・D・ヘイルズ長老、ジェフリー・R・ホランド長老、デビッド・A・ペドナー長老、クエンティン・L・クック長老、  
D・トッド・クリスタフソン長老、ニール・L・アンダーセン長老。

# リアホナ

2 第179回年次総大会の概要

●土曜午前の部会

- 4 大会へようこそ  
トーマス・S・モンソン大管長
- 7 物心両面で賢い養い手となる  
十二使徒定員会 ロバート・D・ヘイルズ長老
- 11 敬意と敬虔さ  
中央初等協会会長第一顧問  
マーガレット・S・リファース
- 14 啓示された定員会の原則  
前中央若い男性会長第二顧問  
マイケル・A・ナイダー
- 17 厳しい時代の中で強さを見いだす！  
七十人 アラン・F・バックー長老
- 19 聖約の力  
十二使徒定員会  
D・トッド・クリストファーソン長老
- 23 逆境  
大管長第一顧問  
ヘンリー・B・アイリング管長

●土曜午後の部会

- 27 教会役員への支持  
大管長第二顧問  
ディーター・F・ワークトドルフ管長
- 29 2008年度教会監査部報告  
教会監査部実務運営ディレクター  
ロバート・W・キャントウェル
- 30 2008年度統計報告  
大管長秘書 ブルック・P・ヘイルズ
- 31 過去の教訓から学ぶ  
十二使徒定員会 M・ラッセル・バラード長老
- 34 御父の計画——すべての子供たちを救う  
壮大なもの  
十二使徒定員会 クエンティン・L・クック長老
- 38 主イエス・キリストを信じる信仰  
七十人 ケビン・W・ピアソン長老
- 41 逆境の中の信仰  
七十人 ラファエル・E・ピノ長老
- 43 「神殿での礼拝——苦難のときに  
強さと力を与えてくれる源泉」  
十二使徒定員会 リチャード・G・スコット長老
- 46 主の祈りから得られる教訓  
十二使徒定員会 ラッセル・M・ネルソン長老

●神権部会

- 49 若い男性への勧め  
十二使徒定員会会長 ボイド・K・バックー会長
- 53 これはあなたへの電話です  
管理ビショップリック第一顧問  
リチャード・C・エッジリー ビショップ

- 56 神権の責任  
七十人会長 クラウド・R・M・コスタ長老
- 59 偉大な業に携わっているから  
下って行くことはできない  
大管長第二顧問  
ディーター・F・ワークトドルフ管長
- 63 「負傷者あり！」  
大管長第一顧問  
ヘンリー・B・アイリング管長
- 67 最高の自分になる  
トーマス・S・モンソン大管長

●日曜午前の部会

- 75 キリストの弟子として歩む道  
大管長第二顧問  
ディーター・F・ワークトドルフ管長
- 78 主のみもとに来なさい  
十二使徒定員会 ニール・L・アンダーセン長老
- 81 新たな人生を歩み始める  
七十人会長 スティーブン・E・スノー長老
- 83 主の手近し  
中央扶助協会会長第二顧問  
バーバラ・トンブソン
- 86 だれも主とともにいなかった  
十二使徒定員会 ジェフリー・R・ホランド長老
- 89 元気を出しなさい  
トーマス・S・モンソン大管長

●日曜午後の部会

- 93 無私の奉仕  
十二使徒定員会  
ダリン・H・オークス長老
- 97 名と地位を立派に維持する  
十二使徒定員会  
デビッド・A・ベドナー長老
- 101 聖なる家庭、聖なる神殿  
七十人 ゲーリー・E・  
スティーブンソン長老
- 104 人生のかじ取りに  
役立つ賜物  
七十人  
ジョセ・A・ティシエラ長老
- 106 主の僕、預言者  
七十人  
F・マイケル・ワトソン長老
- 109 人々をわたしのものに連れ  
て来なさい  
十二使徒定員会  
L・トム・ペリー長老
- 112 また逢う日まで  
トーマス・S・モンソン  
大管長

●中央若い女性集会

- 114 信者の模範になりなさい  
中央若い女性会長第二顧問  
アン・M・ディブ
- 117 徳高い人生——一歩ずつ  
中央若い女性会長第一顧問  
メアリー・N・クック
- 120 さあ、わたしたちは主の山に登ろう  
中央若い女性会長  
イレイン・S・ダルトン
- 123 勇気を持てるように  
トーマス・S・モンソン大管長
- 72 末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部
- 128 指導者の言葉
- 130 大会で話された実話や物語の索引
- 131 わたしたちの時代のための教え
- 131 中央補助組織会長会
- 132 チャーチ・ニュース



# 第179回年次総大会の概要

## 2009年4月4日土曜午前、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——トーマス・S・モンソン大管長。開会の祈り——チャールズ・ディディエ長老。閉会の祈り——ウィリアム・W・バームリー長老。音楽——タバナクル合唱団;指揮——マック・ウィルバーク、エドガー・トンプソン;オルガニスト——アンドリュウ・アンズワース、クレア・クリスチャンセン。「夜明けだ、朝明けだ」『賛美歌』1番;「Press Forward, Saints,」*Hymns*, 81番;「悩めるイスラエル」『賛美歌』6番、ウィルバーク編曲、未刊;「いざ救いの日を楽しまん」『賛美歌』5番;「Consider the Lilies,」ロジャー・ホフマン、リヨン編曲、ジャックマン刊;「贖いの主」『賛美歌』73番、ウィルバーク編曲、未刊

## 2009年4月4日土曜午後、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ディーター・F・ワークトドルフ管長。開会の祈り——スペンサー・J・コンディー長老。閉会の祈り——ダグラス・L・カリスター長老。音楽——ソルトレーク地域インスティテュートによる合同聖歌隊;指揮——ステイブン・P・シャンク、リチャード・T・デッカー;オルガニスト——ボニー・グッドリフ、リンダ・マーゲッツ。「Come, Thou Glorious Day of Promise,」*Hymns*, 50番;「来ませ、王の王」『賛美歌』29番、ケーセン編曲、ジャックマン刊;「神のみ業に進みて」『賛美歌』149番;「わかれにまた」『賛美歌』88番、ウィルバーク編曲、デゼレトブック刊

## 2009年4月4日土曜夜、神権部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——トーマス・S・モンソン大管長。開会の祈り——ブルース・D・ポーター長老。閉会の祈り——シャーリー・D・クリステンセン長老。音楽——ブリガム・ヤング大学アイダホ校の神権者聖歌隊;指揮——ケビン・ブラウワー、ランドール・ケンプトン;オルガニスト——リチャード・エリオット。「Sing Praise to Him,」*Hymns*, 70番、ケンプトン編曲、未刊;「天の御父」『賛美歌』76番;「山の上に」『賛美歌』2番;「み旨のまま行かん」『賛美歌』172番、ケンプトン編曲、未刊

## 2009年4月5日日曜午前、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——トーマス・S・モンソン大管長。開会の祈り——ダリル・H・ガン長老。閉会の祈り——ドナルド・L・ホールストロム長老。音楽——タバナクル合唱団;指揮——マック・ウィルバーク;オルガニスト——クレア・クリスチャンセン、リチャード・エリオット。「造り主の主を」『賛美歌』37番;「祈りは楽しき」『賛美歌』81番;「心の中に光を持てば」『賛美歌』141番、ウィルバーク編曲、未刊;「イスラエ

ルの救い主」『賛美歌』4番;「This Is My Beloved Son,」*Children's Songbook*, 76, カードン編曲、未刊;「感謝を神に捧げん」『賛美歌』11番、ウィルバーク編曲、未刊

## 2009年4月5日日曜午後、一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ヘンリー・B・アイリング管長。開会の祈り——スペンサー・V・ジョーンズ長老。閉会の祈り——ロバート・C・オクス長老。音楽——タバナクル合唱団;指揮——マック・ウィルバーク、エドガー・トンプソン;オルガニスト——リンダ・マーゲッツ、ボニー・グッドリフ。「Now We'll Sing with One Accord,」*Hymns*, 25番、エリオット編曲、未刊;「高きに栄えて」『賛美歌』180番、ゲーツ編曲、ジャックマン刊;「導きたまえよ」『賛美歌』41番;「神よ、また逢うまで」『賛美歌』85番、ウィルバーク編曲、未刊

## 2009年3月28日土曜夜、中央若い女性集会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——イレイン・S・ダルトン。開会の祈り——エリザベス・ビーバン。閉会の祈り——ムズナ・ブカリ。音楽——イーストミルクリークステーキ、コットンウッドステーキ、オリンパスステーキの若い女性による聖歌隊;指揮——メリリー・ウェブ;オルガニスト——リンダ・マーゲッツ。「As Zion's Youth in Latter Days,」*Hymns*, 256番、ケーセン編曲、ジャックマン刊;「主はみ子をつかわし」『子供の歌集』20-21, デフォード編曲、デフォードミュージック刊(フルート——レーチェル・マイルズ, オーボエ——エリザベス・クイグリー);「さらに重くなお努めん」『賛美歌』74番、ゴーツ編曲、未刊(チェロ——ジュリア・マーシャル);「シオンの若者、真理を守り」『賛美歌』163番、デスカント編曲、ウェブ刊

## 総大会の収録物の入手

総大会の各部会を収録したものは、[http://](http://www.lds.org)

[www.lds.org](http://www.lds.org) にアクセスすれば、多くの言語で聞くことができます。CDとDVDは、通常、教会管理本部配送センターから大会後2か月以内に入手できるようになります。

## インターネット上での大会説教

インターネットにより、多くの言語で総大会説教にアクセスできます。<http://www.lds.org> にアクセスし、「Gospel Library」「General Conference」の順にクリックし、言語を選択してください。(訳注——<http://www.ldschurch.jp>からもアクセスできます。「福音ライブラリ」「総大会」の順にクリックしてください。総大会号を閲覧するには「福音ライブラリ」「リアホナ」の順にクリックし、2009年5月号のアイコンをクリックしてください。)

## ホームティーチングおよび家庭訪問

ホームティーチングまたは家庭訪問用のメッセージとしては、訪問する会員の必要に最も適した総大会説教の一つを選んでください。

## 表紙の説明

表紙——写真/クレグ・ダイヤモンド

裏表紙——写真/クリスティーナ・スミス

## 大会の写真

総大会の写真は以下のカメラマンによって撮影されました。ソルトレーク・シティー——クレグ・ダイヤモンド、ウェルデン・C・アンダーセン、ジョン・ルーク、マシュー・ライアー、クリスティーナ・スミス、レス・ニルソン、スコット・デービス、リンゼー・ブリッグズ、ロッド・ボーム、アルファ・スムート、コーディー・ベル、マーク・ウェインバーク、ディーナ・バン・カンペン、マイケル・サンドバーク。アルゼンチン——ハビエル・コロナーティ。ブラジル——ラウレニア・アデマール・フォチェット。フィジー——タラット・メームード。メキシコ——シェレム・カスターニエーダ、カルロス・イスラエル・グティエレス。ポーランド——ベブ・ロビソン。ルーマニア——コーディー・ホームズ。ロシア——ワシリー・グラチェフ・ハルラモフ



リアホナ 2009年5月号

第11巻第5号(04285 300)

末日聖徒イエス・キリスト教会公式国際機関誌(日本語版)  
**大管長会:**トーマス・S・モンソン、ヘンリー・B・アイリング、  
 ディーター・F・ワークトドルフ

**十二使徒定員会:**ボイド・K・パッカー、L・トム・ベリー、  
 ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、  
 M・ラッセル・バラード、リチャード・G・スコット、  
 ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、  
 デビッド・A・ベドナー、クエンティン・L・クック、  
 D・トッド・クリストファーソン、ニール・L・アンダーセン

**編集長:**スベンサー・J・コンティ

**顧問:**ゲラリー・J・コールマン、ケネス・ジョンソン、菊地良彦、  
 W・ダグラス・シャムウェー

**実務運営ディレクター:**デビッド・L・フリッシュニク

**編集ディレクター:**ピクター・D・ケーブ

**編集主任:**ラリー・ヒラー

**グラフィックスディレクター:**アラン・R・ロイボーグ

**編集主幹:**R・パル・ジョンソン

**編集主幹補佐:**ジェニファー・L・グリーンウッド、アダム・C・オルソン

**共同編集者:**ライアン・カー

**編集補佐:**スーザン・パレット

**編集スタッフ:**マシュー・D・フリット、デビッド・A・エドワーズ、ラリー  
 ン・ポーター・ガート、キャリー・カステン、ジェニファー・マディー、  
 メリッサ・メリル、マイケル・R・モリス、サリー・J・オデカーク、ジュ  
 ディス・M・バーラー、ジョシュア・J・パーキー、チャド・E・ファレス、  
 ジャン・ピンボロー、リチャード・M・ロムニー、ドン・L・サル、ジャ  
 ネット・トーマス、ポール・バンデンバーク、ジュリー・ワーデル

**主任秘書:**ローレル・トイスチャー

**実務運営アートディレクター:**M・M・カワサキ

**アートディレクター:**スコット・バン・カンペン

**制作主幹:**ジェーン・アン・ピーターズ

**デザイン/制作スタッフ:**カリ・R・アロコ、コレット・ネベカー、ハワード・G・ブ  
 ラウン、ジュリー・バーデット、トーマス・S・チャイルド、レジナルド・J・クリス  
 テンセン、キム・フェンスターマカー、キャスリーン・ハワード、エリック・P・  
 ジョンソン、デニス・カービー、スコット・M・ムーイ、ギニー・J・ホルソン

**製版:**ジェフ・L・マーティン

**印刷ディレクター:**クレグ・K・セドウィック

**配送ディレクター:**ランディ・J・ベンソン

**日本語版翻訳課長:**ヘンリー・W・サストローム

●定期購読は、「[リアホナ]注文用紙」でお申し込みになるか、郵便振替  
 (口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-  
 41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵  
 送いたします。●[リアホナ]のお申し込み/配送についてのお問い合わせ  
 ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キ  
 リスト教会 管理本部配送センター 電話:03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

年間予約/海外予約 1,800円(送料共)

半年予約 1,200円(送料共)

普通号/大会号 200円

[リアホナ]へのご投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。  
 Room 2420, 50 East North Temple Street,  
 Salt Lake City, UT 84115-0024, USA  
 電子メール: liahona@ldschurch.org

[リアホナ] (モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、  
 以下の言語で出版されています。

アイスランド語、アルバニア語、アルメニア語、イタリア語、インドネシア語、ウ  
 クライナ語、ウルドゥー語、英語、エストニア語、オランダ語、韓国語、カンボジ  
 ア語、ギリシャ語、キリバス語、クワアチア語、サモア語、シンハラ語、スウェー  
 デン語、スペイン語、スロベニア語、セブアノ語、タイ語、タガログ語、タヒチ語、  
 タミル語、チェコ語、中国語、テルグ語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日  
 本語、ルルウェー語、ハイチ語、ハンガリー語、ヒスパラマ語、ヒンディー語、フィ  
 ジ語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、  
 ポルトガル語、マーシャル語、マダガスカル語、モルゴ語、ラトビア語、リト  
 アニア語、ルーマニア語、ロシア語。(発行頻度は言語により異なります)  
 ©2009 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷/日本

[リアホナ]に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において  
 一時的に、また非営利目的で使用する場合に複製することができま  
 す。視覚資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場  
 合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、  
 Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street,  
 Salt Lake City, UT 84115, USA に郵送するか、電子メール—  
 cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

[リアホナ]は、教会のホームページwww.lds.org (英語)に様々な言語で掲載  
 されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音ライブラリ)をクリック  
 してください。その他の言語は「Languages」(言語)をクリックしてください。

**合衆国とカナダの読者の方へ:**

2009年5月号第11巻第5号「リアホナ」(USPS331) 英語版(ISSN 1080-  
 9554)は、末日聖徒イエス・キリスト教会(50 E. North Temple Street,  
 Salt Lake City, UT 84115)の月刊誌です。合衆国での購読料は年間10ド  
 ル、カナダでは12ドル(税別)です。(送料込み/定期刊行物郵送料は「リトレ  
 ーション」で納められています。)所変更は60日前にご連絡ください。最近の  
 号の宛名ラベルを同封し、新旧発送先を明記してください。合衆国とカナダで  
 の購読申し込みは、下記の「リトレーション」配送センターにお送りください。購読  
 に関するお問い合わせ:1-800-537-5971。クレジットカード(ビザ、マスター  
 カード、アメリカンエキスプレス)でのご注文は電話で承ります。(カナダ郵便情  
 報/出版承諾番号40017431)  
 郵便局長殿:住所変更がございましたらお知らせください。連絡先:Salt  
 Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368,  
 Salt Lake City, UT 84126-0368



話者リスト(50音順)

アイリング、ヘンリー・B、…23, 63  
 アンダーセン、ニール・L、…78  
 ワークトドルフ、ディーター・F、  
 ……27, 59, 75  
 エッジリー、リチャード・C、…53  
 オークス、ダリン・H、…93  
 クック、クエンティン・L、…34  
 クック、メアリー・N、…117  
 クリストファーソン、D・トッド、…19  
 コスタ、クラウディオ・R・M、…56  
 スコット、リチャード・G、…43  
 スティーブンソン、ゲラリー・E、  
 ……101  
 スノー、スティーブン・E、…81  
 ダルトン、イレイン・S、…120  
 ティシェラ、ジョセ・A、…104  
 ディブ、アン・M、…114  
 トンプソン、バーバラ、…83  
 ナイダー、マイケル・A、…14  
 ネルソン、ラッセル・M、…46  
 パッカー、アラン・F、…17  
 パッカー、ボイド・K、…49  
 バラード、M・ラッセル、…31  
 ピアソン、ケビン・W、…38  
 ピノ、ラファエル・E、…41  
 ヘイルズ、ロバート・D、…7  
 ベドナー、デビッド・A、…97  
 ベリー、L・トム、…109  
 ホランド、ジェフリー・R、…86  
 モンソン、トーマス・S、  
 ……4, 67, 89, 112, 123  
 リファース、マーガレット・S、…11  
 ワトソン、F・マイケル、…106

テーマ別索引

**あ** 証 ……17, 31, 78  
 アロン神権 ……14, 49  
 イエス・キリスト  
 ……46, 75, 78, 86  
 依存症 ……7  
 祈り ……46, 67, 112  
 疑い ……38  
 永遠の家族 ……43  
 永遠の観点 ……81  
 永代教育基金 ……4  
 教え ……11  
**か** 開拓者 ……78  
 会員伝道 ……109  
 学習 ……31  
 尊敬 ……11, 34  
 家族 ……83, 101  
**た** 断食 ……46  
 活発化 ……14, 63  
 家庭 ……101  
 家庭の夕べ ……56  
 犠牲 ……93  
 希望 ……75, 81, 89  
 逆境 ……19, 23, 41, 89  
 教義 ……34  
 パッカー、ボイド・K、…49  
 バラード、M・ラッセル、…31  
 清さ ……120  
 経験 ……31  
 敬虔 ……11  
 啓示 ……17  
**決** 決意 ……59  
 謙遜 ……23, 46  
 賢明な生活 ……7  
 心をそらすもの ……59  
 孤独 ……86  
 雇用 ……53  
**さ** 裁き ……34, 123  
 従順 ……19, 38, 106

贖罪 ……34, 86, 117  
 神権 ……56, 63  
 神権定員会 ……14, 53  
 神権の祝福 ……67  
 信仰 ……19, 38, 41, 49, 81, 83  
 神殿 ……4, 43, 97, 101, 112  
 聖文研究 ……67  
 聖約 ……19, 97  
 責任 ……49, 56, 109  
 成長するわたし ……114  
 成霊 ……17, 19, 104  
 選択の自由 ……104  
 総大会 ……112  
 備え ……43, 120  
 尊敬 ……11, 34  
**た** 断食 ……46  
 知恵の言葉 ……49  
 弟子としての務め ……75  
 伝道活動 ……4, 109  
 徳 ……117, 120, 123  
**な** 慰め ……41  
 忍耐 ……75, 89  
**は** 負債 ……7  
 変化 ……81  
 奉仕 ……23, 53, 63, 83, 93  
 ボルノグラフィー ……112  
**ま** 守り ……97  
 模範 ……11, 114, 117  
**や** 勇気 ……123  
 優先順位 ……59  
 預言者 ……81, 104, 106  
 喜び ……89  
**ら** 利己心 ……93  
 歴史 ……31  
**わ** 若い女性 ……114

# 大会へようこそ

トーマス・S・モンソン大管長

**兄弟姉妹の皆さん、教会の業は順調に推し進められています。このように報告でき、うれしく思います。主の業は中断されることなく前進し続けています。**



**愛**する兄弟姉妹の皆さん、第179回年次総大会の開会に当たり、十二使徒定員会のジョセフ・B・ワースリン長老の姿がないことを悲しく思います。彼の死をいたみ、寂しく思います。ご家族にわたしたちの愛をお伝えします。ワースリン長老が幕の向こうでもこの偉大な業を推し進めていることを、わたしは確信しています。

ワースリン長老の死去に伴い、十二使徒定員会に空席が生まれました。断食と祈りを重ねた後、わたしたちは、この空席を埋めるためにニール・リンデン・アンダーセン長老を召しました。今朝、彼の名前を皆さんに提議しますので、賛意の表明をお願いします。

皆さんの賛意の表明に感謝します。教

会役員の名前が今日の午後読まれるときにアンダーセン長老の名前も含まれます。

アンダーセン長老、それでは十二使徒定員会会員とともに壇上の席に、ご着席ください。日曜午前の部会でお話を聞けるのを楽しみにしています。

兄弟姉妹、6か月前にお会いしてから、わたしはヘンリー・B・アイリング管長夫妻とともに、神殿を再奉献するためにメキシコのメキシコシティへ行きました。ここでは、何か月にもわたって、大がかりな改修工事が行われてきました。

再奉献の前夜、壮大な文化イベントがアステカスタジアムで催されました。約8万7,000人もの観客が野外スタジアムを埋め尽くし、8,000人以上の若人たちが出演する80分のプログラムが、音楽とダンス、それにメキシコの歴史を中心に繰り広げられました。

アイリング管長とわたしはセラペとソンプレロを頂きました。これらの民族衣装を身につけると、思わず9年生のときのスペイン語の授業で初めて習った「エル・ランチョ・グランデ」を参加者の皆さんの前で即興で歌いたくなりました。今日はやめておきます。

翌日行われた2回の奉献セッションは主の御霊にあふれていました。

ちょうど2週間前には、ユタ州ドレーパー神殿を奉献し、12のセッションを行いました。ソルトレーク盆地南側の山麓に位置する壮大な建物です。会員とそうで



ない人を合わせると約68万5,000人がオープンハウスに出席しました。奉献セッションには36万5,000人以上の会員が出席し、幾つかのセッションは各地のステーキセンターに衛星放送で中継されました。神殿の奉献に際し、主の御霊が豊かに注がれました。

しばらくすると、ユタ州オーカーマウンテン神殿が奉献されます。その後何か月、何年かのうちには、さらに多くの神殿が奉



献されるでしょう。その機会を楽しみにしています。神殿の奉献には、自らの行動を改めて吟味し、もっとよくなりたいという心からの願いを促す何かがあります。

さて、兄弟姉妹の皆さん、教会の業は順調に推し進められています。このように報告でき、うれしく思います。主の業は中断されることなく前進し続けています。

現在教会では、世界348の伝道部に約5万3,000人の宣教師が奉仕しています。

「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、……教えよ」<sup>1</sup> という救い主の命命を、教会は非常に真剣にとらえています。宣教師の働きに心から感謝します。また、宣教師が奉仕できるよう、彼らとその家族が払っている犠牲に深く感謝します。

教会にはまた、伝道以外の活動に携わる数多くのボランティアや宣教師たちがい

ます。通常、熟年者である彼らは、主の業を推し進め、天の御父の子供たちを祝福するために時間と才能をささげているのです。彼らが提供する有益な奉仕に心から感謝します。

2001年に設立された永代教育基金は、進展を続けています。設立以来、能力を伸ばして就職の機会を得るために、3万5,600人の若い男女がこのプログラムに登録し、訓練を受けました。これまで、1万



8,900人が訓練を修了しています。彼らは、平均2.7年という教育を受けることで、収入が3、4倍に伸びています。彼らの生活にとって何という祝福でしょうか。これこそ、靈感されたプログラムです。

兄弟姉妹の皆さん、福音に対する皆さんの信仰と献身に感謝します。互いに示し合う愛と思いやりに感謝します。ワードや支部、ステークや地方部での皆さんの奉仕に感謝します。主がこの地上で自らの目的を達成されるのを可能にしているのは、このような奉仕です。

わたしが行く先々で親切にしてくださいることを感謝します。わたしのために祈ってくださいることを感謝します。皆さんの祈り

を感じ、とても感謝しています。

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちはこれからの2日間で語られるメッセージを聞きたいと心から願っています。教えを受け、鼓舞されて、福音に従い主に仕えようという決心を新たにすることでしょう。これから皆さんに話す人々は話の準備をするに当たり、天の助けと導きを求めてきました。強く心に感じたことをわたしたちに伝えてくれるはずです。

教会員となって間もない皆さんを歓迎いたします。困難に遭っている人、失望している人、愛する人を亡くした人、わたしたちは皆さんのために祈っています。天の御父はわたしたち一人一人を愛し、わ

たしたちが何を必要としているのか御存じです。これから語られる話に耳を傾けるとき、主の御霊に満たされますように。今朝、この偉大な大会の開会に当たり、そう祈ります。また、わたしの前に教会の大管長を務めたゴードン・B・シンクレイ大管長とのすばらしい思い出を付け加えます。わたしはシンクレイ大管長がとばりの向こうで熱心に奉仕していることを確信しています。わたしたちの主、救い主イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. マタイ28:19



# 物心両面で 賢い養い手となる

十二使徒定員会

ロバート・D・ヘイルズ長老

**賢く生活していれば、自分や家族を養うとともに、人々に仕え祝福をもたらすという  
救い主の模範に従うことができます。**



**生**ける預言者によって導かれているわたしたちは何と祝福されていることでしょうか。大恐慌の時代に成長期を過ごしたトーマス・S・モンソン大管長は、どうしたら奉仕できるかを知っています。大管長のお母さんは助けを必要としている隣人に食物を届けるよう息子に言いつけ、また、家のない人々には手料理と引き換えに様々な仕事をさせました。後に、彼は若いビジョップとしてJ・ルーベン・クラーク・ジュニア管長から「夫を亡くした人を思いやり、貧しい人を世話」することを教わりました（「将来に備える計画——貴い約束」『聖徒の道』1986年7月号、62）。モンソン大管長は、夫に先立たれた84人の女性たちを見守り、彼女たちが亡くなるまで心にかけて続けました。

モンソン大管長の長年の働きを一言で表すとすれば、それは全世界の会員と隣人に奉仕することです。大管長の模範に心から感謝しています。ありがとうございます。モンソン大管長。

兄弟姉妹、今、子供たちはモンソン大管長の成長期のように、経済的に不安な時代に置かれています。祖父母や曾祖父母が経済的な逆境を通して大切な教訓を学んだように、わたしたちが現在の状況から学ぶことは、わたしたち自身と将来の子孫にとって祝福となります。

わたしは今日、過去の無分別な選びの結果、選択の自由が狭められている人々に話したいと思います。特に過大な負債に陥ることになった選び、また、自尊心を傷つける常用癖、すなわち食物や薬物、ポルノグラフィ、そのほか思考と行動のパターンにおぼれさせている選びについて話します。すべてこの行きすぎた行為は、わたしたち個人に影響し、家族関係を損ないます。もちろん教育を受けるため、あるいは質素な家や車を購入するために負う負債は、家族を養ううえで必要かもしれません。しかし残念ながら、欲望とつきまとう衝動を抑えられないときに、さらなる負債を負うことになります。負債と常習癖の有望な解決方法は同じです。それは主に心に向け、主の戒めに従うことです。負債と制御できない欲望という悪循環を断ち切れるよう、ほかの何よりも自分の人生を変えることを望まなければなりません。

わたしが話すこれからの数分間やこの大会を通じて、皆さんが救い主イエス・キリストにあって希望に満たされ、回復された主の福音の教えに希望を見いだすことができるよう祈っています。

わたしたちの直面する問題は、自身の決断によって引き起こすものを含めて、死すべき世における試しの一部です。はっきり言いますが、皆さんは、救い主が御手を差し伸べることでおできにならないような状況に置かれることは決してありません。あらゆる苦労は、主によってわたしたちの経験となり、益となります（教義と聖約122:7参照）。誘惑は一つ一つ克服することでわたしたちを強めるのであって、滅ぼすものではありません。主は、わたしたちを耐えられないような苦しみに遭わせられることはありません（1コリント10:13参照）。

悪魔はわたしたちを非常によく知っているということを覚えておかなければなりません。いつ、どこで、どのように誘惑したらよいかを知っています。わたしたちは聖霊の導きに従っているなら、悪魔の策略を見抜くことができます。誘惑に負けないようにするには、断固たる決意をもって「サタンよ、引きさがれ」と言えるようにならなければなりません（マタイ16:23）。

どれほど強い誘惑を受けるかではなく、どれほど信仰深く抵抗するかによってわたしたちの成功が測られます。天の御父の助けを求め、御子イエス・キリストの助けによる力を求めなければなりません。物質的、霊的な事柄について、神の助けを受けるならば、わたしたちは自分やほかの人々にとって賢い養い手となることができます。

賢い養い手とは何でしょうか。

わたしたちは皆、自分と家族を物心両面で養う責任があります。賢く養うには将来に備えた賢明な生活の原則を実行しなければなりません。収入の範囲内で喜びをもって生活することです。つまり、現在あるもので満足し、過大な負債を避け、苦境や緊急時に備えて日ごろから貯金しておくのです。賢く生活していれば、自分や家族を養うとともに、人々に仕え祝福をもたらす



### ブラジル、サンパウロ

という救い主の模範に従うことができます。

わたしたちは、賢く養うことにより、「あなたは……むさぼってはならない」という最も基本的な戒めを守らなければなりません(出エジプト20:17)。世の中は権利意識で満ちています。近所の人たちが持っているものをすべて持っていないと、うろたえたり、恥ずかしがったり、自分に価値がないかのように考えたりする人がいます。その結果、買うだけの余裕がないものや、ほんとうに必要ではないものを手に入れるために負債を抱え込みます。このようなことをしていると、物質的にも霊的にも貧しくなります。貴く、かけがえのない選択の自由を放棄して、自らを奴隷にしているのです。自分や人のために使えたお金を、借金を返すために使わなくてはなりません。このため、必要最低限のお金しか残らないことがあります。最低限の生活をしていると、意気消沈し、自尊心が侵され、家族や友人、隣人そして主との関係がもろくなります。霊的なものを追求する時間と気力と意欲を失います。

ではどうしたら借金に走る性癖やこの世のものに執着する傾向を避け、克服できるでしょうか。賢明に生活することに関して、わたしたち一人一人に役立つ二つの教訓を紹介したいと思います。人生で学んだほかの多くの大切な教訓と同様、永遠の伴侶である妻が教えてくれたものです。二つとも、結婚生活の中で妻に特別な贈り物を買いたいと思ったときに学びました。

最初の教訓を学んだのは、結婚したばかりでほとんどお金のなかったときでした。当時、空軍に所属していたため、クリスマスに妻とともに過ごせませんでした。指令を受けて海外にいたのです。家に戻ったとき、店のショーウィンドウに飾った美しいドレスが目にとまり、気に入るようだったら買おうと妻に持ちかけました。メアリーは店の試着室に行きました。しばらくすると、店員が出て来て、わたしのそばでドレスにブラシをかけると、ショーウィンドウに戻しました。店を出てから、「どうしたんだい?」と妻に尋ねました。す

ると「きれいなドレスだけれど、わたしたちには買うだけの余裕がないわ」との返事でした。この言葉はわたしの心にまっすぐに響きました。最も愛情深い言葉は「愛しています」であり、愛する人たちへの最も思いやりのこもった言葉は「わたしたちには買うだけの余裕がない」であることを学びました。

第2の教訓を学んだのはそれから何年か後の経済的に安定していたときでした。結婚記念日が近づいていたため、長年幸せに連れ添った妻への愛と感謝を伝えるためにおしゃれなコートを買いたいと思いました。わたしが考えていたコートをどうするか尋ねたところ、またもやわたしの心と思いを貫く言葉が返ってきました。「どこで着るの?」(当時、妻はワード扶助協会会長を務めていて、助けを必要とする家族の世話をしていました。)

それから、忘れることのできない教訓を教えてくださいました。妻はわたしの目をじっと見ると、優しくこう尋ねたのです。「コートを買うのはわたしのため? それと

もあなたのため?」つまり、「この贈り物の目的はわたしを愛していることを示すためですか、それとも、あなたが立派な養い手であることをわたしに示したり、周りの人たちに何かを証明したりするためですか」と尋ねたのです。わたしは質問されたことをよく考えた結果、妻と家族よりも自分のことを考えていたことを悟りました。

その後、わたしたちは賢明な生活について真剣に、その後の生活を変えることになる話し合いをしました。そして、家のローンの支払いを済ませ、子供たちの教育費を増やすことで、自分たちのお金をより適切に使っていこうということになりました。

この二つの教訓は賢明な生活の本質をとらえています。この世のものを買ったり消費したり、この世の活動にかかわったりする選択に迫られたとき、わたしたちは皆、「欲しいけど、わたしたちには買っただけの余裕がない」、あるいは「金銭的な余裕はあっても、必要としていない。ほんとうのところは欲しいと思っていないのだ」と互いに言い合えるようにする必要があります。

これらの教訓の根底にあつて、同じように大切な原則があります。それは夫や妻とのコミュニケーションから多くのことを学べるということです。家族会議で助言し合い、力を合わせて何かをするときに、お互いが賢い養い手となり、子供たちにも賢く生活するよう教えることができます。

賢明な生活の基本となるのは<sup>じゅうぶん</sup>什分の一の律法です。この律法の第一の目的は天の御父と御子イエス・キリストを信じる信仰を強めることにあります。什分の一によって、この世のものに対する欲望に打ち勝ち、人のために喜んで犠牲を払うようになることができます。什分の一は大いなる公平の律法です。なぜなら、どれほど裕福か貧しいかにかかわらず、わたしたちすべてが、毎年わたしたちの得る利益の10分の1を同じように納め(教義と聖約119:4参照)、受け入れる余地がないほどの「あふるる恵み」を皆が受けるからです(マラキ3:10)。

什分の一に加え、断食献金を納めることについても模範とならなければなりません。断食献金とは、毎月1度、連続して2食



を断ち、少なくともその分の食費に相当する金額を献金することです。この2食を断つことによって、わたしたちはへりくだり、祈りの気持ちをもって主に近づき、全世界の兄弟姉妹の祝福となるように匿名で支援するのです。

子供たちに賢い養い手になることを学ばせるもう一つの大切な方法は、家族の予算を立てることです。家族会議で家族の「収入、貯金、支出計画」を定期的に検討します。これによって子供に、欲しいものと必要なものとの違いを教えたり、家族の資産を有効に使うために前もって計画

することを教えたりすることができます。

我が家の息子たちが幼かったころ、わたしたちは家族会議を開いて、コロラド川で「夢の休暇」を過ごす目標を立てました。それからの1年間、家族のだれかが何か買いたいものがあると、互いにこう尋ねました。「ほんとうに今それを買いたいだろうか。それとも夢の旅行を延期したいだろうか。」これは生活の中で賢明な選択をしていくことを教えるすばらしい機会となりました。目先の望みをすべてかなえようとしないうことによって、家族の一致とその後の何年もの間楽しい思い出となっ



たすばらしい報いを得ました。

自分や資産に影響を及ぼすようなものを手に入れたり、経験したりしたいと思ったら、こう自問するとよいでしょう。「それによって得る恩恵は一時的なものだろうか。それとも永遠の価値と意義のあるものだろうか。」この質問に正直に答えることが、過度の負債と常習行為を克服する助けとなるでしょう。

負債や常習行為を克服しようとするに当たって、常習行為は生まれながらの人がしきりに求めるものであって、決して満足を得られないことを覚えておかなければなりません。それは満たされることのない欲望です。常習癖に陥ると、おびき寄せられるようにこの世的なものや肉体的な快楽を求めるようになります。しかし、神の子であるわたしたちが何よりも必要とし、追及しなければならないのは主だけが与えてくださるものです。それは主の愛、主の価値観、主の守り、主の自信、未来への主の希望、そして永遠の喜びをもたらす、神の愛への確信です。

わたしたちは何にも増して天の御父の

<sup>みこころ</sup>御心を行い、自分と人々を賢く養うことを求めていかなければなりません。そしてラモーナイ王の父のようにこう言うのです。「わたしはあなたを知[る]ように、自分の罪をすべて捨てます。」(アルマ22:18) そうすれば、揺るぎない決意をもって御父のみもとへ行き、「わたしは必要なことを何でも行います」と約束することができます。祈り、断食し、戒めを守り、また神権の祝福と主の贖罪の犠牲により、生活の中で主の愛と力を感じることでしょう。聖霊の促しを通して、主の霊的な導きと力を受けます。主の贖罪を通してのみ、わたしたちは心の中に大きな変化を得(モーサヤ5:2;アルマ5:14参照)、常習癖に対する大きな変化を経験することができるのです。

わたしが抱いている愛のすべてと、わたしを通して伝えられる救い主の愛を込めて、皆さんに勧めます。主のみもとに来て、主の御言葉に耳を傾けてください。「それゆえ、価値のないものに金を使ってはならない。満足を得られないものに労力を費やしてはならない。熱心にわたしに聞き従い、わたしがこれまでに語った

言葉を覚えておきなさい。そして、イスラエルの聖者のみもとに来て、腐ることも朽ちることもないものを食べて、豊かなものによってあなた自身を喜ばせなさい。」(2ニーファイ9:51)

この世のものを手に入れる欲望は、主に心を向けることによってしか克服できないことを<sup>あかし</sup>証します。常習癖という飢えは主への愛によってしか取って代わられることはありません。主はいつでもわたしたち一人一人を助けようと待っておられます。主はこう言われました。「恐れてはならない。あなたがたはわたしのものであり、わたしはすでに世に勝って……いるからである。」(教義と聖約50:41)

主は贖罪の業を通して万物に打ち勝たれたことを、わたしの特別な証として申し上げます。主のみもとに来て、自分と人々の物心両面での賢い養い手となることによって、わたしたち一人一人もまた世の誘惑に打ち勝てますように、へりくだり祈ります。イエス・キリストの御名により、アーメン。

# 敬意と敬虔さ

中央初等協会会長会第一顧問  
マーガレット・S・リファース

**わたしたちは家庭と教室において、互いに対する敬意と、神に対する敬虔さを養わなければなりません。**



**ヨ** ハネの最終章には、ペテロと復活されたキリストの間で交わされた愛情深い会話が記されています。「ヨハネの子シモンよ、わたしを愛するか」と、救い主は3度お尋ねになりました。ペテロが救い主への愛を確言する度に、イエスは「わたしの小羊を養いなさい、わたしの羊を飼いなさい」と言われました。

今日の社会では、子供と青少年の心を「生ける水」<sup>2</sup>と「命のパン」<sup>3</sup>で養う必要性が大いにあります。わたしたちもペテロと同様に主を愛しています。ですから、現代の親も指導者も、イエス・キリストの証とキリストの福音の証を、一人一人の心に植え付けようと懸命に努力しています。家庭で、あるいは教会員ではないだれかに福音を伝える場面で、礼拝堂で、教会の教室で教えています。準備をして、御霊を招いています。しかし、証と御霊をもってほ

んとうに主の子羊を飼い、主の羊を養うには、わたしたちは家庭と教室において、互いに対する敬意と、神に対する敬虔さを養わなければなりません。

今日わたしは、親と教師と指導者の皆さんにお願いします。子供と青少年を強め、家庭と礼拝堂に礼拝の精神をもたらすために、一致協力して敬意と敬虔さを教え、模範を示し、励ましてほしいのです。

わたしたちは互いに敬い合うにつれて、神をさらに敬うようになり、また神を敬う模範としてさらに信頼されるようになるでしょう。今日の社会では、至る所であらゆる形態のメディアが、礼儀と品位と親切をあげ笑っています。親や指導者であるわたしたちが互いに敬意を示すことは、青少年と子供にとって非常に大切です。なぜなら、子供はメディアだけでなく、わたしたちも見ているからです。わたしたちはあるべき模範となっているのでしょうか。

こう自問してください。家の中で最愛の家族に接するときのわたしの態度は、敬意の模範といえるだろうか。スポーツ行事での態度はどうだろうか。自分の子供が教師やコーチや友達と口論したときは、双方の意見を聞いているだろうか。人のものを自分のものと同じように大切に扱っているだろうか。宗教、ライフスタイル、政治について意見が合わない人に対する態度はどうだろうか。

親や指導者が人を敬い、子供にもそうするように教えるなら、人は皆ほんとうに神の子供であり、永遠にわたって兄弟姉妹であることを、子供は心から確信するでしょう。わたしたちは、相違点ではなく共通点、

すなわち神の家族を一つにつなぐ心の特性に目を向けようではありませんか。

人への敬意と神への敬虔さは密接に関係しています。両方とも謙遜と愛に根ざしています。デビッド・O・マッケイ大管長は「敬虔さとは愛に基づいた深い尊敬の念である」<sup>4</sup>と述べ、L・トム・ペリー長老は「〔敬虔〕神に対するこの上なく深い尊敬と崇拝の念から生まれてくる態度のことです」と教えています。<sup>5</sup> 初等協会の子供たちは、初等協会の歌を通じてこの概念を学びます。

静かに深く、主思う、  
それが敬虔  
主を愛し、主に感謝しよう。  
敬虔とは愛<sup>6</sup>

しかし、敬虔さを自然に身に付ける子供はほとんどいません。親や指導者が模範と訓練によって教えて初めて身に付きまます。でも、愛に根ざした敬虔さは、愛によってしか教えられないことを忘れないでください。厳しく教えると、敬虔さではなく、敵意が生まれます。ですから、早い時期に始めて、緩やかな期待を持つことです。よちよち歩きの子供は手を組んで祈る準備をすることを学べますが、時間と忍耐と一貫性が必要です。わたしたちが子供に教えているのは敬虔さについての初歩ですが、その子供にとっては自制しようと努力するのは初めてかもしれないということ覚えておきましょう。

教え、自制を身に付けさせるプロセスは、教えに教え、訓戒に訓戒という形で続きます。こうして子供は祈るときや聖餐を受けるときに敬虔になっていきます。集会中、子供は両親のそばに座ります。そしてさらに自制を教わりながら成長し、やがて断食すること、知恵の言葉を守ること、インターネットを賢く使うこと、純潔の律法を守ることを学んでいきます。理解が深まるのと同様に能力も増します。このプロセスを通じて模範を示し、教え、励ますことで、子供と青少年は祝福されます。なぜなら、自制は自尊心の源であるだけでなく、教え、確認し、証するとき御霊を

招くために不可欠な要素だからです。

20年近く前の総大会でボイド・K・パッカー会長が「啓示をもたらす敬虔さ」<sup>7</sup>と題する話をしたのを覚えています。それ以来このタイトルの言葉がずっと心に残っています。この言葉は、御霊によって、慰め、導き、教え、証を受けるために、心の中に、また家庭や集会の中に敬虔な場所を設けなければならないことを思い出させてくれます。なぜなら、御霊が一人一人に、神が御父であられ、イエス・キリストが救い主であられることを証するとき、まさにその啓示によって、愛と深い尊敬の念から

生じる真の敬虔さが招かれるからです。

では、親と指導者には何ができるでしょうか。謙遜に祈り、祈りにふさわしい言葉を使い、神の御名を正しくに口にすることで、敬虔さの模範を示せます。敬意をもって聖典を扱い、確信をもって聖典にある教義を教えることができます。

中央幹部だけでなく、地元の神権指導者と補助組織指導者にふさわしい敬意を表すとき、敬虔さは増します。わたしのステーク会長とは30年来の親しい友人で、いつもファーストネームで呼び合っていました。でも、彼は今、神権指導者の召しを

受けているので、公の場や、特に教会の中ではポーター会長と呼ぶよう意識的に努力しています。指導者を呼ぶときには、会長、ビショップ、兄弟、姉妹と付けるのが適切であることを子供と青少年に教えるなら、彼らはさらに尊敬の念を抱き敬虔になるでしょう。それはまた、指導者が神に召された人であり、神聖な責任を受けているという真理を教えることにもなります。

親、指導者であるわたしたちは、教会の集会の中で、敬虔に振る舞う模範とならなければなりません。礼拝堂は様々な機能を果たしますが、日曜日には、礼拝堂



は礼拝のための場所です。ともに集い、  
霊を癒してくれる聖約を新たにします。わ  
たしたちは来て、教義を学び、証を強め  
ます。宣教師は求道者を連れて来ます。  
神の御言葉や音楽、証、祈りを通して御霊  
が福音の真理を証してくれるのは、敬虔  
なときだけです。

わたしたちは友好的な民で、互いを愛  
しています。でも、礼拝堂の外であいさつ  
をすれば、そして、開会の祈りではなく、  
前奏曲とともに聖餐会が始まれば、敬虔さ  
は増すでしょう。泣いている子供を礼拝  
堂の外に連れ出し、赤ちゃんが泣きやむ  
まで、よちよち歩きの子供が静まるまで、  
別の部屋で集会を聞ければ、敬虔さは増  
すでしょう。携帯電話の電源や電子機器  
のスイッチを切ることも敬虔さに含まれま  
す。教会の集会で電子メールをやりとりす  
ることは、不適切であるだけでなく、迷惑  
で、周囲の人への敬意を欠いています。で  
すから、わたしたちは集会に参加し、話  
に耳を傾け、シオンの賛美歌をともに歌う  
ことによって、敬虔さの模範を示すのです。

初等協会や日曜学校、青少年プログラ  
ムの教師には、敬意と敬虔さについて教  
え、模範を示すまたとない機会がありま  
す。アイデアを幾つか挙げてみましょう。

第1に、クラスの生徒を愛してください。  
往々にして、いちばん騒がしい子供こそ、あ  
なたの愛を最も必要としているものです。

敬虔さとは何か、なぜ大切なのかを時  
間を取って説明してください。救い主の絵  
を見せます。喜ばしい行動とは何かを説  
明し、後は優しく一貫して、そうするよう  
に励まし、そうすることを期待してください。

準備をしてください。教材だけではなく、  
御霊によって教えられるよう自分を整  
えます。生徒が参加できるようレッスンが  
よく準備されていれば、敬虔さに関する多  
くの問題は解消します。

障がいを持つ子供に対してどの程度ま  
で期待するべきかを決めるために、両親  
と話してください。すべての子供は成長す  
る機会を得るに値するからです。

ワードから助けを受けてください。子  
供や青少年の敬虔さに問題がある場合  
は、往々にして、ワードの敬虔さにも問題

があるものです。ワード評議会で相談すれ  
ば、ワードの指導者はあらゆるレベルで敬  
意と敬虔さを増すために協力できます。<sup>8</sup>

何年も前に、パッカー会長は、敬虔に礼  
拝する人たちに主の祝福を約束しました。  
その約束はもちろん今も当てはまります。  
「直ちに奇跡的な変化は起こらないかもし  
れませんが、主が生きておられるように確  
かに、静かな変化が起こるはずで  
す。会員各自の生活や教会の中に霊的な力が増し加  
えられ、主はわたしたちのうえにもっと豊か  
に御霊を注いでくださるでしょう。そして、わ  
たしたちの迷いや悩みは少なくなるでしょ  
う。……個人的な悩みや家族の問題に対  
する答えが啓示されるからです。」<sup>9</sup>

わたしは預言者の約束を信じています。  
わたしには愛にあふれる天の御父がおら  
れ、御子イエス・キリストがわたしの救い主  
であられることを知っています。わたした  
ちの敬虔さが増すことで、御二方に対す

る深い愛を表せるよう、また御二方の羊  
をよりよく養えるようになるように祈ります。  
イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. ヨハネ21:15-17
2. ヨハネ4:10-14参照
3. ヨハネ6:48
4. デビッド・O・マッケイ、Conference Report, 1967年4月, 86
5. L・トム・ペリー「恐れかしくみ神によるこ  
べられるように仕える」『聖徒の道』1991  
年1月号, 76
6. 「敬虔は愛」『子供の歌集』12
7. ボイド・K・パッカー「啓示をもたらす敬  
虔さ」『聖徒の道』1992年1月号, 23-  
25参照
8. 『教師、その大いなる召し』79-87参照
9. 『聖徒の道』1992年1月号, 25



# 啓示された 定員会の原則

前中央若い男性会長会第二顧問  
マイケル・A・ナイダー

**信仰と自信と徳をもって進み、わたしたちの家族と、天の御父のすべての子供たちを救う助けをするため、キリストとともに奉仕できますように。**



わたしは、ニーファイの次の言葉が好きです。「人が聖霊の力によって語るときには、聖霊の力がそれを人の子らの心に伝えるからである。」<sup>1</sup> 聖霊の力を通して、わたしのメッセージが皆さんの心に届くように祈っています。

教会の神権者を代表して、最近、若い女性の大切な徳質の一つに「徳」を加えてくれた教会指導者と中央若い女性会長会に感謝します。教会の若い女性が「若い女性のテーマ」を口にするのを聞く度に、徳高く、聖くありたいという決意が強められます。聖なる神権を頂いているわたしたち神権者も、姉妹たちのように徳の模範になる必要があることを理解しましょう。

教義と聖約第38章で、主はわたしたち一人一人に徳高くあるよう命じておられ

ます。「各人がそれぞれ自分の兄弟を自分自身のように尊び、わたしの前で徳高く聖くあるようにしなさい。」<sup>2</sup>

今日は、神が啓示によって明らかにされた定員会の原則について、またアロン神権に関する、末日の預言者からの靈感された指示について話します。12歳から18歳までの若い男性と若い女性の定員会会長会の皆さん。主が皆さんに向けて語られた言葉について話しますので、よく聞くようにしてください。また、両親とほかの神権指導者の皆さんも、神の息子たちを強め、備えるうえで定員会がどのような助けになるのかをさらに理解するために、耳を傾けてください。

始めに、研究という原則、すなわち神の御言葉を得るといふ原則の大切さを強調します。わたしは妻のローズマリーの模範から、わたしたちが原則を熱心に学ぶべきであることを学びました。皆さんの多くと同じように、妻はいつも聖文やその他の良い本を研究しています。神の戒めをよく学び、結婚生活を成功に導く原則、子育て、健康の原則もよく学んでいます。彼女は、よくほほえみながらわたしに本を差し出してこう言います。「はい、どうぞ。線を引いてあるところだけ読めばいいから。」それが結婚生活についての本だったら、わたしはほほえみ返し、とにかく「ありがとう」と言うことにしています。

兄弟の皆さん、わたしたちは啓示によって与えられた神権と定員会の原則を

熱心に学ぶべきです。わたしたちの目標は、定員会の徳を増し、さらに祝福を受け、若い男性とその家族を強めるため、神と預言者から与えられた靈感あふれる指示を正しく活用することです。定員会の業は、キリストに対する信仰を強め、若い男性を備え、助け、神の御心を実行するうえで間違いや怠慢をなくすことです。神に知恵を求めるに当たり、啓示された定員会の原則もよく学ぶようにしましょう。

モンソン大管長は、「基本を教えることは急務です。自らに与えられた責任と機会をよりよく理解するため、基本を教えることが必要なのです」<sup>3</sup>と教えました。御霊の識別の力にふさわしくなれるよう、神権指導者は自分の責任を果たさなければなりません。

ステイブン・L・リチャーズ管長は、定員会とはクラスであり、兄弟愛であり、奉仕を行う組織であると教えました。クラスとは若い男性がイエス・キリストの福音を学ぶ場所という意味です。兄弟愛とは互いに強め合い、高め合い、友情を深める場所ということであり、奉仕を行う組織とは定員会の会員とほかの人々に奉仕をするという意味です。<sup>4</sup>

教義と聖約には、啓示された定員会の重要な原則が数多く記されています。例えば第107章85節には、執事定員会会長が定員会の会員を教え導く方法について、次のような指示が載っています。「さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。執事の職を管理する会長の義務は、聖約に従って与えられているとおりに、十二人の執事を管理し、彼らとともに会議の席に着き、彼らに義務を教え、互いに教化し合うことである。」<sup>5</sup>

教会の指導者から神権について学んだわたしたちが感じているのは、わたしたちが神について学び、また神の御心を学ぶため、御霊からの靈感に従って尋ねるよう御霊が促しているということです。<sup>6</sup>

定員会の会長会は、次のことを自問してみてください。また、御霊の促しにより、ほかにも自問すべきことがないか考えてみてください。「アロン神権の定員会会長は定員会を管理するために何をすべき





か。」「会長の義務とは何か。」「定員会の会員とともに会議の席に着いて、何をするのか。」「いつ、どのように教えるのか。」「この聖句にある聖約とは何か。」「会長が責任を果たし、会長会の神権の鍵を行使するうえで、定員会アドバイザーとビショップリックから、どんな助けが得られるのか。」

兄弟の皆さん、聖文と手引きを研究していくと、ほかの事柄も心に浮かぶことでしょう。例えば、「自分の定員会は、主が聖文で教えておられるように機能しているだろうか、そうでないとすればそれはなぜか。」「啓示された定員会の原則を自分の定員会で適切に実行するにはどうしたらよいだろうか」といったことです。会長会が助けと導きを求めて祈るとき、御霊、ビショップリック、アドバイザー、そして定員会が助けてくれます。靈感によって備えられた手引きをいつも参照するようにしてください。

世界中の多くの定員会会長と神権指導者は、ワードや支部で教え導くアロン神権定員会の会長会と会員がもっと多くの事柄を成し遂げることができ、またそのように期待されていると感じています。<sup>7</sup>これが現実となれば、定員会の会長会は、青少年に対してよりいっそう指導力を発揮することができ、アドバイザーは支援と指導訓練に多くの時間を割けるようになります。<sup>8</sup>定員会の義務を熱心に学び、行うようになると、通常、会長会を定期的に開く

回数が増え、よりよい準備と指導を行うことができます。定員会の指導者は、神権会全体での開会行事の後、アロン神権のそれぞれの定員会は別々に集会を持つべきだと分かるようになります。それにより、年齢層に合わせた指導ができ、定員会の中で指導者を育てる機会が増えるでしょう。合同で行う定員会は、どんな場合も一時的な措置であることが分かるようになるのです。

アロン神権定員会の業を進めるため、主と中央幹部から多くの手段と資料が与えられています。その中には信仰による力強い祈り、断食、聖文研究、『若人の強さのために』、『神への務め』、定員会の指導手引き、『わたしの福音を宣べ伝えなさい』、そのほか様々な活動があり、これらを活用することができます。また、合衆国とカナダのほか、神権指導者に承認されている世界の各地ではスカウト活動も活用されています。<sup>9</sup>会長会は、神権と御霊に導かれるままにこれらの手段と資料を活用することを学び、定員会と活動に組み入れます。そして、定員会の会員一人一人の必要を満たし、兄弟愛を増し、定着率を上げ、伝道の業を進め、より楽しい活動を行うのです。

アロン神権定員会に与えられた手段と資料を読んでもみると、わたしたちは家族を助けるよう期待されていることが分かり

ます。家族が、霊性、人格、活動、個人の生活のあらゆる面で息子たちを強められるように助けるのです。定員会の原則、手段、資料を、計画的かつ賢明に、信仰を働かせて使うときに奇跡が起こるのです。

青少年が立派に指導力を発揮している例は世界中に数え切れないほどあります。毎日のように見られるそれらの例から、一つだけ紹介しましょう。

マット・アンダーセンという教師定員会会長に会ったことがあります。父親はメキシコで伝道部会長として奉仕していました。定員会会長に任命されたとき、ワードの教師定員会の中で教会に出席しているのはマットだけでした。若いアンダーセン会長は良い宣教師になれるように新しい言語を勉強していました。マットは家庭と執事定員会で培った信仰と勇気と自信をもって行動し、定員会の会員とその家族を祝福するために会長会の鍵を使うことにしました。早速、ワード書記から定員会の会員名簿をもらい、スペイン語を練習すると、心の中で祈りながら、名簿にある名前のうち、電話番号の書いてある少年に電話したのです。マットはこう言いました。「オマール、トゥ、イグレスシア、オイ」訳すと「オマール、君、教会、今日」です。とても基本的なメッセージですね。

奇跡が起きました。その日、オマールは教会にやって来たのです。それから間も



なく、母親と妹も来るようになりました。若いマット・アンダーセン会長は、名簿に載っていたもう二人の少年の家まで、車に乗せて行って通訳してくれるようにビショップに頼みました。電話番号が名簿になかったからです。彼に与えられた会長会の鍵と天使の働きと天の力が一つとなりました。その結果、その二人も教会に来るようになり、新たに教師定員会会長会が組織されました。また、ほかの少年たちも、家族とともに福音の祝福と神権の祝福を再び味わったのです。

若い兄弟姉妹、皆さんは救い主の御手の中にある力強い道具であり、主は皆さんを使ってほかの人に福音の祝福をもたらすことができになります。ビショップの皆さん、皆さんのワードのアロン神権定員会と若い女性のクラス会長会の力と能

力を過小評価しないでください。主はこの重要な業において彼らを必要とされます。彼らが感動させることのできる心があり、恐らく彼らにしかできない業があります。彼らに割り当てを与えてください。彼らが指導力を発揮し、教義と聖約第13章に約束されている天使の働きを行うことができるよう、彼らに機会を与えてください。

アロン神権の指導者であるわたしたちが、キリストの生涯あがなをよく学ぶことができますように。啓示されたアロン神権定員会の原則をよく学び、モンソン大管長の勧告に従って奉仕することで、自分の責任と機会をよく理解し、御霊を受けるにふさわしくなれますように。そして、定員会のマット・アンダーセン会長のように、信仰と自信と徳をもって進み、わたしたちの家族

と、わたしたちが働きかけることのできる天の御父のすべての子供たちを救う助けをするため、キリストとともに奉仕できますように。

イエスがキリストであり、今も生きてわたしたちを愛しておられること、そしてアロン神権の業が神聖かつ重要であることを証あかしします。イエス・キリストの御名により、アーメン。

#### 注

1. 2ニーファイ33:1
2. 教義と聖約38:24
3. トーマス・S・モンソン, "Back to Basics," 地区代表セミナー, 1981年4月3日, 2参照
4. スティーブン・L・リチャーズ, Conference Report, 1938年10月, 118. L・トム・ベリー「定員会とは何ですか」『リアホナ』2004年11月号, 25; D・トッド・クリストファーソン「神権定員会」『リアホナ』1999年1月号, 44; ロバート・L・バックマン「アロン神権者に新たな活力を吹き込む」『聖徒の道』1983年1月号, 66; ロバート・L・バックマン, "Youth's Opportunity to Serve," *Ensign*, 1973年7月号, 84-85も参照
5. 教義と聖約107:85. 教義と聖約107:86-89も参照
6. ヘンリー・B・アイリング, 「デビッド・A・ベドナー長老, 主の強さの中で前進する」『リアホナ』2005年3月号, 16-20; ニール・A・マックスウェル, "Jesus, the Perfect Mentor," *Ensign*, 2000年2月号, 8-17; デビッド・A・ベドナー「信仰をもって願い求めなさい」『リアホナ』2008年5月号, 94参照
7. *Ensign*, 1982年11月号, 38-41; *Ensign*, 1973年7月号, 84-85参照
8. エズラ・タフト・ベンソン「高貴な生得権を持つ若人へ」『聖徒の道』1986年7月号, 45; 『教会指導手引き 第2部』「アロン神権」179-196参照; 上記「注7」も参照
9. トーマス・S・モンソン『聖徒の道』1983年1月号, 32; *Scouting Handbook* (1998年); 上記「注8」も参照

# 厳しい時代の中で 強さを見いだす!

七十人  
アラン・F・パッカー長老

自分で靈感を受ける力は、これからの時代に欠かせないものとなるでしょう。



**ア** ンダーセン長老、この新しい召しを果たすに当たり、わたしたちの愛と祝福と支持をお伝えします。兄弟姉妹の皆さん、世界中で個人や家族は今、厳しい状況にあります。前途には試練が待ち受けていますが、同時に、今はすばらしい時代であり、特に若者にとってこの時代を生きるのはすばらしいことです。わたしは自分の子供や孫たちが、困難や挫折、障害に直面しながらも、満ち足った生活を送っている様子を見えています。

現代は預言が成就しつつある時代です。わたしたちは時満ちる神権時代に生きています。すなわち、今は救い主が再び戻って来られるのに備える時であり、また、自分の救いの達成に努める時でもあります。

雨風は、すべての人に等しく降り注ぎ、吹きつけますが、嵐に耐えられるのは、砂ではなく岩の上に土台を建てた人です。<sup>1</sup> 岩の上に土台を建てるには、イエス・キリストの福音に個人的に深く帰依し、靈感を受ける方法を知る必要があります。自分で知り、知っているとは自覚するのです。この世のすべての造られたものから、物質的にも精神的にも自立する必要があります。<sup>2</sup> そのためにはまず、父なる神がわたしたちの霊の父親であり、わたしたちを愛しておられること、イエス・キリストがわたしたちの贖い主、救い主であられること、聖霊がわたしたちの頭と心に語られることを理解する必要があります。<sup>3</sup> これが靈感を受ける方法です。わたしたちは御霊の促しを認識し、生活に应用するようになる必要があります。

高校生のときわたしはアメリカンフットボールに熱を入れていました。ポジションはミドル・ラインバッカーでした。コーチから基本をたたき込まれ、体で覚え込むまで練習しました。最大のライバルとの試合で学んだことが、その後何年も役に立っています。そのとき、わたしたちは守備側でした。わたしはマークする相手を知っていました。プレーが始まり、彼はスクリーメージ・ラインのわたしの右に来ました。選手も観客も叫んでいます。コーチから学んだとおりに、ボールを持っているかどうか分からないまま相手を追いました。驚いたことに、ボールが手に触れました。

ぐいっと引きましたが、相手も離しません。引っ張り合いをしていると、大喚声の中に一つの叫び声が聞こえました。「バッカー、タックルしろ!」わたしははっとわれに返り、すぐさまタックルして相手を倒しました。

あの喚声の中で、どうしてあの声が聞き分けられたのでしょうか。わたしは練習を通じてコーチの声に慣れ親しみ、その声を信頼するようになっていました。彼の教えに従えばうまくいったからです。

わたしたちは聖霊の促しに慣れ親しみ、体で覚え込むまで福音の教えを実践し応用する必要があります。このような促しは、わたしたちの証の土台になります。そして、わたしたちは証を得ると、困難な時代にあっても幸福と安全を保つことができるのです。

ダリン・H・オークス長老は証をこのように定義しています。「福音の証とは、永遠の価値を持つ幾つかの特定の事柄が真実であり、自分はそれが真実であることを知っているという、聖霊から心に与えられた個人的な証拠です。」<sup>4</sup> 別のときにオークス長老はこう言いました。「証は知り、感じることであり、改心は行い、変わっていくことです。」<sup>5</sup>

深く改心し、神から靈感を受けるために、できることがあります。まず、望みを持つ必要があります。アルマは言いました。「人が死ぬことを望もうと生きることを望もうと、神が彼らの望むままにされることを知っているからである。」<sup>6</sup>

次に、アルマは御言葉を試すように勧められています。「御言葉を一つの種にたとえてみよう。さて、もしあなたがたが心の中に場所を設けて、種をそこに植えるようにするならば、見よ、それがほんとうの種、すなわち良い種であり、またあなたがたが主の御霊に逆らおうとする不信仰によってそれを捨てるようなことがなければ、見よ、その種はあなたがたの心の中でふくらみ始めるであろう。そして、あなたがたは種がふくらみつつあるのを感じると、心の中で次のように思うであろう。『これは良い種、すなわち御言葉は良いものに違いない。これはわたしの心を広げ、わたしの理解力に光を注ぎ、まことに、それはわ



たしに良い気持ちを与え始めている。』<sup>7</sup>

次の段階は研究し、学ぶことです。熟考すれば、証が広がり、深まります。「しかし見よ、わたしはあなたに言う。あなたは心の中でそれをよく思い計り、その後、それが正しいかどうかわたしに尋ねなければならぬ。」<sup>8</sup>

靈感による答えがどのようなものか分かるようになります。それは思いや気持ちとして頭や心にもたらされます。<sup>9</sup> 時には、胸が熱くなることもあります。エリヤは、答えは「静かな細い声」としてもたらされると教えました。<sup>10</sup> 主は言われました。「もしそれが正しいければ、わたしはあなたの胸を内から燃やそう。それゆえ、あなたはそれが正しいと感じるであろう。」<sup>11</sup>

ジョセフ・スミスは、答えを待つときには、心に浮かぶ思いや気持ちに注意するように教えました。やがて、聖霊の促しが認

識できるようになるでしょう。

ジョセフはこう述べています。「啓示の霊が最初に何かを勧めたときにそれと気づくなら、人は益を得ることでしょう。例えば、純粋な英知が流れ込んできたと感じるとき、突然様々な考えがわいてくることがあります。そのような促しに気づくならば、その日のうちに、あるいはそう遠くない将来に、それが成就するのを確認できる、(言い換えれば、) 神の御霊によって心に示された事柄が、実際に起こるので。このように、神の御霊を経験し、理解することによって、啓示の原則が身に付いていき、ついにはキリスト・イエスにあって完全な者となるでしょう。」<sup>12</sup>

このような能力を養うなら、証を得る助けとなり、将来さらに靈感を得るための手段となります。

証は劇的な現れを伴うこともあります

が、普通はそうではありません。証を得るにはまずジョセフ・スミスの示現のような経験が必要だと考える人が時々います。祈りがこたえられる時間や場所や方法について非現実的な期待を抱くと、答え(ほとんどの場合、祈りの後で何かほかのことをしているときに、静かで平安な感情や思いとしてもたらされます)に気づかないかもしれません。そのような答えも同じ説得力と力を持ち得るのです。

やがて、答えを受け、そうすると靈感がもたらされる方法を理解します。これは各自が自分で学ぶことです。

次に、真理の証を求めることにより靈感の窓が開きます。祈りは靈感を招く最も一般的で力強い方法です。頭の中で問うだけでも<sup>13</sup>、窓は開き始めます。聖文はこう教えています。「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。」<sup>14</sup>

イエスはまた、教義を生活に応用するよう教えておられます。「神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの<sup>おしえ</sup>教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。」<sup>15</sup>

やがて、自分の証を得、自分で知り、知っていると自覚するようになります。そうすると、この世的なすべてのことから解放されます。わたしたちにとって正当で<sup>16</sup>、必要なものなら<sup>17</sup>「聖霊の力によって、[わたしたちは]すべてのことの真理を知るであろう」<sup>18</sup>とあるからです。強さと慰めを受け、困難な時代にあっても正しく決断し、自信をもって行動する助けが得られるのです。<sup>19</sup>

そのような証は、指導者だけでなく、すべての男性、女性、青少年、幼い子供にさえ与えられます。自分で靈感を受ける力は、これからの時代に欠かせないものとなるでしょう。

青少年時代に、神権の務めを果たすことで証が大きくなることを知りました。わたしは知ることを熱望し、研究し熟考し、答えを求めて祈りました。そしてある日、祭司として<sup>せいさく</sup>聖餐台に着いていたときに、わたしは感じ、知りました。

今はすばらしい時代です！主はわたしたち一人一人を必要となさっています。今はわたしたちの時代です。次のような賛美歌があります。

立ち上がれ、神につく者たちよ。  
小さき事柄を離れ、  
心と精神と思いと力を尽くして  
王の王に仕えん。<sup>20</sup>

わたしは、天の御父がわたしたちの霊の父であられ、イエス・キリストがわたしたちの贖い主、救い主であられ、聖霊が神聖な導きを与えてくださる御方であることを証します。わたしたちは個人的な靈感を受けられることを証します。そのような靈感をもたらす声をわたしたちが知ることができるよう、イエス・キリストの御名により祈ります。アーメン。

注

1. マタイ7:24-27参照
2. 教義と聖約78:14参照
3. 教義と聖約8:2-3参照
4. ダリン・H・オクス「証」『リアホナ』2008年5月号、26
5. ダリン・H・オクス。ケネス・ジョンソン“Coming to Know for Ourselves.” *Ensign*, 2008年7月号、29で引用
6. アルマ29:4
7. アルマ32:28
8. 教義と聖約9:8
9. 教義と聖約8:2-3参照
10. 列王上19:12
11. 教義と聖約9:8
12. *History of the Church*, 第3巻, 381
13. リチャード・G・スコット長老, *BYUデイポーショナル*, 2007年8月21日参照
14. ルカ11:9。マタイ7:7;3ニーフアイ14:7;教義と聖約88:63-65も参照
15. ヨハネ7:17
16. 3ニーフアイ18:20参照
17. 教義と聖約88:64参照
18. モロナイ10:5参照
19. アルマ48:15-16参照
20. “Rise Up, O Men of God” *Hymns*, 323番

# 聖約の力

十二使徒定員会

D・トッド・クリストファーソン長老

苦難に遭ったときには、聖約を最優先し、厳密に守ってください。



二 ル・L・アンダーセン長老を十二使徒定員会に心から歓迎します。アンダーセン長老は新たに加わる十二使徒としてふさわしい人です。

2007年8月15日、ペルーで大地震が発生し、沿岸のビスコ市とチンチャ市はほぼ完全に壊滅しました。チンチャのバルコンシト支部の会長ベンセスラオ・コンデ兄弟は、教会の多くの指導者や会員が行ったように、家が壊れた人々を直ちに助け始めました。

地震の4日後、七十人のマーカス・B・ナッシュ長老はチンチャを訪れ、教会による救援活動を調整していたときに、コンデ会長に会いました。被害状況と被災者の救援活動について話し合っていると、コンデ会長の妻パメラが幼い子供を抱いてやって来ました。ナッシュ長老が子供たちはどうしているか尋ねると、彼女はほほえんで、神の恵みのおかげで皆無事だと答

えました。ナッシュ長老は、家はどうかと尋ねました。

彼女はただ「なくなりました」と答えました。

ナッシュ長老は「家財道具はどうですか」と問いました。

コンデ姉妹は「全部、瓦礫の下です」と答えました。

ナッシュ長老は「それでも、姉妹はほほえんでいますね」と言いました。

するとコンデ姉妹はこう答えました。「ええ、お祈りをしたので、平安なのです。必要なものは全部あるし、夫もわたしも子供たちもここにいるし、神殿で結び固められています。このすばらしい教会があり、主がおられます。主の助けがあれば、またやり直せます。」

信仰と霊的な強さを示すこのような心を打つエピソードは、世界中の様々な状況の聖徒たちの中で繰り返されています。このようなエピソードは、今日特に必要とされ、今後ますます欠かせなくなる、ある深遠な力について簡潔に物語っています。わたしたちに必要なのは強いクリスチャンです。苦難を耐え、悲劇の中で希望を失わず、模範と思いやりによって人々を励まし、常に誘惑に打ち勝つ人々です。わたしたちに必要なのは、信仰により重要な事柄を成し遂げ、善悪の判断は時と場合によって変わるという考えや、神への信仰を破壊しようとする攻撃的な無神論からイエス・キリストの真理を擁護する強いクリスチャンです。

そのような道徳的、霊的な力の源は何かでしょうか。その力を得るにはどうしたらよいでしょうか。その源は神です。神との



聖約を通してその力を得ることができません。聖約とは神とわたしたちが交わす合意であり、合意の条件は神がお定めになります(聖句ガイド「聖約(契約)」の項、152参照)。この神聖な合意において、わたしたちは神に仕え、神の戒めを守ると約束し、それに対して、神はわたしたちを支え、聖め、高く上げると約束されます。

わたしたちは神権の儀式によって聖約に入ります。この神聖な儀式は、わたしたちが決意を表明するために神が定められたものです。基本的な聖約、例えばキリストの御名を進んで受けると初めて約束する聖約は、バプテスマの儀式によって確認されます。聖約は、個人がそれぞれ自分の名前前で交わします。この儀式により、わたしたちは主の聖約の民の一員となり、神の日の栄えの王国の相続人となります。

ほかの神聖な儀式は、まさにそれを行う目的で建てられた神殿で行われます。神殿で交わす聖約を忠実に守るなら、わたしたちは日の栄えの王国を受け継ぐだ

けでなく、天の王国の最高の栄光である昇栄を受けます。さらに、神がお与えになれる神聖な可能性をすべて得ます(教義と聖約132:20参照)。

聖文は、新しくかつ永遠の聖約について述べています。新しくかつ永遠の聖約とはイエス・キリストの福音のことです。つまり、福音の教義と戒めは、各々の神権時代に新たに回復される、神とわたしたちの間の永遠の聖約の基礎を成します。もし新しくかつ永遠の聖約を一文で言い表すなら、このようになります。「神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネ3:16)

主を信じるとはどういうことか、イエスは説明されました。「さて、戒め[言い換えば、聖約]は次のとおりである。地の果てに至るすべての者よ、悔い改めて、わたしのもとに来て、わたしの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、あな

たがたは聖霊を受けて聖められ、終わりの日にわたしの前に染みのない状態で立てるであろう。」(3ニーファイ27:20)

では、神と聖約を交わし守ることで、苦難の中ではほえむ力や、試練を勝利に変える力、「熱心に善いことに携わり、……義にかなう多くのことを成し遂げ[る]」力が得られることについてはどうでしょうか(教義と聖約58:27)。

### 賜物と祝福により強められる

第1に、イエス・キリストの福音の原則と戒めに従順に生活することによって、神が聖約の中で約束された祝福が、絶えず流れ込むようになります。このような祝福は、生きていく中で、単に作用される者でなく、作用する者となるために必要な力を与えてくれます。<sup>1</sup> 例えば、「知恵の言葉」で肉体を守るために与えられた主の戒めに従うなら、まず初めに「知恵と、知識の大いなる宝、すなわち隠された宝さえ」祝福されます(教義と聖約89:19)。さらに、より

健康的な生活、破滅をもたらす依存症からの自由、病気になる可能性の低い生活へと導かれます。従順に従うなら、生活を管理する力が強められ、自由に動く力、働く力、創造する力が増します。もちろん、老化や事故や病気によって体は弱まりますが、たとえそうでも、福音のこの律法に従うなら、そのような困難に対処する力が増します。

聖約の道を歩んでいると、常に<sup>たまもの</sup>賜物や助けが与えられます。「愛はいつまでも絶えることがない。」(1コリント13:8;モロナイ7:46) 愛は愛を、思いやりは思いやりを、徳は徳を生み、献身は忠誠を、奉仕は喜びを生みます。わたしたちは聖約の民であり、互いに励まし合い、支え合い、仕え合う聖徒の共同体の一員です。ニーファイが説明したように、「もし人の子らが神の戒めを守るならば、神は彼らを養い、強くし」てくださいます(1ニーファイ17:3)。<sup>2</sup>

### 信仰を深めることにより強められる

だからといって、聖約を交わせば試練がなくなるとか、従順な人は落胆や災難によって平安が奪われることがないなどと言うつもりはありません。義にかなってさえいれば、失意や苦しみはなくなると言う人は、ヨブについて考えてみてください。

ここで、聖約がどのように強さをもたらすのか、第2の理由に導かれます。聖約は、堪え忍ぶための信仰、主が求められることを全部行う信仰を生じます。喜んでキリストの御名を受け、戒めを守るには、信仰が必要です。聖約を尊ぶなら、そのような信仰が強まります。1つ目に、従順が約束どおりに実を結ぶ<sup>みたま</sup>を見て、信仰が固くなり、2つ目に、御霊を通して神が喜んでおられることを感じ、神の祝福と助けが途切れずに続くことを確信するようになり、3つ目に、神から一人一人自分の名前で頂いた約束があり、神はうそをつかれないということを知っているので、最後にはうまくいくと確信でき、何が起きても、希望を持ち、落ち着いて対処できるのです(エノス1:6, エテル3:12参照)。

この神権時代の初期の教会指導者は、聖約に固くついていれば、試練の時に必

要な安心感が得られると約束しています。

「自分の生き方は神の御心<sup>みこころ</sup>にかなっているという知識があったからこそ、昔の聖徒たちはあらゆる苦難や迫害に耐え、財産を奪われたり、所有物を破壊されたりしても喜んで忍耐し、さらに、最も恐ろしい死に方で死ぬことすら耐えたのです。『わたしたちの住んでいる地上の幕屋がこわれると、神からいただく建物、すなわち天にある、人の手によらない永遠の家が備えてあることを』彼らは(ただ信じていただけではなく)知っていたのです(2コリント5:1)。」(Lectures on Faith[1985年], 67)

彼らはさらに、神から求められるいかなる犠牲をもささげるとき、自分が正しい道を歩んでおり、それは神を喜ばせる道であるという御霊<sup>あかし</sup>の証が得られると述べています(Lectures on Faith, 69-71参照)。そのような知識があれば、あらゆる苦難はやがて神によって祝福に変えられると確信するようになり、信仰は無限になります。中には「大きく広々とした建物」から指さされ、あざけられたときに(1ニーファイ8:26-27参照)、そのような信仰に支えられた人もいでしょう。皆さんは、ペテロや昔の使徒たちとともに「御名のために恥をくわえられるに足る者とされたことを喜びながら」揺るがずに立ってきました(使徒5:41)。

主はこの教会についてこう述べておられます。

「まことに、わたしはあなたがたに言う。彼らの中で、……犠牲を払って、すなわち主なるわたしが命じるあらゆる犠牲を払って自分の聖約を進んで守ろうとするすべての者は、わたしに受け入れられる。

主なるわたしは、良い土地で清らかな流れのほとりに植えられた、多くの貴い実を結ぶ実り豊かな木のように、彼らに実を結ばせるからである。」(教義と聖約97:8-9)

使徒パウロは、神と聖約を交わした人は、試練に耐える信仰が得られるだけでなく、試練を通してより大きな信仰が得られることを知っていました。自分の「肉体のとげ」について(2コリント12:7参照)、パウロはこう述べています。

「このことについて、わたしは彼を離れ去

らせて下さるようにと、三度も主に祈った。

ところが、主が言われた、『わたしの恵みはあなたに対して十分である。わたしの力は弱いところに完全にあらわれる。』それだから、キリストの力がわたしに宿るように、むしろ、喜んで自分の弱さを誇ろう。

だから、わたしはキリストのためならば、[わたしの]弱さと、侮辱と、危機と、迫害と、行き詰まりとに甘んじよう。なぜなら、わたしが弱い時にこそ、わたしは強いからである。』(2コリント12:8-10)

### 「神性の力」により強められる

ここまでは、第1に、神との聖約を守る人が神から授かる力強い祝福と、第2に、信仰という比類ない賜物について考えました。聖約を通して受ける強さ<sup>きょう</sup>について今日わたしが伝える最後の側面は、神の力を受けることです。神との聖約を守る人の生活に、天の御父は神の影響<sup>あかし</sup>力、すなわち「神性の力」を注がれます(教義と聖約84:20)。御父がそうされるのは、わたしたちが神権の儀式を受けることを通して、選択の自由を行使してそれを受ける選<sup>えら</sup>びをしたからです。儀式を受けると霊的な力と光が増し加えられる分、責任も増し加わります。儀式を受けることは、その増し加わった責任を受け入れる準備ができていたことの証明でもあるのです。

すべての儀式において、特に神殿の儀式において、わたしたちは高い所から力を授けられます。この「神性の力」は聖霊の影響力によってわたしたちにもたらされます。聖霊の賜物は新しくかつ永遠の聖約に含まれており、それはバプテスマに欠かせない、御霊によるバプテスマです。キリストの血が適用され、わたしたちの罪が取り除かれ、聖められたという恵みを告げるものです。(2ニーファイ31:17参照)。この賜物によってアダムは「内なる人において生かされた者」となりました(モーセ6:65)。まさに聖霊の力によって、昔の使徒たちはあらゆる<sup>かんなん</sup>艱難を耐え、神権の鍵<sup>かぎ</sup>によって、当時知られていた世界へ福音を伝えたのです。

神聖な聖約に入ると、聖霊が慰め主、導き手、<sup>ばんりよ</sup>伴侶となられます。聖なる御霊の実は「不死不滅の栄光の平和なること、す



べてのものの真理、すべてのものを生かし活気づけるもの、すべてのことを知っており、知恵と憐れみと真理と公正と公平によって一切の権威を持つもの」です(モーセ6:61)。聖なる御霊の賜物は、証、信仰、知識、知恵、啓示、奇跡、癒し、慈愛、そのほかたくさんあります(教義と聖約46:13-26参照)。

教え、証するとき、聖霊は皆さんの言葉が真実であることを証言してください。敵意を持つ人に話すとき、聖霊は、言うべきことを心に入れ、「人々の前で辱められることはない」という主の約束を果たしてください(教義と聖約100:5)。不可能に思える目前の障害を乗り越える方法を示してください。皆さんの内にある聖霊により、人々はキリストの純粋な愛を感じ、前進する力を受けるのです。聖霊はまた、「約束の聖なる御霊」という役割において、聖約が正当であり有効であることを確認し、神の約束の証印を押してください。

強いクリスチャンは、神聖な聖約によって作られます。ふさわしくなり、受けられ

る神権の儀式をすべて受け、聖約によって交わした約束を忠実に守るよう一人一人に強く促します。苦難に遭ったときには、聖約を最優先し、厳密に守ってください。そうすれば、自分の必要に合わせて「疑わないで、信仰をもって願い求め[る]」ことができ、神はこたえてくださるでしょう。神は、答えを待ちつつ励む皆さんを支え、御自身の時と方法により、手を差し伸べ、「わたしはここにいます」と声をかけてくださるでしょう。

わたしは証します。末日聖徒イエス・キリスト教会には、人が聖なる御子の御名により、天の御父との聖約に入れるように、そのための儀式を行う神権の権威が存在します。わたしは証します。神は聖約を尊ぶ人に対して約束を果たし、「おし入れ、ゆすり入れ、あふれ出るまでに量をよくして」祝福されます(ルカ6:38)。神は皆さんの信仰を強め、完成してください。神は、御自身の聖なる御霊により、神聖な力で皆さんを満たしてください。皆さんが常に神の御霊を伴侶とし、導かれ、困窮や不安、悩みから解放されますように

祈ります。聖約を通して、主であり<sup>あがな</sup>主である御方の<sup>みて</sup>御手に使われる善のための力強い道具となれますように。イエス・キリストの御名によって祈ります、アーメン。

#### 注

1. 預言者ジョセフ・スミスはこう述べています。「神がわたしたちの幸福と、すべての被造物の幸福を計画される時、御自分が意図された幸福をもたらさないような、あるいは、神の律法と儀式を受ける人に最大の益と栄光をもたらさないような儀式や戒めを与えられたことはこれまで一度もありませんでしたし、これからも決してないでしょう。」(*History of the Church*, 第5巻, 135)
2. 新しくかつ永遠の聖約の戒めに従うことは、単に犠牲を求められ、制限が加えられるだけであると考え人もいます。しかし、従順に従い、惜しみなく無条件に聖約に生きる人は、さらに大きな自由と充足を見いだしています。そのことを真に理解すると、より多く(少なくともではありません)の戒めを求めるようになります。新



しい律法や戒めを学び実践するごとに、さらに上へ上へとほしごを上るのです。ほんとうに、福音の生活は良い生活です。

3. 使徒ヤコブも同じ教訓を教えています。「わたしの兄弟たちよ。あなたがたが、いろいろな試練に会った場合、それをむしろ非常に喜ばしいことと思いなさい。あなたがたの知っているとおり、信仰がためられることによって、忍耐が生み出されるからである。

だから、なんら欠点のない、完全な、でき上がった人となるように、その忍耐力を十分に働かせるがよい。」(ヤコブの手紙1:2-4)

4. 預言者ジョセフはカートランド神殿の奉獻の祈りの中で、次のように懇願しました。この祈りは主により啓示されたものです。「聖なる御父よ、何とぞ、あなたの僕たちがこの宮からあなたの力を帯びて出て行けますように。あなたの御名が彼らのうえにあり、あなたの栄光が彼らの周りにあり、あなたの天使たちが彼らに対する務めを果たしますように。」(教義と聖約109:22)

5. 先に言及したカートランド神殿の奉獻の祈りの中で、預言者はこのように懇願しています。「聖なる御父よ、この宮で礼拝するすべての者が……あなたにあって成長し、聖霊の全きを受け……ますように。」(教義と聖約109:14-15)「聖霊の全き」には、イエスが次のように述べられたものが含まれます。「永遠の命、すなわち日の栄えの王国の栄光について、わたしがあなたがたに与える約束である。この栄光は、長子の教会の栄光、すなわちすべての中で最も聖なる御方である神の栄光であって、神の子イエス・キリストを通じて来る。」(教義と聖約88:4-5)

# 逆境

## 大管長会第一顧問

ヘンリー・B・アイリング管長

**父なる神が生きておられることを証します。神は、わたしたちを磨き、わたしたちが完全な者となり、神とともに住めるよう、一人一人に道を定めてくださいました。**



**愛**する兄弟姉妹の皆さん、皆さんにお話するこの機会は偉大で神聖な特権です。わたしの言葉が皆さんにとって助けと励ましになるよう祈っています。

わたしたちの人生はそれぞれ異なりますが、少なくとも一つの共通点があります。それは、皆、逆境と向き合わなければならないということです。人生が順調に思えるときもありますし、それが長く続くこともあるでしょう。しかし、楽あれば苦ありというのが人生です。健康を損ない、災難に遭うこともあります。特に、しばらく快適なときが続いた後で、苦しみや物質的な損失に見舞われると、恐れを抱いたり、時には怒りが込み上げたりすることもあります。

怒りが生じる原因の一つは、起こっている事柄が不公平だという気持ちです。健康や生活の安定感はあるべきであり、自分にはそれを受ける資格があると思っ

てしまうことがあります。しかし失ってしまうと、それは不当だという気持ちになることがあるのです。勇敢なわたしの知人でさえ、肉体的な苦しみの中で涙を流し、教え導いてくれた人々にこう叫びました。「いつも善い人になろうと努力してきたのに、どうしてこんなことが起きるのだろう。」

この問いかけの答えを求める気持ちは、苦難が愛する者に降りかかったとき、いっそう大きな苦しみとなります。苦難に遭う人に責任がないと思えるときは特に、受け入れることが難しくなります。そして、苦しみにより信仰が揺らぎ、愛にあふれ、すべての力をお持ちの神は現実に存在するのだろうかと疑ってしまうことがあるのです。戦争や飢饉のときに、そのような疑いがその時代の人々全体に広がるのを実際に見た人もいることでしょう。疑いが大きくなると、神は無関心で、冷酷でおられると言って神を非難し、神に背を向ける人が出てくることもあります。そのままにしておく、神がおられるという信仰を失う可能性もあるのです。

今日の目的は、天の御父と救い主が生きておられ、全人類を愛しておられることを皆さんに確信してもらうことです。逆境と苦難という経験そのものが、御二方の愛が無限であることの証明の一つなのです。神は、死すべきこの世で生活するという賜物を与えてくださいました。それは、わたしたちが神のあらゆる賜物の中で最も大なるもの、すなわち永遠の命を受ける備えをするためです。そして、わたしたちの霊は変わるのです。神の望まれていることを望み、神が思われるように思う



ことができるようになります。そうなることで、永遠に続く子孫を託されるための備えができるのです。そして、試しを通して子供たちを教え、導き、彼らが永遠の命を得るふさわしさを身に付けられるように育てるのです。

明らかなのは、そのような賜物と信頼を得るために、わたしたちは困難な状況の中で義になかった選択をすることで変わる必要があるということです。この世で、つらく困難な試練を乗り越えることで、そのような大きな信頼を得るふさわしさを身に付ける備えができるのです。神に仕え、神のためにほかの人に仕えながら試練にさらされるときにのみ、そのような教育を受けることができます。

この教育を受けている間、わたしたちは不幸と幸福、病気と健康、罪のもたらす悲しみと救いの喜びを経験します。救いは、わたしたちには耐えられない苦痛、またほとんど理解できない苦痛を通して救い主が可能にしてくださった無限の贖いによってのみ与えられます。

苦悩の中で、救い主が約束された助けを待たなくてはならないとき、主は御自分の

の経験からわたしたちを癒し助ける方法を御存じだという事実は、わたしたちに慰めを与えてくれます。モルモン書は、慰めを与える主の力が確かであると伝えてあります。この力を信じるなら、わたしたちは忍耐強く祈り、働き、助けを待ち望むことができます。主は、わたしたちを救う方法を単に啓示によって知ることもおできになったでしょうが、御自身の経験を通して学ぶことをお選びになりました。アルマはこう述べています。

「そして神の御子は、あらゆる苦痛と苦難と試練を受けられる。これは、神の御子は御自分の民の苦痛と病を身に受けられるという御言葉が成就するためである。

また神の御子は、御自分の民を束縛している死の縄目を解くために、御自身に死を受けられる。また神の御子は、肉において御自分の心が憐れみで満たされるように、また御自分の民を彼らの弱さに応じてどのように救うかを肉において知ることができるように、彼らの弱さを御自分に受けられる。

さて、御霊はすべてのことを御存じである。にもかかわらず、神の御子は御自分の

民の罪を負い、御自分の解放の力によって彼らの背きを取り消すために、肉において苦しみを受けられる。さて見よ、これがわたしの内にある証である。」<sup>1</sup>

主がわたしたちを試練から解放する力と優しさをお持ちであることが真実であると感じるときでさえ、試練に耐えるには勇気と強さが試されるかもしれません。預言者ジョセフ・スミスは、地下牢の中で苦悩し叫びました。

「おお、神よ、あなたはどこにおられるのですか。あなたの隠れ場を覆う大幕はどこにあるのですか。あなたの御手はいつまでとどめられ、あなたの目、まことにあなたの清い目はいつまで永遠の天からあなたの民とあなたの僕たちへの不当な扱いを眺め、またあなたの耳はいつまで彼らの叫び声で貫かれるのですか。」<sup>2</sup>

主の答えは、わたしにとっての助けです。そして、暗闇に覆われるときに、わたしたち皆にとっての励ましとなります。

「息子よ、あなたの心に平安があるように。あなたの逆境とあなたの苦難は、つかの間にすぎない。

その後、あなたがそれをよく堪え忍ぶならば、神はあなたを高い所に上げるであろう。あなたはすべての敵に打ち勝つであろう。

あなたの友人たちはまことにあなたの傍らに立っている。そして、彼らは温かい心と親しみのある手をもって、再びあなたを歓呼して迎えるであろう。

あなたはまだヨブのようではない。あなたの友人たちは、ヨブにその友人たちが行ったようにあなたに対して言い争わず、戒めに背いたとしてあなたを責めることもない。」<sup>3</sup>

自分は確かに永遠の命を得るために備えられているという証を持つことで、信仰と勇気が生じるのをわたしは目にしてきました。主は忠実な弟子を救ってくださいます。成長し、永遠の命にふさわくなるための機会として試練を受け入れる弟子は、苦難のさなかにあっても平安を見いだすことができるのです。

先日わたしは、昨今の経済危機の影響で失業した若い父親と話しました。彼は、

自分と同じ技能を持つ何百何千という人も、家族を養うために必死で仕事を探していることを知っていました。穏やかさの中にも自信に満ちた彼に、家族を養う道が見つかるという確信をどのように得たのか尋ねてみました。その父親は、主の助けを受けるにふさわしくなるよう自分が最善を尽くしてきたかどうか、生活を吟味したと答えました。この試練と、キリストを信じる信仰のために、彼が困難な状況でも神の戒めに従順になっているのは明らかでした。夫婦でアルマ書を開き、逆境を通して福音を見いだすよう主が民を備えられた箇所を読んでいるとき、最善を尽くして主の助けを受けられるようになると思ったそうです。

皆さんは、苦しむ人々を率いていた男性にアルマが語った場面を覚えていることでしょうか。その人は、彼らが貧乏であるために迫害され、拒絶されていると話しました。記録にはこうあります。

「アルマはこれを聞くと、振り返って彼の方に面と向かい、非常に喜びながらじっと彼を見詰めた。彼らが多く苦しみを受けて心がへりくだっており、御言葉みことばを聞く用意のできていることが、アルマに

分かったからである。

そこで、アルマは、もうほかの群衆にそれ以上語るのをやめ、しかし、目の前にいる、心から悔い改めている彼らに向かって手を伸ばして大声で言った。

『わたしの見るところ、今あなたがたの心はへりくだっている。もしそうならば、あなたがたは幸いである。』<sup>4</sup>

続いて聖文には、豊かだったときに逆境に備えていた人々への称賛が載っています。皆さんの多くも、危機が来る前に、将来必要となる助けを受けるにふさわしくしようと努力する信仰を持っていました。

アルマは続けてこう話しました。「まことに、自ら進んで心からへりくだり、罪を悔い改め、最後まで堪え忍ぶ人は祝福を受ける。まことにこのような人は、非常に貧しいためにやむを得ずへりくだっている人々よりも、なおさら祝福を受ける。」<sup>5</sup>

先日話をした、先ほどの若い人は、生ける預言者が来ると警告している災難に備え、食料を貯蔵し、多少の貯金をし、さらにそれ以上のことをしていました。彼は、近い将来主の助けが必要になることを知っており、助けを受けるにふさわしくなるよう、以前から心の備えを始めていたの

です。彼が失業したその日、不安ではないかと奥さんに尋ねました。彼女は明るい声で言いました。「いいえ。今ちょうどビショップに面接をしてもらったところです。我が家は什分じゅうぶんの一を完全に納めているんです。」まだ早すぎだったかもしれませんが、わたしは二人と同様に、確かにこう感じました。「万事うまくいきますよ。」悲劇が二人の信仰を弱めることはありませんでした。信仰は試され、強くなりました。嵐あらしのさなかにあつて、主が約束された平安がすでにこの家族とともにありました。これから、きっとほかの奇跡も起こることでしょう。

主はいつも、困っている人を最も良い方法で強め、清めるために、その人の状況にふさわしい助けを与えてくださいます。そのような助けは、自分にこそ助けが必要だという人が、自分にはとてもできそうにないと思うことをするようという靈感を受けて、与えられることがよくあります。人生で最も大きな試練の一つは、愛する夫や妻を亡くすことです。ヒンクレー大管長は、いつも傍らにいたヒンクレー姉妹を失ったときの苦しみを語りました。主は、死によって愛する者と別れた人の必要を御存じです。主は地上でのご経験から、夫に先立たれた人の苦痛と必要を知っておられます。主は十字架の上で苦しまれながら、愛する弟子に、夫を失い今度は息子を失おうとしていた母親の世話をしよう言われました。そして今、主は、死によって妻に先立たれた夫、夫に先立たれた妻の必要を御存じなのです。

わたしたちの多くは、注意を向けるべき、夫に先立たれた女性を知っています。そうした年配の女性を再び訪問しようとしたとき、わたしはその女性が靈感を受けて、同じ境遇にある年下の女性を訪問して慰めていたという話を聞き、感動しました。夫に先立たれた一人の女性が、自分が慰めを必要としているにもかかわらず、同じ状況の女性を慰めるために遣わされたのです。主はこの二人の女性を助け、祝福され、互いに励まし合うよう靈感を与えられました。主はどちらの女性にも助けを与えてくださったのです。



主はこれと同じ方法で、主の僕たちの教えと証を受け入れた、謙遜な貧しい人々に助けをお与えになりました。アルマ書第34章に記されている人々です。彼らは悔い改め、改宗しましたが、依然として貧しいままでした。しかし主は、自分では到底できないと思えること、そして他人よりも自分の方が必要としていると思われることを行うために彼らを遣わされました。それは、自分が主から与えていただきたいと望むものをほかの人に与えることでした。主の僕を通して、主はこれらの貧しい改宗者たちに、このような難しい責任をお与えになりました。

「これらのことをすべて行っても、もし乏しい人や着る物のない人を追い払ったり、病気の人や苦しんでいる人を見舞わなかったり、自分には持ち物がありながら、それを必要としている人々に分け与えなかったりするならば、あなたがたに言うが、もしあなたがたがこれらのことのどれも行いがなければ、見よ、あなたがたの祈りはむなしく、何の役にも立たない。あなたがたは信仰を否定する偽善者と同じである。」<sup>6</sup>

自分自身の必要を満たしていない人々に、このようなことを要求するのは行きすぎだと思えるかもしれません。しかし、わたしの知っているある若者は、結婚したばかりのときに、まさにそのような行いをするよう促されました。その夫婦は少ない収入でかろうじて生計を立てていました。しかし夫は、自分たちより貧しい夫婦を見ると、わずかな収入から彼らに経済的な援助を与え、妻を驚かせました。貧しい生活は続きましたが、この夫婦は平安という約束された祝福を受けました。後に、自分たちの夢を超える繁栄という祝福がやって来ました。彼は今でも、困っている人、貧しい人、苦しんでいる人を見ると、以前と同じように助けの手を差し伸べています。

よく堪え忍ぶなら、この世でも永遠にも祝福をもたらす試練がもう一つあります。どんなに優れた人にとっても、高齢と病気は大きな試練です。我が家の娘たちが家を出る前のこと、ある友人が同じワードで



ビショップを務めていました。山に出かけた娘たちは、キャンプファイヤーでビショップが短く証を述べたときの気持ちを話してくれました。娘たちへのビショップの愛は彼女たちによく伝わっていました。彼はビショップを解任されましたが、その以前にも別の州でビショップを務めたことがありました。そのワードの会員たちに会いましたが、彼らもわたしの娘たちと同じような気持ちで、ビショップのことを覚えていました。

わたしは、友人である元ビショップの家を時々訪ねました。感謝の気持ちを伝え、神権の祝福を授けるためです。彼の体は少しずつ弱っていました。彼が思ったすべての病気を思い出すことはできませんが、手術を受けることになりました。術後は絶えず痛みで悩まされていました。ところが彼を慰めるために訪問しても、結局逆になってしまい、いつもわたしが慰められていました。背中と足の痛みのため、彼は杖がなくては歩けませんでしたが、教会ではいつもドアの近くに座り、早く来た人に笑顔であいさつしていました。

ある日、我が家の裏口のドアを開けると、坂になっている我が家の敷地をこちらに向かって登って来る彼の姿が見えました。そのとき感じた驚きと称賛の気持ちは決して忘れないでしょう。その日はごみの取

集日で、朝、市の業者に回収してもらおうよう収集用のごみ箱を通りに出しておきました。ところが、彼はそれを片方の手で家まで引きずって持って来てくれたのです。もう一方の手は、転ばないように杖を握っていました。友人は、自分の方がもっと助けを必要としているのに、わたしのためを思って助けてくれたのです。しかも、何も言われなくても、笑顔で進んでそうしていたのです。

ついに友人は医師や看護師の世話が必要になりました。お見舞いに行くと、彼は病院のベッドに横たわっていて、いつものように痛みを抱えながら笑顔を見せてくれました。奥さんから電話があり、彼の体はどんどん弱っていると聞いていました。管でつながれたまま横たわる友人に、わたしは息子と一緒に神権の祝福をしました。現世で行うよう神が望まれるすべてのことを成し遂げるための時間と力が与えられるという約束、またすべての試練に打ち勝つことができるという約束とともに祝福を結び固めました。友人は手を伸ばし、ベッドを離れて立ち去ろうとするわたしの手を握りました。握った手の力強さに驚きました。そして彼は、驚くほど力強い声でこう言ったのです。「わたしはやり遂げるよ。」

わたしは、すぐにまた来ようと思いながら帰りました。しかし、その翌日に電話が鳴りました。彼はこの世を去り、栄光に満ちた場所へ行きました。彼にとって、そしてわたしたちにとって完全な裁き主となられる救い主のもとに行ったのです。葬儀で話をさせていただいたとき、わたしはパウロの言葉に思いをはせました。パウロも、わたしの隣人である友の行った場所へ自分が行くことを知っていたのです。

「しかし、あなたは、何事にも慎み、苦難を忍び、伝道者のわざをなし、自分の務を全うしなさい。」

わたしは、すでに自身を犠牲としてさげている。わたしが世を去るべき時はきた。

わたしは戦いをりっぱに戦いぬき、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした。

今や、義の冠がわたしを待っているばかりである。かの日には、公平な審判者

である主が、それを授けて下さるであろう。わたしばかりではなく、主の出現を心から待ち望んでいたすべての人にも授けて下さるであろう。』<sup>7</sup>

わたしの隣人は試練を立派に乗り越え、喜びの笑みをたたえながら裁き主にお会いすると、わたしは確信しています。父なる神が生きておられることを証します。神は、わたしたちを磨き、わたしたちが完全な者となり、神とともに住めるよう、一人一人に道を定めてくださいました。救い主が生きておられることを証します。わたしたちは、主の戒めと神聖な聖約を守るなら、主の贖いによって清められます。わたしは主が、あらゆる試練を乗り越える強さを与えてくださることを、自分の経験から知っています。モンソン大管長は主の預言者であり、神権のすべての鍵<sup>かぎ</sup>を持っています。これは主の真の教会です。この教会で、わたしたちは主とともに互いに高め合い、主のお計らいにより、人生で出会う苦しむ隣人を助ける機会に恵まれるのです。

イエス・キリストの御名<sup>みな</sup>により、アーメン。

注

1. アルマ7:11-13
2. 教義と聖約121:1-2
3. 教義と聖約121:7-10
4. アルマ32:6-8
5. アルマ32:15
6. アルマ34:28
7. 2テモテ4:5-8

## 教会役員の支持

大管長会第二顧問

ディーター・F・ワークトドルフ管長



**兄** 弟姉妹の皆さん、わたしたちは預言者、聖見者、啓示者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、大管長会第一顧問としてヘンリー・ベニオン・アイリングを、大管長会第二顧問としてディーター・フリードリッヒ・ワークトドルフを

支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、その意を表してください。

十二使徒定員会会長としてボイド・ケネス・バックナーを、また同定員会会員として、ボイド・K・バックナー、L・トム・ベリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、デビッド・A・ベドナー、クエンティン・L・クック、D・トッド・クリストファーソン、そしてニール・L・アンダーセンを支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方はその意を表してください。

大管長会顧問、十二使徒を預言者、聖見者、啓示者として支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がもしあれば、同様にその意を表してください。

わたしたちはニール・L・アンダーセン長



老を七十人会長会から解任します。

感謝を示してくださる方は、その意を表してください。

わたしたちは、2009年5月1日をもって、次の方々を地域七十人から解任するよう提議します。グーテンベルク・G・アモリム、ウィルフォード・W・アンダーセン、青柳弘一、ホセ・E・ボーサ、G・リン・ブレンチリー、ジョン・J・チップマン、崔 審煥、クレントン・M・クリステンセン、エルネスト・A・ダシルバ、ジェームズ・ダンロップ、デビッド・W・エカ、I・リー・エンス、エドガルド・E・フェルナンド、ルイス・C・フランカ、ジョセフ・T・ヒッケン、マイケル・H・ホルムズ、ピタ・F・ホボアテ、堀田 徹、ウィリアム・K・ジャクソン、菊地 敏、ミゲエル・A・リー、李庸煥、アルフレッド・ヘリトン・デ・レモス、ジェームズ・B・マルティノ、ラモント・W・ムーン、ケント・H・マードック、ブレント・H・ニールソン、アレクサンダー・A・ヌニェス、ラッセル・T・オスガソープ、アディルソン・デ・ポーラ・パレーラ、ペドロ・J・ペンナ、エロル・S・フィッペン、ニール・E・ピッツ、ゲーリー・L・ポコック、デール・G・レンランド、ロナルド・A・ストーン、ジーン・テファン、アレックス・P・ヤング。

彼らのすばらしい働きに感謝をしてくださる方は、その意を表してください。

わたしたちは、A・ロジャー・メリル、ダニエル・K・ジャッド、ウィリアム・D・オズワルドの各兄弟を中央日曜学校会長会から解任します。

また、チャールズ・W・ダールクウィスト、ディーン・R・バージェス、マイケル・A・ナイダーの各兄弟を中央若い男性会長会から解任します。

さらに、日曜学校と若い男性の中央管理会のすべての会員を解任します。

彼らのすばらしい働きに感謝をしてくださる方は手を挙げてください。

わたしたちは、ドナルド・L・ホールストロム長老を七十人会長会の会員として支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方。

また、七十人第一定員会の会員として、メルビン・B・アーノルド、崔 審煥、ブレン



メキシコ、オアハカ州フチタン

ト・H・ニールソン、デール・G・レンランド、マイケル・T・リングウッド、ジョセフ・W・シターティを、七十人第二定員会の会員として、ウィルフォード・W・アンダーセン、青柳弘一、ブルース・A・カールソン、ブラッドリー・D・フォスター、ジェームズ・B・マルティノ、ケント・F・リチャーズ、グレゴリー・A・シュワイツァーを支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がもしあれば、同様にその意を表してください。

次の方々を新たに地域七十人として支持するよう提議します。マニュエル・M・オーガスティン、ピクター・A・アスコナビエタ、ファン・C・アビラ、裴 徳洙、デニス・C・プリムホール、トーマス・M・チェリントン、サミュエル・W・クラーク、カール・B・クック、ケビン・R・ダンカン、ロドルフォ・C・フランコ、ジェリット・W・ゴング、マウロ・ジュノ、ラリー・S・ケーチャー、ボン・G・キーチ、楠目克美、ジャーマン・ラボリエル、J・クリストファー・ランシング、デビッド・E・ルシュエ、パウロ・C・ロウレイロ、スティーブン・J・ランド、ドミトリー・マルチェンコ、アブラハム・マルティネス、ヒューゴ・E・マルティネス、フリーボディー・A・メンサ、クリストファー・B・マンデー、中塚祐文、呉 義根、大石知香男、アレハンドロ・S・パタニア、レナト・M・ベトラ、マルコス・A・プリエト、ジョ

ナサン・C・ロバーツ、J・クレグ・ロウ、マンフレッド・シューツ、ウォルター・C・セルデン、T・マラマ・タラティ、ウォーレン・G・テート、ヘスボン・O・ウシ、ジャック・D・ワード、ランディー・W・ウィルキンソン。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方。

わたしたちは、中央日曜学校会長として、新たにラッセル・トレント・オスガソープを、第一顧問としてデビッド・メリル・マッコンキー、第二顧問としてマシュー・オッテセン・リチャードソンを支持するよう提議します。

また、中央若い男性会長として、新たにデビッド・レロイ・ベックを、第一顧問としてラリー・マイナー・ギブソン、第二顧問としてエードリアン・オチョアを支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方はその意を表してください。

そのほかの中央幹部、地域七十人、中央補助組織会長会を現在のまま支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方はその意を表してください。

モンソン大管長、わたしが見たかぎり、カンファレンスセンターにおいては全会一致で支持されました。

兄弟姉妹の皆さん、皆さんの賛意の表明と信仰、献身と祈りに感謝します。

ホールストロム長老と新たに召された七十人、中央日曜学校、中央若い男性会長会の皆さんは、檀上に来て着席してください。モンソン大管長が今日言ったように、檀上までの道は果てしなく感じられることでしょう。

わたしたちはこの兄弟たちと、今朝、この神権時代で奉仕する97番目の使徒に召されたアンダーセン長老を歓迎します。使徒の召しは、皆さんも知っているとおおり、主イエス・キリストの時代にさかのぼります。また今、檀上へと上がった七十人は、十二使徒がほかの人々に要請する前に助けを求めるべき人々として聖文に記されている人たちです(教義と聖約107:38参照)。

兄弟たち、ありがとうございます。

# 2008年度 教会監査部報告

教会監査部実務運営ディレクター  
ロバート・W・キャントウェル提出

## 末日聖徒イエス・キリスト教会大管長会に対して提示

**愛**する大管長会の皆さん。教義と聖約第120章の啓示に定められているように、教会基金の支出の承認は、じゆうぶん 什分の一配分評議会が行います。同評議会は、大管長会、十二使徒定員会および管理ビショップリックで構成

されており、教会の各部門と運営組織の予算を承認します。教会の各部門は、承認された予算のとおり、教会の方針と手続きに従って基金を使います。

教会監査部は、基金の収支と教会資産の保全が適切に管理されているかを監査

するうえで必要なあらゆる記録やシステムから情報を入手する権利があります。教会監査部は、教会のほかのあらゆる部門や運営組織から独立しており、監査を実施する人々は、公認会計士、公認内部監査人、公認情報システム監査人、そのほかの資格ある専門家によって構成されています。

監査の結果、教会監査部では、2008年度において、教会のすべての資材、献金や寄付、支出、および教会資産は、適切な会計と承認された予算、および教会の方針と手続きに従って記録し、管理されているという見解に達しました。

以上、謹んでご報告いたします。

教会監査部  
実務運営ディレクター  
ロバート・W・キャントウェル



# 2008年度統計報告

## 大管長会秘書

ブルック・P・ヘイルズ提出

**兄** 弟姉妹の皆さん、大管長会は、2008年12月31日現在の会員数の増加と活動状態を示す以下のような記録を発表しました。

## 教会ユニット数

ステーク	2,818
伝道部	348
地方部	622
ワードと支部の合計	28,109

## 教会員数

教会員総数	13,508,509
記録上の子供の増加	123,502
バプテスマを受けた改宗者	265,593

## 宣教師

専任宣教師数	52,494
--------	--------

## 神殿

2008年に奉獻された神殿	4
(アイダホ州レックスバーク神殿, プラジル・クリティーバ神殿, パナマ・パナマシティー神殿, アイダホ州ツインフォールズ神殿)	
2008年に再奉獻された神殿	1
(メキシコ・メキシコシティー神殿)	
儀式が執行されている神殿数	
12月31日現在	128

## 2008年4月以降に他界した著名な教会員

ジョセフ・B・ワースリン長老, 十二使徒定員会

アリス・ソーンリー・エバンス姉妹, 元十二使徒定員会のリチャード・L・エバンス長老夫人

J・トーマス・ファイアンス長老, 名誉中央幹部

ダグラス・H・スミス長老, 元七十人会員  
ハリエット・バーバラ・ウォッシュバーン姉妹, 元七十人会員のJ・バラード・ウォッシュバーン長老夫人

ダニエル・H・ラドロー兄弟, 元教会教科課程部ディレクターおよび『モルモニズム百科事典』(Encyclopedia of Mormonism) 編集主幹





# 過去の教訓から学ぶ

十二使徒定員会

M・ラッセル・バラード長老

過去の教訓を学ぶことによって、<sup>みたま</sup> 従順、<sup>あかし</sup> 信仰、御霊の証という確固とした土台の上に個人の証を築くことができます。



**わ** たしたちは非常に興味深く、時には困惑する時代に生きています。先日、孫に大会説教のテキストを見直していると言うと、戸惑った表情でこう言いました。「テキストって、大会のお話を携帯のテキストメールで送るの？ カンファレンスセンターで話さなきゃいけないと思ってた。」

携帯のテキストメールの方が楽だと思ふ人もいるでしょうが、<sup>きょう</sup> 今日こうして話す機会に感謝します。わたしのあの孫とほかの孫たち、また教会の全青少年のために、わたしが大切だと感じるメッセージがあるからです。

何年も前に事業をしていたとき、父の助言に耳を傾けず、天の御父の導きを与えてくれていた御霊の促しに従わなかった

ために大きな損失を被ったことがあります。父と自動車会社を経営していたのですが、フォード自動車が新型車の販売店を探していました。フォード社の役員が、大成功間違いなしという車の内覧会にわたしたちを招待してくれました。車を見て、自動車業界で35年以上の経験がある父は販売店になるのはやめた方がいいとわたしに警告しました。しかし、フォードの営業マンは非常に説得力があり、わたしはソルトレーク・シティーで最初で最後のエドセル販売店になる選択をしてしまったのです。エドセルが何か分からない人はおじいさんに聞いてみてください。教えてくれるでしょう。エドセルは見事な失敗作だったのです。

この経験から、皆さん全員にとって大変貴重な教訓を学ぶことができます。進んで耳を傾けて学ぶなら、最も有意義な人生の教訓の幾つかは、自分たちより前の時代を生きた人たちからもたらされるということです。彼らはかつて、皆さんが歩んでいる同じ道を歩み、皆さんが経験していることの多くを経験しました。彼らの助言に耳を傾けて受け入れれば、恵みと祝福になる選択へと導いてくれます。また、破滅に至る決断から救ってくれるでしょう。両親や、自分たちより前の時代を生きた人たちに目を向けるとき、皆さんが見習うべき信仰、決意、勤勉、献身、犠牲の模範が目にとまることでしょう。

人の経験から考え学ぶことが無意味な

場面など想像できません。多くの職業で、新人が経験豊かなベテランに付いて観察し、長年の経験と蓄積した知恵から学ぶ研修制度を義務づけています。プロスポーツの新人選手は、ベンチを温め、経験のある選手を見て学ぶようしばしば求められます。新任宣教師には先輩の同僚が割り当てられ、先輩の経験は主に効果的に仕える正しい方法を学ぶ助けになります。

もちろん、思い切って、自分で問題を解決するよう最善を尽くさざるを得ないときもあります。例えば、ごく最近の科学技術のことになる、長年の経験が役に立つような人はわたしの世代にはあまりいません。近代科学技術に関する問題があれば、もっとその知識のある人を探さなければなりません。それは通常、若者の皆さんに頼ることを意味します。

今日わたしは若い友人の皆さんに、永遠の人生に関する最も大切な質問の答えは、聖文と、使徒や預言者の言葉と証にあるということを伝え、証したいと思えます。おもに昔と今の高齢者によってそうした言葉が語られたからといって、重要性が減るわけではありません。むしろ、長年信仰深く生き、多く学んできた人の言葉だからこそ、もっと価値があるのです。

ジョージ・サンタヤナの有名な格言があります。多分聞いたことがあるでしょう。「過去を忘れてしまう者は、過去を繰り返す運命にある。」(ジョン・バートレット編、*Familiar Quotations*, 第15版〔1980年〕, 703) 実は、幾つか異なった言い回しがあります。その一つにこうあります。「過去を忘れる者は、過去を繰り返すことを余儀なくされる。」言葉は多少違いますが、この格言は奥深いものです。過去から学ぶべき偉大な教訓があります。皆さんはその教訓を学び、過去の過ちや間違った選択を繰り返して霊の力を使い果たさないようにすべきなのです。

旧約聖書に記されている神の子供たちの生活で繰り返されている歴史のパターンを知るために、末日聖徒である必要はありません。信心深くある必要さえありません。幾度となく、義と悪が繰り返されることが分かります。同じように、モルモン



書には、この大陸の古代文明でもまったく同じパターンを繰り返したことが記されています。義の後に繁栄が続き、繁栄の後に物質的な豊かさ、豊かさから貪欲、貪欲から高慢になり、高慢から悪がはびこって道徳が崩壊するパターンです。謙遜になり悔い改めて変わるに足る大きな災難を自らに招くまで、そのパターンを繰り返したのです。

新約聖書でも、数年という比較的短期間にこの歴史的パターンが繰り返されました。この時代、人々はキリストと使徒たちに敵対しました。そして大背教として知られるととも重大な崩壊を招きました。

その結果、暗黒時代と呼ばれる霊の低迷と無知の時代が何世紀も続きました。

さて、歴史上繰り返してきた背教と霊の闇についてはっきりさせておかなければなりません。天の御父は御自分のすべての子供たちを平等に愛し、皆が福音の恵みを受けて生活するよう望んでおられます。神が御自分の子供たちに背を向けられるがゆえに霊的な光が失われるのではなく、むしろ、子供たちが全体として主に背を向けるときに、霊の闇が生じるのです。霊の闇は、個人が、また社会、国、全文明が間違った選択をしたときの当然の結果なのです。これは時を越えて繰り返

返し証明されています。この歴史的パターンの偉大な教訓の一つは、個人または全体として選択することがわたしたち自身や子孫に霊的な結果をもたらすということです。

いつの神権時代にも、御自分の子供たちを祝福したいという神の愛ある望みは、生ける預言者を通して地上に福音の真理が奇跡的に回復されてきたことに表れています。1800年代初めに預言者ジョセフ・スミスを通して福音が回復されたのは、つい最近の例です。もっと以前には、ノア、アブラハム、モーセなどの預言者と、言うまでもなく主イエス・キリストを通して

同様の回復がなされました。

末日聖徒イエス・キリスト教会が正式に組織されてからの179年間は、あらゆる点で突出しています。有史以来、これほど科学や科学技術が驚異的な進歩を遂げた時代はありません。このような進歩は福音の発展と普及を促進する助けとなりました。しかし、同時に物質主義や自己中心主義が増長し、道徳心が低下する原因にもなっています。

品位と社会の良識における標準がまったくないと言っていいほどまでに下げられている時代にわたしたちは生きています。神の戒めは、善と悪の概念を完全に否定して変わり続けるこの世の考え方に攻撃されています。社会の一部の人々は、宗教的信念に従って生きる選択をする人たちに不信感を抱いているようです。そして、信じる人たちが罪深い選択が招く結果について警告しようとする、ばかにし、からかい、彼らの最も神聖な儀式や大切な価値観を公にあざけり笑います。

若い兄弟姉妹の皆さん、聞き覚えがありませんか。ここにも歴史的パターンが現れているのがわかりますか。義の後に繁栄が続き、その後物質的な豊かさ、貪欲、高慢と続き、悪がはびこって道徳が崩壊するという旧約聖書とモルモン書で繰り返し見られる同じパターンです。さらに重要なことに、そのような過去の教訓が皆さんの現在とこれからの人生の選択にどんな影響を与えるか分かりますか。

主の御声は明瞭で、間違えようがありません。主は皆さんを御存じで、愛しておられます。皆さんの永遠の幸福を望んでおられます。しかし、神から賜った選択の自由によれば、選択するのは皆さんです。皆さん一人一人は、悪い選択による壊滅的な結果を経験しながら、過去を無視して前の世代に降りかかったつらい過ちや悲惨なわなに苦しむかどうかを自分自身で決めなければなりません。キリストに忠実に従ったヒラマンの息子たち、モロナイ、ジョセフ・スミス、勇気ある開拓者などの優れた模範に従い、天の御父の戒めに忠実であり続けるために彼らのような選択をするなら、皆さんの生活はどれほど良く

なるでしょうか。

わたしは皆さんが賢明に過去の教訓から学ぶよう誠心誠意願ひ、祈ります。ニーファイやヤコブのように忠実である方がずっとよいと知るために、レーマンやレムエルのように時を過ごす必要はありません。「悪事は決して幸福を生じたことがない」と理解するために、カインやガデアントン

の進んだ道をたどる必要もありません(アルマ41:10)。また、子供の養育には良くない場所だと知るために、ソドムやゴモラのように地域社会を荒廃させておく必要もありません。

過去の教訓を学ぶことにより、闇でつまづくのを恐れず、堂々と光の中を歩むことができるようになります。これが人生のあ



ロシア、モスクワ

るべき姿です。父母、祖父母が子供たちを教え、子供たちが彼らから学んで、自らの経験や機会を通してよりいっそう義にかなった世代になること——それが神の計画なのです。過去の教訓を学ぶことによって、従順、信仰、御霊の証という確固とした土台の上に個人の証を築くことができます。

もちろん、教訓を単に歴史と文化の事実として学ぶだけでは不十分です。記録から、人の名前、年代、出来事の順序を学んだところで、その意味と、言わんとすることが心に刻まれなければあまり意味がありません。証によって養われ、信仰という水を与えられることで、過去の教訓は皆さんの心に根を張って皆さんの重要な一部分となることができます。

結局、ほんとうに大切なのは、これまでどおり個人の信仰と証です。兄弟姉妹の皆さん、信仰と証が人生に影響を及ぼすのです。それによって分かるのです。過去の過ちを避け、霊性を増すことができます。聖霊のささやきに心を開いて受け入れるなら、過去の教訓を理解し、証の力によって自らの魂に焼き付けることができるでしょう。

どうすればそのような証が得られるでしょうか。そのための新技術は今も、これからはありません。インターネットでグーグル検索して証は得られませんし、信仰を携帯メールで送ってもらうこともできません。これまで行われてきたようにすれば、皆さんも力強く人生を変えるような証を得ることができます。その過程は変わっていません。望み、研究し、祈り、従順であり、学び、教え、奉仕することです。これが過去と現在の預言者や使徒の教えが、これまでと同じように今日皆さんの生活に関係している理由です。

わたしの孫や教会のすべての青少年の皆さん一人一人が、どこにしようと、過去の偉大なる永遠の教訓から学ぶことによって、これからの人生で喜びと幸せと平安を見いだすことができますように。イエス・キリストの御名により祈ります、アーメン。

# 御父の計画—— すべての子供たちを 救う壮大なもの

十二使徒定員会  
クエンティン・L・クック長老

**わたしたちの旅路が苦難に満ちていても、目的地は実に栄光にあふれています。**



**現**世の生涯は困難になることがあります。目的は実に栄光にあふれています。キリストは弟子たちにこう語られました。「これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。」<sup>1</sup>

今日のわたしの目的は二つです。まず、信仰の「つまずきの石」を幾つか挙げ、次に御父の計画がすべての子供たちを救う壮大なものであることを説明します。

過去2年の間に、合衆国や世界の国々において、この教会の信仰や信条が話題

になる機会が劇的に増えています。これは今に始まったことではありません。このようなことは、教会の歴史の中で周期的にありました。

1863年、イギリス人小説家のチャールズ・ディケンズは、ニューヨーク行きの客船アマゾン号に乗り込みました。彼の目的はアメリカ西部で教会を確立するために移住する、末日聖徒の改宗者たちを取材することでした。当時すでに数千人の改宗者が移住しており、特にイギリスのメディアは、改宗した人々や彼らの信条について多くのことを書いていました。しかし、記事のほとんどは批判的な内容でした。

ディケンズはこう記しています。「船に乗り込み、思ったとおりのやつらならその誤りを立証するつもりでした。驚いたことに、そのような人々ではありませんでした。」<sup>2</sup>

改宗者たちを観察し、彼らと交わった後でディケンズは感心し、ほとんどが労働者階級であるイギリス出身のこの改宗者たちを「同階級の中で、イギリスで最もすばらしい人々」と表現しました。<sup>3</sup>

これまで教会に関して、相反する二つの評判がありました。一つは、義にかなった会員やその生活様式に関するもので、概して好意的な評判でした。末日聖徒を直接知っている人や、間近で教会員を観察したことのある人は、チャールズ・ディケンズが約150年前に報告したのと同じ意



見を持っています。

精神を高揚させる回復の教義のおかげで、会員は福音を喜び、教会の中で喜びと満足感を見だしています。イエス・キリストの回復された福音の教えに添って生活するとき、わたしたちは好意的に見られます。しかし、会員が教えに従わない場合は、教会に属さない人にとってつまずきの石となるかもしれません。<sup>4</sup>

義になかった会員の好意的な評判とは裏腹に、教会と教会の教義に関しては、真実とは違う、不公平な、悪意ある記述をされてきました。キリスト教全般についても、悪意に満ちた記述があることを認めるべきでしょう。<sup>5</sup>

教会の教義に対するこのような態度は意外ではありません。主は教義と聖約の中で、「声を上げ、神をのろ[う]」<sup>6</sup> 人々や

「人の訓戒のゆえに、わたしから心をそらす」<sup>7</sup> 人々がいると言われました。

ロンドンのバスの最近の広告は、宗教全般に対する激しい対立を表しています。無神論者、不可知論者、無信仰者がお金を出して、ロンドンの赤い2階建てバスに次のような大型ポスターを掲げました。「神はたぶんいない。だから心配するのはやめて、人生を楽しもう。」キリスト教徒は対抗して「神は確かに実在する」という言葉と心を高めるメッセージを書いた広告を出しました。<sup>8</sup>

無信仰の人々は、旧約聖書と新約聖書の奇跡や、救い主がおとめから誕生し、復活されたことを受け入れ難いと感じています。これらの出来事を疑い、同様に、父なる神とイエス・キリストが預言者ジョセフ・フ・スミスに御姿を現されたことを疑いま

す。至高者によって管理されている天の計画があるという可能性に心を開きません。信仰がないのです。<sup>9</sup>

わたしが最も心配しているのは、宗教を信じる気持ちがあるのに、誤った教義によって落胆し、混乱している、世の高潔な人々です。例えば、啓示が現在も与えられているという教義に関して、善良な人の中には、教会の主張は真実ではないと確信している人がいます。なぜなら、彼らは天は閉ざされたと教えられ、それゆえにそう信じ、この先、啓示も、聖文も、天からの宣言も加えられることはないと感じています。広く支持されているこの教えは聖文に基づいていないことを強調しておきますが、多くの人のつまずきの石となっています。<sup>10</sup>

最近ベストセラーになったある本の著者



は、ヨーロッパでは何世紀もの間ハクチョウは白い色のものしかないと信じられていたという興味深い事実を採り上げました。オーストラリア大陸が発見されたとき、異なる色のハクチョウが発見されました。著者はこの例を使い、予想だにしないことが実際に起こることを説明しました。<sup>11</sup> そのことについて考えていたとき、この神権時代に啓示などないと信じ込んでいるために、教会について真剣に学ぼうとしない人が大勢いることに気づきました。現在伝道部会長として奉仕しているある改宗者は、求道者だったころ、それを受け入れることがどれほど難しかったか述べています。「生まれてからずっと、地上に再び預言者や使徒が立てられることはない」と教えられてきました。ですから、ジョセフ・スミスを預言者として受け入れることは大きなつまずきの石となりました。」しかし、祈ったときに「確かに地上に福音が回復され、ジョセフ・スミスが確かに神の預言者であったという確信を得ました。」<sup>12</sup>

信仰を抱いてきた多くの人々にとって、一つの事柄が特に受け入れ難いものとして存在してきました。愛にあふれた天の御父がおられるという正しい教義を受け入れ、人類のほとんどが永遠の地獄を宣告されるという誤った教義を捨てるのが難しいのです。

わたしの高祖父フィニアス・ウォルコット・クックもこのことで悩みました。彼は1820年にコネチカット州で生まれました。

日記には、もし正しい道が分かれば主に仕えたと聖約したことがつづられています。多くの教会に足を運び、ある教会で「証を述べ、教会に加わり、クリスチャンになるよう」勧められますが、「あまりにもたくさんあり、どれに入るべきか分からない」と答えています。彼は幾つかの教会を調べ続けました。特に重視した教義についてこう書いています。「人類にもっと惜しみなく救いが与えられるはずだと考えて非難されることがあった。主が一部の人だけを救い、残り的大勢を永遠に罰するためにお造りになったとは思えない。」<sup>13</sup> この教義のために、彼はあるプロテスタント教会から除名されることを受け入れました。そして1844年に末日聖徒の宣教師から救いの計画に関するまことの教義を教えられ、フィニアスはバプテスマを受けました。

主の愛にあふれる憐れみと幸福の計画に対してフィニアスが抱いていた信仰と同じ信仰を、多くの高潔な男女が抱いてきました。たとえ自分の教会で非常に冷酷な教えを聞いても、信じ続けたのです。

英国国教会指導者および古典学者であり、『キリストの生涯』(The Life of Christ)の著者でもあるフレデリック・ファーラーは、ウェストミンスター寺院での説教の中で、地獄に関するプロテスタント教会の一般的な教えは誤りであると嘆きました。無窮の苦痛や永遠の罰の定めを含む地獄の定義は、欽定訳聖書を作る際にヘブラ

イ語とギリシャ語から英語に翻訳したときの誤りであると断言しました。ファーラーはまた、聖書の至る所で愛にあふれる天の御父の存在が立証されていることは、英語の翻訳で用いられている地獄や罰の定めが間違っていることを示すさらなる証拠であると述べました。<sup>14</sup>

テニスン卿は「イン・メモリアム」(In Memoriam)という詩の中で心の憂いを表しました。「あらゆる罪悪もゆきつく最後は になにかの善に帰着するのだ。」そしてこう続けています。

あてなく歩く足はあるまい。  
人の命は滅びることなく、  
神が宇宙の殿堂を  
築き建てたまふその時に、  
無駄なものだと  
虚空に捨てられはしないのだ。<sup>15</sup>

ジョセフ・スミスが啓示を受けて教会を組織したころ、当時の大多数の教会が、救い主の贖いは人類のほとんどを救うことはないだろうと教えていました。一般的に教えられていたのは、ごく少数の人だけが救われて、ほとんどの人が最も残酷で、言葉で表せないほど激しい、終わりのない苦痛を受けるように運命づけられているというものでした。<sup>16</sup> 預言者ジョセフに明らかにされたすばらしい教義によって、この世の生涯でキリストについて聞くことのない人や、責任を持てる年齢に達する前に亡くなった子供、理解する能力のない人をも含む全人類のための救いの計画が示されました。<sup>17</sup>

義人が死ぬと、その霊はパラダイスと呼ばれる一時的な状態で生活します。息子アルマは、「パラダイス〔は〕安息の状態、平安な状態であり、〔義になかった人〕はそこであらゆる災難と、あらゆる不安と憂いを離れて休む」<sup>18</sup> と教えています。不義な人は、時々地獄とも呼ばれる霊の獄に住みます。<sup>19</sup> 霊の獄とは、恐ろしい場所、暗い場所、「火の憤りのような神の激しい怒り」を恐れながら復活するまでとどまる場所であると記されています。<sup>20</sup> しかし、イエス・キリストの贖いのおかげで、この世

に生まれたすべての霊は最終的に復活して霊と肉体が再び結合し、現世よりも優れた栄光の王国を受け継ぎます。<sup>21</sup> 例外となるのは、サタンとその霊たちのように自ら神に反抗する人々です。<sup>22</sup> 復活のとき、霊の獄、すなわち地獄はそこに囚われている霊を解き放します。イエスは、「世のために十字架につけられ、世の罪を負い、世を聖め、それをすべての不義から清めるため」<sup>23</sup> に世に来られたのです。

救い主は言われました。「あなたがたは、心を騒がせないがよい。……わたしの父の家には、すまいがたくさんある。……あなたがたのために、場所を用意しに行く……。」<sup>24</sup> モーセ書に簡明にまとめられています。「見よ、人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと、これがわたしの業であり、わたしの栄光である。」<sup>25</sup>

救い主が人類のために苦しまれたことをかんがみれば、最初の示現の時代に存在していた教会について「どれにも加わってはならない、すべて間違っているからである」<sup>26</sup> とジョセフに指示されたことに何の不思議もありません。救い主は続いて、救いの計画やキリストの教義などの救いの原則に関して、まことの教義の回復を始められたのです。<sup>27</sup>

教義のうえでほかの教派と重要な違いはあっても、わたしたちはほかの教会に対して批判的な態度を執らないようにしてきました。彼らも多くの善を行い、人類を祝福しています。多くの教会は、会員に救い主とその教えを説いています。

『ワシントン・ポスト』(Washington Post) 紙の記者が、この教会のナイジェリアの集會を訪問しました。そしてある新会員を取材し、改宗談を記事にしました。このように書いています。

「〔彼は〕こう言った。……市営バスを飛び降りて〔末日聖徒の教会の建物〕に入った。〔礼拝堂〕で聞いた言葉がすぐに気に入った。特に、ほかの教会の信者は地獄に行くとかだれも説かなかった点が良かった。」<sup>28</sup> この教会が組織されて以来、これまでに改宗してきた無数の人々が同じように感じています。

教会の指導者は常に、こう教えてきまし

た。「信仰の異なる人々に、尊敬と感謝の念をもって接するようにしてください。信仰や人生観が異なる人々の間では、礼儀と互いへの敬意が非常に強く求められます。」<sup>29</sup>

また、同様に、この教会の会員同士が愛と親切をもって接することも大切です。どれほど献身しているか、どれほど活発であるかは関係ありません。互いに批判してはならないと救い主は明言しておられます。<sup>30</sup> 自分の家族に対しては特にそうです。わたしたちの責任は愛し、教え、あきらめないことです。主は救いを「すべての人に……無料で」与えてくださいますが、「すべての人に悔い改めを説き勧めるよう、主の民に命じてこられ」<sup>31</sup> しました。

もちろん、心から願うのは、救いと不死不滅を得るだけでなく、家族とともに日の栄えの王国において、愛にあふれた天の御父や救い主とともに住む永遠の命を得ることです。わたしたちは、福音の律法と儀式に従うことによるのみ永遠の命を得られます。<sup>32</sup> 救い主は言われました。「あなたがたは、わたしの戒めを守るならば、……わたしによって栄光を受けるからである。」<sup>33</sup>

ディケンズがアマゾン号で出会った、ヨーロッパの初期の改宗者たちは多くのつまずきの石を克服していました。天から啓示が与えられること、そして地上に再び預言者や使徒が立てられたことについて証を持っていました。イエス・キリストの回復された福音への信仰を抱いていました。

改宗者たちは、待ち受けている崇高な目的地を理解していました。これからのどる厳しい旅を恐れていませんでした。そして最終目的地はソルトレーク盆地ではありませんでした。真に目指したのは、パラダイスと日の栄えの王国における昇栄だったのでした。

ですから、当時も今も、末日聖徒は「恐れず来たれ、聖徒」の最後の歌詞を信仰と期待をもって歌うのです。

旅を終わらず死すも  
すべては善し  
悩みを離れ行きて

正義と住まん<sup>34</sup>

愛にあふれた御父は子供たちのために「生者を救い、死者を贖い、罰の定めを受けた人を助け出し、悔い改めるすべての人に栄光をもたらす」<sup>35</sup>、広範な憐れみ深い計画を用意されました。わたしたちの旅路が苦難に満ちていても、目的地は実に栄光にあふれています。

わたしは、天の御父のすべての子供たちに救いをもたらすほど大きい、偉大な救いの計画を喜んでいます。イエス・キリストの贖いに対し、言い尽くすことができないほど感謝しています。主を証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. ヨハネ16:33
2. チャールズ・ディケンズ, "The Uncommercial Traveller," *All the Year Round* (1863年7月4日), 449; デビッド・M・W・ピカップ, *The Pick and Flower of England* (2001年), 2も参照
3. *All the Year Round* (1863年7月4日), 446
4. アルマ4:10参照
5. ポール・ジョンソン, "Militant Atheism and God," *Forbes* (2007年10月8日号), 27参照; ジョン・グレー, "Faith in Reason: Secular Fantasies of a Godless Age," *Harper's Magazine* (2008年1月号), 86
6. 教義と聖約45:32
7. 教義と聖約45:29
8. ウィリアム・リー・アダムズ, "Christians and Atheists Battle in London Bus Wars," 2009年2月8日付, [www.time.com](http://www.time.com)
9. ルカ18:8参照
10. 黙示22:18を誤って引き合いに出す人もいる。しかし、これは黙示録についてであり、聖書全体について言及したものではない。申命4:2も参照
11. ナッシュム・ニコラス・タレブ, *The Black Swan: The Impact of the Highly Improbable* (2007年), xvii–xxviii参照
12. ゲーリー・G・エリ, 2008年5月16日,

コロラド州デンバー北伝道部の会長として赴任する前に語ったもの

13. ニューウェル・クック・マックミラン編で引用, *The Life and History of Phineas Walcott Cook* (1980年), 19-20
14. フレデリック・ファーラー, *Eternal Hope* (1892年), xxxvi-xlii. この項目についての詳しい討論は, H・ウォーラス・ガッダード, "God's Plan-Kinder Than We Dare to Expect," *Meridian Magazine*, (2006年) [www.ldsmag.com/myth/060217plan.html](http://www.ldsmag.com/myth/060217plan.html)参照
15. 『イン・メモリアム テニソン作』入江直祐訳, 岩波書店(1934年), 100
16. フレデリック・W・ファーラー, *Eternal Hope* (1892年), xxii
17. 教義と聖約29:46-50; 137:7-10参照
18. アルマ40:12
19. 2ニーファイ9:10-14; 教義と聖約76:84-86参照
20. アルマ40:14
21. 教義と聖約76:89参照
22. イザヤ14:12-15; ルカ10:18; 黙示12:7-9; 教義と聖約76:32-37参照
23. 教義と聖約76:41。1コリント15:22も参照
24. ヨハネ14:1-2
25. モーセ1:39
26. ジョセフ・スミス—歴史1:19。20節も参照
27. 2ニーファイ31:2-21参照。ヘブル6:1-2; 2ヨハネ1:9-10; 3ニーファイ11:30-40も参照
28. メアリー・ジョーダン, "The New Face of Mormonism," *The Washington Post*, 2007年11月19日付, A01
29. ゴードン・B・シンクレイ「主のみ業」『聖徒の道』1995年7月号, 76
30. ルカ6:37参照
31. 2ニーファイ26:27
32. 教義と聖約93:1参照
33. 教義と聖約93:20
34. 「恐れず来たれ, 聖徒」『賛美歌』17番
35. オーソン・F・ホイットニー, *Saturday Night Thoughts* (1921年), 323

# 主イエス・キリストを信じる信仰

七十人  
ケビン・W・ピアソン長老

**信仰の家族にあっては、恐れったり、疑ったりする必要はありません。恐れではなく、信仰によって生きることを選んでください。**



**主** イエス・キリストを信じる信仰という、福音のきわめて重要な原則について話をするに当たり、聖霊の導きがあるようにとへりくだり願います。真の信仰と忠実さをわたしの人生において偉大な模範によって教えてくれた人たちに深い感謝と愛を伝えます。善い両親、家族、神権指導者、愛する宣教師たち、すばらしい子供たち、そして大切な永遠の伴侶に、心の底から愛と感謝を表します。キリストの弟子、またキリストの証人として、わたし自身がさらに強い信仰を必要とし、望んでいます。人生で今ほど強い信仰を必要としたことはありません。

親としてわたしたちは「生ける神の子キリストを信じる信仰」を理解するように子供に教えなければならぬと命じられてい

ます(教義と聖約68:25)。ここで求められているのは、ただ単に信仰が福音の原則であると認めることだけではありません。信仰を持つとは、何かにまたはだれかに確信を持つことです(Bible Dictionary, "Faith,"の項, 669)。真の信仰は、生ける神の御子イエス・キリストを中心としたものでなければなりません。「信仰は行動と力の原則です。」(Bible Dictionary, 670) ただ単に信じるだけではなく、行動する必要があるのです。信仰は神が聖霊によりもたらされる霊的な賜物です。信仰を持つには、イエス・キリストについて、またその神聖な属性と完全な人格、教え、贖い、復活、神権の力についての正しい理解と知識が必要です。このような原則に従うことで、イエス・キリストと、聖任を受けた主の僕への完全な信頼、そして主の約束された祝福への確信がはぐくまれます。

これ以外のものに絶対的な確信を持つことはできません。人生でこれ以外の土台が同じ平安、喜び、希望をもたらすことはできません。不確かで困難な時代にあって、信仰はまさしく最善の努力を払ってでも手に入れる価値のある霊的な賜物です。わたしたちは子供に教育を施し、習い事やスポーツをさせ、芸術にふれさせ、物質的な富を与えることはできます。しかしキリストを信じる信仰を与えなければ、ほとんど何も与えていないことになります。

「信仰は信仰を持つ人の証を聞くことから始まります。」(Bible Dictionary, 669)。



ローマ10:14-17も参照)皆さんの子供たちは皆さんが主を知っているということを知っていますか。皆さんの確信を理解し、感じていますか。強い信仰はイエス・キリストの福音に従うことによってはぐくまれます(Bible Dictionary, 669)。

ブルース・R・マッコンキー長老はこう教えています。「信仰は個人の義に対する報いとして授けられる神の賜物です。義にかなった人がいる場所には常に与えられます。神の律法に忠実であればあるほど、授けられる信仰も大きくなります。」(Mormon Doctrine, 第2版[1966年], 264)より大きな信仰を望むならば、より従順にならなければなりません。神の戒めを、気楽に、あるいは自分の都合に合わせて守るように、誤った模範あるいは訓戒によって教わる子供は、この不可欠な霊的な賜物を受けられなくなります。信仰には、小さくて簡単なことでも、厳密に従う態度が必要です。

望みは、神聖な真理を経験するときに、わたしたちの内部で成長する信仰の微粒子です。望みは霊的な光合成のようなものです。あらゆる人の内に存在するキリストの光に働きかける聖霊の影響によって、霊的な化学反応に相当する現象、すなわち心が目覚め、心の変化、あるいは知りたいという望みが生じます。信仰の微粒子が分子になるとき、また、真実の原則に従って生きる単純な努力を払うときに、希望は膨らみます。

従順な行動規範が身に付くと、従順に伴う特定の祝福が授けられ、信念が生まれます。望み、希望、信念は信仰の一形態ですが、力の原則としての信仰は、一貫した従順な行動様式と態度から生まれます。個人の義は選択です。信仰は神の賜物です。そして信仰を持つ人は、有り余るほどの霊的な力を受けることができます。

心と勢力と思いと力を尽くすときに成長する質の信仰があります。偉大な宣教師、高潔で徳高い女性、義にかなった母親、父親、祖父母の目の中に見いだし、感じる信仰です。年齢、国、文化、言語、置かれた境遇や社会的地位にかかわらず、あらゆる人の生活に見いだすことができま

す。預言者アルマが語った「信仰の目」(アルマ5:15-26参照)、行く手を覆う暗黒の霧がきわめて深くても、疑わないで、しっかりと真実の原則につかまりながら、集中し、確固としていられる能力です。こうした質の信仰は、この上なく強力です。

しかしすべての事物には反対のものがなければなりません。「主なる神は思いのままに行動することを人に許された。しか

し人は、一方に誘われるか他方に誘われるかでなければ、思いのままに行動することはできなかった。」(2ニーファイ2:11, 16)したがって信仰についても同じことが言えます。信仰よりも疑念や不信を選ぶように誘惑されることもあります。

変貌の山において並外れて霊的な経験をして戻ってこられたイエスに近づいて来た人がいました。助けの必要な息子を抱



ブラジル、サンパウロ

え絶望的な状況に置かれていた父親です。父親はこう嘆願しました。「できますれば、わたしどもをあわれんでお助けください。」

イエスは答えられました。「『もしできれば、と言うのか。信ずる者には、どんな事でもできる。』

その子の父親はすぐ叫んで言った、『信じます。不信仰なわたしを、お助けください。』(マルコ9:23-24)

信仰と恐れが同時に存在することはできません。どちらか一方が他方を払いのけるからです。簡潔な真理ですが、わたしたちは皆、絶え間なく信仰を築き、それと同時に、破壊的な不信の原因を避ける必要があります。からし種一粒ほどの信仰にたとえられる救い主の教えは、この現実を踏まえたものです(マタイ13:31-32参照)。このように考えてください。わたしたちが実際に働かせる信仰の量は、自らの内にある疑念と不信の原因を差し引いた後に残ったものです。次のように自分に問いかける人がいるかもしれません。「わたしは信仰があるのでしょうか、それとも欠けているのでしょうか。」信仰が疑念と不信を上回っていたら、その答えは恐らく肯定的なものになります。疑念と不信に支配されているのであれば、答えは否定的なものになるでしょう。

わたしたちには選択があります。わた

したちは、自分たちがいつも焦点を当てているものを受け取ることになります。すべての事物には反対のものがあありますから、わたしたちの信仰を弱める力もあります。幾つかはサタン<sup>サタン</sup>の直接の影響によるものですが、残りについては、ほかならぬわたしたちに責任があります。信仰を弱める力の元となっているのは、自身の性癖、態度、習慣ですが、努力すれば変えられるものです。このような影響力を「6つの破壊的な力」と名付けましょう。その力が皆さんや皆さんの子供たちにどのような影響を及ぼす可能性があるか考えてください。

まず、第1は疑念です。疑念は福音の原則ではありません。キリストの光あるいは聖霊の影響から生まれるものではありません。疑念は恐れとつながる否定的な感情です。自分自身あるいは自分の能力に対して自信が欠けているために生まれることがあります。神の子供であるわたしたちの神聖な個性や能力とは相いれないものです。

疑念は落胆につながります。落胆は誤った期待から生まれます。慢性的な落胆は、ほうっておくと、期待が下がり、努力が減り、望みが低くなります。そして御霊を感じ、御霊に従うのが難しくなります(『わたしの福音を宣べ伝えなさい』10参照)。落胆と失望は、まさしく希望の反対です。

落胆は散漫、すなわち焦点の欠如につながります。散漫は、まさしく信仰の目を持つために必要な焦点を失わせます。落胆と散漫は、サタンが用いる最も効果的な道具のうちの一つですが、これらも悪い習慣です。

散漫は勤勉さの欠如につながります。困難や絶望を物ともせず真実かつ忠実であり続けることや、前進する決意が弱くなるのです。落胆は人生では避けて通れません。だからといって、疑念、落胆、散漫、あるいは勤勉さの欠如という結果に陥る必要はありません。

そのまま突き進んで行けば、この道の行き着く先は不従順です。つまり信仰の土台そのものが崩れます。ほとんどの場合、その結果は意識的であれ無意識的であれ、信じることを否定してしまうことです。

不信は聖文に記されているところの、自分の選びで心がかたくなになった状態、心が鈍った状態のことです。

この「6つの破壊的な力」、すなわち、疑念、落胆、散漫、勤勉の欠如、不従順、不信はどれも、信仰を弱め、打ち砕きます。わたしたちは自らの選びで、これらの破壊的な力避け、克服することができます。

困難な時代には、より大きくて霊的な力が必要になります。次の救い主の約束について注意深く考えてください。「……あなたがたはわたしを信じるならば、わたしの心にかなうことを何事でも行う力を持つであろう。」(モロナイ7:33)

へりくだり宣言します。わたしたちの天の御父である神は生きておられ、御自身の子供たち一人一人を愛しておられます。イエス・キリストは救い主、贖い主です。主は生きておられ、主の教会を、主御自身で、主の油注がれた預言者モンソン大管長を通して導いておられます。主が生きておられるので、明るい希望があります。信仰の家族にあっては、恐れたり、疑ったりする必要はありません。恐れではなく、信仰によって生きることを選んでください。イエス・キリストの聖なる御名によって、アーメン。



# 逆境の中の信仰

七十人

ラファエル・E・ピノ長老

**福音に従って生きていれば、わたしたちはさらに確信をもって逆境に立ち向かい、堪え忍ぶ備えができるのです。**



**数**年前のある朝、ビショップリックでわたしの顧問として奉仕していたオマール・アルバレス兄弟から電話がありました。3歳になるお嬢さんが悲惨な事故で亡くなったという知らせでした。

その日の出来事について、アルバレス兄弟は次のように語りました。

「ベネズエラで最も美しいと言われる海岸に着くとすぐに、子供たちは外に出て、海辺の近くの小さな川で遊ばせてほしいとせがみました。子供たちを行かせてあげることにし、車から用具などを降ろし始めました。2分ほどたったとき、岸からはるか遠くに流されそうになっている子供たちの姿が見えました。

子供たちを連れ戻そうと急ぎましたが、そのとき3歳になる娘がいないことに気づきました。死に物狂いで娘を捜しました。しかし見つけたときには、ほかの子供た

ちからそう遠く離れていない海面に浮かんでいたのです。急いで娘を引き上げました。何人かの人に来て娘を助けようとしてくれましたが、なすすべがありませんでした。息がすでになかったのです。

それからしばらくは、末娘を失った深い悲しみと苦痛で気も狂わんばかりでした。その気持ちはやがて堪え難いほどの苦悩へと変わりました。しかし、そのような混乱と疑念のさなかに、子供たちは聖約の下に生まれているのだという思いがわきあがってきました。この聖約を通して、娘は永遠にわたしたちとともにいるのです。

イエス・キリストの教会に属し、主の聖なる神殿で行われる儀式を受けているということは何という祝福でしょうか。主に忠実であり、最後まで堪え忍びたいという決意が、以前よりはるかに強くなったと感じています。娘と再会するために、神殿が与えてくれる祝福にふさわしくなりたいと願っているからです。嘆き悲しむこともありますが、『それでもわたしたちは希望のない人々のように嘆き悲しんだりはしません。』（『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』〔メルキゼデク神権と扶助協会の教科課程〕, 177）

この忠実な家族は、逆境に見舞われたとき、神による以外に慰めを得ることはできないということを理解するようになりました。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」（ヨハネ 14:27）

アルバレス家族が直面したつらい試練から数年後、わたしはケーロ家族という別の家族が逆境に立ち向かう様子を目の当たりにしました。恐ろしい交通事故で家族の数人を亡くしたのです。その事故で、アブラハム・ケーロ兄弟は両親、二人の妹、義理の弟、めいを失いました。

ケーロ兄弟の態度は称賛に値するものでした。次のように語ったのです。

「今回の経験は、神への忠誠を示す時でした。また、わたしたちが神に依存しており、神の御心に従わなければならない、わたしたちが神のものであるということを確認する時でした。

わたしは弟たちと話し、彼らを力づけ、励まして、何年も前にキンボール大管長が、『悲劇は死の中にはなく、罪の中のみある……』（『歴代大管長の教え——スペンサー・W・キンボール』〔メルキゼデク神権と扶助協会の教科課程〕, 18）、そして大切なのはどのように死んだのかではなく、どのように生きたかであると教えたことを理解するよう伝えました。

ヨブの言葉でわたしの心はいっぱいになりました。『……主が与え、主が取られたのだ。主のみ名はほむべきかな。』（ヨブ1:21）また、イエスはこう言われました。『……わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者はたとえ死んでも生きる。』（ヨハネ11:25）

これほどまでにつらい状況の中で神の御心を受け入れることで、わたしたち家族にとって、これは最も霊的な経験の一つとなりました。」

この経験を堪え忍んだ二つの善良な家族から、苦痛と悲しみは消えてなくなりました。福音の光が彼らを平安と慰めで満ちし、すべてうまくいくという確信を与えてくれたからです。

彼らを感じた苦痛を、ゲツセマネで主が堪え忍ばれた苦悶と比べることはできませんが、彼らの経験から、わたしは救い主の苦しみと贖いをより深く理解することができました。キリストがゲツセマネでお感じにならなかった弱さ、苦難、逆境は一つとしてないのです。

主は教義と聖約の中でジョセフ・スミス



メキシコ、オアハカ州フチタン

に次のことを明らかにしておられます。

「その苦しみは、神であって、しかもすべての中で最も大いなる者であるわたし自身が、苦痛のためにおののき、あらゆる毛穴から血を流し、体と霊の両方に苦しみを受けたほどのものであった。そしてわたしは、その苦い杯を飲まずに身を引くことができればそうしたいと思った。

しかしながら、父に栄光があるように。わたしは杯を飲み、人の子らのためにわたしの備えを終えたのである。」(教義と聖約19:18-19)

人生の嵐<sup>あらし</sup>についてよく理解していた預言者ジョセフ・スミスは、最もつらい時期に、苦悩の中で次のように叫んでいます。「おお、神よ、あなたはどこにおられるのですか。あなたの隠れ場を覆う大幕はどこにあるのですか。」(教義と聖約121:1)

そして、声を上げた預言者に、主の慰めの言葉が臨みます。

「息子よ、あなたの心に平安があるように。あなたの逆境とあなたの苦難は、つかの間にすぎない。

その後、あなたがそれをよく堪え忍ぶ

ならば、神はあなたを高い所に上げるであろう。あなたはすべての敵に打ち勝つであろう。」(教義と聖約121:7-8)

ハワード・W・ハンター大管長はこう言っています。「わたしたちの生活と信仰が、イエス・キリストと回復された主の福音を中心とするものであれば、たとえ道からそれることがあっても、いずれ正しい道へと導かれます。しかし反対に、わたしたちの生活が、救い主とその教えを中心とするものでなければ、一時的な成功をどれほど得ても、いつか道を誤ります。」(The Teachings of Howard W. Hunter, クラウド・J・ウィリアムズ編[1997年], 40)

救い主はこう言われました。

「それで、わたしのこれらの言葉を聞いて行う者を、わたしは岩の上に家を建てた賢い人にたとえよう。

雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけたが、それは倒れなかった。岩を土台としていたからである。

また、わたしのこれらの言葉を聞いて行わない者は皆、砂の上に家を建てた愚かな人にたとえられる。

雨が降り、洪水が起り、風が吹いてその家に打ちつけると、それは倒れてしまった。そして、その倒れ方はひどかった。」(3ニーファイ14:24-27)

興味深いことに、雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹いて打ちつけるという点はどちらの家も同じです。福音に従った生活を送っていても、永遠に逆境を免れるということはありません。そうではなく、福音に従って生きていけば、わたしたちはさらに確信をもって逆境に立ち向かい、堪え忍ぶ備えができるのです。

イエスがキリストであり、わたしたちの救い主、贖い主であられることを厳粛に証<sup>あかし</sup>します。主は、生ける預言者トーマス・S・モンソン大管長を通じて御自身の教会を導いておられます。救い主の教えに従った生活を送るならば、神のみが与えることのおできになる平安と慰めを確かに見いだせるのです(ピリピ4:7参照)。これらのことを、イエス・キリストの御名<sup>みな</sup>によって証します。アーメン。

# 「神殿での礼拝—— 苦難のときに強さと 力を与えてくれる源泉」

十二使徒定員会

リチャード・G・スコット長老

**交わした神殿の聖約を守り、……義にかなって生活するとき、……心配したり落胆したりする理由はまったくない(の)です。**



**末** 日聖徒イエス・キリスト教会の各会員は、祝福された時代に生きています。主が御自分の預言者たちに靈感を与えて、聖なる神殿をこれまでよりも大いに身近なものとしてくださっているからです。入念に計画し、幾らか犠牲を払うことで、大半の会員は自分自身と先祖のために神殿の儀式を受け、そこで交わす聖約によって祝福を受けることができます。

わたしは皆さんを愛していますので、心から、率直に話します。わたしはこれまで、会員が大きな犠牲を払って遠くにある神殿に行くのを何度も見てきました。

ところが、近くに神殿が建つと、短い間に多くの人が定期的に神殿を訪れなくなってしまいます。そこで提案があります。神殿が近くにあると行きやすいと、ささいなことで神殿に行く計画を取りやめてしまうことがあります。状況を考えながら、いつ神殿の儀式に参加でき、また参加しようと思うかについて、具体的な目標を定めてください。そして、どんなことであっても計画を妨げるのを許さないでください。こうすることで、神殿の近くに住む人も、神殿に行くためにずっと前から計画を立て、長い旅をする人と同じように祝福を受けることができるでしょう。

14年前、わたしは少なくとも週に1度は神殿に参入して、1つの儀式を終えることに決めました。どこかを訪問しているときは、行けなかった分の埋め合わせをして目標を達成するようにしています。これまでその決意を守っており、それによってわたしの人生は大きく変わってきました。神殿で行われるすべての儀式に参加するように努力しています。

皆さんも、現在儀式が行われている神殿で受けられる儀式にどのくらいの頻度で参加するか、自分自身の目標を定めるようにお勧めします。神殿に参入して儀式に参加すること以上に大切なことがあるのでしょうか。夫婦にとって、一緒に神殿

に行くこと以上に大きな影響力を持ち、大きな喜びと深い幸福をもたらしてくれる活動があるでしょうか。

神殿参入からさらに恵みを得る方法について、ほかにも幾つか提案しましょう。

- 神殿の儀式に関連する教義、特にイエス・キリストの贖罪の意味を理解する。
- 神殿の儀式に参加しながら、自分とイエス・キリストの関係、主と天の御父の関係について考える。この簡単な行いによって、神殿の儀式が持つ神聖な性質がさらに理解できるでしょう。
- 神殿の儀式から注がれる比類ない祝福に対して、常に祈りをもって感謝を表す。それらの祝福が自分にとってどれほど大きな意味を持つものであるかを、日々の生活を通じて天の御父と神の愛子に示しましょう。
- 神殿を定期的に訪問する予定を立てる。
- 神殿内で急ぐ必要のないよう時間を十分に取る。
- 異なる儀式を受け、神殿のすべての儀式に参加できるようにする。
- 主の宮に入るときに腕時計を外す。
- 思いと心を開いて、儀式の各部分で語られることに注意深く耳を傾ける。
- 自分が身代わりの儀式を行っている人のことを心に留める。その人がこれらの儀式がきわめて重要なものであることを認め、そこから恵みを受けるにふさわしくあるように、またはふさわしくなる備えができるように、時々祈りましょう。
- 結び固めの儀式がどれほど尊く厳かなものであるかは、1度の生者の儀式ではほとんど理解できず、また覚えていられないことを認める。その後身代わりの業に何度も携わることによって、生者の儀式において知るよりもはるかに多くのことを理解することができるでしょう。
- 結び固めの儀式は約束の聖なる御霊によって結び固められるまでは永遠に続くものとはならないことを理解する。そのためには、両者がふさわしくあって、結び固めが永遠のものとなることを望む必要があります。



もしまだ夫婦として神殿で結び固められていないなら、次の聖句について考えてください。

「日の栄えの栄光には、三つの天、すなわち三つの階級がある。その最高の階級を得るためには、人はこの神権の位(すなわち、結婚の新しくかつ永遠の聖約)に入らなければならない。

そうしなければ、その人はそれを得ることができない。

その人は他の階級に入ることはできるが、それは彼の王国の終わりであって、その人は増し加えることができないのである。」(教義と聖約131:1-4)

時々、神殿の奉獻式で聖歌隊の歌を聞くと、とても崇高な気持ちを感じ、心と思いが高められることがあります。目を閉じて一度ならず、頭の中で、神殿から天へと広がるように続く人の群れを見たことがあります。彼らはその聖所で身代わりの業が行われるのを待っていた多くの霊であり、永遠の進歩を妨げる鎖から解放し

てもらえる場所ができたことを喜んでいるのだと、わたしは感じました。その目的を達成するためには、身代わりの業を行う必要があります。また、先祖を見いだす必要があります。新しいファミリーサーチ(FamilySearch™)プログラムが、この取り組みを以前よりも容易にしてくれます。先祖を見だし、情報を提出し、主の宮に行くと彼らが受けたいと切に望んでいる儀式を執行する必要があります。神殿の業に参加できるのは、何という喜びでしょうか。

わたしの妻ジェニーンは先祖の経験の話したいと思います。サラ・デアモン・ピー・リッチという女性です。サラの記録は、神殿がわたしたちの生活にどのような影響を及ぼし得るかを示しています。サラは31歳のとき、ブリガム・ヤングからノーブー神殿で働く召しを受けました。ノーブー神殿では、聖徒たちがそこを放棄しなければならなくなる前に、すべての可能な儀式が執行されていました。サラは次のよう

に書いています。

「わたしたちは主の宮でたくさんの祝福を受け、それによってあらゆる悲しみのただ中であって喜びと慰めを得、神を信じる信仰を持つことができました。これから直面する未知の旅において、神が導き、支えてくださることを知っていました。もしも主の御霊の影響と助けにより神殿で授かった信仰と知識と、主の御霊の影響と助けがなかったなら、真冬に始めるこの旅はまるで暗闇の中に跳び下りるようなものであり、貧しさの中で、死に向かって歩いているようなものだったでしょう。でもわたしたちは天の御父を信じる信仰を抱き、神を信頼し、自分たちは神の福音を受け入れた、神の選ばれた民であると感じていました。悲しみの代わりに、自分たちの解放の日が来たことに喜びを感じていました。」

さて、神殿がわたしにとってどのような特別な意味を持っているかについて話したいと思います。この話には繊細な内容

が含まれますので、わたしが感情的になりすぎることをないように、話の間、祈っていただけたら幸いです。

14年前、主は妻を幕の向こうに連れて行かれました。妻を心から愛していますが、不平を言ったことは一度もありません。なぜなのかではなく、主がこの経験から何を学ぶように望んでおられるのかを尋ねてきました。これは好ましくない事柄に対処する良い方法であると信じています。主が困難を乗り越える機会を与えてくださるとき、不平を言うのではなく、わたしたちを信頼してくださっていることに感謝するのです。

わたしたちは子供を持つ祝福にあずかりました。最初の子である娘は、わたしたちの人生において途方もない祝福となっています。2年後に息子が生まれ、リチャードと名付けました。その数年後に娘が生まれました。その子は生後わずか数分で世を去りました。

息子のリチャードは、生まれたときから心臓に欠陥がありました。治療しなければ、2、3年以上生きる見込みはほとんどないと告げられました。ずっと昔のことなので、今日そのような欠陥を治療するのに用いられる技術はまだ知られていませんでした。祝福されて、ある病院で医師たちが必要な手術を試みることに同意してくれました。手術は息子の心臓が鼓動を打っている状態で行わなければなりませんでした。

手術が行われたのは、娘の誕生と死からわずか6週間後のことでした。手術が終わると、執刀医がやって来て、手術は成功したと言いました。わたしたちは、何とすばらしいことだろう、と思いました。息子は丈夫な体を得て、走り、歩き、成長できるようになるのです。主に深く感謝しました。それから10分ほどたつと、同じ医師が蒼白な顔でやって来て言いました。「息子さんがお亡くなりになりました。」手術の衝撃は息子の小さな体に耐えられる以上のものだったのでしょう。

その夜、わたしは妻を抱き締めて言いました。「心配する必要はないよ。子供たちは聖約の中で生まれたのだから。わた



したちには、将来、子供たちと一緒にいられるという約束がある。しっかりと正しい生活をしなければならないね。8歳になる前に世を去ったために、もう日の栄えの王国に行く資格を得ている息子と娘がいるのだから。」その知識は、わたしたちに大きな慰めをもたらしてきました。7人の子供全員がこの世においても永遠にわたってもわたしたちと結び固められているのであり、そのことを知っていることに喜びを感じます。

その試練はわたしたちのどちらにとっても問題とはなりません。義にかなって生活し、神殿の儀式を受けているなら、そのほかのことはすべて主の御手の中にあるからです。最善を尽くすことはできますが、最終的な結果は主がお決めになります。ふさわしく生活しているとき、人生で起こることについて、決して不平を言うべきではありません。

14年前、主は妻がもうこれ以上地上で生活する必要はないと判断し、妻を幕の

向こう側へ連れて行かれました。実を言うと、振り向いて妻に話しかけることができないのがつらいときがあります。しかし不平は言いません。主はこれまで、人生における重要な瞬間に、幕を通じて妻の影響を感じられるようにしてきてくださいました。

わたしが教えようとしているのは、交わした神殿の聖約を守り、それらの儀式によって約束されている祝福を保つために義にかなって生活するとき、何が起ころうとも、心配したり落胆したりする理由はまったくないということです。

神殿で執行される儀式のおかげで、わたしは心から愛するあの美しい妻と、妻とともに幕の向こう側にいる子供たちとともに住む特権を得ることになるのを知っています。この死すべき世においてだけでなく、永遠にわたって結び固める権能が再び地上にあるというのは、何という祝福でしょう。わたしたちがこの世において幸福になり、後の世において永遠に幸福な生活を送るために必要な儀式を含めて、主がその完全な福音を回復してくださっていることを感謝します。

この業は主の業です。イエス・キリストは生きておられます。この教会は主の教会です。わたしは主と主の贖罪の証人です。主の贖罪こそ、神殿で執行されるすべての儀式を有効でいつまでも続くものとする土台です。そのことをわたしが持つすべての能力をもって、イエス・キリストの御名により証します、アーメン。

注

1. 教義と聖約88章、109章、131章、132章から始めるとよいでしょう。
2. サラ・デアモン・ピー・リッチ、"Autobiography, 1885-93," 教会歴史図書館、66; 原文[英語]においては、綴り、句読法、大文字の使用は標準用法に合わせて修正されています。

# 主の祈りから 得られる教訓

十二使徒定員会

ラッセル・M・ネルソン長老

**わたしたちは主イエス・キリストの規範と教えに従って祈ります。主はどのように祈るべきか教えてくださいました。**



**愛**する兄弟姉妹の皆さんとともに、ニール・L・アンダーセン長老に愛と称賛の意を表します。アンダーセン長老が召された神聖な使徒職は、主から主の預言者トーマス・S・モンソン大管長に啓示されたものです。モンソン大管長は生涯を通じて主の御心に耳を傾ける力を高めてきました。救い主が御心を天の御父に従わせられたように、預言者も自分の意志を主に従わせるのです。モンソン大管長がその力を高め、用いてくれたことに感謝します。アンダーセン長老、おめでとうございませう。わたしたちは長老のために祈っています。

## 主の祈り

わたしたちは主イエス・キリストの規範

と教えに従って祈ります。主はどのように祈るべきか教えてくださいました。主の祈りから多くの大切な教訓を学ぶことができます。まず初めに主の祈りから、次に主がなさったほかの祈りから学びます。<sup>1</sup>

主の祈りを暗唱しますので、その教訓に耳を傾けてください。

「天にいますわれらの父よ、御名があがめられますように、

御国がきますように、みこころが天に行われるとおり、地にも行われますように、

わたしたちの日ごとの食物を、きょうもお与えください。

わたしたちに負債のある者をゆるしましたように、わたしたちの負債をおゆるしてください。

わたしたちを試みに会わせないで、悪しき者からお救いください。

王国と力と栄光はとこしえにあなたのものです。アーメン。」<sup>2</sup>

主の祈りは、新約聖書に2か所、モルモン書に1か所、記録されています。<sup>3</sup> 聖書のジョセフ・スミス訳にも含まれており、<sup>4</sup> 次の二つの御言葉によって意味が明確になっています。

1. わたしたちが自分に対して過ちを犯す者を救すように、わたしたちの過ちをお救いください。<sup>5</sup>

2. 「わたしたちが誘惑に陥ることのないようにし、悪からお救いください。」<sup>6</sup>

赦しについては、主がほかのところでも述べられた御言葉によっても、意味が明

確にされています。「あなたがたが互いに過ちを赦し合ったので、主なるわたしは同じようにあなたがたを赦す。」<sup>7</sup> 言い換えれば、赦されるには、まず赦さなくてはなりません。<sup>8</sup> 誘惑についても意味が明確になり、理解の助けになります。確かに人は神によって誘惑に陥らされることはないからです。主はこう言われました。「誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていなさい。」<sup>9</sup>

4か所に記された主の祈りはまったく同じではありませんが、いずれも「わたしたちの父よ」という呼びかけの言葉で始まっています。これは神とその子供たちの間の親しい関係を表しています。「御名があがめられますように」という語句は、わたしたちが祈るときに持つべき尊敬と礼拝への心構えを表しています。「みこころが行われますように」という語句が表す概念については、後で話しましょう。

「日ごとの食物」を求める主の言葉は、肉体の糧と同様、霊的な糧も必要であることを示しています。御自分を「命のパン」と呼ばれたイエスは、次のように約束されました。「わたしに来る者は決して飢えることがない。」<sup>10</sup> さらに、わたしたちはふさわしい状態で聖餐の象徴にあずかるなら、主の御霊をいつも受けられるという約束を頂きます。<sup>11</sup> それはほかの方法では得られない霊の糧です。

主は祈りの最後に、神の偉大な力と栄光を認め、「アーメン」と締めくくっておられます。わたしたちの祈りも、最後に「アーメン」と言います。様々な言語によって発音は異なりますが、意味は同じです。「心から」とか「ほんとうに」という意味です。<sup>12</sup> 「アーメン」を付け加えることで、説教や祈りを厳粛に明言するのです。<sup>13</sup> 同意する人は、ほかの人に聞こえるように「アーメン」と言い添えます。<sup>14</sup> そうすることで、「わたしもそのことを厳粛に宣言します」と表明するのです。<sup>15</sup>

主は祈られる前に、まず「無益に繰り返す」<sup>16</sup> ことを避けるように、そして「このような方法で」<sup>17</sup> 祈るようにと弟子たちに言われました。ですから、主の祈りは従うべき規範ですが、暗記し、繰り返し暗唱する祈





りではありません。主がただ望んでおられることは、わたしたちが絶えず悪に抵抗し、義にかなった生活を送るよう努めながら、神の助けを祈り求めることです。

### 執り成しの祈り

ほかにも主は、得るところが大きい祈りをなさいました。特に執り成しの祈りがそうです。執り成しの祈りと名付けられたのは、主が弟子たちのために、天の御父に執り成しをなさったからです。ヨハネ伝第17章から引用しますので、世の救い主がひざまずいて祈られる御姿を思い描いてください。

「これらのことを語り終えると、イエスは天を見あげて言われた、『父よ、……あなたの子があなたの栄光をあらわすように、子の栄光をあらわして下さい。』」

わたしは、わたしにさせるためにお授けになったわざをなし遂げ……ました。

なぜなら、わたしはあなたからいただいた言葉を彼らに与え、そして彼らはそれを受け、わたしがあなたから出たものであることをほんとうに知り、また、あなたがわたしをつかわされたことを信じるに至ったからです。

わたしは彼らのためにお祈いします。』<sup>18</sup>

主がなさったこの祈りから、御父に対するわたしたちの仲保者であり弁護者としての責任を、主がいかに強く感じておられたかが分かります。<sup>19</sup> わたしたちはそれと同じように強く、主の戒めを守り、最後まで堪え忍ぶ責任を感じるべきです。<sup>20</sup>

イエスは、古代アメリカ大陸の民のためにも執り成しの祈りをささげられました。「わたしたちは、イエスがわたしたちのために御父に祈ってくださるのを聞いたが、

そのときにわたしたちの心に満ちた喜びは、だれも想像することができない」と記されています。<sup>21</sup> さらに、イエスはこう言われました。「あなたがたは信仰があるので、幸いである。見よ、わたしの喜びは満ちている。』<sup>22</sup>

後の祈りで、イエスは一致を懇願されました。「父よ」と主は祈られました。「わたしは彼らのために……お願いします。彼らがわたしを信じることができるようにしてください。父よ、あなたがわたしにおられるように、わたしが彼らにすることができ、わたしたちが一つとなれるようにしてください。』<sup>23</sup> わたしたちも一致を祈り求めることができます。主が油を注がれた人や愛する人たちと心をついにし思いを一つにするよう、また隣人と理解し合い尊敬し合うよう祈ることができます。人をほんとうに心にかけるなら、その人のために祈るべきです。<sup>24</sup> 「お互いのために祈りなさい」とヤコブは教えています。「義人の祈りは、大いに力があり、効果のあるものである」からです。<sup>25</sup>

### そのほかの祈りから得られる教訓

主は祈りについてほかにも教訓を与えてくださいました。主は弟子たちに、「わたしの名によって常に父に祈らなければならない」と言われました。<sup>26</sup> さらに救い主は次のように強調しておられます。「あなたがたの家族の中で、わたしの名によって常に父に祈りなさい。』<sup>27</sup> イエス・キリストの御名によって天の御父に祈るとき、わたしたちは従順にその教訓を生活に取り入れていることとなります。<sup>28</sup>

主がなさったもう一つの祈りからも学ぶことができます。それは次の連続した3節

に繰り返されています。「父よ、わたしが選んだこれらの者に聖霊を与えてください、感謝いたします。

父よ、どうか彼らの言葉を信じるすべての者に聖霊をお与えください。

父よ、あなたは彼らがわたしを信じているので、彼らに聖霊を与えてくださいました。』<sup>29</sup>

聖霊を伴侶とすることがそれほど重要であるなら、聖霊を祈り求める必要もあります。同様にすべての改宗者や子供たちが聖霊の賜物を伸ばしていくのを助けるべきです。そのように祈るなら、聖霊はわたしたちの生活に善をもたらす大きな力となってくださいます。<sup>30</sup>

### 祈りの力を高める

主はわたしたちの祈りの力を高める方法を教えてくださいました。例えば、主はこのように言っておられます。「義人の歌はわたしへの祈りである。それに対する答えとして、彼らの頭に祝福が注がれるであろう。』<sup>31</sup>

また、祈りの力は断食によって高められます。<sup>32</sup> 主はこう言っておられます。「わたしはあなたがたに一つの戒めを与える。あなたがたはこれから先、祈りと断食を続けなければならない。』<sup>33</sup> ジョセフ・F・スミス大管長は、断食における知恵を願い求め、次のように注意しています。「度を越すということがあります。ある人は命をなくすまで断食し、祈るかもしれません。そのようなことは必要ないし、賢明なことでもありません。……主は短い言葉であっても信仰あふれる簡潔な祈りを聞いてくださいます。また、24時間に満たない断食も認めてくださいます。ちょうど何千という言葉をやや1か月断食してささげる祈りにこたえるのと同じように快く、同じ力をもってこたえてくださいます。……主は、過度で不必要な祈りよりも、十分な祈りを、さらに大きな喜びと満足感をもって受け入れてくださいます。』<sup>34</sup>

「過度で不必要な」という考えは、祈りの長さにも当てはまります。教会の集会の閉会の祈りでは、各話者のメッセージを要約する必要はなく、予定に組まれていな

い説教のような祈りをしてはなりません。個人の祈りは幾ら長くなってもかまいませんが、公の祈りは主の御霊がともにあるよう求める短い嘆願、または集会で起こったことに対する感謝を簡潔に示すものにすべきです。

わたしたちの祈りの力を高める方法はほかにもあります。神を指すときには特別なふさわしい言葉を使います。<sup>35</sup> 世の中では日常の服装や話し方がますますだけたものになっていますが、祈るときには、改まった適切な言葉を使うように言われています。祈りの中では、神に対する尊敬の念を示す言葉を使います。<sup>36</sup> そうすることは謙虚になるのを助けてくれます。また、祈りの力を高めてくれます。聖文は明確に述べています。「あなたは謙遜でありなさい。そうすれば、主なるあなたの神は手を引いてあなたを導き、あなたの祈りに答えを与えるであろう。」<sup>37</sup>

祈りは個人が自主的に行うものです。主はこう述べておられます。「見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはいて彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう。」<sup>38</sup> イエス・キリストの御名により天の御父に祈るとき、その戸は開かれるのです。<sup>39</sup>

いつ祈るべきでしょうか。祈りたいときはいつでも祈ってください。アルマはこう教えています。「あなたのすべての行いについて主と相談しなさい。そうすれば、主はあなたのためになる指示を与えてくださる。まことに、夜寝るときは、……主に身を託して寝なさい。そして、朝起きるときに、神への感謝で心を満たしなさい。これらのことを行うならば、終わりの日に高く上げられるであろう。」<sup>40</sup> また、イエスは弟子たちに「心の中で祈ることはやめないように」と命じられました。<sup>41</sup>

教会員の慣習では、毎朝毎晩、ひざまずいて家族の祈りを行い、それに毎日個人で祈り、さらに食事の度に、食物を祝福します。<sup>42</sup> モンソン大管長はこう述べています。「家族や個人の祈りを主にささげるときは、信仰をもってそれを行い、主を信頼しましょう。」<sup>43</sup> ですから、物質的、霊的

な祝福を祈り求めるとき、イエスが主の祈りの中でされたように、「みこころが行われますように」と懇願すべきです。<sup>44</sup>

世の救い主であるイエス・キリストは、御自身の血によってわたしたちを贖ってくださった贖い主であり、わたしたちの模範です。<sup>45</sup> 主は地上での使命を終えるとき、御父の愛子として、御心が御父の御心にのみ込まれてしまうように祈られました。<sup>46</sup> あの重大なときに、救い主はこう叫ばれたのです。「父よ、……わたしの思いのままにはなく、[あなたの]みこころのままになさって下さい。」<sup>47</sup> ですから、わたしたちも神にこう祈るべきです。「御心が行われますように。」

そして、常にこう祈りましょう。「主の王国が地上に進み行くようにして、地に住む者が……来るべき時に備えられるように……そのとき、人の子[が]、地上に建てられた神の王国に会うために、その栄光の輝きをまわって……降って来る[ように]。」<sup>48</sup>

日常生活の中で、また自分にとって重大な局面で、主から受けたこれらの貴重な教訓を熱心に行うことができますように、イエス・キリストの聖なる御名により祈ります、アーメン。

#### 注

1. 『聖徒の道』1976年10月号は「祈り」の特集号である。祈りについて真摯に学ぶ人は、この号の記事を研究することにより、多くのことを学べるであろう。
2. マタイ6:9-13
3. マタイ6:9-13; ルカ11:2-4; 3ニーファイ13:9-13参照
4. Joseph Smith Translation, Matthew 6:9-15 参照
5. Joseph Smith Translation, Matthew 6:13
6. ジョセフ・スミス訳マタイ6:14
7. 教義と聖約82:1
8. マタイ18:23-35; 教義と聖約64:10参照
9. マタイ26:41
10. ヨハネ6:35。ヨハネ6:48, 51も参照
11. モロナイ4:3; 5:2; 教義と聖約20:77, 79 参照

12. ヘブライ語とギリシャ語では、**アーメン**は、「心から」「確かに」「ほんとうに」「それとおりに」という意味である。

13. 黙示22:20-21参照。アーメンという言葉は、相手の言葉への合意をはっきりと認めるためにも使われた(列王上1:36参照)。

14. 1コリント14:16参照

15. 詩篇106:48; 黙示5:13-14; 19:4; 教義と聖約88:135参照

16. マタイ6:7; 3ニーファイ13:7

17. マタイ6:9; 3ニーファイ13:9参照

18. ヨハネ17:1, 4, 8-9

19. 1テモテ2:5; 1ヨハネ2:1; 教義と聖約29:5; 45:3; 110:4 参照

20. 教義と聖約14:7 参照

21. 3ニーファイ17:17

22. 3ニーファイ17:20

23. 3ニーファイ19:23

24. マタイ5:44; アルマ34:27; 3ニーファイ18:21 参照

25. ヤコブの手紙5:16

26. 3ニーファイ18:19

27. 3ニーファイ18:21

28. 2ニーファイ32:9; 33:12; 3ニーファイ18:23, 30; 19:6-7; 20:31; 28:30 参照

29. 3ニーファイ19:20-22

30. ヨハネ10:27-28 (教義と聖約84:43-47と比較); 2ニーファイ31:17-20; アルマ5:38 参照。また、わたしたちを執り成し、何について祈るべきか分かるように助けてくださる聖霊の導きを招くことができる(ローマ8:26参照)。

31. 教義と聖約25:12

32. 使徒14:23; 1コリント7:5; オムナイ



# 若い男性への勧め

十二使徒定員会会長

ボイド・K・パッカー会長

**福音や真理という確かなものは、一度理解してしまうと、現代のように困難な時代においては生き抜くための力となります。**



**若**い男性は、過去がないので未来を語り、年老いた男性は、未来がないので過去を語ります。わたしは年老いていますが、アロン神権者である若い男性に向けて、皆さんの未来について話します。

皆さんが持っているアロン神権は、天の使者によって回復されました。「この聖人は、自らヨハネと名乗った一人の天使の手によって行われた。このヨハネは、『新約聖書』の中でバプテスマのヨハネと呼ばれている人物である。この天使は、メルキゼデクの神権と呼ばれる大神権かきを持っている昔の使徒、ペテロとヤコブとヨハネの指示の下に務めを果たしていることを説明した。」<sup>1</sup>

「小神権すなわちアロン神権の力と権能とは、天使の働きの鍵を持ち、また聖約と戒めにかんがって外形上の儀式、すなわち福音の文字、罪の赦しゆるのための悔い改め

のバプテスマを執行することである。」<sup>2</sup>

皆さんは神の神権の職に聖任されており、神聖な権能を与えられています。この権能は、謙遜けんそんになって永遠の命に至る門から入らないかぎり、王や長官、この世の偉人たちには与えられませんし、与えることもできません。

若者が奉仕した記述は聖文の中にたくさんあります。サムエルはエリとともに神殿で仕えました。<sup>3</sup> ダビデがゴリアテと戦ったのは、青少年のときでした。<sup>4</sup> モルモンが奉仕の業を始めたのは10歳のときでした。<sup>5</sup> ジョセフ・スミスは14歳のときに最初の示現を受けました。<sup>6</sup> そして、イエスが神殿で賢者たちに教を説かれているところを見つけられたのは12歳のときでした。<sup>7</sup>

パウロは若者テモテにこう言っています。「あなたは、年が若いために人に軽んじられてはならない。」<sup>8</sup>

わたしが教会教育システムで教師の職に就いたとき、大管長会の第一顧問であったJ・ルーベン・クラーク・ジュニア管長が教師たちに向けて話をしました。その言葉はわたしの心に染みわたり、今に至るまでずっとわたしに影響を与えています。

クラーク管長は青少年をこう描写しています。「教会の青少年は、霊に関することに飢えています。彼らは福音を学びたいと切望しています。福音を薄めることなく純粋なまま学びたいと思っています。青少年は、……わたしたちの信じている事柄を知りたいと思っています。真理について証を得たいと思っています。彼らは疑う者ではなく、尋ね求める者、真理の探求者です。」

- 1:26;アルマ5:46;6:6;17:3;  
17:9;28:6;45:1;3 ニーフアイ  
27:1;4 ニーフアイ1:12;モロナイ  
6:5 参照
33. 教義と聖約88:76
34. ジョセフ・F・スミス, Conference Report, 1912年10月, 133-134で引用
35. Joseph Smith Translation, Psalm 17:1 参照
36. スペンサー・W・キンボール, Faith Precedes the Miracle (1972年), 201;スティーブン・L・リチャーズ, Conference Report, 1951年10月, 175;ブルース・R・マッコンキー「主はなぜ祈りを定められたか」『聖徒の道』1976年10月号, 488;L・トム・ベリ「天にいますわれらの父よ」『聖徒の道』1984年1月号, 21;ダリン・H・オークス「祈りの言葉」『聖徒の道』1993年7月号, 16参照。言葉遣いの詳細については、ドン・E・ノートン・ジュニア, "The Language of Formal Prayer," Ensign, 1976年1月号, 44-47参照
37. 教義と聖約112:10。詩篇24:3-4;マタイ6:12;ヒラマン3:35;教義と聖約64:8-10も参照
38. 黙示3:20。
39. 3ニーフアイ18:20;教義と聖約 88:64参照
40. アルマ37:37。ピリピ4:6;アルマ34:18-27;教義と聖約10:5;93:49も参照
41. 3ニーフアイ20:1
42. 「主はなぜ祈りを定められたか」『聖徒の道』1976年10月号, 487 参照
43. トーマス・S・モンソン「王国の神権者」『リアホナ』2007年11月号, 61
44. マタイ26:42;モルモン書ヤコブ7:14;エテル12:29;教義と聖約109:44;モーセ4:2 参照
45. 3ニーフアイ27:13-15, 21-22 参照
46. モーサヤ15:7 参照
47. マタイ26:39。モーセ4:2も参照。この聖句には、創世の前からの救い主の謙遜な態度が示されている。
48. 教義と聖約65:5

クラーク管長はこう続けています。「皆さんは、このような霊的経験の豊かな青少年に対して、ご機嫌取りをする必要もなければ、宗教について耳にささやきかける必要もありません。まっすぐに面と向かって話せばよいのです。……皆さんはこれらの真理を包み隠さず、ありのままに教えることができるのです。……少しずつ小出しに教え……する必要はまったくありません。」<sup>9</sup>

この言葉を聞いてからというもの、わたしは成人を教えるのと同じ方法で青少年を教えてきました。

皆さんが理解しておかなければならない事柄が幾つかあります。

神権というものを見ることもできなければその音を聞くこともできず、触れることもできません。しかし、実在する権能であり、実際に力を有するのです。

わたしは5歳のとき、重い病気にかかりました。やがて、それが小児まひで、小さな町の医者にはまったく手に負えない病気だということが分かりました。わたしは居間の石炭ストーブの横に置かれたベッドに寝て、数週間過ごしました。ベッドは第一次世界大戦で使われた折りたたみ式のものでした。その後、わたしは歩くことができなくなりました。非常にはっきりと覚えているのは、リノリウムの床を這いずり回ってすによじ登り、歩行訓練をしたことです。わたしなどはまだい方でした。友人の中には、一生松葉杖をつき、スチール製のギプスを足に着けなければならなくなった人もいたのです。

学校に上がるようになると、自分は足の筋肉が弱いことを知りました。とても内気な少年でした。自分は決してスポーツ選手にはなれないだろうと思いました。

劣等感を克服する方法を教えてもらうために医者に行った人の話を read したのですが、あまり役には立ちませんでした。入念に診察した結果、医者はこう告げたのです。「もう自分は劣っているのではないかと心配しなくて大丈夫ですよ。ほんとうに劣っているという診断結果が出ましたから。」

その言葉を何とか前向きに受け止めて、わたしは人生を歩み始めました。そして、別の分野で才能を伸ばすことで体の

弱点を補おうと決心しました。

わたしは祝福師の祝福の中に希望を見いだしました。祝福師には実際に預言者のような洞察力があるのだと、初対面の祝福師はわたしに言いました。祝福の言葉は次のようなものでした。「あなたは地上に生を受けたいと望み、肉体を得て人生で遭遇する試練に喜んで立ち向かう用意ができていました。あなたには霊が存分に働けるだけの体格と健康が与えられており、健康上の問題によって霊の働きが妨げられることはないでしょう。」この言葉はわたしにとって励みとなりました。

自分の体は大切に扱わなければならないことを学びました。体に害を与えるものを取り入れてはなりません。知恵の言葉の教えにあるように、お茶やコーヒー、アルコール飲料、たばこ、その他常習癖や依存症に陥りやすい物質や有害な物質を摂取してはならないのです。

教義と聖約第89章を読んでください。偉大な約束が記されています。「これらの言葉を守って行うことを覚え、数々の戒めに従順に歩むすべての聖徒たちは、そのへそに健康を受け、その骨に髓を受ける



であらう。

また、知恵と、知識の大いなる宝、すなわち隠された宝さえ見いだすであらう。

また、走っても疲れることがなく、歩いても弱ることはない。」

そして、次の約束がこれに続きます。「また、主なるわたしは彼らに一つの約束を与える。すなわち、滅ぼす天使はイスラエルの子らを過ぎ越したように彼らを過ぎ越して、彼らを殺すことはない。」<sup>10</sup>

ほかの人を見て、自分より完全な肉体を授かっているように思えることがあるかもしれませぬ。自分の背丈や体重、容貌、肌の色や人種を卑下するというわなに陥らないでください。

皆さんは神の息子です。前世で天の両親の霊の子供として暮らしていました。出生とともに血や肉、骨から成る肉体を授かり、地上で人生を歩み始めたのです。天の御父のもとに帰る準備として、皆さんは試練を受けることになります。

パウロがコリント人に投げかけたのと同じ質問を皆さんにしましょう。「あなたがたは知らないのか。自分のからだは、神から受けて自分の内に宿っている聖霊の宮であって、あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。」<sup>11</sup>

性別は前世で定められました。そして、皆さんは男性として生まれてきました。自分の性質の中の男らしい部分を大切に守ってください。女性や少女を敬い、守ってあげてください。

自分の肉体をぞんざいに扱ってはなりません。自分の体を不適切な方法で触らせないでください。また、ほかの人の体に不適切な方法で触れてもいけません。

ポルノグラフィと麻薬は劇薬のようなものです。これらを避けてください。これらにかかわっている人は要注意です。断ち切らないと、身の破滅を招きかねません。両親に話してください。ビショップに話してください。彼らは助ける方法を心得ています。

入れ墨をしたり、宝石を付けるために体に穴を開けたりしてはいけません。このようなことにかかわらないでください。

両親が心配するような友達とは付き合

わないでください。

ルシフェルとその手下の軍勢は至る所で力を振っています。自分や人を滅びに至らせるようなことを行ったり、口に出したり、考えたりするように皆さんを誘惑するのです。自分の霊を損なう行いへの衝動には絶対に従ってはなりません。<sup>12</sup>

恐れてはなりません。預言者ジョセフはこう教えています。「肉体を持つすべての者は、肉体を持たない者を支配する力を持つのです。」<sup>13</sup> そしてリーハイは、すべての「人は善悪をわかまえることを十分に教えられている」<sup>14</sup> と言っています。忘れないでください。祈りの力によってあなたは守られるのです。

「罪の救しのために水に沈めるバプテスマ」<sup>15</sup> を受けたときのことを覚えています。心地よさを感じました。過去の過ちは洗い流され、人生で二度と間違いを犯さなければ、ずっと清いままでいられるのだと思いました。絶対に罪を犯すまいと決心しました。でも、そのとおりにはいきませんでした。わたしは間違いを犯しました。故意にはないにしても間違いを犯したのです。愚かにも、もう少し大きくなってからバプテスマを受ければよかったと思ったりもしました。皆さんのようなアロン神権者が執行してくれる聖餐の儀式が、実はバプテスマの聖約を更新するものであり、それによって聖約に伴う祝福も更新されることをわたしは理解していなかったのです。啓示されているように、「罪の救しを保」<sup>16</sup> てるということもわたしは理解していませんでした。

罪や過ちのために罪悪感にさいなまれている人は、贖罪の力について学ばなければなりません。そして深く心から悔い改めるならば、贖罪の力が効力を発するようになります。小さな罪はすすぐだけで清められます。重大な背きも、水に浸してごしごし洗えば、洗い流すことができます。清められないような罪はないのです。

皆さんのそばには聖霊がいつもおられます。バプテスマと確認を受けたときに聖霊の賜物を授かっているからです。

第二次世界大戦が勃発したとき、わたしはアロン神権の祭司でした。長老に聖



フィジー、スバ

任されたのは、わたしたち若者が皆、戦地に送られたころでした。

兄のレオンのようにパイロットになることがわたしの夢でした。兄は「ブリテンの戦い」(訳注——第二次大戦下、イギリス大空襲を敢行するドイツ軍機を迎え撃ったイギリス空軍の戦い)でB24爆撃機を操縦していたのです。わたしは空軍のパイロットの訓練に志願しました。

筆記試験では合格点に1点足りませんでした。すると、2点の問題が幾つかあることを軍曹が思い出し、そのうち2問を解いて1問正解すれば合格にすると行ってくれました。

そのテストは一部が選択問題で、こんな問題でした。「エチレン・グリコールは何に使われますか。」父のガソリンスタンドで働いた経験がなかったなら、それが不凍液に使われることをわたしは知らなかったでしょう。おかげで、わたしはかるうじて合格しました。

身体検査については祈るような気持ちでしたが、問題なく合格しました。

若い男性の皆さん、学校の勉強がつまらないなどと言わないでください。専門的な知識ばかり詰め込んで実生活に役立つ勉強をおろそかにしてはいけません。家事や料理、庭仕事など、実用的なことを学べるのであれば、何でも学んでおけば、きっと役に立ちます。勉強が嫌いだなどと絶対に言わないでください。よく学び、

必ず学校に行ってください。

「神の栄光は英知である。言い換えれば、光と真理である。」<sup>17</sup>

「わたしたちがこの世において得る英知の一切は、復活の時にわたしたちとともによみがえる。」<sup>18</sup>

わたしたちは「上にあること、下にあること、地中や地上や天にあることを」<sup>19</sup> 学ばなければなりません。

また、修理したりペンキを塗ったり、さらには縫い物をしたりなど、実生活に役立つ技術は何でも学ぶことができます。それに、学ぶ価値があります。特に自分の役には立たない技術であったとしても、人に奉仕するときに役立つでしょう。

わたしは、兄がイギリスで乗っていたのと同じような爆撃機を操縦しましたが、任地はアジアでした。結局わたしの任務は、日本で軍人として福音を教えることに落ち着きました。

恐らく、戦争のいちばんつらい部分は先が見えないことでしょう。いつ果てるのかも知れぬ戦いの中で、自分の命もいつまで続くのか分からないのです。

兵士用の小型のモルモン書を受け取りました。これはわたしのポケットにぴたりと取まりました。このモルモン書はどこへでも持ち歩いて読んだので、わたしの一部のようにになりました。やがてわたしは、それまで確信のなかった事柄を真実であると実感できるようになっていきました。



ポーランド、ワルシャワ

福音や真理という確かなものは、一度理解してしまうと、現代のように困難な時代においては生き抜くための力となります。

4年たって、わたしたち若い兵士は故郷に帰れることになりました。その4年間で、わたしは神がわたしたちの御父であられること、わたしたちが御父の子供であること、そして、イエス・キリストの回復された福音が真実であることを知り、またそれに関する確かな証を得ました。

皆さんの世代には不安な要素がたくさんあります。娯楽やゲーム、高価なおもちゃに興じる時代は突然幕を閉じました。安易さと娯楽の時代から勤労と責任の時代へと世の中は移行しています。この動きがいつまで続くのかは分かりません。

現実の生活での責任は、皆さんの神権者としての責任の一部となっています。欲しい物が手に入らなくても心配することはありません。これは皆さんを成長させ、訓練する機会となり、皆さんのためとなるからです。このような経験を通して皆さんは必ずや幸せな人生を送り、幸福な家庭を築けるようになるのです。こうした試練は、神権の責任を果たす際にはよくあることです。

皆さんの中には、食物をほとんど家族で栽培し、衣服も一部家族が作れるもので賄っている国に住む人がいます。その

ような国の若者が何か貢献できる技術に身に付けられれば、それによって家賃を払ったり、家族を養ったり、家を整えたりできるようになるかもしれません。労働し、家族を支えることを学びましょう。

人間生活、そしてあらゆる社会の基本は家族です。家族は、わたしたちの最初の両親、アダムとエバに初めて与えられた「ふえよ、地に満ちよ」<sup>20</sup> という戒めに従って組織されました。

その後、「あなたの父と母を敬え。これは、あなたの神、主が賜わる地で、あなたが長く生きるためである」<sup>21</sup> という戒めが与えられました。

家族の一員として、責任をよく果たしてください。衣類や家など、自分の持ち物をよく手入れしてください。物を無駄にしないでください。持っている物で満足することを学んでください。

世界は揺れ動いているようです。確かに動乱の世です。戦争と戦争のうわさがあるようです。確かにあります。皆さんの未来には試練と困難が待ち受けているように思えます。確かにそうです。しかし、恐れは信仰の反意語です。恐れてはなりません。わたしも恐れませんが、

今日のお昼にわたしの孫である4人の若者がわたしたちを訪ねてきました。そ

のうちの3人が若い女性と腕を組んでいました。一人の孫は近日に予定されている自分たちの結婚式について話し、二人は自分たちの婚約について話し、そして残りの一人は日本への伝道の召しを受けたことについて話してくれました。わたしたちは、いつの日か若人のだれもが、天の御父の清く貴い娘と神殿に参入し、この世と永遠にわたって結び固められることになるという事実について、彼らに語りました。この若い孫たちは、アルマが教えたことを知らなければなりません。すなわち、福音は「偉大な幸福の計画」<sup>22</sup> であり、幸福こそがわたしたちが存在する目的であるということです。このことを、イエス・キリストの御名によって証します、アーメン。

注

1. 教義と聖約13章前書き
2. 教義と聖約107:20
3. サムエル上1:24-28参照
4. サムエル上17章参照
5. モルモン書1:2参照
6. ジョセフ・スミス—歴史1:7参照
7. ルカ2:41-52参照
8. 1テモテ4:12
9. J・ルーベン・クラーク・ジュニア, *The Charted Course of the Church in Education*, 1938年8月8日にユタ州アスピングローブでセミナーとインスティテュートの指導者に語られた話〔小冊子, 2004年改訂版〕, 3, 9
10. 教義と聖約89:18-21
11. 1コリント6:19
12. モロナイ7:17参照
13. 『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』（メルケゼデク神権定員会・扶助協会学習ガイド）211
14. 2ニーファイ2:5
15. 信仰箇条1:4
16. モーサヤ4:12
17. 教義と聖約93:36
18. 教義と聖約130:18
19. 教義と聖約101:34
20. 創世1:28;アブラハム4:28
21. 出エジプト20:12
22. アルマ42:8

# これは あなたへの電話です

管理ビショップリック第一顧問

リチャード・C・エッジリービショップ

**わたしたちは、今、皆さんにお願いします。神権定員会を動員して、会員が直面している雇用および財政的な問題に対処してください。**



**神**権者の皆さん、近年、全世界で多くの緊急事態や自然災害がありました。ハリケーン、森林火災、地震、壊滅的な被害をもたらす津波などです。

教会は驚くべき方法でこのような多くの災害に対処してきました。困っている人々のところに行き助けるために、速やかに教会員のグループが動員されました。自分たちは奉仕を通して人々の生活に祝福をもたらしているのだと感じ、参加した全員心が満たされました。

わたしたちと信仰の異なる人々、例えば、ほかの教会の会員、慈善団体、政府機関、報道機関などから、この教会は、喜んで支援する実に多くの人を迅速に動員することができますとよく言われます。こう尋ねられ

ます。「どうしてそんなことができるのですか。」この質問に対して、簡潔にこう答えることができます。「わたしたちには備えと組織、相手の身になって考える心、そして慈愛があるからです。」通常、管理役員から地元の指導者へ電話を何本か入れるだけで、何百、時には何千という人を動員して、悲嘆に暮れる兄弟姉妹を救出することができます。

今晚、わたしはもう一つの問題について話します。この問題に対処する機会は数多くあります。兄弟の皆さん、これはあなたにかかってきた電話のようなものです。この問題は自然がもたらしたものではありません。しかし、その影響は現実的で、今や世界中の人が実感しています。わたしたちは将来に対して楽観的ですが、これまで何十年もそうしてきたように、兄弟の守り手であるという基本原則を信奉し続けれます。

ロバート・D・ヘイルズ長老は、最近、次のように語りました。「長らく世界を脅かしてきた経済的な暗雲が、今やわたしたちを覆っています。天の御父の子供たちの上にあるこの経済的な嵐の影響<sup>あらし</sup>に対しては、今日、かつてないほど福音に基づく福祉のビジョンを持つことが必要とされています。」「<sup>こんにち</sup>失業とこの嵐のような経済不況は、現在、全世界のあらゆるステークとワードに影響を及ぼしています。だれもが何らかの形で、じかに、あるいは家族の一員や親戚、知人<sup>しんせき</sup>を通じて感じているので

はないでしょうか。

兄弟の皆さん、いと高き神の神権組織ほど人類の問題に対処できる組織はありません。わたしたちには組織があります。ステーク会長、ビショップ、長老定員会会長、大祭司グループリーダーの皆さん、わたしたちは、今、皆さんにお願いします。神権定員会を動員して、会員が直面している雇用および財政的な問題に対処してください。これは皆さんに直接かかってきた電話だと考えてください。今こそ、悲嘆の中にいるかもしれない定員会の家族を支え、鼓舞し、助ける時です。

皆さんの周りにはたくさんの機会があり、主の支援手段を組織的に用いる機会と責任が与えられています。定員会会員の中には、就職口について詳しい人や履歴書を書くのが上手な人、あるいは面接に備える手助けができる人がいるでしょう。また、肩書きや技術・知識に関係なく、互いの重荷を献身的に負い合う兄弟愛を定員会で見いだすことができるでしょう。

モンソン大管長は、エドという名の退職した経営者について話しました。エドは定員会の会員が何をすべきかを模範で示しました。ある日、モンソン大管長はエドと話していたときに、こう尋ねました。「『エド、教会では何の責任を受けていますか。』彼は答えました。『ワードで最高の責任です。わたしの責任は、仕事に就いていない男性が定職に就けるよう助けることです。今年わたしは、失業していた12人の兄弟にいい仕事を世話しました。わたしの生涯でこんなに幸せを感じたことはありません。』彼は小柄な人なので、親しみを込めて『リトルエド』と呼ばれていましたが、目を潤ませ、声を震わせながら語るその日の彼はとても大きく見えました。彼は助けが必要な人々に愛を示しました。彼は人間の尊厳を回復しました。自分ではなすすべのない人々のために道を開いたのです。』<sup>2</sup>

ビショップや定員会の会員は、様々な方法を用いて、失業者の苦しみと不安が和らぐように助けることができます。ユタ州センタービルのフィル自動車修理工場は、神権指導者と定員会に何が達成できるか



を示す証<sup>あかし</sup>となっています。フィルは長老定員会の会員で、地元の自動車修理工場<sup>あかし</sup>で整備士として働いていました。残念なことに、フィルが働いていた修理工場は経営が行き詰まり、フィルを解雇しなければならなくなりました。フィルはこの急な事態に打ちのめされてしまいました。

フィルの失業について聞いた、ビショップのレオン・オルソン兄弟と長老定員会会長は、フィルがまた自立できるようにどのような援助を提供できるか祈りの気持ちで考えました。何ととっても、彼は定員

会の仲間であり、兄弟であり、助けを必要としていました。結局、フィルには自営業を始めるだけの十分な技術がある、と判断するに至りました。定員会会員の一人は、自分の家に古い物置があるので、修理工場として使えるのではないかと提案してくれました。別の定員会会員は、新しい修理工場に必要な道具や備品をそろえる手助けをしてくれました。定員会のほとんど全員が、少なくとも、古い物置の清掃を手伝うことはできました。

フィルに自分たちのアイデアを伝え、次に、定員会会員に計画を伝えました。物

置を清掃し、改装し、道具を集め、こうして準備万端整いました。フィル自動車修理工場は繁盛し、ついには、もっといい落ち着き先に移転しました。すべては定員会の兄弟たちが重大な局面に援助を提供したからできたことでした。神権定員会にはすばらしい影響を及ぼす力と義務があるのです。

多くのワードやステークには、雇用スペシャリストが召されています。ビショップや定員会指導者に補足的な支援を提供する人たちです。遠慮なく彼らに助けを求めてください。

多くの地域で、教会は職業支援センターを確立してきました。センターの職員は皆さんの定員会、ワード、ステークにおける就職活動を支援する訓練を受けています。雇用主と密接な関係があり、就職やキャリアアップを助けるうえで強みとなっています。

教会のデゼルト産業中古品店は、どんな経歴の人にも、就職と教育の機会を提供しています。特定の必要を抱えた人には、リハビリ、研修、就職斡旋の機会が与えられます。デゼルト産業が利用できる地域では、それが有用な支援手段となります。

ビショップの皆さん、姉妹たちはこの取り組みにおいてある役割を担っています。母親の多くは、経済的な理由から、家計を見直したり生活を切り詰めたりする必要があると感じています。仕事に就くために家を空ける必要を感じている母親もいます。天与の才能が豊かにあり、哀れみに満ちた心を持つ扶助協会の姉妹たちは、助けとなることができます。また、必要を見極めたり、教えたり、ベビーシッターをしたり、慰め励ましたりすることができます。こうしてすばらしい影響を及ぼせるのです。

さて、現在、失業している人に少し提案させてください。職を探したり、さらに良い仕事に就く責任は、皆さんにあります。定期的な断食と祈りを通して、常に、主から導きを得ることができます。皆さんの属する定員会の指導者、ビショップ、雇用スペシャリスト、職業支援センターの職員は、皆さんの取り組みを支援してくれます。し





アルゼンチン、サンフアン州サンフアン

かし多くの場合、神権指導者は皆さんの置かれた状況に気づいていないのではないかとわたしたちは危惧しています。率直に話してください。仕事を探していることを知らせてください。ピショップや神権指導者の皆さん、行動を起こしましょう。そして、神権で結ばれた兄弟たちが、ほんとうの意味で定員会、兄弟、兄弟の守り手となるすばらしい機会に積極的に携われるようにしてください。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、十二使徒定員会の会員だったときに、こう語っています。

「兄弟の皆さん、わたしはすべての神権定員会にこのような専門的意見や知識、力、関心を持った人々があり、彼らに適切な協力を求めれば、定員会内の問題を抱えた会員を援助できる体制が整っていることに満足を感じています。

……個人とその家族に絶えることのない援助を与える手段や労力を調達するのは、神権定員会の務めです。」<sup>3</sup>

1856年10月、総大会の期間中に、ブリガム・ヤング大管長は、二つの手車隊すなわちマーティン手車隊とウィリー手車隊が時期

を遅れて旅をし、合衆国西部の平原で過酷な冬の天気と闘っているという知らせを受けました。ブリガム・ヤングは神の預言者として壇上に立ち、こう宣言しました。

「大勢の兄弟姉妹が、平原を手車でこちらに向かっています。……彼らをここへ連れて来なければなりません。援助を送る必要があります。……このコミュニティーに求められていることは、彼らのもとへ救助隊を送り、彼らをここへ連れて来ることです。……

これがわたしの信仰です。これがわたしの内にある聖霊の命じておられることです。すなわち、人々を救うことです。

皆さんに申し上げます。わたしが今話しているような原則を実行に移さないかぎり、皆さんの中で、その信仰、宗教、信仰の告白によって神の日の栄えの王国に救われる人はだれもいないでしょう。行って、今平原にいる人々を連れて来てください。」<sup>4</sup>

ヤング大管長が行動するように呼びかけた結果、平原で立ち往生していた人々を救出するために、何組ものラバと荷車、御者の男性、小麦粉などの物資がすぐに

送られました。

兄弟の皆さん、これは皆さんへの電話です。わたしたちへの電話でもあります。手車隊のときと同じように、主がわたしたち一人一人に緊急性を感じさせてくださり、わたしたちの民を経済的に困難な状況から救出するようという今日の呼びかけにこたえることができるよう祈っています。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

1. ロバート・D・ヘイルズ「福音に基づく福祉のビジョン：行いで示す信仰」『福祉と自立に関する基本原則』（小冊子、2009年）1
2. トーマス・S・モンソン「救助に向かう」『リアホナ』2001年7月号、59参照
3. ゴードン・B・ヒンクレー「福祉に関する神権定員会の責任」『聖徒の道』1978年2月号、131参照
4. ブリガム・ヤング、*Deseret News*、1856年10月15日、252

# 神権の責任

七十人会長会

クラウドディオ・R・M・コスタ長老

わたしたちは神権者として人々の人生に大きな影響を及ぼすことができるのです。



**ア** ンダーセン長老、七十人を代表して、わたしたちがあなたを愛していて、信仰をもって心からあなたを支持すると伝えます。愛する兄弟の皆さん、王の軍に加わることは聖なる特権です。<sup>1</sup>ここに立ち、世界中の至る所に集まっている皆さんの姿を想像すると、へりくだる思いです。

2003年の6月21日に行われた世界指導者訓練集会で、ゴードン・B・ヒンクレイ大管長は、神権者には4つの責任があると教えました。こう述べています。「わたしたちには4つの責任があります。第1に家族への責任です。第2に雇用主への責任。第3に主の業への責任。そして第4に自分自身への責任です。」<sup>2</sup>

この4つの責任はとても重要です。

ヒンクレイ大管長はこう述べました。「家族を絶対にながしるにしないでください。家族ほど大切なものはありません。」<sup>3</sup>

わたしたちは父親として、日々の家族の祈りの中で、毎日の聖文研究の中で、そして家庭の夕べの中で、家族を導く責任があります。家族の霊的な基盤を築き、強めるために、このような機会を優先し、大切にしなければなりません。ヒンクレイ大管長はこう言いました。「何ものにもそれをじゃまさせないでください。家族と過ごす時間を、神聖なもの……と考えてください。」<sup>4</sup>

そして家庭の夕べについてこう述べました。「月曜日の夜は家庭の夕べのために神聖に保ってください。」<sup>5</sup>

子供たちも、親とまったく同じように、生活のあらゆる面で時間を求められています。教会や学校の活動、また友達との活動があります。多くの子供たちが通う学校では、末日聖徒は少数派です。多くの学校では、しばしば月曜の夜に行事を予定しています。スポーツ、リハーサル、練習、合唱、その他の活動です。わたしたちは家庭の夕べを行えるように、月曜日の夜は予定を入れないようにする必要があります。家庭の夕べ以上に、家族にとって大切な活動はありません。

わたしたちは、家庭の夕べや、そのほかの家族の時間の中で、主の祝福を受けられるように子供たちを備えているのです。十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老はこう語っています。「わたしたちの責任は、家族の祈りや聖文の研究、家庭の夕べを確実に行うことです。また、子供たちが救いと昇栄に必要な儀式を受け……るように備えをさせることです。」<sup>6</sup>

家庭の夕べはわたしたち自身を強め、家族一人一人を強めるためのとても特別

な時間です。家族全員に家庭の夕べのために何か割り当てを与えることが大切です。幼い子供でも、前日の日曜日に初等協会で学んだことを発表できるでしょう。家庭の夕べは、わたしの家族の信仰と証を強めてくれました。

日々の聖文研究も、もう一つの家族の重要な活動です。息子が7歳だったときのことです。ある嵐の夜に、息子がシャワーを浴びている最中に停電しました。妻は大声で息子に呼びかけ、家族の祈りをするから、早くシャワーを終えて、ろうそくを持ってゆっくり下に降りて来るように言いました。また、ろうそくがカーペットの上に落ちたら、火事になって家が燃えてなくなると言って、注意を促しました。数分後に、息子は片手にろうそくを持ち、もう一方の腕で聖典を抱えて、四苦八苦しながら階段を下りて来ました。妻はどうして聖典を持って来たのか聞きました。すると息子はこう答えました。「だってお母さん、もし家が燃えたら、聖典を守らなきゃいけないでしょ。」そのとき、息子が聖典を深く愛するようになるためにわたしたちが払った努力が実ったことを実感しました。

ヒンクレイ大管長は雇用主への責任についてこう述べています。「皆さんには責任があります。雇用主に正直であってください。勤務時間に教会の仕事をしないでください。」<sup>7</sup>

ヒンクレイ大管長はまた、仕事があるおかげで家族を養うことができ、教会でもよりよい僕となれることを思い出すように言っています。

神権者には多くの責任や割り当てがあります。わたしたちには、訪問し、面接し、教え、奉仕する機会があります。教会員を教化し、救い主イエス・キリストに対する教会員の信仰と証を強めることは、わたしたちの神聖な責任です。ホームティーチャーとして仕える担当家族を心にかけ、会員たちに、自立し、家族を養い、主の方法で貧しい人を助けるよう教える機会もあります。神権者には、青少年が栄えある専任宣教師としての奉仕と、神殿結婚に備えるように動機を与える責任があります。<sup>8</sup>

エズラ・タフト・ベンソン大管長はこう教



えました。「神権者は、組織されたホームティーチングを通して、定員会会員とその家族を見守り、心を配る必要があります」<sup>9</sup>

わたしたちは自分が責任を負っている会員の一人一人を気にかける必要があります。ホームティーチングはわたしたちの重要な責任の一つです。

父親であるわたしたちには、子供たちが将来善い親となり、自分の家庭を導けるように、ふさわしい模範を示すという神聖な責任があります。M・ラッセル・バラード長老の言葉を引用します。「すべての神権指導者が、特に父親の皆さんが、息子を備えることができますように。彼らを霊的にも物質的にも備え、外見も行いも主の僕らしくあるようにしてください」<sup>10</sup>

神権を受けるとき、人々に仕えるという永遠の聖約を交わします。<sup>11</sup> わたしたちは神権者として人々の生活に大きな影響

を及ぼすことができるのです。

トーマス・S・モンソン大管長はこう述べています。「神の神権者であるということは、何と幸福で恵まれたことでしょうか。……皆さんに指導を仰ごうとして、人々が常に注目していることを忘れないでください。皆さんは良くも悪くも人々の生活に影響を及ぼしており、その影響は来るべき世代にも及ぶのです。」<sup>12</sup>

わたしたちの模範には大きな力があります。わたしは今まで教会員として長年過ごしてきて、多くの指導者と教会員の模範から影響を受けてきました。わたしの家族に、そしてワード全体に模範を示したすばらしい夫婦がいます。二人は1982年にバプテスマを受け、わたしは彼らのビショップになりました。

セルソとアイリーンが住む家は、教会からかなり離れていました。教会までは歩

いて40分かかりましたが、集会を一度も休みませんでした。いつも笑顔で出席していました。人に仕えることは彼らの天性でした。セルソとアイリーンには、生まれつき精神的、肉体的な障がいを持つマルコスという息子がいました。二人は深い愛情をもってその子を育てていました。1999年、セルソは脳出血を起こし下半身が不随になりました。セルソは家族とともに熱心に教会に集いました。自分の一を忠実に納め、断食献金も惜しみなく納めました。わたしの息子のモロナイはセルソとアイリーンのいるワードでビショップをしています。二人が今も献身的に奉仕をしていると教えてくれました。ワードの召しを果すだけでなく、ブラジル・サンパウロ神殿で儀式執行者として献身的に奉仕しています。毎週金曜日、早朝から夜まで奉仕しています。二人は教会での責



任を忠実に果たすために、時間と力をいつも喜んでささげています。

モンソン大管長はこう勧告しました。「神権者による奉仕の大部分は静かに目立たない所で行われています。優しいほほえみ、温かい握手、真理に対する真心からの証は、まさしく生活を改善し、人格を変え、人を救いへと導きます。」<sup>13</sup> セルソとアイリーンが示してくれたのはこの静かな奉仕の模範です。

時間と力を賢く使い、家族の必要を満たし、仕事に従事し、教会の召しを果たすに当たり、すべての神権者は霊的に成長しなければならないことを覚えておいてください。これは自分に対して果たさなければならない責任です。そしてわたしたちには皆、助け手がいることを心に留

めてください。<sup>14</sup> 預言者、聖見者、啓示者の勧告は、わたしたちが受ける最も貴重な助けです。

救い主はわたしたち一人一人を招いておられます。「わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」<sup>15</sup>

自分の望みではなく、主の業と御心みこころを行うならば、くびきが負いやすくなり、荷が軽くなることに気づくでしょう。主は常にそばにおられます。そして、家族、仕事、主の教会で受けるすべての責任で成功できるような確かな指示を与えてくださるので、主はわたしたちが個人として、また、

神権者として成長できるよう助けてくださいます。

わたしはこの教会が真実であることを知っています。ジョセフ・スミスが神の預言者であることを知っています。トーマス・S・モンソン大管長が今日、地上におけるける預言者であることを知っています。イエスがキリストであり、救い主、贖い主あがなであられることを知っています。イエス・キリストの御名みなにより、アーメン。

#### 注

1. 「見よ、王の軍は」『賛美歌』160番参照
2. ゴードン・B・ヒンクレー「仕える特権を喜ぶ」『世界指導者訓練集会』2003年6月21日、23
3. 『世界指導者訓練集会』2003年6月21日、23
4. 『世界指導者訓練集会』2003年6月21日、24
5. 『世界指導者訓練集会』2003年6月21日、24
6. ラッセル・M・ネルソン「女性を敬う神聖な義務」『リアホナ』1999年7月号、47
7. 『世界指導者訓練集会』2003年6月21日、24
8. 大管長会の手紙、1996年9月25日、「指導者訓練の強調点」
9. エズラ・タフト・ベンソン「『くい』を強めよ」『聖徒の道』1991年8月号、6
10. M・ラッセル・バラード「奉仕への備え」『聖徒の道』1985年7月号、46
11. M・ラッセル・バラード、The Greater Priesthood: Giving a Lifetime of Service in the Kingdom, *Ensign*, 1992年9月号、71参照
12. トーマス・S・モンソン「義の模範」『リアホナ』2008年5月号、65-66; N・エルドン・タナー「彼らは神のほまれよりも人のほまれを好んだからである」『聖徒の道』1976年2月号、106も参照
13. トーマス・S・モンソン「学び、行い、人格を築く」『リアホナ』2008年11月号、62
14. 『世界指導者訓練集会』2003年6月21日、24
15. マタイ11:29-30

# 偉大な業に携わっているから下って行くことはできない

大管長会第二顧問

ディーター・F・ウークトドルフ管長

**わたしたちは与えられた神聖な義務から遠ざかることはできません。最も重要である事柄から心をそらすことはできないのです。**



**愛**する兄弟の皆さん、ここ数か月、今日皆さんに向けて話すメッセージについて考えてきました。わたしが言いたいことを分かりやすく伝える物語を探しました。農作物や動物に関する話や、スコット長老に敬意を表して原子工学の話、モンソン長老に敬意を表して鳩を育てる話を探してみました。

最後に、一つの話が頭から離れませんでした。長年わたしの心に焼き付いてい

る話です。農作物や動物、原子工学の話や鳩の話ではありません。お分かりの方もいらっしゃるかもしれませんが、航空関連の話です。「電球の話」と呼びましょう。

## 電球の話、あるいは最も重要なことを見失うこと

36年前の12月の夜、ロッキード1011ジャンボジェット機がフロリダ州エバークレイドで墜落し、100人以上の死者を出しました。この悲惨な事故は、合衆国史上最悪の墜落事故の一つでした。

この事故の奇妙な点は、飛行機の主要な部分とシステムはすべて正常に機能しており、わずか約32キロ離れたマイアミの目的地に無事に着陸することがたやすくできるはずだったことです。

しかし、着陸態勢に入る最後の段階で、緑色のライトが一つ点灯していないことに乗務員が気づきました。前方の着陸装置が正常に出ているかどうかを示すライトです。パイロットは進入を中断し、真っ暗なエバークレイド上空で旋回し、着陸まで待機することにしました。そして、問題の調査に注意を向けたのです。

乗務員は調査に気を取られ、機体が次第に暗い沼地へ向かって下降していたことに気づきませんでした。だれかが気づいたときには、惨事を避けるにはもう手遅れだったのです。

事故の後、調査団は原因の究明に乗り出しました。着陸装置は確かに正常に下りていました。機体は物理的には完璧な状態でした。たった一つ以外は、すべてが正しく作動していました。電球が1個、切れていたのです。20セントほどの小さな電球から一連の出来事が始まり、ついには100人を越える死者を出すという悲劇を招きました。

もちろん、切れた電球そのものが事故を起こしたわけではありません。乗務員がその瞬間に重要だと思われたことに注意を向け、最も重要なことを見失ってしまったからです。

## 最も重要なことに心を向ける

最も重要なことをないがしろにして、つまらないことに注意を向ける傾向は、パイロットだけでなく、だれにでもあります。わたしたちは皆、その危険を冒します。道路に注意を向ける運転手は、携帯電話でメールを送ることに注意を向ける運転手よりも、事故に遭う危険性はずっと少なくなります。

わたしたちは人生で最も重要なことを知っています。キリストの光はあらゆる人にこの最も重要なことを教えてくれます。信仰深い末日聖徒であるわたしたちには、永遠に価値のある事柄を教えるために、「常に伴侶」として聖霊が与えられています。今日わたしの声に耳を傾ける神権者はだれでも、「最も重要なこと」というテーマで話を準備するよう頼まれたら、立派に務めを果たすでしょう。わたしたちの弱点は、良心に従って行動することができない点にあります。

少し立ち止まり、自分の心と思いがどこにあるか確かめてください。最も重要なことに焦点を置いているでしょうか。静かな時間をどのように使っているかを見ればよく分かるでしょう。最終期限に迫られるプレッシャーから解放されたとき、思い



はどこへ向かうでしょうか。思いと心の焦点はその瞬間にだけ意味のある一時的なつかの間の事柄に当てられていますか。それとも最も重要なことに心が向けられているでしょうか。

何か恨みを抱いていないでしょうか。夫、父親、息子、神権者としてあるべき姿を知りながら、そうなれない言い訳に固執していないでしょうか。義務を果たすことや、召しを尊んで大いなるものとする、熱心に働くことを妨げているものは何でしょうか。

時々、心をそらすもの自体は悪くない場合があります。むしろ良い気持ちにさせてくれることがよくあります。

たとえ良いことであっても、過度になる場合があります。一例を挙げましょう。先祖の系図を調べることやインターネットブログを作成することに何時間も時間を費やしている父親や祖父が、自分の子供や孫と過ごすすばらしく意義深い時間をないがしろにしたり、避けたりする場合があります。別の例を挙げると、雑草を抜くことに日々を費やしている庭師が、自分の心

にはびこる霊的な雑草を見過ごしている場合です。

教会のプログラムでさえも、心をそらすものになることがあります。過度に夢中になり、最も重要なものを犠牲にして、多くの時間を使い、気を取られてしまう場合です。バランスの取れた生活が必要です。

わたしたちは、天の御父とその子供たちをほんとうに愛しているなら、行動を通してその愛を示します。互いに赦し合い、善い行いをしようとします。なぜなら、「わたしたちの内の古き人はキリストと共に十字架につけられた。」<sup>1</sup> からです。そして、困っている孤児や、やもめを見舞い、自らは世の汚れに染まずに、身を清く保つのです。<sup>2</sup>

愛する神権者の皆さん、わたしたちは末日に生きています。イエス・キリストの福音が地上に回復されています。神権の鍵が再び人間に与えられています。現代は、自分と家族、世界を備えるよう神から託された、期待と準備の時代です。神の御子が「天使のかしらの声と神のラッパの鳴り響くうちに、合図の声で、天から下ってこられ」<sup>3</sup>、福千年の統治をお始めになる日の夜明けが近づいているのです。

わたしたちは神聖な神権をゆだねられ、天の王の代理人として行動する責任と権能と権利を授かっています。

これらは最も重要なことです。注意を向けるに価する永遠の価値ある事柄です。

神聖な義務から心をそらすような状態になることはできません。最も重要なことを見失ってはならないのです。

## ネヘミヤ

旧約聖書に登場するネヘミヤは、心をそらさず、重要な任務を全うした偉大な模範です。ネヘミヤはバビロン捕囚のさなかを生きたイスラエル人であり、王の給仕役を務めていました。ある日、王はなぜネヘミヤが悲しげな顔をしているのか尋ねました。ネヘミヤは答えました。「わたしの先祖の墳墓の地であるあの町は荒廃し、その門が火で焼かれたままであるのに、どうしてわたしは悲しげな顔をしないでいられましょうか。」<sup>4</sup>

これを聞いた王は心を和らげ、エルサ

レムへ戻り町を再建する許可をネヘミヤに与えました。しかし、この計画を喜ぶ人ばかりではありませんでした。実際、エルサレムの近くに住む数人の支配者は、「イスラエルの子孫の福祉を求める人が来たというので、大いに感情を害し」<sup>5</sup>、「大いに憤ってユダヤ人をあざけた」<sup>6</sup>のです。

恐れることなく、ネヘミヤは反対者のじやまを許しませんでした。それどころか物資や人材を集め、町の再建に取りかかりました。「民が心をこめて働いたから」です。<sup>7</sup>

しかし、町の城壁が高くなるにつれ、反発は激しさを増しました。ネヘミヤの敵は脅し、陰謀を企み、あざけりました。脅迫は単なる脅しではなく、威嚇があまりにも強まったので、ネヘミヤは「われわれをおどそうとしたのである」<sup>8</sup>と告白しています。そうした危険や絶え間ない侵略の脅威にもかかわらず、再建工事は進められました。緊張の連続でした。城壁を築く人たちは「おのおのその腰につるぎを帯びて築き建て」ていたからです。<sup>9</sup>

工事が続くにつれ、ネヘミヤの敵はさらに必死になってきました。4度にわたり、町の安全な場所から離れ、争いを解決するために会見するよう求めてきました。しかし、ネヘミヤはそれが偽りの誘いであり、自分に危害を加えるつもりであることを見破っていました。要請を受ける度に、ネヘミヤは同じ答えを繰り返しました。「わたしは大いなる工事をしているから下って行くことはできない。」<sup>10</sup>

何と見事な返答でしょう。そのように明確な目的を心に揺るぎなく掲げ、強い決意をもって遂行したため、エルサレムの城壁は再建され、52日間という驚くべき早さで完成したのです。<sup>11</sup>

ネヘミヤは、主が望まれたことを成し遂げるのを妨げるものを拒みました。

### わたしたちは下って行くことはできない

今日、これと同じ気持ちと意を持って多くの忠実な神権者から、わたしは励ましと靈感を受けています。ネヘミヤと同様、皆さんは主を愛し、受けている神権を尊んで大いなるものとするよう努めています。主は皆さんを愛しておられ、皆さ

んの心の清さと決意の固さを御存じです。忠実さのゆえに皆さんを祝福し、歩む道を導き、皆さんの賜物や才能を使って地上で主の王国を築いておられます。

しかしながら、すべての人がネヘミヤのようだとは言えません。改善の余地があります。

愛する神権者の皆さん、もしわたしたち全員が、ネヘミヤの民のように、「心をこめて働いた」ら、どのようなことを達成できる

でしょうか。もしわたしたちが「幼な子らしいことを捨てて」<sup>12</sup>、主イエス・キリストの代理人として真の神権者にふさわしくなることに全身全霊を尽くすなら、どのようなことを達成できるでしょうか。

しばらく考えてみてください。個人の生活、職場、家族、ワードや支部の中で、どのようなことが達成されるでしょうか。神の王国が、どれほど地上に進展するでしょうか。想像してみてください。神の神権





を持つ者が全員、腰に帯して立ち、真の可能性を実現し、心の底から改心し、神の王国を築くことに全力を尽くす真に忠実な神権者になるなら、世界はどれほど良いところになるのでしょうか。

心をそらし、一つの切れた電球や、どのような動機であれ、不親切な人が行う無礼な行為に注意を奪われるのはたやすいことです。しかし、考えてみてください。焦点を見失わせ、標準、すなわち神の標準を下げるような誘惑に対して、「わたしは偉大な業に携わっているから下って行くことはできない」と答えるなら、個人として、また神権者の一団として、どれほど大きな力を発揮できるのでしょうか。

わたしたちは大きな課題と好機に満ちた時代に生きています。主は、ネヘミヤのような人々を求めておられます。神権の誓詞と聖約を守る忠実な兄弟たちです。神の王国を築く業に勤勉に取り組む堅固な人々を集めておられます。反発と誘惑に遭っても、心の中で、「わたしは偉大な業に携わっているから下って行くことはできない」と言う人々です。

試練や苦難に遭っても、「わたしは偉大な業に携わっているから下って行くことは

できない」と答える人々です。

侮辱や非難に遭っても、「わたしは偉大な業に携わっているから下って行くことはできない」と公言する人々です。

天の御父が求めておられるのは、ささいな事柄に永遠の道をじゃまさせることを拒む人々、安易な娯楽に興味をそそられたりサタンのおなにはまったりせず、成し遂げるよう主から与えられた業から注意をそらすことのない人々、自分の言葉どおりに実行し、信念をもって「わたしは偉大な業に携わっているから下って行くことはできない」と言う人々です。

神が生きておられ、わたしたち一人一人を心にかけておられることを厳粛に証します。神は御手を差し伸べてくださり、奮い立って、荣誉ある神権の責任を引き受ける人々を支え守ってください。この末日にわたしたちに偉大な業を託しておられるからです。

この福音は人間が作ったものではありません。教会の教義は、昔の聖典の意味をだれかがうまく推測したものではありません。神御自身が啓示された天の真理です。ジョセフ・スミスは、彼が見たと述べた示現を見ました。そのことを証します。彼

は確かに天界をのぞき込み、天の御父であられる神と御子、天使たちと言葉を交わしました。

天の御父は、霊と真理において御自分を求める人々に語ってくださることを証します。今日、神は、神の預言者、聖見者、啓示者であるトーマス・S・モンソン大管長を通して語られるのをわたし自身が目で見たと、喜びをもって証します。

愛する兄弟の皆さん、ネヘミヤのように、わたしたちにはなすべき偉大な業があります。将来を展望しながら立っています。誘惑に負けず、決して標準を下げないように、注意をそらすものがあったとしても、誘惑がどこから来るかにかかわらず、最も重要なものを見失わないように、一致団結して揺るがずに立ち、主イエス・キリストの旗を雄々しく掲げるように、心から祈ります。

わたしたちが全能の神の聖なる神権にふさわしくなり、頭を上げ、堂々とした声で世の人々に「わたしたちは偉大な業に携わっているから下って行くことはできない」と宣言することができますように、イエス・キリストの聖なる御名により祈ります。アーメン。

注

1. ローマ6:6
2. Joseph Smith Translation, James 1:27
3. 1テサロニケ4:16
4. ネヘミヤ2:3
5. ネヘミヤ2:10
6. ネヘミヤ4:1
7. ネヘミヤ4:6
8. ネヘミヤ6:9
9. ネヘミヤ4:18
10. ネヘミヤ6:3
11. ネヘミヤ6:15参照
12. 1コリント13:11



# 「負傷者あり！」

大管長会第一顧問

ヘンリー・B・アイリング管長

**神権者が忠実に奉仕するとき、その心には人に対する責任感があります。**



神の神権を持つ兄弟たちに向かって話す荣誉と祝福に感謝しています。今晚わたしの話を通して、神権を使って勇ましく大胆に奉仕できるよう皆さんを助けたいと願っています。

皆さんは最後の神権時代に主の軍勢として働く特権にあずかっているのですから、勇気と大胆さを兼ね備える必要があります。今は平穏な時代ではありません。前世で、サタンはその軍勢を集結して天の御父の計画に逆らいました。それ以来、平穏な時代などありませんでした。前世での戦いがどのようなものであったか、わたしたちには詳しくは分かりません。しかし、その結果何が起こったかは知っています。サタンとその手下は地に投げ落とされました。アダムとエバが造られて以来、この戦いは続いています。そして、見てのとおり、戦いはますます激しくなっています。聖文によると、戦いはさらに激しさを

増し、主の側につく者の中から多くの霊的な犠牲者が出ることになるでしょう。

たいていの人は戦場の様子を映画で見たり、本で読んだりしたことがあるでしょう。爆撃音や兵士の叫び声に混じって「負傷者あり！」という叫び声が上がります。

この叫び声が上がると、忠実な味方の兵士たちは声の方に進みます。傷ついた同胞のところへ危険も顧みずに移動する兵士や衛生兵もいるでしょう。負傷兵は助けが来ることを知ります。どんな危険を冒してでも、やがてだれかが姿勢を低くして走り寄り、または匍匐前進でたどり着いて保護し、傷の手当てをしてくれるのです。困難で危険な使命を帯びた部隊では、兵士は必ずこのようにします。どんな犠牲を払おうとも断固として果たさなければならぬ使命を担っているからです。部隊の兵士は、一人たりとも置き去りにしないという固い決意をもって忠実に働きます。歴史を見れば、このような話は枚挙にいとまがありません。

公式文書から一つの例を話します。<sup>1</sup> 1993年10月、ソマリアでの戦闘で、ヘリコプターに乗った合衆国陸軍の二人の突撃隊員が銃撃戦の最中に、近くを飛行していた2機のヘリコプターが撃墜されたとの知らせをうけました。比較的安全な高度を飛んでいた二人の隊員は、墜落したヘリコプターの隊員の救出が地上軍にはできないことを無線で知らされます。墜落現場に近づいて行く敵軍の数はどんどん増えていました。

上空から見下ろしていた二人の隊員は、地上に降りることを申し出ました。(無線で

彼らが言った言葉は「自分たちをあそこに投げ込んでください」でした。) 瀕死の重傷を負った仲間を保護するためです。非常に危険であったため、申し出は却下されました。隊員たちは重ねて申し出ましたが、再度却下されました。3度目にやっと、地上に降りる許可が下りました。

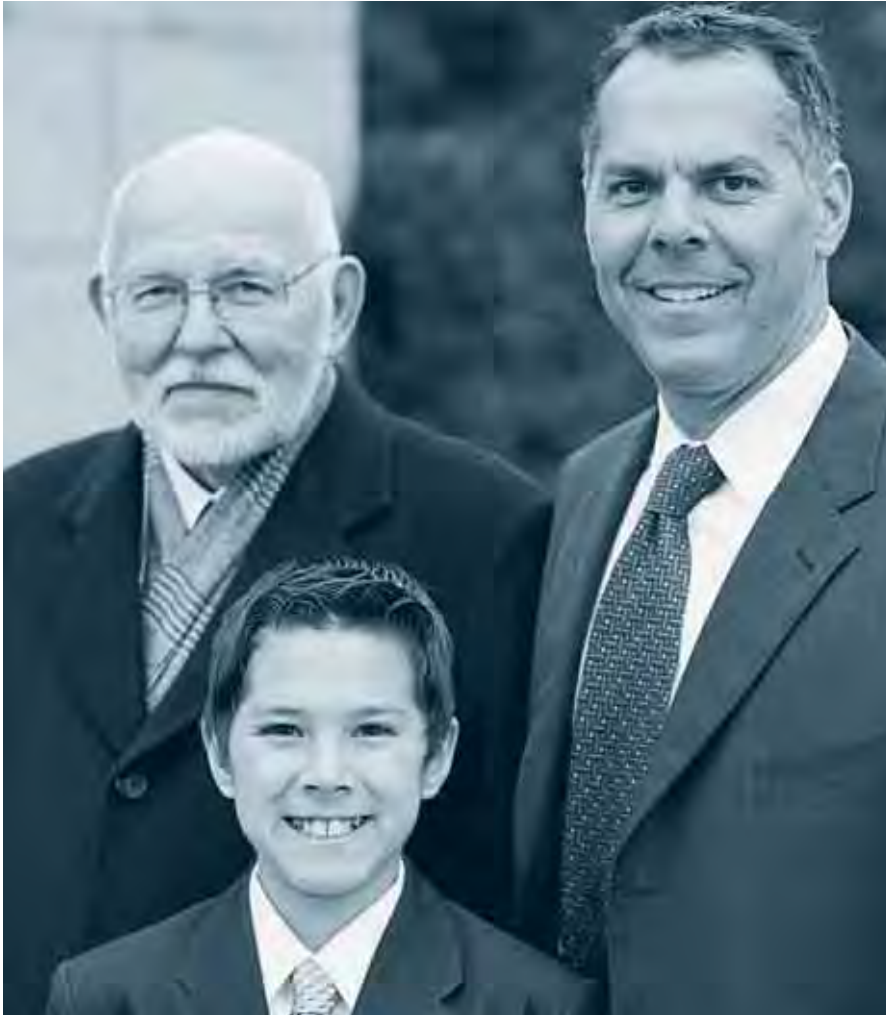
二人は携行できる武器のみを持って、墜落したヘリコプターと負傷したパイロットのところに向かいました。敵軍は墜落地点に結集しつつありましたから、銃弾の飛び交う中を進んだのです。二人は残骸の中から負傷したパイロットを引き出し、自分たちの体を盾にしてパイロットを運びました。最も危険な位置に自らを置いたのです。弾薬が尽き、致命傷を負ってまでも同胞の命を守りました。彼らの勇気と犠牲が、失われたかもしれない一人のパイロットの命を救ったのです。

この二人は死後、それぞれ名誉勲章を受けました。武装した敵軍を前にして勇ましく戦ったことをたたえる国家最高の勲章です。記録には、彼らは「義務が要求する以上のことを行った」とあります。

しかし、墜落したパイロットの救出に向かった彼らに、義務以上のことをしているという意識があったのでしょうか。どんな犠牲を払ってでも仲間の兵士を守る義務があると彼らが感じたのは、忠誠心からでした。しかし、彼らに行動する勇気を与え無私の務めを行わせたのは、仲間の命と幸福、安全を守らなければならないという責任感だったのです。

神権者が忠実に奉仕するとき、その心には人に対するこのような責任感があります。わたしたちの仲間は、霊的な戦いの中で傷ついています。わたしたちが仕え、危害から守ってあげなければならない人たちも同じように傷ついています。霊に負った傷は、霊の目でなければ容易に見分けることができません。しかし、救い主の弟子として仕えているビショップや支部会長、伝道部会長は、傷を負っている者を見極めることができます。

そのようなことは、昔から至る所で起きています。わたしにも覚えがありますが、ビショップだったころ、ある若い神権者の



表情と態度を見て、こんな思いに駆られました。あまりにはっきりとした感覚だったため、声が聞こえたかのように。「彼と話さなければいけない。今すぐに。何かが起ころうとしている。彼には助けが必要だ。」

このような思いに駆られたとき、わたしは決して先送りしません。なぜなら、罪の傷というものは、初期の段階では傷ついた当人に自覚がないことが多いことをわたしは知っていたからです。サタンは時に、傷つけている最中には霊的な苦痛を感じさせないような処置を施すようです。悔い改めに導くような力が働かないかぎり、傷は悪化し深くなります。

ですから、そのような人に気づいたら、天の御父の子供たちの霊を救う責任を持つ神権者として、皆さんは救出に向かわなければなりません。「負傷者あり!」の声を待つことはできません。親友やほかの指導者、両親でさえ、皆さんが見ている危険

には気がついていない場合もあるのです。

靈感を受けて警告の叫びを察知しているのはあなただけかもしれません。叫びが聞こえたように感じても、ほかの人はこんなふうを考えるかもしれないのです。「問題があるように見えたけれども、思い過ごしだったらしい。人を裁く権利などわたしにはないわけだし、これはわたしの責任でもない。本人が助けを求めてくるまでそっとしておこう。」あなたもそう考えるよう誘惑されるでしょう。

深い傷を負っていることを確認し、その傷を診断し、神から靈感を受けて必要な治療法を処方して癒しへの道を歩ませる力と責任は、権能を受けたイスラエルの判士にしか与えられていません。しかし、皆さんは、霊に傷を負った神の子供を救出に行くという聖約を交わしています。傷ついている者に背を向けない勇敢さと大胆さを持つ責任があります。

わたしの力の及ぶかぎり、少なくとも二

つのことを説明しなければなりません。まず、皆さんにはなぜ、傷ついた友人を助けに行く責任があるのか。そして、もう一つは、どうすればその責任を果たすことができるかです。

まず初めに、先に述べたように、皆さんは聖約を交わしています。神から信頼されて神権を受けたとき、たとえどんなに困難で危険が伴うように見えたとしても、人の救いのために果たすこと、果たさないことすべてに対して責任を受けたのです。

この重大な責任を引き受けた神権者の例は数え切れないほどあります。皆さんもわたしもこのような責任を引き受けなければなりません。神聖な信頼を受けていたために、難しい状況下で同胞を助けるために行動したことを、ヤコブは、モルモン書の中で次のように説明しています。「さて、わたしの愛する同胞よ、わたしヤコブは、まじめに自分の務めを尊んで大いなるものとするという責任を神から受けており、また、わたしの衣からあなたがたの罪を取り除きたいので、今日こうして神殿に来て、あなたがたに神の御言葉を告げる。」<sup>2</sup>

皆さんは、ヤコブは預言者であり、自分とは違うと主張しますか。しかし、皆さんは神権の職が何であろうと、それには、周りにいる者の「垂れている手を上げ、弱くなったひびを強め[る]」<sup>3</sup>という義務が伴っています。皆さんは主の僕です。主が行われるであろうことを、できるかぎり人に対して行うという聖約を交わした者なのです。

皆さんに与えられている大いなる機会と皆さんの責任については、伝道の書に次のように書かれています。

「ふたりはひとりにまさる。彼らはその労苦によって良い報いを得るからである。

すなわち彼らが倒れる時には、そのひとりがその友を助け起す。しかしひとりであって、その倒れる時、これを助け起す者のない者はわがわいである。」<sup>4</sup>

この聖句から、ジョセフ・スミスの射た厳粛な言葉が理解できるようになるでしょう。「愚か者でもないかぎり、人の命を軽々しく扱う者はいない」<sup>5</sup> ヤコブが語ったように、助けることができたかもし

れない男性や女性を助けなかった場合、その人が倒れたとしたら、深い悲しみは本人のみでなく助けることを怠った人にも訪れます。皆さんの幸せと、神権者として皆さんが仕えるよう召されている人の幸せとは、表裏一体なのです。

では次に、皆さんが仕え、救うように召されている人を最もよく助けるにはどうすればよいかについて話しましょう。これは、皆さんの能力と、霊的な危機に陥っている人と皆さんがどのような神権の関係にあるかによって異なります。神権の奉仕の段階に応じて3つの例を挙げてみましょう。

まず、あなたがアロン神権の教師で、経験の浅い後輩同僚である場合から始めましょう。経験豊富な同僚と組んで若い夫婦の家庭を訪問します。訪問の用意を始めるに当たり、あなたは力と靈感を祈り求めます。家族の必要を見極め、どんな助けができるか知ることができるよう祈るのです。できれば、この祈りは同僚と一緒に、訪問先の家族の名前を挙げて行うとよいでしょう。祈るとき、あなたの心には訪問する家族への愛と神への愛がわき上がります。あなたと同僚は、これから行おうとすることについて意見が一致しているはずで、あなたたちは何を行うか計画を立てるでしょう。

どのような計画を立てたにせよ、訪問している間あなたは注意深く謙遜になって家族を観察し、話に耳を傾けます。あなたは若く、あまり経験がありません。しかし、主はその家族が霊的にどんな状態にあり、何を必要としているかをすべて御存じで、その家族を愛しておられます。それに、あなたには主の代理として遣わされているという自覚がありますから、家族を助けるためには何が必要か、自分には何ができるかが分かるはずだという信仰を持つことができます。それが知られるのは、訪問して家に入り、顔を合わせて語るときです。教義と聖約の中で神権者に次の責任が与えられているのはこのためです。「また各会員の家を訪れて、彼らが声に出して祈り、ひそかにも祈るように、また家庭におけるすべての義務を果たすように勧めることである。」<sup>6</sup>



次に、皆さんの責任は増し加わり、さらに大きな識別の力が必要となります。

「教師の義務は、常に教会員を見守り、彼らとともにいて彼らを強めることであり、

教会の中に罪悪がないように、互いにかたくなになることのないように、偽り、陰口、悪口のないように取り計らうことであり、

また教会員がしばしば会合するように取り計らい、またすべての会員が自分の義務を果たすように取り計らうことである。」<sup>7</sup>

彼らがこの標準にどの程度従っているか詳しく知るために、あなたと同僚が靈感を受けることはまずありません。でも、経験から約束できるのですが、何が家族のためになるのかを知る賜物<sup>たまもの</sup>があなたには与えられます。その賜物のおかげで、家族を励ませるのです。約束できることがもう一つあります。あなたと同僚は、霊の癒しの過程を家族が歩み始めるために何を変えればよいのか御霊によって知ることができます。御霊に促されてあなた

が家族に勧告する言葉には、主が家族に変えるよう望んでおられる事柄が確実に含まれているでしょう。

同僚が御霊に感じて生活を変えるよう家族に勧告し始めたら、同僚の行動を観察してください。御霊に導かれて同僚が語る様子を目の当たりにして驚くでしょう。同僚の言葉には愛があります。そして同僚は、生活を変えて家族が祝福を得られるようにする方法を見つけます。生活を変えなければならないのが父親か母親であれば、それによって子供たちがどれほど幸福になるか説明するかもしれません。そのように変わることは、不幸な状態を離れて幸せで平安な生活に移ることだと同僚は説明するでしょう。

訪問中にあなたはあまり貢献していないと感じるかもしれませんが、あなたの影響力は自分が考えているより大きいのです。あなたがその家族を愛していることは、表情やしぐさから分かります。自分

たちと主を愛しているためにあなたが恐れていないのだと彼らは理解します。そしてあなたは、雄々しく真理を証します。あなたの謙遜で素朴で、恐らく簡潔な証は、経験ある同僚の証よりも聞く人に感動を与えます。わたしはこれまでこのような場面を見てきました。

神権者としての訪問中に果たす役割がどのようなものであろうと、家族に主の助けがあるようにと願っているかぎり、あなたには二つの祝福が与えられます。第1に、訪問先の家族に対する神の愛が感じられるようになります。そして第2に、あなたが心から望んだ事柄に対して救い主が感謝しておられるのを感じるようになります。あなたが訪問したのは、救い主の御心のままに家族を助けたいと望んだからです。

主があなたをその家族に送られたのは、あなたを信頼しておられるからです。責任感をもってその家族の心を主に向けさせ、彼らが幸せへの道を歩めるようあなたが彼らを助けてくれることを主は御存じなのです。

もう少し成長すると、あなたには、神権による奉仕のもう一つの機会が訪れます。あなたは自分の定員会の会員と親しくなります。バスケットボールやフットボールをしたり、一緒に青少年の活動や奉仕プロジェクトに参加したりしてきたのかもしれませんが。その中の何人かとは非常にいい友達になります。

そのうち、彼らがいつ幸せを感じ、いつ悲しみを感じているか分かるようになります。あなたも友達も、定員会では指導者の責任を受けていないかもしれませんが、定員会の仲間に対して責任があることは自覚しています。あるとき定員会の仲間が、戒めを守れなくなりそうだとあなたに打ち明けます。それが霊に悪い影響を及ぼすことがあなたには分かっています。彼は助言を求めるかもしれませんが。あなたを信頼しているからです。

経験から言うのですが、良い影響を与えて仲間を危険な道から救い出すことができたならば、その仲間はあなたにとって真の友達になります。その喜びは決して忘れることができないでしょう。それがで

きなかった場合、仲間には悲しみ嘆く時が訪れます。あなたも同じように苦しむであろうことをわたしは約束します。しかし、助けようと努めたのであれば、その仲間が友達であることに変わりはありません。事実、何年かたって、あなたの助言に従っていればよかったと彼はあなたに言うかもしれないのです。助けようとしてくれたことに感謝するでしょう。そのときには彼を慰め、もう一度導いてください。青少年のころと同じように幸福への道に戻るよう誘うのです。贖いによってそれは可能となります。

そして、後にあなたは父親になります。神権を持つ父親です。あなたは悲しみから幸福へと人々を導いてきました。神権による奉仕を通して学んできた事柄は、必要な力を与えてくれます。人の救いのために長い年月責任をもって務めてきたあなたには、家族を支え、守る準備ができています。家族というものは、若いころには想像もできないほどいとしいものです。父親であるあなたには、愛する家族を神権の力によって安全な道に導く方法が分かっています。

生涯を通じ、また永遠にわたって神権者としての奉仕に皆さんが喜びを感じることができるよう。モーサヤの息子たちのような愛と勇気をはぐむことができますように。モーサヤの息子たちは、命の危険を冒してでもかたくなな民に福音を伝えたいと望み、それを行う許可を願い求めました。天の御父の子供たちを愛しており、勇気があったからです。彼らにこの望みと勇気をもたらしたのは、責任感で

した。永遠の不幸の淵に沈もうとしている見知らぬ民を永遠の幸福へと導く責任が自分たちにはあると感じていたのです。<sup>8</sup>

前世でエホバは栄光の王座から降りてわたしたちに仕え、わたしたちのために命をささげることを願い求められました。わたしたちも同様の望みを持つことができますように。主は父なる神に「わたしをお遣わしてください」<sup>9</sup>とおっしゃったのです。

皆さんが神から召された者であり、神の子供たちに仕えるために送り出されていることを証します。神は一人も置き去りにされることのないように望んでおられます。モンソン大管長は全地の神権の鍵を持っています。皆さんには、イエス・キリストの贖いによって可能となった幸福への道を神の子供たちが見いだせるよう助ける責任があります。この責任を果たすために必要な靈感と力を神は皆さんにお与えになるでしょう。このことをイエス・キリストの聖なる御名によって証します、アーメン。

注

1. *The U.S. Army Leadership Field Manual* (2004年), 28–29参照
2. モルモン書ヤコブ2:2
3. 教義と聖約81:5
4. 伝道4:9–10
5. *History of the Church*, 第3巻, 295
6. 教義と聖約20:47
7. 教義と聖約20:53–55
8. モーサヤ28:1–8参照
9. アブラハム3:27参照



# 最高の自分になる

トーマス・S・モンソン大管長

一人一人が義務を学び、全力を尽くして実行しなければなりません。



この満員のカンファレンスセンターと世界中の集会所に集っている、愛する神権者の兄弟の皆さん、わたしは皆さんに話す責任にへりくだる思いです。わたしはこれまでに話されたメッセージを支持します。また、皆さん一人一人に対する心からの愛を表し、皆さんの信仰と献身に感謝を表します。

兄弟の皆さん、教義と聖約に次のように記されているように、神権者としての責任は非常に重要です。「大神権すなわちメルキゼデク神権の力と権能とは、教会のすべての霊的な祝福の鍵を持つことである。」<sup>1</sup> さらにこう記されています。「小神権すなわちアロン神権の力と権能とは、天使の働きの鍵を持ち、また聖約と戒めにかけて外形上の儀式、すなわち福音の文字、罪の赦しのための悔い改めのバプテスマを執行することである。」<sup>2</sup>

1958年に、後に教会の第11代大管長と

なるハロルド・B・リー長老は、神権とは「悪の力に対抗する主の軍勢」<sup>3</sup> であると言いました。

ジョン・テラー大管長は「神権によって現れる力は、まさに神の力である」と述べました。<sup>4</sup>

預言者たちが述べたこの靈感あふれる言葉から、神権を持つ者は皆、偉大な神権と責任にふさわしくならなければならないことが分ります。一人一人が義務を学び、全力を尽くして実行しなければなりません。そうすることにより、わたしたちは、天の御父と御子イエス・キリストがこの地上で業を行うための道具となるのです。わたしたちは、まさに、この地上において御二方の代理を務めています。

今日、わたしたちは多くの難題に直面しています。中には試練に押しつぶされそうな人もいます。しかし、神がいてくださるので、負けることはありません。聖なる神権にふさわしい者となるなら、勝利を得るのです。

さて、アロン神権者の皆さん、皆さん一人一人が、神権に聖任されていることの重要性を理解できるよう、わたしは心から望んでいます。皆さんが毎週日曜日に聖餐の執行とパスを行うことは、ワードの会員一人一人の生活にとって、非常に重要な務めです。

わたしは昔、執事定員会の書記として奉仕する機会にあずかっていました。執事定員会にはたくさんの割り当てがあったことをよく覚えています。すぐに思い出すのは、聖なる聖餐のパスを行ったこと、月に1度断食献金を集めたこと、互いに見

守り合ったことです。最も恐ろしい割り当てを受けたのは、ワード大会の指導者会  
のときでした。管理をしていたステーキ会  
長会の兄弟が、ワードの役員たちに話の  
責任を与えました。彼らはそのとおりに  
しました。それからその兄弟は何の前触  
れもなく、立ち上がってこう言ったのです。  
「今度は若い役員から聞きましょう。執事  
定員会書記のトーマス・S・モンソン兄弟  
に、彼の奉仕についての話と証を述べて  
いただきます。」わたしは何を話した  
か、一つも覚えていませんが、そのときの経  
験と教訓を忘れたことはありません。次の  
ように述べたのは、使徒ペテロでした。  
「あなたがたのうちにある望みについて説  
明を求める人には、いつでも弁明のできる  
用意をしていなさい。」<sup>5</sup>

教会の初期の神権者に主は約束されま  
した。「わたしはあなたがたに先立って  
行こう。わたしはあなたがたの右におり、  
また左にいる。わたしの御霊はあなたが  
たの心の中にある。また、わたしの天使  
たちはあなたがたの周囲にいて、あなた  
がたを支えるであろう。」<sup>6</sup>

兄弟の皆さん、今は恐怖の時代ではな  
く、信仰の時代です。わたしたち神権者一  
人一人が最高の自分になるべき時代です。

この世の旅路では、だれもが時折危険  
を経験しますが、今晚、皆さんに3つの提  
案をしてもよいでしょうか。この提案に従  
うなら、安全へと導かれるでしょう。以下  
がその3つです。

1. 熱心に学ぶ。
2. 心を込めて祈る。
3. 義にかなった生活を送る。

これらの提案は新しいものではありません。何度も教えられてきたことです。しかし、もしこれらを生活に取り入れるなら、「敵対する者」に打ち勝つ強さを得るでしょう。これらを無視するなら、サタンに付け入るすきを与え、その力に屈することになるでしょう。

第1の提案は、熱心に学ぶことです。神権者は一人一人、毎日聖文を研究するべきです。毎日聖文を読んで、その教えを生活に応用する方が、短期集中型の勉強よりもはるかに効果があります。聖文の中

で説かれている教訓に慣れ親しんでください。主のたとえや預言者の勧告の背景や場面を学んでください。それらを、あたかも自分に話されているかのように研究してください。実際、わたしたちに語られているからです。

預言者リーハイとニーファイは、それぞれの示現の中で、神の御言葉<sup>みことば</sup>を学びそれにしっかりつかまるとの大切さを示されました。信じようとする兄のレーマンとレムエルに、ニーファイは示現で示された鉄の棒についてこう言いました。

「わたしは兄たちに、〔その棒〕は神の言葉であって、だれでも神の言葉に聞き従って、それにしっかりつかまる者は、決して滅びることがなく、また敵対する者の誘惑や火の矢も、彼らを打ち破って盲目とし、滅びに至らせることはないと言った。

わたしニーファイは、主の言葉を心に留めるように兄たちに勧めた。まことに、わたしは兄たちが神の言葉を心に留めて、何事においても常に神の戒めを守ることができるよう、全精力を傾け、能力の限界を尽くして兄たちに勧めた。」<sup>7</sup>

アロン神権者とメルキゼデク神権者の皆さん、わたしは皆さんに約束します。もし聖文を熱心に学ぶなら、誘惑を回避し、聖霊の導きを受けてあらゆることを行う力が増すでしょう。

第2の提案は、**心を込めて祈ること**です。神には何でもおできにならないことはありません。アロン神権者とメルキゼデク神権者の皆さん、預言者ジョセフが聖なる森の中で祈りをささげたことを思い出してください。周りを見回し、あの祈りがこたえられた結果を見てください。

アダムも祈り、イエスも祈られました。わたしたちはその祈りの結果を知っています。1羽のすずめが落ちるのも御存じの神は、心からの嘆願を必ず聞いてくださいます。この約束を思い出してください。「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。」<sup>8</sup>

この話を聞いている、大小様々の試練と闘っている皆さんにお伝えします。祈りは霊的な強さの源であり、安らぎへのパスポートです。祈りは、わたしたちを愛してくださっている天の御父に近づく手段です。祈りの中で御父に話しかけ、答えに耳を傾けてください。奇跡は、祈りを通してもたらされるのです。

デージー・オガンド姉妹は、800万人以上の人口を抱えるニューヨーク市に住んでいます。数年前、オガンド姉妹は宣教師に会い、福音を教えられましたが、いつの間にか連絡が途絶えてしまい、時が流れていきました。しかし、2007年になって、かつて宣教師から教わった福音の原則が心の中で目覚めてきました。

ある日、デージーがタクシーに乗ろうとしていると、遠くに宣教師の姿が見えました。声をかけようとしたのですが、見えなくなってしまいました。心を込めて天の御父に祈り、もし御父が何らかの方法で宣教師をもう一度遣わしてくださるなら、ドアを開けることを約束しました。神は自分の祈りを聞き届けてくださるという信仰を心に抱きながら、その日、家へ帰りました。





一方、二人の若い宣教師は、教える人々が見つかるよう心から祈り、努力していました。ある日、二人は以前にその区域で伝道した宣教師の伝道記録を調べていました。記録の中から、オガンド姉妹の名前を見つけました。宣教師たちが彼女のアパートを訪れたのは、オガンド姉妹が簡潔ながらも心を込めて祈った午後のことでした。彼女はドアを開け、宣教師たちの耳にはまるで音楽のように快く響く言葉を口にしました。「長老たち、お入りください。あなたたちを待っていました!」

両者の心からの祈りはこたえられました。再び連絡を取り合うようになり、宣教師が福音を教えるようになり、デージーと息子のエディーのバプテスマの準備が整いました。

**心を込めて祈ることを覚えてください。**

最後の提案は、**義にかなった生活を送ること**です。旧約聖書の偉大な預言者イザヤは、神権者に靈感あふれる訓戒を与えています。「汚れた物にさわるな。その中を出よ、主の器をになう者よ、おのれを清く保て。」<sup>9</sup>

神権者は、必ずしも雄弁ではないかもしれませんが。難しい学問分野で高学歴を修めてはいないかもしれませんが。貧しい暮らしをしているかもしれませんが。しかし、神は人を偏り見ることはなさいません。そして神は、今日の悪を回避し、高潔で清い生活を送る義にかなった僕を助けてくださいます。例を挙げましょう。

ソルトレーク・シティーから約900マイル(1,500キロ)北に、カナダのアルバータ州カルガリーという美しい町があります。カナダ最大の年中行事であり、世界最大の野外ロデオ大会が行われる「カルガリー・スタンピード」という祭りの舞台です。10日間にわたるイベントでは、ロデオ競技会、展示会、農作物品評会、チャックワゴンレースなどが行われます。初日に行われる「スタンピード・パレード」は、祭典の中で最も古く大規模なイベントで、35万の見物人(その多くがカウボーイの衣装を着ています)が見守る中、カルガリーの繁華街を約5キロ行進します。

数年前、ユタ州にある大きな高校の音楽隊がオーディションを受け、念願がかな

い「カルガリー・スタンピード・パレード」で行進することが決まりました。何か月もの間、資金を集めたり、朝早く街路を行ったり来たりする練習をしたり、そのほかの準備をしました。それはすべて、カルガリーへ行き、パレードに参加するためでした。パレードでは、一つの音楽隊が最優秀賞に選ばれるのです。

出発の日がやって来ました。やる気あふれる生徒たちや彼らの指導者たちがバスに乗り、はるか北のカルガリーを目指して出発しました。

途中、バスはアルバータ州のカードストーンで止まりました。一行はそこで一泊しました。カードストンの扶助協会の姉妹たちが、音楽隊のメンバーが再びバスで出発する前に食べられるように、弁当を用意してくれました。音楽隊の一員であり、アロン神権の祭司の職を持つブラッドは、おながすいていなかったのも、弁当を後で食べることにしました。

ブラッドは後ろの席が好きでした。カルガリーまでの旅が再開する前に、ブラッドはいつもの席に座ると、最後列の座席



の裏の棚に弁当の入った袋を置きました。彼が弁当を置いた場所は、7月の午後の日差しが差し込む、窓ガラスのすぐそばでした。運の悪いことに、袋の中身は玉子サラダのサンドイッチでした。このことの重大さがよく理解できない人のために説明すると、玉子サラダは冷蔵保存する必要があります。もしも冷蔵保存しなければ、あるいは、晴れた日にバスの中に放置して窓からさし込む直射日光にさらし続けるなら、玉子サラダは細菌が増殖する理想的な環境となってしまいます。その結果、いわゆる食中毒が起きます。

カルガリーへ着く前に、ブラッドはおなかがすいてきました。弁当のことを思い出し、玉子サラダのサンドイッチをほおびました。バスがカルガリーへ着き、市内へ入ると、音楽隊の隊員たちは、ブラッドを除いて全員歓声を上げました。不幸なことに、ブラッドは激しい腹痛と、食中毒が起す様々な不快な症状で苦しんでいました。皆さんにも経験があるでしょう。

目的地に着くやいなや、音楽隊の隊員たちはバスを降りました。しかし、ブラッドは降りません。翌朝パレードでドラムをたたくよう隊員たちに当てにされているのを知っていましたが、痛みのために体をくの字にし、あまりにも気分が悪くて、バスを降りられなかったのです。運の良いことに、友達のスティーブとマイクがブラッドのいないことに気づき、捜すことになりました。スティーブとマイクは最近高校を卒業し、二人とも、最近メルキゼデク神権の長老に聖任されたばかりでした。

バスの後方にブラッドを見つけ、何が起こったかを知り、スティーブもマイクも途方に暮れました。ようやく、自分たちが長老であり、病人を癒すメルキゼデク神権の権能を持っていることを思い出します。神権の祝福をした経験は一度もありませんでしたが、この二人の新しい長老には、自分が持っている力を信じる信仰がありました。二人はブラッドの頭に手を置き、メルキゼデク神権の権能とイエス・キリストの御名により、ブラッドが元気になるよう簡

潔な言葉で祝福しました。

その瞬間から、ブラッドの症状はすっかり良くなりました。翌朝、彼は音楽隊の隊員たちと一緒に、カルガリーの通りを誇らしげに行進しました。音楽隊は最優秀賞を受賞し、念願だった最高の名誉を受けました。しかし、それよりもっと重要なことは、経験はないながらもふさわしさを保っていた二人の若い神権者が、主の代理人として同胞に仕える召しにこたえたことです。ぜひとも助けを必要とする人のために神権を行使する必要に迫られたときに、義になつた生活を送っていた彼らは、その求めに応じることができたのです。

兄弟の皆さん、人生の旅路に備えているでしょうか。時折、道は険しくなることがあります。進路を定め、注意を怠らず、**熱心に学び、心を込めて祈り、義になつた生活を送る**と決意してください。

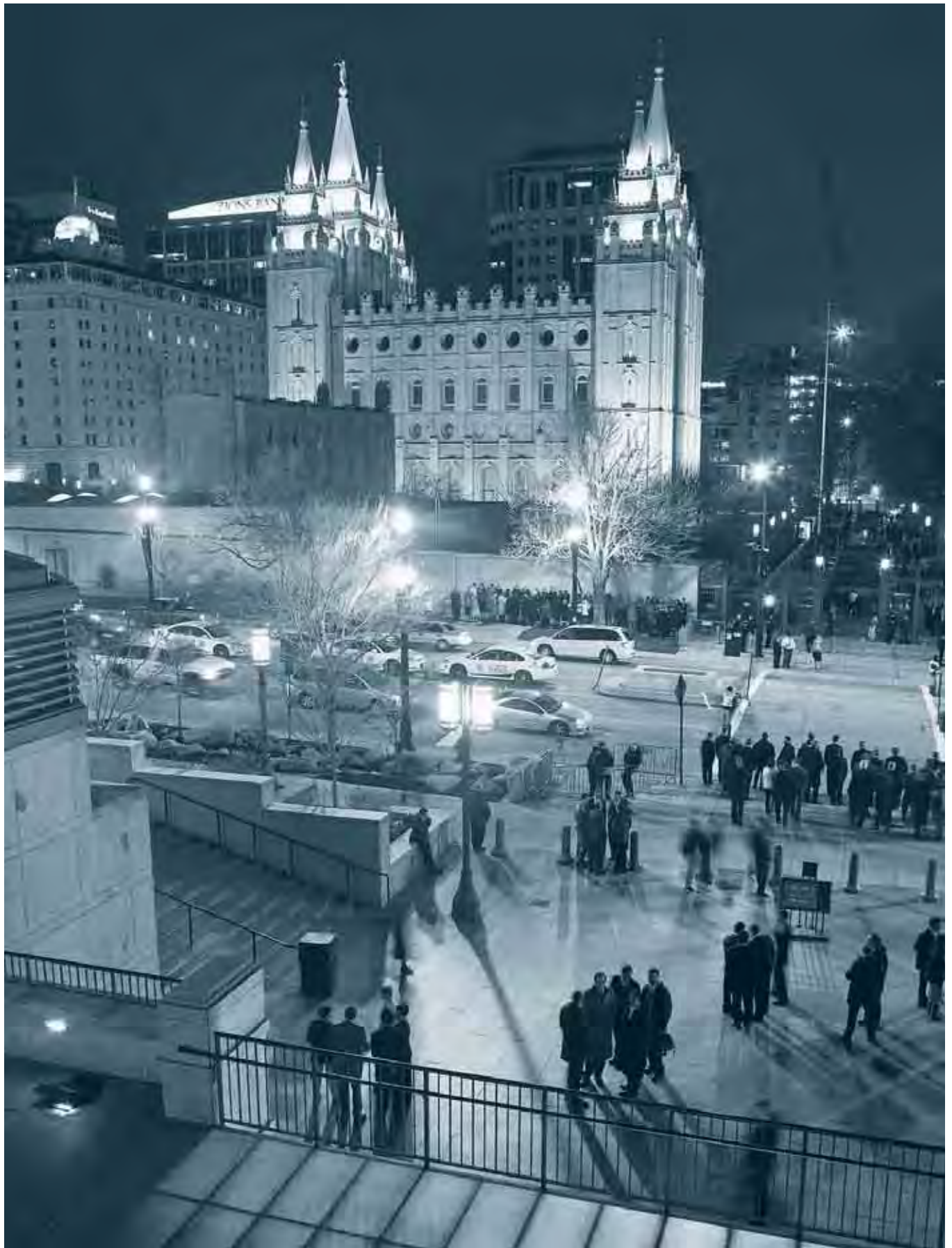
決して落胆しないようにしましょう。わたしたちが携わっている業は主の業だからです。「主は重荷を負う肩を強めてくださる」と言われています。

強さを熱心に求め、絶えず変化する複雑なこの世界の試練を乗り越えようとする人は、「わたしとわたしの家とは共に主に仕えます」<sup>10</sup>と、不屈の精神と揺るぎない勇気をもって、ヨシュアとともに宣言するときに、その強さを得るでしょう。この神聖な真理を、イエス・キリストの御名により証します。アーメン。

注

1. 教義と聖約107:18
2. 教義と聖約107:20
3. ハロルド・B・リー, "Priesthood," (ブリガム・ヤング大学セミナーおよびインスティテュートの職員への説教, 1958年7月17日), 1
4. ジョン・テラー, *The Gospel Kingdom*, G・ホーマー・ダラム編(1944年), 130
5. 1ペテロ3:15
6. 教義と聖約84:88
7. 1ニーファイ15:24-25
8. ヤコブの手紙1:5
9. イザヤ52:11
10. ヨシュア24:15





# 末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部

2009年4月現在

## 大管長会



第一顧問  
ヘンリー・B・アイリング



大管長  
トーマス・S・モンソン



第二顧問  
ディーター・F・ウークトドルフ

## 十二使徒定員会



ボイド・K・バックナー



L・トム・ペリー



ラッセル・M・ネルソン



ダリン・H・オークス



M・ラッセル・バラード



リチャード・G・スコット



ロバート・D・ヘイルズ



ジェフリー・R・ホランド



デビッド・A・ベドナー



クエンティン・L・クック



D・トッド・クリストフアーソン



ニール・L・アンダーソン

## 七十人会長会



ロナルド・A・ラズバンド



クラウディオ・R・M・ハンセン



スティーブン・E・スノー



ウォルター・F・コンサレス



L・ホイットニー・クレイトン



ジェイ・E・ジェンセン



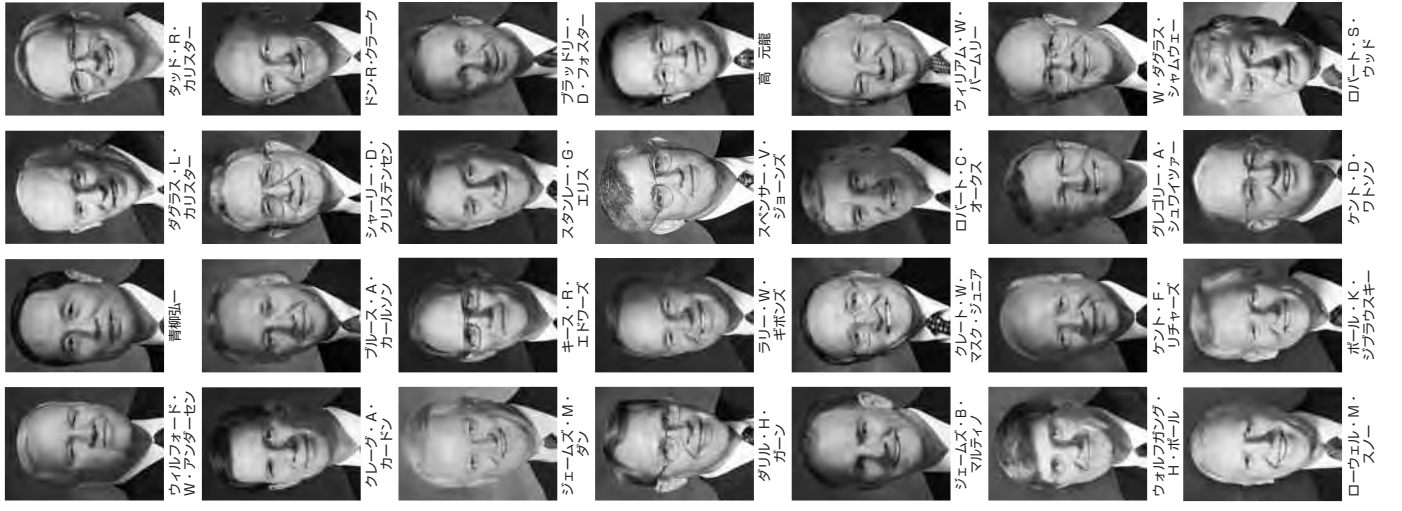
ドナルド・L・ホールストロム

七十人第一定員会



マルコス・A・アードカイタイズ  
 カロス・H・アマード  
 マービン・B・アームスト  
 デビッド・S・バウスター  
 シェーン・M・ボーン  
 ジェラルド・コセー  
 崔 滿煥  
 クレージ・C・クリステンセン  
 ケーリン・J・コールマン  
 スペンサー・J・コフディー  
 ウィルフオーダー・W・アンダーセン  
 青柳 弘一  
 ダグラス・L・カリスター  
 タッド・R・カリスター  
 ロレンス・E・コーブリック  
 ベンハミン・デ・オヨス  
 ジョン・B・ディクソン  
 チャールズ・ディクステ  
 デビッド・F・エロビズ  
 マーリン・K・エリクセン  
 リチャード・G・フィンクレ  
 キース・K・ヒルビック  
 シェームズ・J・ハラス  
 フルース・C・ヘーヴェン  
 エリック・W・コビッシュカ  
 ジョン・M・マドセン  
 ボル・B・ハイバー  
 アンソニー・D・ハーベンス  
 コラリス・D・シビック  
 クラウチタイ・D  
 ウィルヘルム・C・エツジラー  
 第一顧問  
 リチャード・C・バートン  
 管理ビショップ  
 H・バートン  
 キー・B・マクマリ  
 ヨルゲ・F・ゼロバ  
 ランス・B・ウィックマン  
 F・マイケル・ワーカー  
 ウィリアム・R・ワーナー  
 フランシスコ・J・ペーナス  
 オクタビオ・テプリオ  
 ティモシー・A・テイシェラ  
 マイク・ジョン・U・ター  
 ラファエル・E・ピノ  
 リチャード・J・メインズ  
 ジョーン・M・マドセン  
 ボル・B・ハイバー  
 アラン・D・ハーベンス  
 ジョー・E・スターンソン  
 ウォルフガング・H・ホル  
 ケント・F・リチャーズ  
 クレイト・W・マスタ・ジュニア  
 ジョージ・W・マスタ・ジュニア  
 ジョージ・W・シグワフ・ワイ  
 ヨルゲ・F・ゼロバ  
 ジョー・F・ハッカー  
 アラン・F・ハッカー  
 クレン・L・ベイス  
 フロント・H・ニールソン  
 マイク・T・リンクワッド  
 デニス・B・マイエンショフター  
 デル・G・レンランド  
 カール・B・アラット  
 オクタビオ・テプリオ  
 ウィリアム・R・ワーナー  
 フロント・H・ニールソン  
 ケネス・ジョーンソン  
 エドアルド・ガレット  
 エリック・B・アラベラ  
 ダニエル・L・ジョーンソン  
 マーリン・K・エリクセン  
 リチャード・G・フィンクレ  
 キース・K・ヒルビック  
 シェームズ・J・ハラス  
 フルース・C・ヘーヴェン  
 ジョー・E・スターンソン  
 スタンレー・G・エリス  
 キース・R・エドワーズ  
 ラリー・W・キボンス  
 タリル・H・カーン  
 ジェームズ・M・タン  
 ジョー・E・コーリカー  
 ケビン・W・ピアソン  
 ジョージ・W・シグワフ・ワイ  
 セシル・O・サミュエルソン・ジュニア  
 ラン・G・ロビンズ  
 リン・G・ロビンズ  
 マイク・T・リンクワッド  
 デニス・B・マイエンショフター  
 デル・G・レンランド  
 カール・B・アラット  
 オクタビオ・テプリオ  
 ウィリアム・R・ワーナー  
 フランシスコ・J・ペーナス  
 オクタビオ・テプリオ  
 ティモシー・A・テイシェラ  
 マイク・ジョン・U・ター  
 ラファエル・E・ピノ  
 リチャード・J・メインズ  
 ジョーン・M・マドセン  
 ボル・B・ハイバー  
 アンソニー・D・ハーベンス  
 コラリス・D・シビック  
 クラウチタイ・D  
 ウィルヘルム・C・エツジラー  
 第一顧問  
 リチャード・C・バートン  
 管理ビショップ  
 H・バートン  
 キー・B・マクマリ

七十人第二定員会



ローウェル・M・スノー  
 ボール・K・ジブラウスキー  
 ケント・D・ワトソン  
 ロバート・S・ウッド  
 ウォルフガング・H・ホル  
 ケント・F・リチャーズ  
 クレイト・W・マスタ・ジュニア  
 ジョージ・W・マスタ・ジュニア  
 ジョージ・W・シグワフ・ワイ  
 ヨルゲ・F・ゼロバ  
 ランス・B・ウィックマン  
 F・マイケル・ワーカー  
 ウィリアム・R・ワーナー  
 フランシスコ・J・ペーナス  
 オクタビオ・テプリオ  
 ティモシー・A・テイシェラ  
 マイク・ジョン・U・ター  
 ラファエル・E・ピノ  
 リチャード・J・メインズ  
 ジョーン・M・マドセン  
 ボル・B・ハイバー  
 アンソニー・D・ハーベンス  
 コラリス・D・シビック  
 クラウチタイ・D  
 ウィルヘルム・C・エツジラー  
 第一顧問  
 リチャード・C・バートン  
 管理ビショップ  
 H・バートン  
 キー・B・マクマリ



総大会に参加するため、世界中の末日聖徒が集まった。写真——左下から時計回りに、フィジーのスバ、ルーマニアのクルージュ・ナボカ、ロシアのモスクワ、メキシコのドゥランゴ州ベルメホ、メキシコのアオハカ州フチタン、ブラジルのサンパウロ、ポーランドのワルシャワの会員。

# キリストの弟子として 歩む道

大管長会第二顧問

ディーター・F・ワークトドルフ管長

今こそ、イエス・キリストの福音を受け入れ、主の弟子となり、主の道を歩む時です。



今日はキリスト教の世界では、伝統的に「シュロの聖日」と呼ばれる日です。イエス・キリストは地上での生涯の最後の週に、エルサレムの町へお入りになりました。約2,000年前の日曜日のことです。<sup>1</sup>ゼカリヤの昔の預言が成就され<sup>2</sup>、イエスがロバに乗られると、多くの人々が主にあいさつし、シュロの葉や、花が咲いた枝、そして自分の上着さえも主が進まれる道の上に敷きました。主が近づかれると、人々はこう叫びました。「主の御名によってきたる王に、祝福あれ。」<sup>3</sup>「ダビデの子に、ホサナ。」<sup>4</sup>

恐らく弟子たちは、これが転機、すなわちユダヤの世界がついにイエスを長い間待ち望んだメシヤであると認めた瞬間だと考えたでしょう。しかし救い主は、その

称賛と喝采の多くは長く続かないことを御存じでした。間もなく、オリブ山に登り、ゲツセマネの園でただ独り、世の罪を背負うことになると思っておられたのです。

## イエス・キリストの福音

「シュロの聖日」から復活祭の朝までのこの週に、わたしたちが光と命と愛の源であるイエス・キリストに思いをはせることは、実にふさわしいことです。エルサレムの群衆は主を、政治的な弾圧から解放してくれる偉大な王であられると見なしたことでしょう。しかし、実際には、主はそれ以上のものをわたしたちに与えてくださいました。値段のつけられない高価な真珠であり、知識の大いなる鍵である主の福音を与えてくださったのです。それを理解し、実践するなら、幸福と平和と充実感に満ちた人生の扉を開いてくれます。

福音はキリストについてのよきおとずれです。神の御子が地上に来て、完全な生活を送り、わたしたちの罪を贖い、死に打ち勝たれたという啓示です。また、それは救いの道、希望と喜びの道、神は御自身の子供たちのために贖いと幸福の計画を用意しておられるという安心を与えてくれる道なのです。

福音は弟子として歩む道です。わたしたちはその道を歩むとき、危機や悲しみ、不安のときにあっても、確信と喜びを持つことができます。

## この世の道

今日、多くの人が生計を立てることにについて不安を抱えています。将来について心配し、直面する問題を解決する自分の能力に疑問を抱えています。多くの人が個人的な不幸や悲しみを経験し、人生の意味や目的を知りたいと渴望しています。

こうした問題に対する関心が非常に高いので、この世は臆することなく、わたしたちが直面する問題への様々な新しい答えを提示しています。人々は魂の叫びに答えてくれるものを見つけようと、次々と新しいアイデアを試しています。セミナーに出席し、本やCD、その他の製品を購入しています。何か新しいものを見つける興奮の渦に巻き込まれてしまいます。ところが必ず、新たな理論への興奮がさめてしまうと、前に流行した方法でできなかったことが可能になると約束する、「新たに改善された」解決法がそれに取って代わるだけなのです。

こうしたこの世の選択肢に真理の要素が含まれていないわけではありません。含まれているものも多くあります。しかし、それらは皆、人生で求められている永続的な変化をもたらすことはありません。興奮がさめると、むなしい思いが残ります。すると人々は、幸福の秘訣を教えてくれる、次の新しいアイデアを探し求めるのです。

それとは対照的に、イエス・キリストの福音にはわたしたちのすべての問題への答えがあります。福音は秘訣ではありません。複雑でもなく、隠されたものでもありません。福音は真の幸福への扉の鍵を開けてくれるのです。だれかの理論や主張でもなく、人が生み出したものではまったくありません。宇宙の創造主の永遠にされることのない清い泉からわき出るものです。主は、人にはどうも理解できない真理を知っておられます。そのような知識をお持ちの創造主が福音を与えてくださったのです。それは神からの贈り物、幸福と成功への究極の公式です。

## イエス・キリストの弟子になるにはどうしたらよいでしょうか

イエス・キリストの福音の卓越した真理



を聞くと、わたしたちのうちに希望と信仰の花が開き始めます。<sup>5</sup> 復活されたキリストのメッセージで心と思いを満たせば満たすほど、主に従い、主の教えを实践したいという願いがふくらんできます。そして、信仰が深まり、キリストの光が心を照らすようになります。そうすると、自分の生活の不完全さに気づき、気のめいる罪の重荷から清められたいと願います。罪から解放されることを切望するようになると、悔い改めるよう促されるのです。

信仰と悔い改めはバプテスマの清めの水へ導きます。バプテスマでわたしたちはイエス・キリストの御名を引き受け、主の道を歩むことを聖約します。

聖められた生活を送る願いを持ち続けるために、わたしたちは火のバプテスマ、すなわち言葉で言い表すことのできない聖霊の賜物を頂きます。聖霊は正義の道を歩むわたしたちの傍らにいて導いてくださる、天の慰め主です。

神の御霊に満たされれば満たされるほど、わたしたちはほかの人に手を差し伸べるようになります。家庭と家族にとっては平和を作り出す人となり、あらゆる所に

いる同胞を助け、親切と赦し、寛容と忍耐の心をもって憐れみ深い行いをします。

これは充実した人生の真の道を歩む最初のステップです。イエス・キリストに従う者が歩む平穏な道です。

### 忍耐の道

しかしながら、それは手っ取り早く、一夜にして解決する方法ではありません。

最近ある友人から手紙をもらいました。証を強くいきいきと保つことが困難であると打ち明け、助言を求めてきたのです。

わたしはこの友人に返事を書き、回復された福音の教えにっそう従うよう生活を整えるためにできる具体的な事柄を、愛情を込めて幾つか提案しました。驚いたことに、わずか1週間後に返事が来ました。その手紙の要旨はこのようものでした。「提案されたことを試してみましたが、うまくいきませんでした。ほかにどんな提案がありますか。」

兄弟姉妹の皆さん、長く続けなくてはなりません。永遠の命を得るのは、短距離レースではありません。忍耐という長距離レースなのです。神聖な福音の原則

を繰り返し応用し、日々、生活の一部とする必要があります。

朝、畑にトウモロコシの種をまいて、夕方には実がなることを期待する農夫のように、福音をとらえてしまうことが往々にしてあります。アルマは神の御言葉を種にたとえ、種が生長し、「信仰と熱意と忍耐と寛容」<sup>6</sup>の成果として次第に実を結ぶと説明しました。確かに、祝福が直ちに來ることもあります。心の中に種を植えて間もなく、種がふくらんで芽を出し、生長し始めると、その種が良いものであることが分かります。弟子として歩む道に足を踏み入れたまさにその瞬間から、目に見えるか否かにかかわらず、神から祝福を受けるようになります。

しかし、「その木に構わず、養い育てることに心を配らなければ」<sup>7</sup>、完全な祝福を受けることはできません。

種が良いものであることを知るだけでは十分ではないのです。「木が根付く」ように、十分に注意して養いを与え[る]」<sup>8</sup>必要があります。そのとき初めて「どんな甘いものよりも甘く、……どんな清いものよりも清い」実を食べ、「満ち足りるまでその実を食べ、もう飢えることも、渴くこともな[く]」<sup>9</sup>なるのです。

弟子として歩む道は長い旅路です。わたしたちの人格を練り、心を清めるためには、精練の教えが必要です。忍耐強く弟子の道を歩むことにより、わたしたちの信仰の強さと、自分の意思ではなく神の御心を喜んで受け入れる気持ちの深さを自分自身に示すのです。

単にイエス・キリストについて語り、主の弟子であると宣言するだけでは不十分です。わたしたちの宗教の象徴を身の回りに並べるだけでは不十分です。弟子になることはスポーツ観戦ではありません。テレビのスポーツ番組を見ながらソファに座って選手に助言をしているだけでは、健康の恩恵に浴することはできません。それと同様、何もせずに傍観するだけでは、信仰の祝福を期待することはできません。にもかかわらず、「観客席の弟子」になる方を好んだり、それを信仰生活の基本的な姿勢としたりしている人もいます。

わたしたちの宗教は、他人任せの宗教ではありません。ほかの人の善い行いを傍観するだけで、福音の祝福を受けることはできません。傍観者でいるのではなく、人に教えたことを自分で実行する必要があります。

### 道はすべての人に開かれる

弟子として歩む道の最初の一步を踏み出すのは、幸いなことに、自分が今立っているその場所からです。最初の一步を踏み出すのに、前もって資格を得る必要はありません。金持ちであろうと貧乏であろうと関係ありません。教育、雄弁、知性などの条件もありません。完全であることも、評判が良い必要もありません。礼儀をわきまえている必要さえないのです。

皆さんもわたしも今日から弟子としての道を歩むことができます。謙虚になり、心から天の御父に祈り、御父に近づき、御父について学びたいという願いを表しましょう。信仰を持ってください。求めれば、与えられ、門をたたけば、開けてもらえるのです。<sup>10</sup> ほかの人に仕えることにより、主に仕えてください。ワードや支部に活発に集ってください。福音の原則に従って生活すると決意することによって、家族を強めてください。結婚生活と家族生活において心と思いを一つにしてください。

今こそ、神殿の推薦状を持てるように生活を整え、それを使う時です。今こそ、有意義な家庭の夕べを行い、神の御言葉を読み、真剣な祈りを通して天の御父に語りかける時です。主の教会の回復、生ける預言者、モルモン書、わたしたちの生活を祝福する神権の力に対する感謝の念で心を満たす時です。今こそ、イエス・キリストの福音を受け入れ、主の弟子となり、主の道を歩む時です。

過ちを犯したことがあるために、もはや福音の祝福に十分あずかることはできないと思込んでいる人がいます。そういう人は主の目的をほとんど理解していません。福音に従って生活する大きな祝福の一つは、そのような生活によってわたしたちが精錬され、過ちから学べるようになることです。「すべての人は罪を犯したた



め、神の栄光を受けられなくなって」います。<sup>11</sup> しかし、イエス・キリストの贖罪には、わたしたちが悔い改めるなら、傷のない者にしてくれる力があるのです。

わたしたちの愛する友、ジョセフ・B・ワースリン長老はこの原則を分かりやすく教えています。

「欠陥だらけの自分でも、天の御父が愛してくださっていると知っているわたしたちは、何と祝福されていることでしょうか。御父の愛は深く、わたしたちが自分自身を見捨てたとしても、御父は決してお見捨てになりません。

わたしたちは自分自身の過去と現在の姿を見ますが、天の御父は永遠という観点から御覧になります。

イエス・キリストの福音は変化の福音です。この福音は、地上の存在であるわたしたち人間を精錬し、永遠の存在へと変

化させます。」<sup>12</sup>

理由は何であれ、主の弟子として歩む道を離れている人々にお勧めします。今いる所から出発し、イエス・キリストの回復された福音に戻って来ててください。主の道をもう一度歩んでください。主があなたの生活を祝福し、人知をはるかに超えた知識と喜びを与え、御霊という、神の賜物を注いでくださることを証します。いつでも主の道を歩み始めることができます。決して遅すぎることはありません。

これまで教会員として生活してこなかったためにふさわしくないと感じている人、失われた時を埋めることはできないと感じている人に証いたします。主はあなたの特別な能力、才能、技能を必要とされています。教会はあなたを必要としています。わたしたちにはあなたが必要なのです。いつでも主の道を歩み始めること

ができます。決して遅すぎることはありません。

### 主の弟子であることの祝福

復活祭の時期のこの「シュロの聖日」に、そしていつも、わたしたちの主である救い主イエス・キリストの回復された福音には、むなしさを満たし、傷を癒し、悲しみの谷に橋をかける力があることを心にとどめましょう。福音は希望と信仰と主への信頼の道です。イエス・キリストの福音は、末日聖徒イエス・キリスト教会で完全に教えられています。この教会は、生ける預言者によって導かれています。預言者は、ますます困難になる今日の問題に対処するための導きを与えるよう、主イエス・キリストから権能を受けています。

イエス・キリストが生きておられることを厳粛に証します。主は世の救い主であり贖い主であり、約束されたメシヤです。主は完全な生活を送り、わたしたちの罪を贖ってくださいました。主はいつもわたしたちのそばにおられ、わたしたちの闘いをともに闘ってくださいます。主はわたしたちの希望であり、救いであり、道です。これらのことをイエス・キリストの聖なる御名により証します、アーメン。

### 注

1. マタイ21:6-11 参照
2. ゼカリヤ9:9 参照
3. ルカ19:38
4. マタイ21:9
5. ローマ10:17 参照
6. アルマ32:43
7. アルマ32:38
8. アルマ32:37
9. アルマ32:42
10. マタイ7:7参照
11. ローマ3:23
12. ジョセフ・B・ワースリン「いちばん大切な戒め」『リアホナ』2007年11月号、29参照

# 主のみもとに来なさい

## 十二使徒定員会

ニール・L・アンダーセン長老

**わたしは、聖霊の力によって、イエスがキリストであり神の愛子であられることを、完全に、はっきりと知っています。**



**世**界中の愛する兄弟姉妹、ひざの震える思いがし、気持ちは高ぶっています。皆さんへの愛を伝え、支持してくれた皆さんに心から感謝します。実に多くの面で自分の至らなさを感じ、へりくだる思いがします。

聖なる使徒職を受けるために不可欠な資格の一つに関しては、わたしは慰めを感じています。主はこれをわたしに恵んでくださいました。わたしは、聖霊の力によって、イエスがキリストであり神の愛子であられることを、完全に、はっきりと知っています。

トーマス・S・モンソン大管長よりも愛の深い人はいません。大管長は、真昼の太陽のような温かさを備えています。しかし、皆さんも想像できると思いますが、大管長がこの神聖な召しをわたしに伝えたとき、わたしは圧倒されるような厳粛さに包まれました。神の預言者の目によって、心

の奥底までも見詰められたように感じました。しかし幸いなことに、モンソン大管長が愛に満ちた長い腕でわたしを包んでくれたとき、わたしが主と主の預言者から感じた愛を皆さんも想像できるでしょう。

わたしを知っている皆さん、皆さんの前でわたしに足りない点があったとすれば、皆さんの救いと忍耐を請いたいと思います。わたしには、皆さんの信仰と祈りがどうしても必要です。

わたしは、なるべき自分になれていないことを承知しています。自分が、主の教えと訓戒を喜んで受け入れ、従っていくことができるよう祈っています。昨晚の神権部会でモンソン大管長が話した、主は重荷を背負う肩を強めてくださるという言葉に慰めを感じます。

16年前、中央幹部に召されたばかりのとき、ステーキ大会でボイド・K・パッカー会長に同行し、忘れられない話を聞きました。会衆に向けて話しながら、パッカー会長はこう言いました。「わたしは自分の身の程をわきまえています。」それから少し間を置いてこう続けました。「わたしは取るに足りない人間です。」次に、壇上で彼の後ろに座っていたわたしの方を向くと言ったのです。「アンダーセン兄弟、あなたも取るに足りない人間です。」そしてこう付け加えました。「このことを忘れるなら、主はすぐに思い起こさせてくださるでしょう。あまりうれしくない経験を通してですが。」

忠実な教会員の皆さんに心からの感謝を伝えます。若いころフランスで伝道し、イエス・キリストの福音にあらゆる面で献





身していた会員たちを見て、わたしは自分の証あかしが大きく育つあかつを感じました。

これまでの20年のうち10年を、教会の割り当てを果たすために合衆国以外の国で暮らしました。母国を離れ、異なる言語の国々で、神の力が皆さんの生活に現れるのを見てきました。イエス・キリストの回復された福音を信じる偉大な家族である皆さんは何とすばらしい人々でしょう。

主は、とてもお返しのできないような方法でわたしを祝福してくださっています。この地上にいる天使の一人と結婚させてくださいました。完全な清さと純粋さを備えた妻のキャシーは、わたしの光であり、模範であり、貴い神の娘です。妻がいなければわたしには何の価値もありません。わたしは人生の大半を、彼女の期待にこたえられるように努力してきました。

20年前、4人の子供がまだ小さかったとき、わたしたち家族はフランスで伝道するよう召されました。この召しとその後に受けた召しで、子供たちは、安定を必要とした年ごろに町から町、大陸から大陸へと移り住むことになりました。主は、子供たちを豊かに祝福され、今ではそれぞれが

すばらしい伴侶ほんりよと最高の子供たちに囲まれています。わたしのために子供たちが示してくれた善良さと犠牲に感謝しています。また、母が今日この会場に来ていますが、忠実な両親きょうに、そしてこれまでの人生でわたしのために尽くしてくださったすべての人に感謝します。

七十人の兄弟たちに心からの敬意と愛を伝えます。彼らを実の兄弟のように愛しています。わたしたちのきずなと友情は、この世界だけにとどまらず、とばりの向こうまで続くことでしょう。

これまでの16年間、大管長会と十二使徒はわたしの模範であり、教師でした。彼らの高潔さと義から学んできました。この長い年月にわたって、彼らが分別なく怒ったり、自分の利益や物質的なものを得ようとしたりするのを見たことはありません。地位を使って影響力や権力を求めるのを見たこともありません。

むしろ、わたしは彼らの持つ、妻子への思いやりと誠実さを見てきました。天の御父と御子への愛と確かな証を見てきました。たゆまず、第一に神の王国の建設を求める姿を見てきました。神の力が注が

れ、彼らが大いなる者とされ、支えられるのを見てきました。預言の言葉が成就するのを見てきました。神の権能により病人が癒いされ、国々が祝福されるのを見てきました。また、あまりに神聖なので詳しく言えないような出来事に、彼らとともに立ち会う機会にもあずかりました。大管長会と十二使徒が主の油注がれた者であることを証します。

ジョセフ・B・ワースリン長老が亡くなり、この召しにあずかることになりましたが、わたしの霊がワースリン長老の霊のようになればと祈っています。ワースリン長老のように、自分自身への注目などまったく求めず、最後の一息まで、救い主を証し、神の王国を打ち立てるためにすべてをささげながら、主の預言者が望むあらゆる場所へ行き、あらゆることを行いたいと願っています。

わたしたちの時代は、昔から待ち望まれていた時代です。聖文は「主が創世の前に定めかつ備えられた」事柄について述べています(教義と聖約128:5)。

数々の啓示は、これから起きる大いなる集合について述べています(2ニーファ



メキシコ、オアハカ州フチタン

イ10:7-8:3ニーファイ16:5参照)。イザヤは、主の家が山々の頂に建てられ、主の御声<sup>みこえ</sup>がそこから全世界に行きわたると預言しました(イザヤ2:2-3参照)。ダニエルは、教会は人手によらず山から切り出される石のようであると宣言しました(ダニエル2:34, 44-45参照)。ペテロは万物の更新について語りました(使徒3:20-21参照)。ニーファイは、小羊の教会の人々が、数においては多くないが、あらゆる地、あらゆる国民の中にいるのを見ました(1ニーファイ14:12, 14参照)。

わたしたちは、主の「驚くべき業と不思議」の時代に生きています(イザヤ29:14;2ニーファイ25:17参照)。わたしたちは恵まれて、福音を家族と子孫にもたらし、救い主の再臨に備えるのを助けることができます。主は、回復について、「世の光とし、また[わたしたち、すなわち主の]民……のための旗とし、さらに[主]に先立ち、[主]の前に道を備える使者とする」という目的があるとされました(教義と聖約45:9)。わたしたちの責任はささいなものではありません。わたしたちが今このように存在するのは偶然ではありません。この末日に聖約を守ることは、永遠にわたって名誉のしるしとなるでしょう。

わたしは世界中で主の御手が現れるのを見る特権にあずかってきました。わたしたちはソルトレーク盆地まで平原を歩いて渡った開拓者をたたえますが、現代

にははるかに多くの開拓者がいます。手車を押しはしません、非常に多くの点で昔の開拓者とまったく同じです。彼らも、モルモン書や個人の祈りを通して主の御声を聞いています。信仰と悔い改めにより、バプテスマの水に入り、福音という肥えた土壌にしっかりと根付いています。キリストの弟子である彼らは、正しくて真実なことのために喜んで犠牲を払ってきました。聖霊<sup>たまもの</sup>の賜物を受け、永遠の命に向かう道を着実に歩んでいるのです。

愛する兄弟姉妹、わたしたちは、自分が何者であるかを、そして何を与えられているかを心に留めなければなりません。善を行いたいと望むわたしたちは独りではありません。様々な信仰と信条を持つ素晴らしい人々が周りにいます。

天の御父に祈り、祈りへの答えを受けるわたしたちは独りではありません。わたしたちの天の御父は、御自身のすべての子供たちを愛しておられます。

より偉大な大義のために犠牲を払うわたしたちは独りではありません。無私<sup>み</sup>の心を持つ人々がいるのです。

わたしたちと同じようにキリストへの信仰を伝えている人はほかにもいます。世界中に、忠実<sup>み</sup>で心優しい父親と母親がおり、互いに愛し合い、子供たちを愛しています。わたしたちの周りの善良な人々から学べることはたくさんあるのです。

それでもわたしたちは、末日聖徒イエ

ス・キリスト教会だけにしかない、独特な事柄について恥じる必要はまったくありません。この教会にのみ、天の使者によって地上に回復された神の神権があります。この教会にのみモルモン書があり、聖書とともにキリストの完全な神性と福音を明らかにし、宣言しています。この教会にのみ神の預言者がいて、天からの導きをもたらし、地上でつなぐことを天でもつなぐ<sup>かぎ</sup>鍵を持っているのです。

この教会には神聖な使命があるということを知っているがゆえに、優越感を抱き、傲慢<sup>ごうまん</sup>になってはなりません。むしろ、なるべき人物になれるように、ひざまずいて主に助けを請うべきです。とはいえ「これはわたしの教会である。わたしがこれを設ける。……これを覆すものはない」という主の御言葉<sup>みことば</sup>を思い起こすのに臆<sup>おく</sup>する必要はありません(モーサヤ27:13)。

何よりもまず、わたしたちは救い主、贖<sup>あがな</sup>い主であるイエス・キリストについて宣言します。今頂いているすべて、そしてこれから頂くすべてについて、わたしたちは主に負債を負っています。主の尊厳を畏敬<sup>いけい</sup>の念をもって仰ぎ見るわたしたちに、主は遠ざかりなさいとは言われません。むしろ、みもとに来るように命じておられます。「わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはい……るであろう。」(黙示3:20)

主の御言葉は世紀を越えて響きわたっています。

「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとひ死んでも生きる。

また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。」(ヨハネ11:25, 26)

兄弟姉妹、主は生きておられます。主は復活されました。そして地上での聖なる業を導いておられます。主の預言者はトーマス・S・モンソン<sup>み</sup>大管長です。イエス・キリストの御名によって証します、アーメン。

# 新たな人生を 歩み始める

七十人会長会  
スティーブン・E・スノー長老

**預言者に耳を傾け、永遠の観点を持ち続け、信仰を持ち、元気を出すことで、人生の予期せぬ困難に立ち向かうことができるのです。**



めのレーチェルがまだ幼かったころ、午前中を彼女の祖母と過ごすことがよくありました。その時間を通して、二人は特別なきずなで結ばれるようになりました。やがてレーチェルが5歳になり、幼稚園に入る準備をするようになりました。ともに過ごした最後の朝、スキアおばあちゃんは孫娘にお話を読んであげた後、大きなロッキングチェアに乗せて揺らしながら言いました。「今までほんとうに楽しい時間を一緒に過ごしたわね、レーチェル。もう幼稚園に行ってしまうのね。大好きよ。あなたがいないかったら、おばあちゃんはどうしたらいいかしら。」

レーチェルは、大きな茶色の目を見開いて彼女を見上げると、とても5歳とは思

えない知恵ある言葉を言いました。「おばあちゃん、わたしも大好きよ。でもわたし、新しい人生を始める時期なのよ。」

これはすべての人に役立つ勧告です。わたしたちも「新たな人生を歩み始める」必要があります。ほとんどの人は、劇的な変化を求めようとも、歓迎しようともしません。しかし、変化は人生の経験で欠かせない一部なのです。

変化の多くは、地上での旅路を歩む中で自然に訪れます。子供時代から青年期、壮年期、そして最後に老年期へと移行する中で、生活は変化していきます。学校、伝道、結婚、就職、定年などは、いずれも人生の重要な節目です。

あまりに多くの場合、わたしたちは、次の段階に進むことや、次の困難に取り組むことをためらいます。満足しすぎているか、恐れすぎているか、あるいは信仰に欠けすぎているのかもしれませんが、おばあちゃんのひざの上にいる方が、幼稚園で苦勞するより快適なこともしばしばです。両親の家に住んでテレビゲームをしたい放題という状況は、大学や結婚や就職よりも、魅力的なのでしょう。

人生を歩んでいく中で必ず直面せざるを得ない変化に対して、どうしたら最もよく備えられるでしょうか。

第1に、預言者に従ってください。指導者の勧告に耳を傾け、従ってください。多くの場合、預言者は警告の声を上げますが、それだけでなく、人生の嵐あらしに堪えられ

るように、堅実で現実的な勧告も与えてくれます。教義と聖約の第1章で、主は「わたし自身の声によろうと、わたしの僕しもべたちの声によろうと、それは同じである」とおっしゃいました(教義と聖約1:38)。預言者たちは、わたしたちが常に直面する変化や困難に立ち向かえるように助けてくれます。よく歌われる初等協会の歌、「預言者にしたがおう」は、この大切な原則を思い出させてくれます。「たしかな道歩むために、耳かたむけたがおう 主の預言者とく教え」(『子供の歌集』59)

第2に、永遠の観点を持ち続けてください。変化や困難は神の計画の一部であることを理解してください。この地上での生活は試しの時期、つまり「主なる彼らの神が命じられるすべてのことを彼らがなすかどうかを見[る]」ための期間なのです(アブラハム3:25)。神から与えられた選択の自由をどのように使うかを試すために、死すべき存在であるわたしたちは人生で様々な変化や困難、試練や誘惑を経験します。そうしてこそ、試されていると言えるのです。ニーファイ第二書にはこう記されています。「それは、すべての事物には反対のものがなければならないからである。……もし事物に反対のものがなければ、義は生じ得ないし、邪悪も、聖さも惨めな状態も、善も悪も生じ得ない。」(2ニーファイ2:11)

人生における困難や変化は、わたしたちが選択の自由を使って義にかなった選びをするなら、成長する機会となります。

第3に、信仰を持ってください。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は教会員に信仰をもって前進するように常に勧めました。「(神がわたしたちにくださったのは臆する霊ではなく……)『聖徒の道』1985年2月号、17参照)否定的な考えに満ちたこの世に日々立ち向かう中で、疑いや不安、恐れが心に入り込んできます。トーマス・S・モンソン大管長はわたしたちにこう勧告しています。「信仰と疑いが一つの心に同時に存在することはできません。どちらか一方が他方を払いのけるからです。」「(祈りと信仰により主のもとに来る)『リアホナ』2009年3月号、4)モロナイ書には「信仰の



ない希望はあり得ない」と記されています(モロナイ7:42)。人生における困難や変化に立ち向かうためには、信仰を行使しなければなりません。そうやって学び、進歩していくのです。

第4に、元気を出してください。世界中の多くの教会員が、経済的にもほかの面でも困難に直面しています。そんなとき、落胆し、見捨てられた気分になるのは簡単です。教会初期の困難な時代、主は聖徒たちに喜んでるようにと勧告されました。「幼い子供たちよ、元気を出しなさい。わたしはあなたがたの中におり、あなたがたを見捨てていないからである。」(教義と聖約61:36)

ジョセフ・B・ワースリン長老は、彼にとって最後となった半年前の総大会で、逆境に対処する方法について教え、次のように勧めました。「今度不満の声を上げなくなったら、代わりに笑ってみてください。そうすれば皆さんの寿命も延び、周りの人の生活ももっと明るくなります。」(「どんな出来事も愛しなさい」『リアホナ』2008年

11月号、27) 笑いの良いユーモアのセンスは人生の旅路の苦難を和らげてくれるのです。

一生で起こるあらゆる変化を予測できたら、どんなにいいでしょう。変化の中には近づいて来るのが見えるものもあります。すべての末日聖徒の若い男性は、伝道という、人生を大きく変える経験に備えるように教えられています。すべてのふさわしいヤングシングルアダルトは、伴侶を選び、聖なる神殿で結び固めを受ける大切さを理解していることでしょうか。このような変化は近づいて来るのが分かりますし、計画することができます。しかし、不意にわたしたちを襲って来るような変化についてはどうでしょう。このような変化をコントロールすることはできないように思えます。経済不況、失業、重い病気やけが、離婚や死などは、期待もされなければ、歓迎もされない変化の例です。人生の旅路で、そのような予測していなかった困難にどのように対処すればよいのでしょうか。

答えは同じです。預言者に耳を傾け、永遠の観点を持ち続け、信仰を持ち、元気を出すことで、人生の予期せぬ困難に立ち向かい、「新たな人生を始める」ことができるのです。

初期の開拓者たちの生活は、どのように変化を受け入れ、問題や苦難を克服すればよいかを示してくれる、すばらしい模範です。

ロバート・ガードナー・ジュニアは1845年1月、カナダ東部の森林の中の、凍った池でバプテスマを受けて教会に入りました。忠実で勤勉だった彼は家族とともにノーブーに向かい、多くの困難を経て、1847年10月にソルトレーク盆地に到着しました。盆地に入った後、今このカンファレンスセンターが立つ位置から数ブロック先にあったオールド・フォートという場所に野営しました。彼は日記にこう記しています。「わたしは牛のくびきを外し、手車の壊れた柄に腰かけて言った。『もう1日だって進むことはできなかっただろう。』」(“Robert Gardner Jr. Self History and Journal,” 教会歴史図書館, 23)

ロバートは、何も無い状態から始め、自分と家族のために新しい生活を切り開いていきました。最初の数年は大変でしたが、ロバートと兄のアーチボルドがミルクリークとジョーダンリバーに製粉所を建て始めてから状況は次第によくなっていきました。数年後、幸運の歯車は狂い始めました。製粉所の動力だった水の流れが上流で変わったため、彼の土地に流れていた水が干上がってしまったのです。製粉所まで6マイル(約10キロ)近い用水路を築こうとしましたが、失敗に終わりました。

日記にはこうあります。「用水路は、すぐに水が流れ出てしまい、結局失敗に終わった。そのため、穀物は全滅、製粉所も立ちゆかなくなった。貯金を使い果たし、完全に一文無しになってしまった。」(“Robert Gardner Jr. Self History and Journal,” 26)

それでも試練が十分でなかったかのよう、彼の日記には続けて、カナダに伝道に召されたことが記されています。数か月後、家族のもとを離れ、宣教師の一行と

ともに旅立った彼は、手車、蒸気船、そして鉄道と乗り継いで、伝道地に赴いたのです。

伝道を終えた彼は家族のもとに帰り、熱心に勤勉に働き、再び生活を築き上げ、繁栄し始めました。

2、3年後、ガードナー兄弟が、ソルトレーク盆地のミルククリークにある自分の農場に友人たちを呼んでもてなしたとき、友人の一人からこう言われました。「無一文だった君がこんなに豊かになって、うれしいよ。今では、持ち物をすべて失って伝道に出る以前の状況と、あまり変わらないほど裕福になったじゃないか。」

日記にはこう書かれています。「わたしは答えた。『ああ、以前は裕福だったが、すべてを失った。また〔伝道の〕召しが来るんじゃないかとひやひやしているよ。』実際、その数時間後、ソルトレーク・シティでの集会に出席していた近所の数人が立ち寄って伝えてくれたことには、南部に新しい土地を開拓し、綿を栽培するために今日召された人々の中にわたしの名前があったと言う。すぐにも出発しなければならない。』彼はこう記しています。「わたしは彼らを見ると、帽子をぬぎ、〔頭を〕かきながら考え、そして言った。『承知しました。』」(“Robert Gardner Jr. Self History and Journal,” 35; 強調付加)

ロバート・ガードナーは、人生の変化に対処するとはどういうことかを知っていました。指導者の勧告に従い、自分にとって不都合と思われるときにも、奉仕の召しを受け入れました。すばらしいユーモアの精神と徳を備えた彼は、主を心から愛し、強く、揺らぐことのない信仰を行いに表しました。ロバート・ガードナー・ジュニアは指導的な開拓者となって、ユタ州南部の入植に尽力しました。彼は、自分と同じような数え切れないほど多くの開拓者と同様、人生で起こる様々な変化や困難に、続けて、ひるむことなく立ち向かうように、わたしたちに靈感を与えてくれています。わたしたちたちが前進し、「新たな人生を始める」ときに、従順で、忠実で、快活でいられるように祈っています。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

# 主の手近し

中央扶助協会会長会第二顧問  
バーバラ・トンプソン

**わたしたちは、信仰と個人の義を増し加えることを求め、家庭と家族を強め、主とその子供たちに仕えます。**



「確かなれ、サタンは汝れの務めを知り、試みんとげの道に主の手近し、悪魔は主に逆らえず、悪魔は主に逆らえず」<sup>1</sup>

これは人生で何が起ころうともイエス・キリストは救う力を持っておられるというメッセージです。自らの神聖な犠牲を通して主は、わたしたちが永遠の命を得られるよう道を備えてくださいました。まさに主の業とは、「人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと」<sup>2</sup>です。永遠の命へ導く事柄を助け合いながら実行できるよう、主はわたしたちの力を求めてこられました。

去年9月の中央扶助協会集会でベック姉妹は、永遠の命を得るという目標を達成する助けとして3つのことを挙げました。それは次のとおりです。

1. 「信仰と個人の義を増し加える。」
2. 「家族と家庭を強める。」
3. 「主に仕え、主の子供たちに仕える。」<sup>3</sup>  
これには、貧しい人や困っている人を探し出して世話をするという意味もあります。

これらのことを行おうと努力するとき、サタンは誘惑し、試そうとすることをわたしたちは知っています。しかし、主はわたしたちを強め、助けると約束されました。<sup>4</sup>

## 信仰と個人の義を増し加える

子供のころ両親から、天の御父とイエス・キリストがわたしを愛してくださっている

**何**年も前に扶助協会中央管理会で奉仕していたとき、扶助協会の指導者と神権指導者を教えて訓練する割り当てを受けました。その日の午前中はほかの町で教えていましたが、その後に控えていた訓練集会の開会にちょうど間に合いました。

わたしは、開会の歌と祈りの後、最初に話すことになっていました。開会の歌は「時過ぎて」と発表されました。

それは聞き覚えのない題名で、開会の歌にしてはおかしな歌だと思いました。わたしがまだ話をしないうちに、もう「時過ぎて」と歌うのですから。

歌い始めるとすぐに、これが、福音のメッセージを広めて人をキリストのもとに導く時間が少ないことを意味しているのだと分かりました。4番の歌詞はその日の夜も、そしてそれから後、何度もわたしの心をよぎりました。歌詞には次のようにあります。



と教わりました。また、自分は「神の子」<sup>5</sup>であることを教わりました。このことを知らない時期はありませんでした。両親はイエス・キリストがわたしたちの救い主であられ、ただイエスを通じてのみわたしたちは救われると教えてくれました。<sup>6</sup>

また、信仰を増すためには毎日祈る必要があるとも教わりました。実際、常に祈ることが必要でした。<sup>7</sup> 聖文を読み、研究すると、福音が真実であるという知識と証<sup>あかし</sup>が大きくなると教わりました。神を愛し、その戒めを守ることによってその愛を神に示すことができると教わりました。<sup>8</sup> 神殿の大切さを学んだのも子供時代です。青少年になると、神聖な神殿の聖約を交わして守ることで、永遠の命への道にとどまることができると学びました。

わたしたち一人一人が、信仰と個人の義を増し加えるために生涯を通じてこれらの原則に従わなければなりません。

### 家族と家庭を強める

家族と家庭を強めることは、わたしたち一人一人の責任であり、祝福です。家族の状況はそれぞれ異なっています。父親、母親と子供たちがいる家族もあれば、家にはもう子供がいない家族もあります。独身の教会員も多くいますし、独りで子供を育てている人たちもいます。伴侶に先立たれ、独り暮らしの人もいます。

家族の形態がどうであれ、わたしたちは皆、自分の家族を強め、ほかの人たちの家族を強める助けができます。

例を挙げて、家族を強める方法を幾つか説明します。わたしがアイダホ州ボイスで、ある割り当てを受けていたときのことです。土曜午後の訓練集会后で、めいの家族の家に泊まりました。

その夜、子供たちが寝る前に、短い家庭の夕べと聖文のお話がありました。リーハイの家族について、そしてリーハイが子供たちに、神の御言葉である鉄の棒にしっかりつかまっていなければならないと教えたことについて、<sup>9</sup> 父親が話しました。鉄の棒につかまることで、安全で、喜びと幸福に導かれます。でも鉄の棒を手から離せば、汚い川でおぼれる危険がありました。

これを子供たちに説明するために、母親は「鉄の棒」になって子供たちをつかまらせ、悪魔役の父親は子供たちを安全と幸福から引き離そうとしました。子供たちはこの話をとても気に入り、鉄の棒につかまることの大切さを学びました。

聖文のお話の後には、家族の祈りの時間でした。母親は子供たちに、重い目の病気を抱えているビショップのためにお祈りするのよ、と言いました。その夜は3歳のブルックリンがお祈りをしました。彼女はたくさんの祝福に感謝すると、次に「ビショップの目がよくなるように祝福してください」と熱烈なお願いを天の御父にしたのです。

翌朝聖餐会<sup>せいさん</sup>に行き、席に着きました。ブルックリンと5歳になる姉のケネディーが壇上を見上げると、そこに立っているビシ

ョップが見えました。二人はビショップを指さし、興奮しながら母親に言いました。「見て、ビショップよ。」二人は互いに顔を見合わせていましたが、それは「わたしたちが祈ったから、ビショップはよくなったのよね」と言っているようでした。二人は、天の御父が謙遜な祈りを聞いてくださることを知っていて、信仰をもって祈ったのです。

聖文と家庭の夕べと家族の祈りは家族を強めます。あらゆる機会をとらえて家族を強め、皆が正しい道にとどまれるよう互いに助け合う必要があります。

### 主と主の子供たちに仕え、貧しい人や困っている人を探し出して世話をする

救い主は、地上におられた間を通じて、互いに関心を寄せ合い、助け合うよう教えられました。病人を癒し、歩けない人を歩けるようにし、見えない人の目を見えるようにし、耳の聞こえない人を聞こえるようになさいました。人々に福音を教えられました。人々を祝福し、多くの力ある奇跡を行われました。<sup>10</sup>

困っている人を助ける機会はあるところにあります。だれの人生にも何らかの形で貧しい時があり、ほかの人の助けが必要ではないでしょうか。それは「わたしたちは皆、物乞い」<sup>11</sup> だからです。

スベンサー・W・キンボール大管長は言いました。「神はわたしたちを心にかけ、いつも見守っておられます。しかし、普通の場合、わたしたちの必要は第三者を通して満たされます。したがって、わたしたちは互いに奉仕し合うことが大切です。」<sup>12</sup>

去年の夏、家を留守にしていたときです。わたしの住んでいた地域が暴風雨に見舞われ、隣の家から倒れてきた大木が我が家の庭を覆い、送電線をなぎ倒しました。損傷箇所を修理して電気を回復させるためには、木をどけなければなりませんでした。

朝早く弟に電話すると、彼は道具を見つけてできるだけ早く来るよう計らってくれました。ビショップにも電話しました。数分のうちに、ビショップ、ホームティーチャー、前のステーキ会長、それにワードか

ら10人の男性がチェーンソーを手に集まり、素早くこの災難の後始末をしてくれました。夜には訪問教師が食事を持って来てくれました。それから数日間は夕方になると、大祭司グループと長老定員会、それに近所からさらに大勢の男性が来て、散らかっていたものを片付けるわたしたち家族の手伝いに来てくれました。

このとき、わたしは困っていました。ほかの人の助けを必要としていました。落胆していた気持ちは喜びと感謝に変わりました。わたしは自分が愛されて気遣われていることを感じました。彼らは困っている人を素早く見つけました。自らの証に従って生活し、聖約が真実であることを示してくれました。

教会の本部には、洪水やハリケーン、地震などの災害で皆さんの奉仕を受けた、教会員ではない人たちからの感謝の手紙がよく届きます。いつも進んで奉仕し、愛し、与えているイエス・キリストの真の弟子である皆さんに感謝します。

信仰と個人の義を増し加え、家族と家庭を強め、そして主と主の子供たちに仕えようとするとき、わたしたちは「〔自分たちの目的において〕確か」<sup>13</sup> でいなければなりません。サタンはわたしたちの努力を妨害するでしょう。でも、イエス・キリストと主の贖いの犠牲の力によって、わたしたちは主の御心を行うことができ、その過程でわたしたちの力が強められることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。



注

1. 「時過ぎて」『賛美歌』169番
2. モーセ1:39
3. ジュリー・B・バック「扶助協会の目的を達成する」『リアホナ』2008年11月号, 108-111参照
4. イザヤ41:10-14参照
5. 「神の子です」『賛美歌』189番
6. モーサヤ3:17参照
7. 3ニーファイ18:15, 18-19; 教義と聖約10:5参照
8. ヨハネ14:15参照
9. 1ニーファイ8:2-37参照

10. マタイ4:23; 9:35; ルカ4:40; ヨハネ2:23; モーサヤ3:5; 3ニーファイ17:7-9; 26:15; 教義と聖約35:9参照
11. モーサヤ4:19
12. スペンサー・W・キンボール「豊かで満ち足りた人生」『聖徒の道』1979年6月号, 3
13. 「時過ぎて」『賛美歌』169番

# だれも主とともに いなかった

十二使徒定員会  
ジェフリー・R・ホランド長老

**カルバリでの出来事のおかげで、たとえ孤独を感じるがあっても、決して独りではなく、助けの手が差し伸べられるという真理をわたしたちは知っています。**



トンプソン姉妹、ありがとうございます。この教会のすばらしい姉妹たちに感謝します。兄弟姉妹、復活祭の季節に当たり、今日のわたしの話はすべての人に向けたものですが、特に孤独な人、孤独を感じている人、さらには見捨てられたと感じている人に向けて話します。その中には、結婚を待ち望んでいる人、伴侶を失った人、子供を亡くした人、そして子供に恵まれない人たちが含まれるかもしれません。またわたしたちは、夫に見捨てられた妻、妻が去ってしまった夫、親のどちらか一方を、あるいは両親とも失った子供たちのことも思っています。故郷を離れている兵士、伝道を始めてまだ数週間でホームシックにかかっている宣教師、失業し、不安な気持ちが家

族に知れることを心配している父親など、こうした人々は実に様々な状況に置かれています。つまりこの話は、人生で色々な経験をするわたしたち全員に当てはまるのです。

このような気持ちを抱いているすべての人に向けて、わたしは人類史上最も孤独な旅について、またそれによって人類家族のすべてにもたらされた尽きることのない祝福について話します。それは、わたしたちの救いという重荷を御一人で背負われた救い主の孤独な務めのことです。この孤独な務めについて、主はこう言っておられます。「わたしはひとりで酒ぶねを踏んだ。もろもろの民のなかに、わたしと事を共にする者はなかった。……わたしは見ただけでも、助ける者はなく、怪しんだだけでも、[わたしを]ささえる者はなかった。」<sup>1</sup>

先ほどのウークトドルフ管長のすばらしいお話にもあったように、聖文には、4月の第1週、過ぎ越しの前の日曜日、つまりまさに今日の朝と同じ日に、イエスがメシヤとしてエルサレムに入られたのは広く知られた偉大な出来事であったと記されています。しかし、イエスとともに歩み続けようとした人々の熱意はすぐにしぼんでしまいました。

間もなくイエスは、当時のイスラエル人指導者の前で訴えられました。最初に、先の大祭司アンナス、次に当時の大祭司カヤパのところへ連れて行かれました。

イエスをすぐにも裁こうとした人々と議会は早々と判決を下し、怒りを込めて宣言しました。「どうしてこれ以上、証人の必要があろう。」そして叫んで言いました。「彼は死に当るものだ。」<sup>2</sup>

それからイエスは、その地の異邦人支配者のもとへ連れて行かれました。ガリラヤの領主ヘロデ・アンティパスはイエスを1度尋問し、ユダヤのローマ人総督ポンテオ・ピラトは2度尋問しました。ピラトは2度目の尋問の後、群衆に向かって次のように宣言します。「おまえたちの面前でしらべたが、訴えているような罪は、この人に少しもみとめられなかった。」<sup>3</sup> 不当なうえに不合理でありながら、ピラトは「イエスをむち打ったのち、十字架をつけるために引きわたした。」<sup>4</sup> 水で洗ったピラトの手は、これ以上ないほどの汚れにまみれていたことでしょう。

宗教と政治の両方の指導者に否定されたイエスは、通りに群がる市民からも敵視されます。イエスとともに投獄されていたのが、「父の息子」<sup>5</sup> を意味するバラバの名で知られた人物であったのは、歴史の皮肉でしょう。バラバとはアラム語の名前または肩書きです。暴動を起こしたバラバは、まさしく神を冒瀆する者、殺人者でした。過ぎ越しの際に囚人を一人解放するという伝統に基づいて、ピラトは民衆に尋ねました。「ふたりのうち、どちらをゆるしてほしいのか。」民衆は「バラバの方を」と言いました。<sup>6</sup> つまり、神を信じない「父の息子」が解放された一方で、天の御父の真の御子が十字架の刑へと歩を進められたのです。

イエスの近くにいた人々も試練の時を迎えていました。その中で最も理解し難いのはイスカリオテのユダです。神の計画においてイエスが十字架におかかになることが必要であったことをわたしたちは知っています。しかし、イエスの足もとに座り、祈りを聞き、病人を癒されるのをその目で見て、主と触れ合った特別な証人の一人が、銀貨30枚でイエスを裏切り、キリストの役割や存在を裏切ったということは、考えても胸が痛みます。これほどわずかな金銭でこれほど恐ろしい汚名を買





った例は、この世界の歴史のどこにもありません。わたしたちはユダの行く末を裁く立場にありませんが、イエスは御自身を裏切った者についてこう言われました。「その人は生れなかつた方が、彼のためによかつたであろう。」<sup>7</sup>

もちろん、ほかの信者たちも難しい局面に立たされていました。最後の晩餐の後、イエスはペテロ、ヤコブ、ヨハネに待つように言い、ゲツセマネの園へ一人で入って行かれました。うつ伏せになって祈られたイエスは「悲しみのあまり死ぬほど」<sup>8</sup>でした。この耐え難い、残酷な杯を過ぎ去らせてくださるよう御父に願ったとき、その汗が血の滴りのように地に落ちた<sup>9</sup>と記録されています。しかし、もちろん杯を過ぎ去らせることは不可能でした。苦悩に満ちた祈りから戻られたイエスは、弟子の中でも高い地位にある3人が眠っているのを見て、こう尋ねられました。「あなたがたは……、ひと時もわたしと一緒に目をさましていることが、できなかつたのか。」<sup>10</sup> 同じことがさらに2度繰り返されました。そして3度目に戻られたとき、御自身は休息を取ることができないにもかかわらず、彼らに、今は眠り、休息を取りなさい<sup>11</sup>と優しく言葉をかけられました。

その後、イエスは捕らえられ、裁判にかけられます。イエスを知る仲間の一人であると訴えられたペテロは、1度ならず3度までも訴えを否定しました。わたしたちはそこで起きたことをすべて知っているわけではありませんし、使徒たちを守るために

主がひそかに与えておられたかもしれない助言についても知りません。<sup>12</sup> しかしわたしたちに分かるのは、この特別な人たちがさえ最後には主とともにいないであろうことをイエスが御存じであり、このことについてペテロに警告を与えておられたということです。<sup>13</sup> 鶏が鳴きました。「主は振りむいてペテロを見つめられた。そのときペテロは、……主のお言葉を思い出した。そして外へ出て、激しく泣いた。」<sup>14</sup>

このように、神聖な必要性から、イエスを支持する人々の輪は次第にととも小さくなり、マタイの言葉のとおりになりました。「弟子たちは皆イエスを見捨てて逃げ去った。」<sup>15</sup> ペテロは周囲の人から自分の存在を認識され、とがめられるほどまで近くにいました。ヨハネはイエスの母とともに十字架の木の傍らに立ちました。救い主の生涯に登場した、特別で、常に祝福されていた女性たちは、できるかぎりイエスの近くにいました。しかし、御父のみもとへ戻られるイエスの孤独な旅路のほとんどにおいて、慰めはなく、連れ添う者もいなかったのです。

さて、贖いへの孤独な旅で最も困難だったと思われる瞬間について、これから非常に慎重に、また敬虔に話します。それは、イエスが知識面と物理面では準備ができていても、感情面と精神面においては応じる用意が完全にはできていなかったと思われる最後の瞬間、すなわち、神が離れて行かれるという恐るべき絶望に身をゆだねることです。このとき、イエ

スは極限の孤独にあって叫ばれました。「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになつたのですか。」<sup>16</sup>

イエスは世の人から見捨てられることは予期しておられましたが、神が離れて行かれることは悟っておられなかつたと思われまふ。そうでなければ、弟子たちに次のように言われることはなかつたでしょう。「見よ、あなたがたは散らされて、それぞれ自分の家に帰り、わたしをひとりだけ残す時が来るであろう。……しかし、わたしはひとりではない。父がわたしと一緒におられるのである。」「わたしは、いつも神のみこころにかなうことをしているから、わたしをひとり置きざりになさることはない。」<sup>17</sup>

わたしは自らの確信に基づいて、イエスが完全に御父の御心みこころにかなっておられたこと、完全な御方である御父はその瞬間に御子をお見捨てにはならなかつたことを証あかしします。実際、わたしは、キリストが地上で教え導かれた間を通じて、恐らくこの最後の苦悩のときほど、御父が御子の近くにおられたことはなかつたと信じています。それでも、御子の至高の犠牲は、それが自発的であればあるほど、また孤独であればあるほど完全なものになるという理由から、御父は短い間、御父の霊がもたらす安らぎと、御父御自身の存在による支えをイエスから取り去られたのです。それは贖いが要求するものであり、確かに贖いの意義に欠かせないものでした。つまり、悪口を言ったことがなく、過ちを犯したことがなく、汚れたものに触れたことのないこの完全な御子は、人類、すなわちわたしたち全員がこれらの罪を犯したときにどのように感じるかをお知りにならなければならなかつたのです。無限にして永遠の贖罪しよくさいを成し遂げるために、イエスは肉体だけでなく霊が死ぬということがどのようなものかを実感し、神の霊が退き、独り残されてこれ以上ないほどの悲惨極まる、絶望的な孤独を感じることもどのようなことかを御自身で理解される必要がありました。

しかし、イエスは堪え忍び、使命を果たし続けられました。極限の苦悩の中にあ

っても、御自身に備わる至善のために、勝利への信仰を持ち続けられたのです。御子は信仰に頼っておられました。御子が味わっておられた気持ちにもかかわらず、その信仰は、神の哀れみは決して消えず、神は常に誠実であられ、わたしたちのもとを去ったり、見捨てたりなさることはないということを御子に告げていました。そして最後の1コドラントが支払われ、忠実であるというキリストの決意がまったく揺るぎのないものであることが証明されたとき、ついに、安堵とともに苦しみが「終わった」のです。<sup>18</sup> あらゆる困難に立ち向かい、助ける者も支える者もなしに、生ける神の生ける御子ナザレのイエスは、死が支配していた肉体の命を回復し、罪と地獄の暗闇と絶望から、喜びあふれる霊の贖いをもたらされました。神を信じ、神が支えてくださると知っておられたイエスは、勝利のうちに「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます」<sup>19</sup> と言うことがおできになったのです。

兄弟姉妹、この復活祭の季節に得られる大きな慰めの一つは、イエスがただ御独りでそのような長く孤独な道を歩まれたおかげで、わたしたちはそうする必要がないということです。イエスの孤独な旅は、その縮小版であるわたしたちの旅路に大いなる同伴者、すなわち天の御父の憐れみ深い御手、常に近くにいてくださる愛子、聖霊の大いなる賜物、天使たち、幕の両側にいる家族、預言者と使徒、教師、指導者、友人を与えてくれました。イエス・キリストの贖いと主の福音の回復により、これだけでなく、さらに多くの同伴者がこの世の旅路をともに歩んでくれるのです。カルバリでの出来事のおかげで、たとえ孤独を感じるがあっても、決して独りではなく、助けの手が差し伸べられるという真理をわたしたちは知っています。全人類の贖い主は確かに、わたしたちを慰めないままにせず、御父とともに来て、わたしたちとともにいてくださると言われたのです。<sup>20</sup>

復活祭の時期に当たり、わたしにはもう一つの願いがあります。それは、拒絶され、見捨てられ、少なくとも一度はまったく裏

切られたキリストの孤独な犠牲が、わたしたちのせいで、再び繰り返されることが決してあってはならないということです。主は一度、御独りで歩かれました。わたしたちが助けたり支えたりすることもないままに、主が二度と罪と向き合われることのないようにしましょう。現代における主の「悲しみの道」にいる皆さんやわたしを主が御覧になるとき、そこにいるのは何もしない傍観者だったということがもう決してないようにしてください。過ぎ越しの子羊に象徴される過ぎ越しの木曜日、十字架に象徴される贖いの金曜日、そして空になった墓に象徴される復活の日曜日を迎えるこの聖なる週を控え、わたしたちは言葉だけでなく、また人生が順調なときだけでなく、行いにおいて、勇気において、信仰において主イエス・キリストの忠実な弟子であると心から公言できますように。孤独を覚えながら道を歩むときも、十字架が肩に重くのしかかるときにもそうできますように。この復活祭の週の間、そして常に「いつでも、どのようなことについても、どのような所においても、死に至るまでも」<sup>21</sup> キリストのそばに立つことができますように。わたしたちのために死なれたとき、そして究極の完全な孤独に置かれたとき、キリストはわたしたちのそばに立っておられたのです。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. イザヤ63:3, 5; 教義と聖約76:107; 88:106; 133:50も参照
2. マタイ26:65-66; 66節のfootnote 66b (英語) 参照
3. ルカ23:14
4. マタイ27:26
5. Bible Dictionary, "Barabbas"の項, 619参照
6. マタイ27:21
7. マタイ26:24
8. マタイ26:38
9. ルカ22:44; モーサヤ3:7; 教義と聖約19:18参照
10. マタイ26:40
11. マタイ26:45参照
12. スパンサー・W・キンボール, *Peter, My Brother*, Brigham Young University Speeches of the Year, 1971年7月13日, 5
13. マルコ14:27-31参照
14. ルカ22:61-62
15. マタイ26:56
16. マタイ27:46
17. ヨハネ16:32:8:29
18. ヨハネ19:30参照
19. ルカ23:46
20. ヨハネ14:18, 23参照
21. モーサヤ18:9



# 元気を出しなさい

トーマス・S・モンソン大管長

**元気を出してください。未来は皆さんの信仰と同じく希望に満ちています。**



**兄** 姉妹の皆さん、皆さんへの愛をお伝えします。皆さんに話す責任にへりくだる思いですが、この機会に感謝しています。

6か月前に総大会に集まって以来、世界の情勢は必ずしもわたしたちの望むとおりではないという状態が続いています。6か月前には減速傾向に見えた世界経済は急激に悪化したように見え、見通しはここ何週間も暗い状況にあります。さらに、社会の道徳基盤は揺らぎ続けており、そうした基盤を守ろうとする人々はあざ笑われることが多く、時には抗議や迫害を受けることもあります。戦争や自然災害、個人的な災難は後を絶ちません。

もしわたしたちが世の中や生活の暗い面のみをくよくよと考えるなら、将来に失望し、懐疑的になったり、さらにはこれから先の出来事を恐れたりするのはたやすいことでしょう。しかし、今日わたしは周

囲の問題から考えや注意をそらし、教員として受けている祝福に心を向けたいと思います。使徒パウロはこう宣言しています。「神がわたしたちに下さったのは、臆する霊ではなく、力と愛と慎みとの霊なのである。」<sup>1</sup>

人生で問題や課題に直面しない人はいません。時には悲劇や災難に遭います。人生の大半は、そのような出来事から学び成長するために過ごすのです。苦しみ時、嘆き悲しむ時があるのをわたしたちは知っています。しかし、こう言われています。「アダムが墮落したのは人が存在するためであり、人が存在するのは喜びを得るためである。」<sup>2</sup>

では、わたしたちが直面するあらゆる問題にかかわらず、人生で喜びを得るにはどうしたらよいでしょうか。再び聖文を読みましょう。「元気を出しなさい。恐れてはならない。主なるわたしはあなたがたとともにおり、あなたがたの傍らに立つからである。」<sup>3</sup>

この時満ちる神権時代における教会歴史は、苦闘しながらも、揺らぐことなく、元気を出した人々の経験で満ちています。彼らはイエス・キリストの福音を生活の中心としていました。この姿勢は人生でどんなことに遭っても堪え忍ぶ力となります。問題を取り除いてくれることはありませんが、わたしたちが難題と向き合い、勇敢に取り組み、打ち勝つための力を与えてくれます。

困難な状況に直面しながらも、あきらめず、打ち勝った人の例は枚挙にいとまがありません。福音と救い主を信じる信仰

が、必要な強さを与えたのです。今朝はそのような例を3つ挙げたいと思います。

最初に、わたし自身の家族の例です。常にわたしを鼓舞してくれる感動的な経験です。

わたしの母方の曾祖父のギブソン・コンディーとセシリア・シャープ・コンディーは、スコットランドのクラックマナンに住んでいました。家族は炭鉱の仕事をしていました。親戚や友人に囲まれ、好きな土地で快適な家に住み、平穏な生活を送っていました。そして、末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師のメッセージを聞き、心の底から帰依しました。シオンへ集まるようにという呼びかけを聞き、その声にこたえなくてはならないと分かりました。

1848年ごろ、二人は財産を売り、大西洋を渡る危険な船旅の準備をしました。5人の幼い子供がいた家族は、所持品をすべて一つの小さなトランクに詰めて、帆船に乗り込みました。約5,000キロの航海です。危険な海を渡る8週間の長く疲れる船旅でした。ひたすら海のかなたを眺めながら、乏しい食糧と水で過ごしました。その小さな船の外から助けを得ることはできませんでした。

このような試練の中で、幼いナサニエルが病気になるしました。医者はおらず、苦痛を和らげる薬を買える店もありません。見守り、祈り、泣きながら待ちましたが、病状は日ごとに悪くなっていきました。とうとう彼の目が永久に閉じたとき、家族の心は張り裂けんばかりでした。さらに悲しみに追い打ちをかけるように、海洋法に従わなければなりません。麻布でくるみ、鉄の重りを付けて、幼い少年の遺体は海に葬られました。船がその場を離れて行くとき、両親は子供を亡くした親にしか分からない痛烈な悲しみに胸を痛めていました。<sup>4</sup> しかし、真理に対する深い確信と主への愛から生まれた信仰により、両親は堪え忍びました。主の御言葉に慰めを見いだしたのです。「あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。」<sup>5</sup>

故郷の家を離れシオンへ旅する信仰を



#### ブラジル、サンパウロ

持ち、とうてい想像もできない犠牲を払ってくれた先祖に心から感謝しています。ギブソン・コンディーとセシリア・シャープ・コンディーがわたしとすべての子孫に信仰と勇気と決意の模範を示してくれたことを天の御父に感謝しています。

次に話すのは、イエス・キリストの福音が生活にもたらす平安と喜びを模範によって示した、一人の穏やかで信仰あふれる男性についてです。

太平洋に浮かぶある島での出来事です。夜も更けたころ、1隻の小さな船が粗末な栈橋にひっそりと着きました。メリ・ムリボラは、二人のポリネシア人女性の助けで、ボートから降り、村の大きな通りへと続く古い小道を進みました。女性たちは真夜中の空に瞬く星の明るさに驚きました。月の光に導かれながら、3人は道を進みました。ところが、メリ・ムリボラは、このような月や星、そして空といった自然のすばらしさを味わうことができませんでした。目が見えなかったからです。

ムリボラ兄弟の視力は運命の日まで正

常でした。パイナップル農園で働いていたとき、光が突然暗闇に、昼が明けない夜に変わってしまったのです。彼はすっかり意気消沈してしまいましたが、後に、イエス・キリストの福音という「良い知らせ」について学びました。彼は教会の教えに従った生活を送り、再び希望と喜びを感じられるようになりました。

ムリボラ兄弟と彼の愛する人たちは、神の神権を持っている人が太平洋諸島を訪問していると聞いて、この長い船旅をして来たのです。彼は祝福を受けたいと望みました。わたしはもう一人のメルキゼデク神権者とともに、その祝福を受ける特権にあずかりました。祝福を終えたとき、視力を失った彼の目から涙があふれ、褐色の頬を伝って、着ていた民族衣装にこぼれ落ちました。彼はひざまずいて祈りました。「おお神よ、あなたはわたしの目が見えないことを御存じです。あなたの僕は、視力が戻るようにわたしを祝福してください。あなたの知恵により、わたしの目が光を取り戻すことになろうと、一生暗闇の

中にとどまることになろうと、今こうして真実の福音を理解できること、またその福音が人生に光を与えてくれることを永遠に感謝します。」彼は立ち上がり、ほほえんで、わたしたちが施した祝福に感謝しました。そして夜の静寂の中に消えて行きました。彼は静かにやって来て、静かに去って行きました。しかし、彼の存在をわたしは決して忘れないでしょう。わたしは主の御言葉を深く思い巡らしました。「わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう。」<sup>6</sup>

兄弟姉妹の皆さん、わたしたち一人一人に主の命の光が与えられています。わたしたちの歩む道がどれほど暗くても、独りで歩くわけではないのです。

わたしは、M・ルイズ・ハスキンスの次の詩が好きです。

時の門に立つ者に向かい、  
わたしはこう言った。

「未知の世界へ安心して行けるように

光を下さい。」

彼は答えた。

「暗闇に入り、あなたの手を

神の手にゆだねなさい。

光に照らされた明るい道を歩むより、

その方があなたのためになり、

歩き慣れた道を歩むより安全である。」<sup>7</sup>

絶対的に困難な状況の中であきらめず、ついに困難に打ち勝った人の最後の例を紹介しましょう。第二次世界大戦後の東プロセインでの話です。

戦後まだ1年もたっていない、1946年3月ごろのことでした。当時十二使徒定員会の会員だったエズラ・タフト・ベンソンはフレデリック・W・バベルとともに大戦後のヨーロッパを訪問する特別な割り当てを受けました。目的は、聖徒たちに会って必要なものを調べ、援助することでした。ベンソン長老とバベル兄弟は、政府による統制が取られなくなった場所における、ある教会員の姉妹の証を聞き、後にその経験談を紹介しました。

彼女は夫と、東プロセインで穏やかな生活を送っていました。そのようなとき、第二次世界大戦が勃発しました。まだ年若い愛する夫は、故郷で続いた恐ろしい戦いの終わりに殺され、彼女は残された4人の子供を一人で育てなければならなくなりました。

占領軍は、東プロセインのドイツ人はドイツ西部に移住して新しい住居を探すようにと決めました。ドイツ人である彼女はその地を立ち去る必要がありました。目的地までは1,600キロを超える道のりで、しかも移動手段は徒歩しかありませんでした。持ち物は、木製の車輪の付いた小さな荷車に載るだけの、最低限の生活必需品しか許されませんでした。子供たちとわずかな持ち物に加えて、彼女が携えて行ったのは神を信じる強い信仰でした。末日の預言者ジョセフ・スミスに啓示された福音を深く信じていたのです。

子供とともに旅を始めたのは夏も終わりに近づくころでした。持ち物はわずかで、食べ物もお金もありません。日々の食べ物、行く先々の野原や森の中で集め

るしかありませんでした。パニックに陥った難民や、兵士による略奪の危険と常に隣り合わせでした。

数日、数週間、数か月と旅を続けるうちに、気温は氷点下にまで下がるようになりました。赤ん坊だった末の子を腕に抱き、来る日も来る日もいつく地面をよろめきながら進みました。ほかの3人の子供も母親の後を何とかついて行きます。最年長の7歳の子が、所持品を載せた小さな木製の荷車を引いていました。全員、破れてぼろぼろになった麻の布を足に巻き付けていました。靴は大分前に壊れてしまっていて、足を保護するものはこれしかなかったのです。また、寒さをしのぐものは、薄くてぼろぼろの服の上に着た、薄くてぼろぼろの上着しかありませんでした。

間もなく雪が降り始めると、昼夜を問わず、旅は悪夢となりました。夕方になると、母親と子供たちは屋根のある場所を探します。納屋や物置のような所が見つかる、荷車から薄い数枚の毛布を持って来て上からかぶり、身を寄せ合って暖を取りました。

彼女は、目的地に着くまでに死んでしま



うのではないかという恐怖を振り払おうと常に闘っていました。

ある朝、信じられないことが起こりました。目が覚めると、3歳の娘の小さな体が冷たく、動かなくなっていたのです。心臓が凍りつきました。娘は死んでいたのです。悲しみに打ちひしがれながらも、残る子供たちを連れて旅を続けなければなりませんでした。しかし、その前に、唯一の道具であるテーブルスプーンで凍った土を掘り、大切な子供の小さな体を納めました。

しかし、旅の間、死は彼女のもとへ何度も忍び寄りました。7歳の息子が飢えか寒さ、あるいはその両方が原因となって亡くなりました。シャベルの代わりはここでもスプーンでした。何時間もかけて墓穴を再び掘り、息子の亡骸をそっと埋葬しました。次に5歳の息子が亡くなりました。再びスプーンをシャベルの代わりにしました。

絶望は極限に達していました。小さな赤ん坊の娘だけが残りましたが、そのかわいそうな赤ん坊にも死が迫っていました。そして彼女の旅路が終わりに近づいたとき、赤ん坊は母親の腕の中で息を引き取りました。しかし、もうスプーンはありませんでした。彼女は凍った地面を、素手で何時間も何時間も掘り続けました。耐えようのない悲しみでした。雪の中で、最後の子供を埋葬した墓地の傍らにひざまずくことなどどうしてできるのでしょうか。彼女は夫とすべての子供を失いました。この世の持ち物、家庭、そして故郷さえも失ったのです。

悲しみと混乱が極限に達したこの瞬間、彼女は胸が文字どおり張り裂けようとしているのを感じていました。絶望の中で、どのようにして自分の命を絶つかを考えました。彼女と同様に故郷を追われて旅をしている多くの人がそうしていました。近くの橋げたから飛び降りるか、走って来る列車に飛び込んだら、どんなに楽だろうかと考えました。

こうした考えに襲われているときに、胸にささやく声がありました。「ひざまずいて祈りなさい。」彼女はそれを無視してい



ましたが、ついにその声を否定できなくなりました。彼女はひざまずくと、生涯でかつて経験したことがないほど熱烈な祈りをささげました。

「愛する天のお父様、これからどうしていけばよいのか分かりません。すべてを失いました。あなたへの信仰しかありません。お父様、荒れ果てた心に感じるのは、御子イエス・キリストが果たされた<sup>あがな</sup>贖いの犠牲に対する、圧倒されるばかりの感謝の気持ちです。御子への愛を十分に表すことができません。御子が苦しみ、亡くなられたおかげで、再び家族と一緒に暮らせることを知っています。御子が死の鎖を断ち切ってくださったおかげで、子供たちと再会して、育てる喜びにあずかれることを知っています。今は生きる希望をなく

していますが、家族が再び一つになり、お父様のみもとへ一緒に帰るために、生きていきます。』

目的地であるドイツのカールスルーエに着いたとき、彼女はひどくやせ衰えていました。バベル兄弟によれば、彼女の顔は血の気が引き、目は充血して腫れ上がり、関節は突き出ていました。文字どおり、ひどい飢餓状態にありました。それから程なく開かれた教会の集会で、彼女はすばらしい証を述べ、悲しみに満ちた故郷の、病気に苦しむ人々の中でも、自分は最も幸せな者の一人だと言いました。神が生きておられ、イエスがキリストであり、わたしたちが再び生きるために主が亡くなり、復活されたことを知っているからでした。最後まで忠実であり、誠実である

なら、死んでいった家族と再会して、神の日の栄えの王国で救われることを証しました。<sup>8</sup>

聖文にはこう記されています。「しかし見よ、義人、すなわちイスラエルの聖者の聖徒たち、イスラエルの聖者を信じてきた者たち、世の十字架を堪え忍んできた者たち、……これらの人々は、……神の王国を受け継ぐ。そして彼らの喜びは、とこしえに満たされるであろう。」<sup>9</sup>

わたしたちには計り知れないほど大きな祝福が約束されていることを証します。暗雲が立ち込めても、大雨に襲われるとしても、まっすぐに歩み、戒めを守るならば、福音の知識と、天の御父と救い主の愛はわたしたちを慰め、支え、心に喜びをもたらししてくれます。世のいかなるものもわたしたちを打ち負かすことはできません。

愛する兄弟姉妹、恐れてはなりません。元気を出してください。未来は皆さんの信仰と同じく希望に満ちています。

神は生きておられ、わたしたちの祈りに耳を傾け、こたえてくださることを宣言します。御子イエス・キリストは、わたしたちの救い主、贖い主です。天の祝福がわたしたちを待ち受けています。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. 2テモテ1:7
2. 2ニーファイ2:25
3. 教義と聖約68:6
4. 1937年にトーマス・A・コンディーが自身の家族のために執筆した“History of Gibson and Cecelia Sharp Condie” (非公開)から抜粋。
5. ヨハネ16:33
6. ヨハネ8:12
7. “The Gate of the Year,” ジェームズ・ダルトン・モリソン編, *Masterpieces of Religious Vers* (1948年), 92
8. 私的な対談から。フレデリック・バベル, *On Wings of Faith* からも引用
9. 2ニーファイ9:18

# 無私の奉仕

十二使徒定員会

ダリン・H・オークス長老

**救い主は、自分を捨てて人に仕えるのに必要な犠牲を払うことで、御自身に従うようにと教えておられます。**



**救**い主は、無私の奉仕に御自身のすべてをささげられました。そして、わたしたち一人一人が自分の利益を捨てて人々に仕えることで、主に従うようにと教えられました。

「[イエスは……言われた。] だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。

自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのために自分の命を失う者は、それを見いだすであろう。」(マタイ16:24-25。マタイ10:39も参照)

## I.

末日聖徒は、この教えに従い、無私の奉仕を実践しているという点で人々の注意を引く存在です。

毎年、何万という末日聖徒が、専任宣教師として伝道に出るために申請書を提出

しています。年配の人たちは、定年後の楽しみ、自宅での快適な生活、子供や孫との愛にあふれる交わりを一時的にあきらめ、不慣れな地域で見知らぬ人々に奉仕するために出かけて行きます。若い男性と女性は、仕事や教育を中断し、割り当てられた場所ならどこにでも行って奉仕します。何十万もの忠実な会員が、「神殿の業」と呼ばれる無私の奉仕に携わっています。この業の動機となっているのは、生者と死者、すなわちわたしたちの同胞への純粋な愛と奉仕の気持ちです。同じく、ステーキ、ワード、そして支部で働く大勢の役員や教師も無私の奉仕を行っています。皆、この世的な意味では無報酬ですが、キリストのように同胞に仕える決意をしています。

個人としての優先事項や望みをあきらめるのは容易なことではありません。何年も前、ある新任の宣教師がイングランドで伝道に失望し、落胆していました。家族への手紙に、自分は無駄な時間を過ごしているのではないかと書きました。賢明な父親は次のような返事を書き送っています。「自分を忘れて御業に励みなさい。」<sup>1</sup> 若いゴードン・B・ヒンクレイ長老はひざまずいて祈り、自分を忘れ、自分を捨てて、主の奉仕の業を行うよう努力すると主に約束しました。<sup>2</sup> 月日が流れ、成長を遂げて主の僕となったヒンクレイ長老はこう語っています。「自分のことだけを考えて生きる人は衰え、死んでいきますが、自分のことを忘れて人のために働く人は、現世においても永遠の世界においても成長し、栄えるでしょう。」<sup>3</sup>

昨年の1月、トーマス・S・モンソン大管長は、ブリガム・ヤング大学の生徒に対し、学生時代は周囲の人々への奉仕を含む「霊的な準備に関する事柄」を行うべき時であると教えました。モンソン大管長は述べました。「愛をもって臨む姿勢は主の使命を特徴づけていました。主は目の不自由な人を見えるようにし、足の不自由な人を歩けるようにし、死者に命を与えられました。造り主と顔と顔を合わせて話すときに、恐らく『幾つの肩書きを持っていましたか?』と聞かれることはないでしょう。むしろ『何人の人を助けましたか?』と聞かれるでしょう。実際、主の民に仕えることで主に仕えるまで、決して主を愛することはできないのです。」<sup>4</sup>

末日聖徒に限ったことではありませんが、自分を捨てて人のために奉仕する身近な例として、親が子供のために払う犠牲が挙げられます。苦しんで子供を産み、一人一人を育てながら、母親は自分で優先したいことや快適な生活を犠牲にします。父親は自分の生活と優先順位を変え、家族を養います。今日の社会では、このような犠牲を進んで払う人と払わない人との差が大きくなっています。最近、家族の一人が飛行機の中で、旅行中の若い夫婦の会話を小耳に挟みました。子供を持つ代わりに犬を飼うようにしたという内容でした。二人ははっきりとこう言ったそうです。「犬の方が、手間がかからないからね。口答えもしなければ、外出禁止のお仕置きをする必要もない。」

数多くの末日聖徒の夫婦が無私の人々であることは喜ばしいことです。天の御父が送り、託して下さる子供たちを産み、育てながら、個人として優先したいことを進んであきらめ、主に仕える人々です。また、体の不自由な家族や年老いた両親の世話をする人々がいることをうれしく思います。「自分の得になるだろうか」と考えながらこのような奉仕をする人はいません。こうした奉仕はすべて、無私の心で個人の都合を犠牲にすることが求められます。現代において非常に多くの人々が追い求める、この世的な名声、財産、即座に得られる満足とは逆のものなのです。



犠牲を払うことに対する末日聖徒の決意は、他ではあまり見ることができません。毎週受ける聖餐は、わたしたちが主と同胞への奉仕を決意する場となっています。神聖な神殿で行われる儀式を通して、わたしたちはほかの人々の幸福のために犠牲を払い、自分の時間と才能を奉獻すると聖約しています。

## II.

末日聖徒は、一つとなって協力することに長けているという点でも有名です。西部の山地に入植したモルモンの開拓者は、共通の利益のために無私（せいのこころ）の精神で協力するという称賛すべき伝統を確立しました。この伝統を受け継いだのが、多くの国々で実施されている現代の「ヘルピングハンズ」プロジェクトです。<sup>5</sup> 末日聖徒は、最近、各地で行われている選挙で、考えを同じくする人々と協力し合いながら、結婚を守るための活動を通して一つとなっています。中には、この奉仕のために大きな犠牲を払い、個人的に苦しみ続けている人もいます。

教会員は信仰を持ち、奉仕を行うことによって、より大きな単位である地域社会のために協力して働く方法を学んでいます。だからこそ、末日聖徒のボランティアは、教育、地方行政、慈善運動において歓迎されているのです。彼らは、協力し合い、無私（せいのこころ）の心で時間や手段を使いながら、高い技術の求められる数多くの活動でも必要とされています。

教会員が進んで犠牲を払い、協力し合う能力を備えているのは、教会に効率の良い組織があるから、または、疑い深い人が誤って呼ぶ「盲目的な服従」のせいだと言う人がいます。どちらの説明も正しくありません。外部の人々がこの教会の組織をまねても、また、盲目的な服従を実行しても、この教会に記録されていること、あるいは教会員の行っていることの再現にはならないでしょう。わたしたちが進んで犠牲を払い、協力し合う能力を備えているのは、主イエス・キリストを信じ、指導者の靈感に満ちた指導を受け、自らの理解に基づいて決意し、聖約を交わすからなのです。

## III.

残念なことに、人々への無私（せいのこころ）の奉仕をせず、代わりにこの世の標準と価値観に基づいて優先順位を定めている末日聖徒もいるようです。イエスは、サタンがわたしたちを麦のようにふるいにかけることを願っていると警告されました（ルカ22:31; 3ニーファイ18:18参照）。サタンはわたしたちを、普通の、周りと同じような人間にしたいと願っているのです。しかしイエスは御自身に従う人に対し、貴く特異な民、地の塩（マタイ5:13）、そして世の人々に輝かすための光になるべきであると教えられました（マタイ5:14, 16。3ニーファイ18:24も参照）。

神よりも人を恐れるなら、救い主によく仕えることはできません。主は、回復された教会の一部の指導者を、世の誉れを求め、主にかかわる事柄よりも世の事柄のうえに心があったという理由で叱責（しっせき）されました（教義と聖約30:2; 58:39参照）。そのような懲らしめは、わたしたちが召されているのは主の標準を確立するためであって、世の標準に従うためではないということをお忘れなく。ジョン・



A・ウィットナー長老はこう断言しています。「わたしたちは、ほかの人と同じように生き、ほかの人と同じように語り、ほかの人と同じように行動することはできません。なぜなら、わたしたちはほかの人とは異なる行く末、義務、責任を受けており、自らを〔それらに〕ふさわしい者としなければならぬからです。』<sup>6</sup> この現実には、慎みがない服装など、現代の流行を追うすべての行動についても当てはまります。賢い友人はこう言いました。「浜辺にいるほかの海水浴客と同じ外見をしていたら、救助隊員にはなれません。』<sup>7</sup>

世の誉れを求めることで自分の命を救うことばかりを考えている人は、実際のところ、自分の命を永遠に救うには互いに愛し合い、自分を捨てて人に奉仕する以外に方法はないという、救い主の教えを拒んでいることとなります。

C・S・ルイスは救い主のこの教えを次のように説明しています。「利己心が現れる瞬間、そこには自分を最優先し、自分を中心に置き、事実上神になりたいと願いかねない自分がある。これはサタンの犯した罪であり、その罪をサタンは人類に教えたのである。人間の墮落は性的行為と関係があったと考える人がいるが、それは間違いである。……サタンがわたしたちの遠い祖先の頭に植え付けたのは、自分が『神々のようになり』、自分で自分を創造したかのように振る舞い、自分が自分の主人になり、神から離れ、神なしに自分で幸福を作り出すことができるという考えだった。……そして、かなう見込みのないこの挑戦から生まれたのが、神以外に、自分を幸福にしてくれるものを見つけようとする、人間の長く恐ろしい物語だった。』<sup>8</sup>

利己的な人は、神を喜ばせることよりも、人を喜ばせること、特に自分自身を喜ばせることに興味を持っています。自分の必要と欲求を満たすこと以外には無関心なのです。そのような人は「自分の道を、自分の神の像を求めて歩〔みます〕。その像は俗世の形で〔す〕。」(教義と聖約1:16) そのような人は、聖約を通して与えられる神の約束から(教義と聖約1:15参照)、また荒れ狂う現代にわたしたち皆が必要と

する、この世での友情や援助から切り離されています。これとは対照的に、救い主が教えられたように互いに愛し仕え合うならば、わたしたちは、聖約、そして仲間たちとつながっていることができるのです。

#### IV.

わたしたちは、犠牲がまさしく時代遅れとなっている時代に住んでいます。今の時代、無私の心で助け合う奉仕の必要性を先祖に説いた、かつての社会の影響力が弱まっています。現代を「わたし」時代と呼んだ人がいます。だれもが「自分の得になるだろうか」と考えているような利己的な時代です。分別があるはずの人ですら、示現の中で世の高慢と言われた「大きく広々とした建物」からあざけり笑う人々の誉れを勝ち得ようと必死に努力しているようです(1ニーファイ8:26-28; 11:35-36参照)。

今の時代、世の中が求めているのは、何もしないで見返り(どんよく)を得ることです。貪欲という昔からの悪は、権利を主張するとき顔(かほ)をのぞかせます。わたしは息子なので、娘なので、市民なので、犠牲者なので、



あるグループの会員なのでこの権利がある、あの権利があると言うのです。当然の権利という考え方は概して利己的です。多くを求めながら、与えることはほとんど、あるいはまったくありません。この考え方にとらわれると、自分をほかの人よりも上に置くことを願うようになります。そして、人が神から何らかの祝福を受けるときは、それが基づく律法に従うことによるという、神聖で公平な報いの標準から自らを引き離してしまいます(教義と聖約130:21参照)。

貪欲と権利主張の影響は、ある企業の役員に与えられる何百万ドルものボーナスを見ても明らかです。しかし、貪欲と権利主張の例はさらに広い範囲に及びます。これらのために簡単に借金をする人が増え、過度の消費主義が広がり、全世界を脅かしている経済危機につながっているのです。

貪欲と利己心のもう一つの例がギャンブルです。かけ事をする人は、自分では最小限の投資しかせず、他人から取り上げることで大きな利益を期待します。どのような形で装っていても、何もしないで見返りを得る行為は、福音にある収穫の律法に反します。「人は自分のまいたものを、刈り取ることになる。」(ガラテヤ6:7。2コリント9:6も参照)

この世の価値観は「自分さえよければいい」と教えますが、それは間違っています。この墮落した姿勢は、何の変化も、成長ももたらしません。また、神が御自身の子供たちのための偉大な計画で示された行く末に到達するための永遠の進歩と相いれません。イエス・キリストの福音の計画は、利己的な欲求を超えたところにわたしたちを引き上げてくれます。そして、自分が将来、何になることができるかということが、人生で最も大切であると教えてくれるのです。

カルカッタの故マザー・テレサは無私の奉仕の偉大な模範です。彼女と同僚たちは、確固たる誓いを立て、「貧しい人の中でも最も貧しい人々のために全身全霊を傾けた無料の奉仕」に献身しました。<sup>9</sup> 彼女はこう教えています。「いつもわたしたちに天国を約束してくれるものがありま

す。それは、人生を満たす慈愛と思いやりの行為です。」<sup>10</sup> そしてこう語りました。「大きなことはできません。小さなことのみを大きな愛で行うのです。」<sup>11</sup> このすばらしいカトリックの僕が亡くなったとき、大管長会は哀悼のメッセージを送り、次のように宣言しました。「無私の奉仕で彩られた彼女の生涯は、全世界を感動させています。キリストの慈しみを実践した彼女の行いは、幾世代にもわたって人々の記憶に残るでしょう。」<sup>12</sup> これこそまさに、救い主が言われた、自分を捨てて人のために奉仕するということなのです。

わたしたちは皆、教会に集う際の姿勢について、この原則を応用する必要があります。「今日は何も学ぶことがなかった」「だれも親しくしてくれなかった」「傷つけられた」あるいは「教会はわたしの必要を

満たしてくれない」と言う人がいます。このような反応はどれも自己中心的で、霊的な成長を妨げるものばかりです。

別の賢い友人はこう書いています。

「何年も前に、わたしは教会へ行くときの自分の態度を変えました。自分のために教会へ行くことはやめ、人のことを考えるようにしました。一人で座っている人にあいさつをし、訪問者を歓迎し、……割り当てを進んで引き受けるように努めました。……

やがて、毎週、受身ではなく積極的になり、人々の生活に良い影響を与えることを目的に教会へ出席するようになりました。その結果、教会の集会に出席することが、以前よりもはるかに楽しく、充実したものとなりました。」<sup>13</sup>

これらはすべて、何かを得るためでは

なく、与えるために行動し、奉仕するときに、わたしたちの幸福と充実感は増し加わるという永遠の原則を示しています。

救い主は、自分を捨てて人に仕えるのに必要な犠牲を払うことで、御自身に従うようにと教えておられます。これを実践するならば、主はわたしたちに「神のあらゆる賜物の中で最も大いなるもの」(教義と聖約14:7)である永遠の命、すなわち父なる神と御子イエス・キリストのみもとで生活する栄光と喜びを約束しておられます。御二方について、また御自身の子供たちを救う偉大な計画について証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

#### 注

1. ゴードン・B・ヒンクレイ, "Taking the Gospel to Britain: A Declaration of Vision, Faith, Courage, and Truth," *Ensign*, 1987年7月号, 7で引用
2. *Ensign*, 1987年7月号, 7参照
3. *Teachings of Gordon B. Hinckley*, (1997年), 588
4. トーマス・S・モンソン大管長「大いなる遺産」ヤングアダルトのための教会教育システムファイヤサイド, 2009年1月11日, [www.lds.org](http://www.lds.org) 参照
5. 「モルモン・ヘルピングハンズ, 奉仕を開始して10年」『リアホナ』2009年3月号, チャーチ・ニュース, 1参照
6. ジョン・A・ウイツォー, Conference Report, 1940年4月, 36
7. アーデス・グリーン・カップ, *I Walk by Faith* (1987年), 97
8. C・S・ルイス, *Mere Christianity* (1980年), 49, 強調付加
9. *The Joy in Loving: A Guide to Daily Living with Mother Teresa*, ジャヤ・チャリハ, エドワード・ル・ジョリー編 (1996年), 15
10. *Life in the Spirit*, キャスリン・スピック編 (1983年), 42
11. *Life in the Spirit*, 45
12. "News of the Church," *Ensign*, 1997年11月号, 110
13. ダリン・H・オークスへのマーク・スカウセンの手紙, 2009年2月15日付



# 名と地位を 立派に維持する

十二使徒定員会

デビッド・A・ベドナー長老

**主の聖なる宮で礼拝し、名と地位を立派に維持する、忠実な教会員一人一人の心には聖約の火が燃えます。**



**19**87年にステーク会長として働くよう召されて間もないころ、同じ時期にステーク会長から解任された親しい友人と話をしました。わたしは話の中で、有能なステーク会長になるためのアドバイスを求めました。彼の返事はその後のわたしの奉仕と務めに大きな影響を及ぼしました。

友人は解任されてすぐに神殿の儀式執行者として召されたとのことでした。そしてこう語りました。「ステーク会長になる前に神殿の儀式執行者に召されていたらよかった。もしステーク会長として召される前に神殿で奉仕していたら、随分違うステーク会長だったろうね。」

わたしは彼の言葉に興味をそそられ、もっと詳しく説明してほしいと頼みまし

た。彼はこう言いました。「わたしはそれなりに良いステーク会長だったと思うよ。ステークのプログラムは順調に運営され、統計的な数字も平均以上だった。でも神殿で奉仕することで視野が広がったんだ。もし今日ステーク会長として召されたなら、何よりも神殿の聖約を受けて尊ぶためのふさわしさに焦点を当てるだろうね。神殿参入への備えが、すべての働きの中心となるように努力するよ。主の宮に入れるように聖徒たちをもっとよく導けると思うよ。」

友人とその短い話をしたおかげで、わたしはステーク会長として神殿の儀式、神殿の聖約、神殿での礼拝が永遠に大切なものであることについて繰り返し教え、証あかしするようになりました。わたしたちステーク会長会の心からの願いは、ステークのすべての会員が神殿の祝福を受け、神殿推薦状を受けて頻繁に参入するのにふさわしくなることでした。

今日わたしは神殿の祝福に焦点を当てて話します。聖霊がわたしたちの思いを照らし、心を貫き、一人一人に真理を証してくださいと願っています。

## 集合の神聖な目的

預言者ジョセフ・スミスは、どの時代においても、神の民を集める神聖な目的は神殿を建てるためだと宣言しました。神の子供たちが至高の儀式を受けて、それにより永遠の命を得られるようにするためです(『歴代大管長の教え——ジョセフ・

ミス』[メルキゼデク神権者および扶助協会学習ガイド]414-417参照)。集合の原則と神殿建設の大切な関係はモルモン書の中で強調されています。

「見よ、畑は熟していた。そして、あなたがたは鎌を入れ、力を尽くして刈り入れ、まことに一日中働いたので、あなたがたは幸いである。見よ、あなたがたの得た束は何と多いことか。それらの束は、無駄にならないように倉に納められるであろう。」(アルマ26:5)

この類比の中の「束」は、バプテスマを受けて教会の新しい会員となった人々を表します。倉は聖なる神殿です。ニール・A・マックスウェル長老はこう説明しました。「確かに、バプテスマを施すとき、バプテスマフォントの向こうに聖なる神殿が見えるべきです。これらの束を集めて納めるべき偉大な倉は、聖なる神殿です。」(ジョン・L・ハート“Make Calling Focus of Your Mission,” *Church News*, 1994年9月17日付, 4) この教えは、束が無駄にならないようにする神殿の神聖な儀式や聖約の大切さを明確にし、強調しています。

「まことに、それらの束は終わりの日に嵐あらしに打たれることなく、旋風に巻き上げられることもない。嵐が来るときに、それらの束はそのあるべき場所に集められるので、嵐がその束に吹きつけることはない。まことに、敵が追いやろうと思う所に暴風で押しやられることもないであろう。」(アルマ26:6)

ダリン・H・オークス長老せいさんは聖餐という象徴を受けることによってバプテスマの聖約を新たにすることをこう説明しています。「わたしたちは……イエス・キリストの御名みなを単に受けることを証明するものではありません。喜んで受けることを証明するのが喜んで受けることを証明するという事実は、実際に神聖な御名を〔本質的で〕最も重要な意味において受ける前に、ほかの大切なことがその人の中で起きなければならないことを示唆しています。」「(『イエスの御名を受ける』『聖徒の道』1985年7月号, 82参照) バプテスマの聖約は確かに、将来の出来事についてしっかりと考え、神



殿を目指すためのものです。

現代の啓示の中で、主は神殿のことを「わたしの名のために」建てられた家と呼んでおられます(教義と聖約105:33。教義と聖約109:2-5;124:39も参照)。カートランド神殿の奉獻の祈りで、預言者ジョセフ・スミスは御父にこのように懇願しました。「あなたの僕たちがこの宮からあなたの力を帯びて出て行けますように。あなたの御名が彼らのうえにあり……ますように。」(教義と聖約109:22) ジョセフはまた、「この宮であなたの御名を受けた民に対して」祝福があるように祈り求めました(26節)。そして主は、カートランド神殿に現れて神殿を御自身の宮として受け入れられたとき、こう宣言されました。「見よ、わたしはこの家を受け入れた。そして、わたしの名はここにあるであろう。わたしは憐れみをもってこの家でわたしの民にわたし自身を現すであろう。」(教義と聖約110:7)

これらの聖句から、バプテスマの水で始まるイエス・キリストの御名を受ける過程が主の宮で続けられ、展開されていくことが分かります。バプテスマの水の中

に立つとき、わたしたちは神殿に心を向けます。聖餐を受けるときにも、神殿に心を向けます。神殿の神聖な儀式に携わり、主イエス・キリストの御名と権能を通して得られる最高の祝福を受ける準備として、救い主をいつも覚え、その戒めを守ることを誓います。こうして、聖なる神殿の儀式でイエス・キリストの御名をいっそう完全に、余すところなく受けるのです。

「また、この大神権〔すなわちメルキゼデク神権〕は福音をつかさどり、王国の奥義の鍵、すなわち神の知識の鍵を持つ。

それゆえ、この神権の儀式によって神性の力が現れる。

また、神権の儀式と権能がなくては、肉体を持つ人間に神性の力は現れない。」(教義と聖約84:19-21)

### 主の民に対して、いかなる悪の結社も打ち勝つ力を持たない

わたしたちは世界中で神殿が建設されるすばらしい時代に生きています。そして、世界各地で神殿が増え続けていることをサタンが知らないはずがありません。過去と同じように、聖なる神殿を建てて奉

獻する際には教会を敵視する人々の反対を受けます。教会内からも無分別な批判を受けることがあります。

そのような対抗勢力は今に始まったものではありません。1861年、ソルトレーク神殿が建設中だったとき、プリガム・ヤングは聖徒たちを励ましてこう言いました。「この神殿が建設されるのを望むなら、行って働き、自分にできることをすべて行ってください。……『わたしは神殿を建てたくありません。神殿を建てると、必ず地獄の鐘が鳴り始めるからです』と言う人もいます。しかし、わたしはその鐘の音をもう一度聞きたいのです。地獄の者たちが皆、襲って来るでしょう。……しかし、その結果がどんなものになると思いますか。皆さんはその結果をいつも見てきたはずです。」(Deseret News, 1861年4月10日, 41)

わたしたちは忠実な聖徒として、逆境によって強められ、主の優しい憐れみを受けてきました。主の次の約束の下で前進してきました。「わたしは彼らがわたしの業を損なうのを許さない。まことに、わたしの知恵が悪魔の狡猾さに勝っていることを彼らに示そう。」(教義と聖約10:43)

何年もの間、ベドナー姉妹とわたしは、忠実な男女をブリガム・ヤング大学アイダホ校で開くディボーションナルの話者としてもてなす機会がありました。それらの話者の多くは七十人の名誉会員または解任された元七十人で、中央幹部として奉仕した後に神殿会長として奉仕した人たちでした。この信仰深い指導者たちと話するとき、わたしはいつもこう尋ねました。「神殿会長として学んだことで、中央幹部のときに理解していたらよかったと思うことは何ですか。」

答えを聞いているうちに、皆に共通するテーマを見つけました。次のように要約できます。「神殿の聖約がもたらす守りと、神殿での礼拝という、主が受け入れられるささげ物をするこの意味をよりいっそう理解できるようになりました。教会に出席し<sup>じゅうぶん</sup>十分の一を納めていても急ぎ足でたまに神殿に行ってエンダウメントを済ませる会員と、忠実に絶えることなく神殿で礼拝する会員の間には差があります。」

わたしは彼らの答えがとても似ていることに感銘を受けました。わたしの質問に対する答えはどれも、主の宮で受けられる儀式と聖約が持つ守りの力を何より強調するものでした。1836年にカートランド神殿でささげられた以下の奉獻の祈りに含まれる約束と非常に似通っていました。

「聖なる御父よ、何とぞ、このあなたの宮で礼拝して名と地位を立派に維持する民を、すべての世代にわたって、また永遠に確立してくださいように。」

彼らを攻めるために造られるいかなる武器も役に立ちませんように。彼らのために穴を掘る者が自らその穴の中に落ちますように。

この宮であなたの御名を受けた民に対して、いかなる悪の結社も、立ち上がって打ち勝つ力を持つことがありませんように。

いかなる民でもこの民に敵対して立ち上がるならば、あなたの怒りが彼らに向かって燃えますように。

もしも彼らがこの民を打つならば、彼らを打ってくださいように。かつて戦いの日に戦われたようにあなたの民のために戦って、すべての敵の手からあなたの



民を救い出してくださいように。」(教義と聖約109:24-28)

現在サタンが猛威を振るっていることを踏まえ、そしてこれまで話してきたようにイエス・キリストの御名を喜んで受けること、聖なる神殿で名と地位を立派に維持する人々に約束されている守りの祝福に照らし合わせて、これらの聖句についてよく考えてください。重要なことに、聖約がもたらすこうした祝福はあらゆる世代が永遠にわたって得られるものです。これらの聖文が自分の生活や家族にとってどのような意味を持つかを繰り返し研究し、祈りの

気持ちで深く考えるように勧めます。

神殿での礼拝と業を妨げたり疑わせたりする悪魔の働きに驚くことはありません。悪魔は主の宮の清さと力を忌み嫌っているからです。そして神殿の儀式と聖約によってわたしたちが受ける守りはルシフェルの邪悪なはかりごとにとって大きな障害なのです。

### 聖約の火

1846年9月にノーブーを脱出したことにより、忠実な末日聖徒は想像を絶する苦難に遭いました。多くの人はミシシッピ川



に沿って野営し雨風をしのぎました。避難した聖徒の状況がウィンタークウォーターズにいたブリガム・ヤングの耳に入ると、彼は直ちに川向こうにあるカウンスル・ポイントに手紙を送り、助けの手を伸べるよう兄弟たちを励ましました。ノーブー神殿で交わした聖約を思い出させた後、こう勧告したのです。「今こそ働く時です。主の宮で交わした聖約の火を、消せない炎のように心の中に燃え立たせましょう。」(Journal History of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 1846年9月28日, 5) 数日の内に、苦しん

でいる聖徒たちを救い出すために、荷車は東方に向けて出発しました。

初期の聖徒にそのような力を与えたものは何だったのでしょうか。それは、心に燃える神殿の聖約の火でした。彼らは主の宮で礼拝し、名と地位を立派に維持することを固く決意していたのです。

わたしたちは今もこれからも、主の業に対する大きな困難に直面するでしょう。しかし、神が用意された場所を見つけた開拓者と同じように、わたしたちも勇んで進みましょう。神は守ってくださいます(「恐れず来たれ、聖徒」『賛美歌』17番参

照)。今日、<sup>こんにち</sup>神殿は、儀式を受け、聖約を交わし、教化され、世の嵐を避ける聖なる場所として、世界中に建てられています。

### 勧めと称賛の言葉

主はこのように宣言されました。「それゆえ、わたしは……わたしの民を集めなければならない。それは、……小麦が倉に安全に納められて永遠の命を得、日の栄えの栄光を冠として与えられるためである。」(教義と聖約101:65)

今わたしの話を聞いている皆さんの中には、多くの若い女性、若い男性、そして子供たちがいます。ふさわしく、忠実であって、将来神殿で儀式と祝福を受ける日を大きな期待をもって待ち望んでください。

今わたしの話を聞いている皆さんの中に、主の宮で儀式を受けるべきであったのにまだ受けていない人がいます。どのような理由があっても、どんなに遠い道のりであっても、聖なる神殿にしかない祝福を受けられるように霊的に備え始めましょう。皆さんの生活の中で妨げになるものは捨ててください。永遠に価値のある事柄を求めてください。

今わたしの話を聞いている皆さんの中に、神殿の儀式を受けたけれども様々な理由で長い間主の宮に足を運んでいない人がいます。再び神殿で礼拝し、神聖な聖約をより完全に思い起こして尊べるように、悔い改め、備えをし、必要なことを行ってください。

今わたしの話を聞いている皆さんの中に、有効な神殿推薦状を持ち、それを使うにふさわしく努力している人がたくさんいます。皆さんの忠実さと決意を称賛します。

主の聖なる宮で礼拝し、名と地位を立派に維持する、忠実な教会員一人一人の心に聖約の火が燃えることを厳粛に証します。イエス・キリストはわたしたちの<sup>あがな</sup>贖い主であり、救い主です。主は生きておられ、御自身の油注がれた僕たちへの啓示を通して教会を導いておられます。これらのことを主イエス・キリストの聖なる御名により証します、アーメン。

# 聖なる家庭, 聖なる神殿

七十人

ゲーリー・E・スティープンソン長老

**神殿の永遠の本質を理解することで人は自らの家族に引き寄せられ、家族の永遠の本質を理解することで神殿に引き寄せられます。**



**実**にすばらしい大会です。預言者、聖見者、啓示者として支持する大管長会と十二使徒定員会の勧告を聞くことができるわたしたちは、何と祝福されていることでしょうか。

ユタ州キャッシュバレーの長い冬が終わり、ようやく春になろうとするところのある暖かな午後を思い出します。土曜日になるといつも孫たちのためにいろいろなことをしてくれる父が「ドライブに行こう」と言って、我が家を訪れました。おじいちゃんとのドライブがいつも楽しみだった4歳と6歳の息子は急いで後ろの座席に乗り込み、わたしは父の前に座りました。車はローガン神殿を取り巻く、ローガン市街地の道路を通り抜けて行きました。ローガン神殿は、町の中央の丘にひとときわ美し

く建っています。やがて交通量の多い舗装された道をそれて街を離れると、めったに車の通らない砂利道に入りました。古い橋を幾つか渡り、木々の間を縫って郊外へ出ました。ほかに車はなく、わたしたちだけでした。

父は、孫たちが来たことのない場所だと気づき、車を止めました。目を大きく見開いてフロントガラスから溪谷を眺めていた子供たちに、父は「迷子になったと思う?」と尋ねました。少しの間黙って考えていた幼い息子から意味深い答えが返ってきました。指さしながらこう言ったのです。「見てよ、おじいちゃん、神殿が見えている間は迷子にはならないよ。」息子の見ている方に視線を移すと、溪谷のはるか向こうに、ローガン神殿の尖塔が太陽の光を浴びてきらきら輝いているのが見えました。

皆さんも、神殿が見えている間は決して道を見失うことはありません。混乱に満ちた世にあって、神殿は皆さんと皆さんの家族に方向を示してくれます。「暗黒の霧」<sup>1</sup>に巻かれて道を見失わないよう、皆さんを助ける永遠の道標です。神殿は「主の宮」<sup>2</sup>なのです。聖約を交わし、永遠の儀式を行う所です。

モルモン書では、ベニヤミン王が当時そこに住んでいた聖徒に、集まって「すべての者がその天幕の入り口を神殿の方へ向け」<sup>3</sup>るよう指示しました。近年、教会員であるわたしたちも、現代の預言者たちから、よく従うならわたしたちの家庭の扉

がもっと神殿の方に向くようになる勧告を受けています。

大管長会は「成人会員は有効な神殿推薦状を持ち」、時間と事情が許すかぎり「もっと頻繁に神殿に参入する」よう、また、「幾つかの余暇の活動の代わりに神殿で奉仕するよう」会員に勧めました。また、「12歳以上の新会員や青少年が、代理としてバプテスマと確認を受けることによってこの大いなる業に貢献できるよう、ふさわしく生活する」ことを奨励しました。<sup>4</sup> さらに幼い子供たちに対しても、神殿を訪れ、神殿に触れるように勧めています。<sup>5</sup> かつてトーマス・S・モンソン大管長はこう勧告しました。「わたしたちが神殿に触れるとき、神殿はわたしたちの心に触れてくれます。」<sup>6</sup>

わたしたちは恵まれて、神殿を建てる神権時代に生を受けています。すでに奉獻されているか、建設が発表された神殿が全部で146あります。<sup>7</sup> 『聖書辞典』(Bible Dictionary)は「神殿」を次のように定義しています。「……地上で最も神聖な礼拝の場所である。」そして、次のような洞察に満ちた言葉が続きます。「神聖さにおいて神殿と比べるができるのは家庭だけである。」<sup>8</sup> この言葉は、神殿と家庭の神聖な関係を示唆しているように思います。わたしたちは、家庭の扉を神殿、つまり主の宮に向けることができるだけでなく、自らの家庭を「主の宮」にすることができるのです。

最近あるステーキ大会で、訪問した地域七十人のグレン・ジェンセン長老から、霊の目でバーチャルツアーをし、自分の家庭を見て回るよう出席者全員が促されました。わたしも同じことを皆さん一人一人にやってほしいと思います。家の場所や形はどうあれ、永遠の福音の原則を家庭内で実践することはいつでもだれでもできます。では始めましょう。自分が玄関のドアを開けて中に入るところを想像してください。目に映るものは何ですか。どのように感じますか。そこは神殿のような愛と平和の宿る所、世の中からの避け所ですか。清潔で整頓されていますか。部屋から部屋へと歩くと、神殿や救い主の絵など、思いを高める絵がありますか。

寝室や寝る場所は個人の祈りをするにふさわしい所ですか。みんなが集まる場所や台所は、食事の支度をしたり、皆がともにいて楽しんだり、心を高める会話と家族の時間を持ったりできる場所ですか。家族がともに勉強し、祈り、学ぶ部屋には聖典がありますか。あなたが個人で福音を勉強する場所がありますか。コンピューターやほかの方法で見聞きする音楽や娯楽などは霊に悪影響を及ぼすものではありませんか。会話は心を浮き立たせますか。口争いはありませんか。これでツアーは終了です。わたしと同じように皆さんにも、多少の「家の改善」を要する部分が2つ3つあったことでしょう。でも「思い切った大改造」でないよう望みます。

生活空間が広くても狭くても、質素でも立派でも、どんな家にもこれらの福音の優先事項は当てはまります。

神殿と神殿に参入する人々を神聖しんじょうにふさわしく保つために、主は僕である預言者を通して標準しんじょうを定められました。家庭を神聖に保ち、「主の宮」とするための標準を家族会議で一緒に考えるとよいでしょう。「祈りの家、断食の家、信仰の家、学びの家、栄光の家、秩序の家、神の家を建てなさい」<sup>9</sup> という勧告は、主がわたしたちにどのような家庭を築くことを望んでおられるかを教えています。これらを行うことは、この世の状況にかかわらずわたしたち皆が住むことになる「霊の住まい」、つまり「虫も食わず、さびもつかない」宝に満ちた家を建てる第一歩です。<sup>10</sup>

神殿と家庭の間には義にかなった一致が存在します。神殿の永遠の本質を理解することで人は自らの家族に引き寄せられ、家族の永遠の本質を理解することで神殿に引き寄せられます。ハワード・W・ハンター大管長はこう言いました。「神殿の儀式によって、永遠の家族の基が正しく据えられるのです。」<sup>11</sup>

ボイド・K・パッカー会長はこう勧告しました。「『神殿』という言葉ことばを口にしてみてください。静かに、敬虔けいけんに言ってみましょう。何度も何度も繰り返してみてください。神殿、神殿、神殿、と。次に『聖なる』という言葉ことばを付け加えてください。『聖なる神

殿』。ほかのどこにもない、ただ一つの建物であるかのような気持ちを込めて言ってみましょう。

末日聖徒にとって『神殿』と同じように大切な言葉がもう一つあります。それは『家庭』です。『聖なる神殿』と『家庭』という言葉ことばを合わせれば、主の宮を指すことになるのです!」<sup>12</sup>

昨年、世界中の何万人もの初等協会の子供たちが、それぞれのワードや支部で初等協会の聖餐会での発表の一部として、自分の家族やワードの会員たちに向けて歌を歌いました。希望と約束、備えについての歌です。子供たちの歌った歌は聖なる家庭で始まり、聖なる神殿へと続きます。歌詞を読むだけで皆さんの心に曲が流れだすのではないのでしょうか。

いつの日か入る神殿に  
聖きよき御霊の声聞くために  
聖なる神の家  
麗しの宮  
備えを始めよう  
すぐに始めよう

いつの日か一緒に神殿で  
お父様と聖約交わす  
一つに結ばれる  
家族として  
従順に歩むと  
約束します<sup>13</sup>

ボイド・K・パッカー会長はこう述べています。「教会の教えが最終的に目指しているものは、主イエス・キリストを信じる信仰の中で、親と子を一つに結びつけること





です。それは彼らが家庭で幸福になり、永遠の結婚による結び固めを受け、世代同士を結びつけ、天の御父のみもとでの昇栄を確信できるようにするためです。」<sup>14</sup>

これらの原則を実践することで、皆さんの家庭の扉は神殿、つまり「主の宮」に向き、皆さんの聖なる家庭がいつそう主の宮に近いものとなることを証します。

最初に話した「神殿が見えている間は迷子にはならないよ」と言った無邪気な子供の言葉でこの話を終わります。そして、わたしたちの家庭と主の神殿が神聖であることを証します。神はわたしたちの愛に満ちた天の御父であります。わたしはそのことを知っています。イエス・キリストを証し、救い主、贖い主であるイエス・キリストの役割について証します。ジョセフ・スミスからトーマス・S・モンソンに至るまで生ける預言者はすべての神権の鍵<sup>かぎ</sup>を使用する権限を与えられていることを証します。イエス・キリストの御名<sup>みな</sup>により、アーメン。

注

1. 1ニーファイ8:24
2. Topical Guide, "Temple, House of the Lord"の項, 519;『聖句ガイド』『神殿;主の宮』の項, 139-140参照
3. モーサヤ2:6
4. 大管長会からの手紙, 2003年3月11日付
5. トーマス・S・モンソン「平和を見いだす」『リアホナ』2004年3月号, 5-6参照
6. ジョアン・ジョリー, "A Shining Beacon on a Hill: Jordan River Temple Is Dedicated," *Ensign*, 1982年1月号, 77で引用。「総大会が開催された週の初め, 十二使徒定員会のトーマス・S・モンソン長老は, 建物としての神殿が持つ深い霊的な意味を示唆する話をした。そのとき引用したのが, 亡くなったマシュー・カウリー長老の話で, 幼い孫娘の誕生日にその子をソルトレーク神殿の敷地に連れて行った祖父についての話である。管理人の許可を得て, 二人は歩いて神殿の大きな扉までやって来た。祖父は彼女に神殿の壁に, 次に扉に触れるように提案し, 優しくこう言った。



『今日, 神殿に触ったことを覚えておきなさい。いつか, おまえはこの扉から中に入るんだよ。』孫娘への彼の特別な贈り物とは, 主の宮に対する彼自身の感謝の気持ちだった。モンソン長老も同じ勧告を与えている。『わたしたちが神殿に触れるとき, 神殿はわたしたちの心に触れてくれます。』

7. 「世界の末日聖徒イエス・キリスト教会の神殿のリスト」教会国別ウェブサイト——<http://www.ldschurch.jp/index.php?%20id=852>

8. Bible Dictionary, "Temple"の項, 781
9. 教義と聖約88:119
10. マタイ6:19-20; 3ニーファイ13:19-20参照
11. ハワード・W・ハンター「神殿に心を開ける民」『聖徒の道』1995年5月号, 2
12. ボイド・K・パッカー「主の宮居」『聖徒の道』1993年7月号, 21
13. 「神殿に行きたいな」『子供の歌集』99
14. ボイド・K・パッカー「信仰の盾」『聖徒の道』1995年7月号, 8

# 人生のかじ取りに たまもの 役立つ賜物

七十人

ジョセ・A・ティシエラ長老

**人は……この人生の旅路を独りで歩むではありません。それを助けるために必要な賜物が天の御父から与えられています。**



天の御父は、わたしたちに主イエス・キリストとその贖い<sup>あがな</sup>を土台とする幸福の計画を与えてくださいました。イエス・キリストの教えと模範に従うことによって、この計画における人の役割をより明確に理解することができます。

モーセ書第1章には、神の業は「人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと」<sup>1</sup>であるという簡潔ながらも非常に貴い言葉が書かれています。

人は御父のみもとへ戻り、御父のようになるというこの人生の旅路を独りで歩むではありません。それを助けるために必要な賜物が天の御父から与えられています。

霊的な賜物とは、神がその子供たちにお与えになる祝福または能力です。<sup>2</sup>それは永遠の目的地を目指す人生のかじ取り

を助けてくれます。

イエス・キリストという救い主を備えた計画があるという知識は、わたしたちに大きな安らぎを与えてくれます。<sup>3</sup> 主の犠牲により、悔い改めることで福音の教えに従うすべての人々の罪が赦されるのです。御父のみもとへ帰るとともに住むために助けが与えられているという知識は、大きな安らぎを与えてくれます。生涯を通して未知の海原を独りで渡るのではないという知識は、大きな安らぎを与えてくれます。

人生のかじ取りを助けてくれる一つの賜物は、すべての人に与えられています。それは選択する力です。

わたしたちがする選択にはまぎれもなく人生を変える力があります。この賜物を持つことはわたしたちへのたぐいまれな信頼のしるしであり、同時に、それを賢明に使うという重大な責任を負うことでもあります。天の御父は人の選択の自由を尊重され、正しい選択を強いたり、愚かな選択を妨げたりはなさいません。<sup>4</sup> しかし、御父はこの重大かつ不可欠な賜物について、聖文にはっきりと述べておられます。「しかし見よ、神から出るものはいつも善を行うように誘い、促す。したがって、善を行い、神を愛し、神に仕えるように誘い、促すものはすべて、神の靈感を受けているのである。」<sup>5</sup>

「いつも善を行う」という言葉は、選択の自由を行使するときに用いるべき標準を表しています。

選択には結果が伴います。それは決定をしてからすぐに現れるものもあれば、すぐに現れないものもあります。授けられた霊的な賜物を使うことは、正しい道を歩み続けるために最も大切なことです。

最近わたしは小型のGPS受信器を使用しました。この驚くべき機器には、はるか上空の衛星から送られてくる周波数に合わせたアンテナと、地上におけるわたしの現在位置を示す画面が付いています。

この数十年間、このような機器が広く使われるようになりました。科学的な目的や、地図の製作や測量のため、最近では運転中に道に迷わないようにするために使われています。

歴史を通じて、人は道に迷わないように様々な努力を重ねてきました。わたしの母国ポルトガルを例にとると、15世紀の大陸発見時代に、航海士たちは「リスボンの港から、前人未到の大海原に向けて帆を張った」<sup>6</sup> ののですが、彼らは目的地へ無事到着するために、最高の地図や夜空の星の読み方を利用し、当時の最新式の帆船に乗り込みました。それにもかかわらず、風に逆らって航海するのはたやすいことではありませんでしたし、大海で長い時間さまようこともしばしばあったのです。

一方今日、このGPS受信器を使えば、次のような質問の答えを即座に得ることができます。

- 現在位置は？
- 進行方向は？
- 目的地へ行く最善の方法は？
- 到着予定時刻は？

この小さな機器を使うことで安心して運転することができます。そして、行きたい場所に間違いなく到着できる確信があります。

ところがある日、地下駐車場へ入ったとき、この機器の新しい機能を知ることになります。「電波が受信できなくなりました」と突然警告してきたのです。駐車場のコンクリートの厚い壁が、衛星からの信号を遮断して、受信できなくなったのです。

地上に出て来たときに、もう一つ分かっ

たのは、必要な信号を再受信するまでに時間がかかるということでした。

わたしたちの心の中にも「GPS」があって、正しい選択ができるように、また常に善悪を知ることができるように助けてくれます。

「キリストの光がすべての人に与えられているので、人は生まれながらに善悪をわきまえる能力を持っている(教義と聖約 84:46)。この能力は良心と呼ばれている。人はこの能力があるために、責任を負う存在となっている。」<sup>7</sup>

さらに、教会員として、わたしたちには、慰めや、守り、導きを与えてくれる聖霊の賜物が与えられています。<sup>8</sup>

しかしながら、他の能力と同じように、良心も罪や誤用によって鈍くなることがあります。<sup>9</sup> 神にかかわることに鈍感になると、人を導く信号を受信できなくなってしまいます。戒めを守ることが神からの「強い信号」を受け続けるための最善策です。

わたしたちの愛するトーマス・S・モンソン大管長はこう述べています。「わたしたちの生涯は、わたしたちの下す決定のいかに懸かっています。言い換えれば、日々の決定が人の行く末を決めるのです。」<sup>10</sup>

わたしは、善を選ばばやがては幸せへと導かれ、誤った選択をすれば惨めな状態に引き落とされることを証します。<sup>11</sup> 善を選ぶようになり、戒めを守るならば、次のような結果に導くパターンが築かれます。

- 生活に充実感を得る。
- 天の御父と御子イエス・キリストにさらに似た者になる。
- 忠実な人に約束されたすべての祝福を受け継ぐにふさわしくなる。

人生のかじ取りを助けるもう一つの賜物は、イエス・キリストについて証する人々の言葉を信じる力です。<sup>12</sup>

神は、現代を含むすべての時代にわたしたちの預言者を通じて、個人と家族のための幸福の計画を明らかにしてくれました。預言者に従う人々は、神が約束された祝福を受けます。

生ける預言者は常に信頼できます。彼らの教えは主の御言葉と御心を反映して



います。「まことに主なる神はそのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは、何事をもなされない」<sup>13</sup> のです。

初等協会の歌はこう勧告しています。

したがおう預言者に  
じゅうじゅんに道それず  
したがおう預言者は 主の道を知っている  
たしかな道歩むために  
耳かたむけしたがおう  
主の預言者とく教え<sup>14</sup>

天の御父は一人一人を心にかけ、祈りを聞き、こたえてくださること、また預言者に御心を伝えてわたしたちを導いてくださることを証します。信仰を強め、預言者の言葉に従って生活することによって、わたしたちは幸福の計画とその中でイエス・キリストが主要な役割を果たされていることへの証を強めることができます。

選択する力とイエス・キリストについて証する人々の言葉を信じるという生来の力によって、人生という大海を渡り、永遠の

目的地へ到達できるのです。

この週末わたしたちは預言者、聖見者、啓示者から教えを受けました。わたしは天の御父が与えてくださった導きと、救い主、贖い主である御子イエス・キリストに感謝しています。御二方が生き、わたしたちを愛しておられること、これまでに受けた教えに従うならば、正しい選択をし、道に迷うことなく、永遠の故郷へ到達できることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. モーセ1:39
2. "Spiritual Gifts," (霊的な賜物) [gospeltopics.lds.org](http://gospeltopics.lds.org) に掲載
3. "God has a plan for your life," (神はあなたの人生のための計画を持っておられる) 参照, [www.mormon.org/mormonorg/eng/basic-beliefs/heavenly-father-s-plan-of-happiness/god-has-a-plan-for-your-life](http://www.mormon.org/mormonorg/eng/basic-beliefs/heavenly-father-s-plan-of-happiness/god-has-a-plan-for-your-life) に掲載
4. "God has a plan for your life," (神はあなたの人生のための計画を持っておられる) 参照, [www.mormon.org](http://www.mormon.org) に掲載
5. モロナイ7:13
6. ルイス・デ・カモエンス, *The Lusiad*, 第1巻, 第1節, ウィリアム・ジュリウス・ミクル翻訳(1776年)
7. 『聖句ガイド』「良心」の項参照
8. 使徒2:38参照
9. 『聖句ガイド』「良心」の項参照
10. トーマス・S・モンソン「人の行く末を左右する決定」『聖徒の道』1979年, 11月号, 30
11. "God has a plan for your life," (神はあなたの人生のための計画を持っておられる) 参照, [mormon.org](http://mormon.org) に掲載
12. 教義と聖約46:14
13. アモス3:7
14. 「預言者にしたがおう」『子供の歌集』58-59

# 主の僕、預言者

七十人

F・マイケル・ワトソン長老

主は御自身の預言者を通してわたしたちに語られます。



少年時代、ユタ州スプリングシティーの小さな農村に住んでいたわたしは、毎年、夏になると、父と二人だけで2週間、マントイ・ラサールの山岳地帯で羊の番をしました。あるとき、辺り一面に濃霧が立ち込め、前に伸ばした自分の手も見えないほどになったことがあります。しかも、夜が近づいてきました。

父はわたしに、キャンプに戻るように、そして父もすぐに後を追うと言いました。この霧の中で、どうしたらキャンプを見つかることができるのかと父に尋ねたのを覚えています。父は事もなげに次のように答えました。「馬に手綱を預けなさい。そうすれば馬がキャンプへ連れて行ってくれるよ。」その助言に従って、わたしは手綱をゆったりと持ち、馬を励ましつつ、キャンプへと向かいました。時々、低く垂れ下がった太めの枝が、見えなかったために

顔に当たったり、足が木に近づきすぎてこすれたりしましたが、やがて馬がびたりと止まると、キャンプの輪郭が浮かび上がって見えました。

自分の望む道がいつでもすぐに見つかるとは限りません。しかし、先人たちと現在生きている人々に手綱を預けるなら、彼らの知恵は、わたしたちを導いてくれることでしょう。

ピリポは、熱心に聖文を研究していた人に「あなたは、読んでいることが、おわかりですか」と質問をしました。

その答えは質問の形で返ってきました。「だれかが、手びきをしてくれなければ、どうしてわかりましょう。」<sup>1</sup>

このような熱心な質問への答えは、いつの時代も、預言者を通して与えられます。預言者は、次の約束とともに、聖文を研究することの大切さを教えています。「だれでもわたしの言葉を大切に蓄える者は、惑わされることがない。」<sup>2</sup>

どの神権時代にも、主は次の目的をもって預言者に戒めを与えられます。「彼らがこれらのことを世に宣言するようにした。これはすべて、預言者たちによって書き記されたことが成就するためである。」<sup>3</sup> 教義と聖約第1章は、時満ちる神権時代に主が与えられた教義、聖約、および戒めのはしがきとなっています。それは特に、37節から38節で述べられています。

「これらの戒めを調べなさい。これらは真実であり、確かであって、これらの中にある預言と約束はすべて成就するからである。

主なるわたしが語ったことは、わたしが

語ったのであって、わたしは言い逃れをしない。たとえ天地が過ぎ去っても、わたしの言葉は過ぎ去ることがなく、すべて成就する。わたし自身の声によろうと、わたしの僕たちの声によろうと、それは同じである。」

今日は、主の御声となった7人の主の僕について話します。1970年3月、長年の望みがかない、わたしは主の選ばれた僕たちに仕える責任を頂きました。当初は十二使徒定員会の兄弟たち、その後は、大管長会の兄弟たちとも直接かかわる機会に恵まれ、約40年にわたって仕えてきました。「わたしの言葉は過ぎ去ることがなく、すべて成就する」という言葉を心の中でより深く理解するようになったこの期間は、わたしにとっての学びの時期となりました。

過去何年にもわたって、総大会で大切な勧告が与えられてきました。このような勧告は、引き続き、過去の知恵を受け継ぐ人々により与えられ、わたしたちの心を燃やしてくれることでしょう。これらの勧告に従うことによって、わたしたちは強くなり、決してあきらめることなく、最後まで堪え忍ぶことができるのです。

これらの神の預言者たちによる指示と勧告を紹介しましょう。例えば、詩篇第24篇の言葉をよく引用したのはジョセフ・フィールディング・スミス大管長でした。あることが尋ねられているこの章では、その答えと、忠実な人々に約束された祝福が記されています。

質問——「主の山に登るべき者はだれか。その聖所に立つべき者はだれか。」

答え——「手が清く、心のいさぎよい者、その魂がむなしの事に望みをかけない者、偽って誓わない者こそ、その人である。」

約束——「このような人は主から祝福をうけ、その救の神から義をうける。」<sup>4</sup>

ハロルド・B・リー大管長は、主が預言者を通して与えられる言葉と戒めを心に留めるよう総大会で勧告しました。「教会の幹部からのメッセージを快く思えないこともあるかもしれません。あなたの政治上の見解[または]……社会観と相いれないものもあるでしょう。また、あなたの社会生活を多少なりとも犠牲にしなければな



らないようなメッセージかもしれません。しかし、忍耐と信仰をもって、主御自身の口から出ているかのように、これらの教えに耳を傾ける人々に対しては、次のような約束がなされています。『主なる神はあなたがたの前から闇の力を追い払い、また、あなたがたのためと、神の名の栄光のために天を震わせるであろう。』<sup>5</sup>

1973年12月、他界する前に、リー大管長は、集った教会職員とその家族に向けて話しました。そのとき、教会福祉プログラムの歴史について述べた後で、次のような質問を投げかけました。「これらの預言者は自分の伝えるメッセージに確信を持っていました。そのことを皆さんは信じていますか。」また、同じ説教の後半で、不適切な書籍やテレビを通して家庭に侵入する自由放任主義を警告する中央幹部の勧告に触れた際、リー大管長はこう尋ねました。「皆さんは、中央幹部の近くにすぎるあまり、彼らが預言者であることを忘れてはいませんか。自分の考えのみで、[そのような勧告を]しようとしている人間だとは思ってはいませんか。」<sup>6</sup>

自身の著作の中で、赦しの奇跡が確かにあり、神はお赦しになるという慰めの言

葉を与えたのはスペンサー・W・キンボール大管長でした。また、大管長は別の折に、人生の予期せぬ試練について次のように注意を促しました。かりに、人生の決定的な瞬間を変える力がわたしたちに与えられていたとしても、わたしたちは、結果的に預言者ジョセフ・スミスの死をもたらししたカーセージの監獄で起こった出来事に修正を加えるでしょうか。かりに、そのようにする無限の力が与えられたとしても、さらに重要な出来事であるゲツセマネのあの決定的な瞬間と「わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください」<sup>7</sup>という御言葉に対し、わたしたちは修正を加えるでしょうか。

大管長会の集会では、大管長会が交代で朝の祈りをささげます。わたしはいつもエズラ・タフト・ベンソン大管長の祈りを聞くのが好きでした。ベンソン大管長の祈りは、祝福を請い願うのではなく、ほとんどすべてが感謝の祈りでした。イエス・キリストのもう一つの証について、ベンソン大管長は預言者ジョセフ・スミスの言葉を何度も繰り返しました。『「モルモン書」はこの世で最も正確な書物であり、わたしたちの宗教のかなめ石である。そして、人は



その教えを守るにより、ほかのどの書物にも増して神に近づくことができる。」<sup>8</sup> ベンソン大管長は、次のように語られた救い主に従うよう勧告しました。「わたしに頼り、最後まで堪え忍びなさい。そうすれば、あなたがたは生きるであろう。最後まで堪え忍ぶ者に、わたしは永遠の命を与えるからである。」<sup>9</sup>

ハワード・W・ハンター大管長が、教会の大管長として務めたのは9か月間でしたが、わたしたちは生来の優しさを備えた大管長を慕っていました。大管長は教会員に対して次のように勧めました。

「主イエス・キリストの生涯と模範、特に主が示された愛と希望と哀れみに、これまで以上の注意を払って生活するようすべての教会員にお勧めします。……

主の宮が、教会員であることの崇高な象徴であり、最も神聖な聖約を交わす至高の場所であることをはっきりと認識してください。神殿に参入するふさわしさをすべての教会員が身に付けること、これこそがわたしの心からの願いです。」<sup>10</sup>

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は次のように語っています。「わたしは、この神権時代のすべての預言者と顔を合わせて語ったわけではありません。預言者ジョセフ・スミスを個人的に知っているわけでもありませんし、彼の語る声を聞いたわけでもありません。〔しかし、〕若いころノブーに住んでいたわたしの祖父は、ジョセフ・スミスが実際に語る声を聞き、ジョセフ・スミスこそ、この神権時代の偉大な預言者として神から召しを受けた人物だと証していました。」<sup>11</sup>

ヒンクレー大管長は、少年ジョセフ・スミスが森の中で祈り、神聖な啓示を通して、御父と御子の御二方から答えを受けた最初の示現について証しました。

神殿の建設と、神殿で行われる神聖な業に対するヒンクレー大管長の情熱は、わたしたち一人一人が従うべき指針となることでしよう。

1839年、当時の大管長会は待ち望まれていた指示を発表しました。愛する預言者トーマス・S・モンソン大管長も再度強調しているこの指示は、わたしたちが今も変わらずに従うべきものです。「皆さんの熱心な働きと……皆さんの忍耐と忠実さ……皆さんの宣べ伝える教えの確かさ、皆さんが推し進め実践する道徳的指針に……人類の行く末が懸かっています。」<sup>12</sup>

わたしたちが預言者、聖見者、啓示者として支持するモンソン大管長は、夫に先立たれた人、父親のいない子供、そして助けの必要なすべての人の擁護者として奉仕しています。モンソン大管長は、自らの生き方を通して主の模範を示し、常に主の奉仕を行う心からの望みを表してきました。モンソン大管長は主の代弁者です。わたしたちは大管長の勧告と指示に従う必要があります。まさに文字どおり、主は御自身の預言者を通してわたしたちに語られるのです。わたしは中央幹部の兄弟たちが集う集会に出席し、このことが真実であると知っており、そのように記録してきました。

わたしは生ける預言者を知り、愛しています。生ける預言者と末日の証人のそばで教えを受けた者として証します。この教

会の会員が、主が聖書の預言者と、<sup>こんにち</sup>今日までも続く主の預言者にお与えになった御言葉と戒めを心に留めるならば、「まことに主なる神はそのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは、何事もなされない」<sup>13</sup> ということをより深く理解できるようになるでしょう。

これらの真理について証します。神が天におられ、イエスがキリストであられること、わたしたちを導く預言者、聖見者、啓示者を持つこの末日聖徒イエス・キリスト教会について、厳粛に証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. 使徒8:30-31
2. ジョセフ・スミス・マタイ1:37
3. 教義と聖約1:18
4. 詩篇24:3-5
5. ハロルド・B・リー、Conference Report, 1970年10月, 152 または *Improvement Era*, 1970年12月号, 126
6. ハロルド・B・リー、末日聖徒イエス・キリスト教会職員のためのクリスマスディボーション、1973年12月13日; *The Teachings of Harold B. Lee*, クライド・J・ウィリアムズ編(1996年), 298で引用
7. ルカ22:42; スペンサー・W・キンボール、*Faith Precedes the Miracle*(1972年), 100参照
8. *History of the Church*, 第4巻, 461
9. 3ニーファイ15:9
10. ジェイ・M・トッド、"President Howard W. Hunter: Fourteenth President of the Church" *Ensign*, 1994年7月号, 4-5
11. ゴードン・B・ヒンクレー、「主の預言者を信じなさい」『聖徒の道』1992年7月号, 56
12. *History of the Church*, 第3巻, 395; この書簡についてのさらに詳しい情報は、ジョセフ・フィールディング・スミス、*Church History and Modern Revelation*(1950年), 48-49を参照
13. アモス3:7

# 人々をわたしのもとに連れて来なさい

十二使徒定員会

L・トム・ペリー 長老

**宣教師はこれからも最善を尽くし続けるでしょう。しかし、皆さんやわたしが本来行うべき仕事を進んで行う方がもっとよくはないでしょうか。**



**何**年も前、車でユニバーシティ・アベニューを走っていると、プロボ溪谷の入り口近くで、前方の車の流れが遅くなっているのが見えました。その先では、ライトを点滅させたパトカーや消防車、数台の搜索救助隊の車が集まって、プロボ溪谷に入る道を封鎖していました。最初は困ったと思いました。ここで長時間待たされるかもしれないと感じたからです。しかし、騒ぎの原因を知りたいという好奇心もありました。

プロボ溪谷の入り口の東側にある岩壁を見上げると、数人の人が登っているのが見えました。搜索救助隊のようでした。どこに向かっているのでしょうか。やがて分かりました。迷い出た1匹の雌の羊が、25フィート(8メートル)の高さまで岩壁を登

り、そこで立ち往生していたのです。野生のやぎや羊ではなく、羊飼いの羊の群れからはぐれた白い羊でした。

ほかにすることもなかったのですが、どうすれば迷い出た羊がああ場所まで登って行けるのかと、岩壁を眺めてみましたが見当もつきませんでした。それでも羊はそこにおいて、その羊を助け出そうと大騒ぎになっていたのです。その後、警察が車道を空けてくれたので、結局どうなったのかは今も分かりません。

走り去りながら、一つ気がかりなことがありました。救助隊員は間違いなく、羊のために思って行動していたのですが、羊はどのような反応を示すでしょうか。救助隊は羊を落ち着かせる手段を用意していたはずですが、至近距離から鎮静剤の矢を撃ち、落下する前に捕獲しようと考えていたかもしれません。救助隊の計画については何も知りませんでした。見知らぬ者によって逃げ場のない所に追い込まれたとき、動物がどのような反応を示すかについては多少知識があったので、無事に救助できるかどうか心配でした。その後、こう思いました。「羊飼いはどこだろうか。」羊飼いか、だれよりも羊を怖がらせずに近づくことができる人物でしょう。羊飼いの穏やかな声と救いの手こそが、まさにこの状況で必要とされていましたが、羊飼いは行方不明のようでした。

教会員であるわたしたちは時々、この羊飼いのように、必要なときに行方不明に

なっていることがあるようです。少しの間、モンソン大管長が新任の伝道部会長のための2008年のセミナーで、新たに召された伝道部会長たちに語ったことについて考えてみましょう。大管長は次のように言いました。「会員とともに行う伝道プログラムほど効果的なものはありません。街頭での伝道も、黄金の質問も、それに代わることはできません。会員とともに行うプログラムこそが成功の鍵であり、実行してみるなら、どこで<sup>おこな</sup>行ってもうまくいきます。」(“Motivating Missionaries,” 2008年6月22日, 8)

この観点から考えると、会員宣教師、すなわち皆さんやわたしは羊飼いです。そして専任宣教師は、あの搜索救助隊のように、自分の力だけではとてもできそうにないことを行おうとしています。確かに、専任宣教師はこれからも最善を尽くし続けるでしょう。しかし、皆さんやわたしが本来行うべき仕事を進んで行う方がもっとよくはないでしょうか。この仕事はわたしたちの方が適任なのです。迷い出た、救出の必要な人々のことを、わたしたちは個人的に知っているからです。

教義と聖約に記されている、教会員の3つの目標に焦点を当てたいと思います。そのどれもが、友人、隣人、家族が助けを必要とするときに、わたしたちが行方不明でいることのないよう促しています。そのような人々の中には、教会を離れた人、あまり熱心に集っていない人も含まれます。わたしたちは皆、より良い会員宣教師となるべきです。

教義と聖約第88章81節には、「警告を受けた人は皆、その隣人に警告しなければならぬ」と書かれています。ワード伝道の成長と発展を後押しするため、わたしは教会の多くのステークを訪れる特権にあずかってきました。これは非常に報いのある、霊的な経験となっています。訪問を重ねて気づいたことで、最近の調査でも確認されたことですが、合衆国とカナダの人々の半数以上が、この教会が何を実践し、何を信じているかについてほとんど、またはまったく知りません。ほかの国々では、その割合ははるかに高いこと



でしょう。また同じ調査で、会員でない人々が忠実な教会員と長期にわたって交わったり、教会の信条や教義について、分かりやすい、正しい情報に触れたりするなら、彼らは好意的になり、理解を示すようになることも明らかになっています。

教会には世界中で奉仕する5万人以上の専任宣教師がいます。『わたしの福音を宣べ伝えなさい』のおかげで、彼らは教会のどの時代の人よりも、イエス・キリストの福音を効果的に教えられるようになりました。しかし残念なことに、ほとんどの専任宣教師は、人々を教えることよりも人々を見つけることに多くの時間を費やしています。教えるための資源である専任宣教師が十分に活用されていないように思います。もし皆さんやわたしが専任宣教師の代わりにもっと人々を見つける活動を行い、宣教師を解放し、わたしたちが見つけた人々を教えることに時間を使ってもらうなら、偉大なことが起こり始めるでし

う。自分自身で隣人に警告する代わりに専任宣教師が警告してくれるのを待っているのは、教会を発展させる絶好の機会を逃してしまいます。

わたしたちは、救いの計画が与える答えを求めている人に、「大きな期待をもって」(教義と聖約123:14)福音の光をもたらすべきです。多くの人々が、自分の家族について心配しています。価値観が変化する世の中で安全を探し求めている人々もいます。わたしたちには、彼らに希望と勇気を与え、ともに来てイエス・キリストの福音を受け入れるよう招く機会があります。主の福音は地上に存在しており、この世においても来るべき永遠にわたっても彼らの生活に祝福をもたらすでしょう。

福音の中心にあるのは、わたしたちの主、救い主の贖罪です。贖罪は、罪を洗い清め、癒し、永遠の命を授ける力をもたらします。贖罪がもたらす、想像をはるかに超える祝福はすべて、福音の原則に

従って生活し、福音の儀式を受ける人、すなわち、イエス・キリストを信じる信仰を持ち、悔い改め、バプテスマと聖霊を受け、最後まで堪え忍ぶ人々にのみ与えられます。わたしたちが世界の人々に伝えるすばらしい伝道のメッセージとは、すべての人類が救い出され、良い羊飼い、すなわちイエス・キリストの羊の群れに入るように招かれているということです。

わたしたちの伝道のメッセージは、回復について知ることで強固なものとなります。わたしたちは、神が昔と同じように今日も御自身の預言者に語られることを知っています。また、神の福音が、回復された神権の力と権能によって教えられていることも知っています。今日地球上に住むすべての人に対し、これほど偉大で、永遠に重要な意味を持つメッセージはほかにありません。わたしたち全員が、力と確信をもってこのメッセージを人々に教える必要があります。回復の奇跡についてわ



た私たちを通じて証<sup>あかし</sup>するのは聖霊の静かな細い声ですが、まずわたしたちが口を開いて証しなければなりません。わたしたちは隣人に警告しなければなりません。

このことは、教義と聖約から紹介した二つ目の聖句につながります。第88章の81節で、警告を受けると伝道活動がすぐにわたしたち一人一人の責任になるということが教えられている一方で、第33章の7節から10節では、わたしたちは口を開くようにと教えられています。

教義と聖約第4章を暗記している人であれば、第33章7節で主はわたしたちに伝道活動について語っておられるということがはっきりと分かるでしょう。「まことに、まことに、あなたがたに言う。畑はすでに白くなり刈り入れを待っている。それゆえ、あなたがたの鎌を入れ、あなたがたの勢力と思いと力を尽くして刈り取りなさい。」

次に、口を開くようにという指示が3度出てきます。

「あなたがたの口を開きなさい。そうすれば、あなたがたの口は満たされるであろう。そして、あなたがたは、エルサレムを出て荒野を旅した昔のニーファイのようになるであろう。」

まことに、あなたがたの口を開きなさい。惜しんではならない。そうすれば、あなたがたは背に束を積まれるであろう。見よ、わたしはあなたがたとともにいるからである。

まことに、あなたがたの口を開きなさい。そうすれば、あなたがたの口は満たされて言うであろう。『悔い改めなさい。悔い改めなさい。主の道を備え、その道筋をまっすぐにしなさい。天の王国が近づいているからである。』(8節-10節)

もし3度口を開かなければならないとしたら、わたしたち一人一人は何を言うのでしょうか。提案させてください。何よりもまず、わたしたちはイエス・キリストと主の贖罪を信じていることを宣言するべきです。主の贖<sup>あがな</sup>いの業は全人類を祝福し、不死不滅<sup>たまもの</sup>の賜物を与え、神のあらゆる賜物の中で最も大なるものである、永遠の命の賜物を享受することを可能にしています。

2度目に口を開くときには、最初の示現の物語を自分自身の言葉で語るべきです。すなわち、15歳にも満たない少年について、知っていることを語るのです。この少年が森に入り、心から、へりくだって祈ると、天が開かれました。何世紀もの

混乱の後、神会の本質と神のまことの教えが世に明らかにされたのです。

3度目に口を開くときには、イエス・キリストについてのもう一つの証であるモルモン書について証しましょう。モルモン書は聖書を補うものであり、救い主の福音の教義についてわたしたちの理解を深めてくれます。モルモン書は、ジョセフ・スミスが確かに神の預言者であること確かな証拠です。モルモン書が真実なら、神権は回復されたのです。モルモン書が真実なら、ジョセフ・スミスはその回復された神権の力をもってイエス・キリストの教会を回復したのです。

現在、わたしはアルマ書をちょうど読み終えたところですが、ゼラヘムラの教会の人々に与えたい素晴らしいメッセージの結びの近くで、アルマは次のように言っています。

「多くの羊を飼っているとき、おおかみが入って来て、羊の群れを食い尽くすことのないように、羊の番をしないう羊飼いがあなたがたの中にいるであろうか。そして見よ、おおかみが羊の群れの中に入って来れば、羊飼いはそのおおかみを追い払わないであろうか。そして最後に、できれば羊飼いは、そのおおかみを殺すであろう。」

さて、わたしはあなたがたに言う。良い羊飼いは今、あなたがたを呼んでおられる。あなたがたがその声を聴くならば、良い羊飼いはあなたがたを御自分の羊の群れに導き入れ、あなたがたは良い羊飼いの羊になる。また良い羊飼いは、あなたがたが減びることのないように、飢えたおおかみをあなたがたの中に決して入れてはならないと、あなたがたに命じておられる。」(アルマ5:59-60)

救い主は良い羊飼いであれ、わたしたちは皆、主の業に召されています。プロボ溪谷の入り口にある崖<sup>がけ</sup>の岩壁にいた羊と、このアルマの言葉は、救い主がルカによる福音書第15章で尋ねておられる質問を思い起こさせてくれます。「あなたがたのうちに、百匹の羊を持っている者がいたとする。その一匹がいなくなったら、九十九匹を野原に残しておいて、いなくなった一匹を見つけるまでは捜し歩かないであろうか。」(4節)



ロシア、モスクワ

羊の群れの世話をするという事について考えると、通常は、すべての羊のために、できるすべてのことを行うという、羊飼いに課せられた要求または管理の職のことが頭に浮かびます。しかしこの経験を通して、わたしはそれがなくなった羊のたとえであることに気づき、あの1匹の迷い出た羊が陥っていた危険な状況に思いをはせました。その羊はたった1匹で、岩壁を登る次の一歩を踏み出すことができず、向きを変えて下に降りる道を見つけることもできずにいました。大惨事の一手手前で、自力で抜け出すすべもなく、どれほどの恐怖と絶望を抱いていたことでしょう。

わたしたち一人一人が、迷い出た人がどのような気持ちを感じているか、また、いなくなった一人を見つけるために99人を残して行く「霊的な」羊飼いになるとはどういうことか深く考えることが大切です。そのような羊飼いは、捜索救助隊の専門技術と援助を必要とするかもしれませんが、現場にいて、いつでも手助けできる状態で救助隊のすぐ傍らを登って行きます。彼らは神の目に無限の価値を持つ人々を救うためにそうするのです。その人々が神の子供だからです。そのような羊飼いは、会員宣教師になるという最後の指示に応じます。教義と聖約から読みましょう。「あなたがたはこの民に悔い改めを叫ぶことに生涯力を尽くし、一人でもわたしのものに導くならば、わたしの父の王国で彼とともに受けるあなたがたの喜びはいかに大きいことか。

さて、あなたがたがわたしのものに導いてわたしの父の王国に入れるようにした、一人の人とともに受けるあなたがたの喜びが大きいならば、もし多くの人をわたしのものに導くとすればその喜びはいかに大きいことか。」(教義と聖約18:15-16)

聖文も教えているように、そのような羊飼いは言葉で言い表せない喜びを味わいます。これが事実であることをイエス・キリストの御名により証します、アーメン。

# また逢う日まで

トーマス・S・モンソン大管長

**この大会で聞いた事柄を長く覚えておくことができますように。……話者の話を研究し、その教えについて深く考え、生活の中で実践するよう強くお勧めします。**



**愛**する兄弟姉妹の皆さん、このすばらしい総大会を閉じるに当たり、わたしの心は満たされ、穏やかな気持ちです。

話者の勧告と証を聞き、多くの祝福を受けることができました。皆、イエス・キリストの福音の原則に従って生活する決意をさらに強めていることでしょう。

祈りをささげた兄弟たちをはじめ、大会に参加した皆さん一人一人に心から感謝します。

音楽はすばらしいものでした。音楽の才能に恵まれ、その才能を喜んでほかの人と分かち合う兄弟姉妹に心から感謝します。教義と聖約の聖句を思い出します。「わたしは心の歌を喜ぶからである。まことに、義人の歌はわたしへの祈りである。それに対する答えとして、彼らの頭に祝福が注がれるであろう。」<sup>1</sup>

この大会で聞いた事柄を長く覚えてお

くことができますように。大会の内容は来月号の『エンサイン』(Ensign)と『リアホナ』に掲載されます。話者の話を研究し、その教えについて深く考え、生活の中で実践するよう強くお勧めします。

献身的なわたしの顧問、ヘンリー・B・アイリング管長とディーター・F・ワークトドルフ管長に深い愛と感謝の念を抱いています。二人は知恵と理解力の人であり、大変貴重な奉仕をしてくれています。また、わたしは十二使徒定員会の兄弟たちを愛し、支持しています。この大会でわたしたちは十二使徒定員会の新しい会員を支持しました。彼は主の業に全身全霊で取り組んでいます。天の御父が今、この責任を果たすよう望んでおられる人物であると証します。

また、七十人と管理ビジョプリックの会員に対するわたしの愛を伝えます。皆、無私の奉仕を非常に効果的に行っています。同様に、中央補助組織の役員に賛辞を送ります。定期的な交替の方針に従い、今回、中央若い男性と日曜学校の新しい会長会を支持しました。彼らとともに奉仕できるのを楽しみにしています。また、これらの責任を非常に忠実に果たし、この大会で解任された皆さんに感謝します。

兄弟姉妹の皆さん、主により近く生きる努力を続けられますように。「誘惑に陥らないように、常に……祈[る]」<sup>2</sup>ことを覚えていられますように。

親の皆さん、皆さんの子供に愛を表してください。子供たちがこの世の悪に負けないよう、彼らのために祈ってください。子供たちが信仰と証を強められるよう

祈ってください。子供たちが、善に満ちた生活、人々へ奉仕をする生活を求めるよう祈ってください。

子供の皆さん、親を愛していることを伝えてください。これまでしてもらったこと、これからしてもらおうすべてのことについて、どれほど感謝しているかを伝えてください。

これから、若い人、年配の人、男性、女性を問わず、すべての人に警告の言葉を伝えます。わたしたちは、敵対する者が、可能なかぎりあらゆる手段を使ってわたしたちをわなに誘い込み、何とかして自分の道連れにしようとする時代に生きています。サタンは、多くの道にわたしたちを誘い込もうとしており、それらの道は破滅に通じています。多くの分野で、人のためになる技術の進歩が見られますが、それらは同時に、わたしたちを悪の道へより早く連れ込むためにも使われています。

わたしは、特にそれらのうちの一つについて話すよう感じています。それはインターネットです。インターネットのおかげで、非常に多くの有益で重要な情報を得ることができます。世界中の人々とのコミュニケーションが可能で、教会にも素晴らしいウェブサイトがあり、貴重で、わたしたちを高めてくれる情報や資料をたくさん提供しています。

ところが一方では、人々を墮落させる悪い目的でインターネットを使っている人の数が報告されており、きわめて憂慮すべき状況にあることが分かります。このような目的の中で最も多いのは、ポルノグラフィーを見ることです。兄弟姉妹の皆さん、そのようなものにかかると、文字どおり霊が破壊されます。強くあってください。清くあってください。そのような品位を落とす破壊的な内容は、どこで目にしようとも、あらゆる手段を使って避けてください。この警告を世界中のすべての人に伝えます。特に、若い人々に付け加えますが、これには携帯電話で見るポルノ映像も含まれます。

愛する友人の皆さん、どのような状況にあっても、ポルノグラフィーを見るというわなにとらわれることのないようにしてください。これは最も効果的なサタンの誘惑



の一つです。もし、こうした行為を経験したことがあるなら、今すぐにやめてください。誘惑を克服し、生活の方向を変えるために必要な助けを求めてください。細くて狭い道へ戻るのに必要な段階を踏み、その道にとどまってください。

昔のヨシュアとともに、こう言うことができますように。「あなたがたの仕える者を、きょう、選びなさい。ただし、わたしとわたしの家とは共に主に仕えます。」<sup>3</sup>

さて、兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは世界中に神殿を建ててきました。今後も建て続けていきます。神殿に参入するのにふさわしい人、また参入が可能なのは、頻繁に参入するようお勧めします。神殿は

平安を見いだす場所です。神殿で、わたしたちは福音に献身する気持ちを新たにし、戒めを守る決意を強めることができます。

神殿に行き、主の御霊による聖めの影響を受けられるというのは、何と大きな特権でしょう。幕のかなたへ行った人々の身代わりの儀式を受けるのは、偉大な奉仕の行いです。多くの場合、わたしたちは身代わりをしている人について知りません。彼らからの感謝も期待していませんし、行った儀式を彼らが受け入れているという確信もありません。しかしわたしたちは奉仕をします。そしてその過程で、ほかの方法では得られないものを得ています。文字どおり、わたしたちはシオンの山

# 信者の模範になりなさい

中央若い女性会長会第二顧問  
アン・M・ディブ

きょう  
今日、行うことに決めた小さくて簡単なことが、明日になれば、偉大で栄光に満ちた祝福へと大きく変わります。



今晚、皆さんとともにここに集えて  
光栄です。また、皆さんの善良  
さを思うと、謙虚な気持ちになります。皆さんが集っている美しい光景を見るとき、心が鼓舞されます。今晚、わたしの母カタルン姉妹から『成長するわたし』の「徳質の体験——知識」の4番に署名をもらいたいと思います。なぜなら、今回の話で、福音のテーマに関する5分間の話をするという条件を確実に満たせるはずだからです(『成長するわたし』[小冊子], 35参照)。

わたしは若い女性の皆さんが大好きです。また、若い女性のプログラムが大好きです。若かったころ、若い女性のプログラムとミューチャルは、わたしの生活でとても大切な位置を占めていました。友

人、教わったレッスン、ユースカンファレンス、キャンプが大好きでした。

指導者はわたしを愛し、福音の真理を教えてくださいました。両親から教わった福音の原則を証する第2の証人としての役割を果たしてくれたのです。

わたしの両親、ビショップ、愛する若い女性の指導者は「言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範」でした(1テモテ4:12)。わたしは喜んで彼らの模範に従いました。同じような女性になりたかったからです。

自分が若い女性だったころを振り返ると、身の回りで起こっていることの重要性を十分に理解していなかったことに気づきます。教会のすべての活動にいつも参加することにより、イエス・キリストの教えに従うための生涯にわたる行動パターンを確立し、決意を固められることに気づきませんでした。自分が、個人として、妻や母親として、そして指導者としての将来の生活に備えているということを理解していませんでした。正義を選ぶと努力するときに、自分はバプテスマの聖約を尊び、信仰を行使し、徳を増し加え、神殿に参入する備えをしているのだということを理解していませんでした。当時は、そのようなすべてのことが十分に理解できていなかったのですが、そんなわたしも、ほんの少しずつ、徐々に、信者、そして「信者の模範」となっていました。

こんにち  
今日のような『成長するわたし』のプロ

の救う者になっているのです。救い主がわたしたちの身代わりの犠牲としてご自身の命をささげてくださったように、わたしたちも、神殿で身代わりの儀式を行うとき、微力ながら同じことをするのです。儀式を待っている人々は、この地上にいる人々が身代わりにそれらを行わなければ、前進することができないのです。

教会が、非常に必要とされる場所で人道支援を続けていることに深く感謝します。この分野でわたしたちは多くのことを行い、同じ信仰を持つ人々だけでなく、信仰を異にする数多くの御父の子供たちの生活を祝福してきました。これからも、必要とされる所で支援を続けるつもりです。この分野で貢献する皆さんに感謝の意を表します。

兄弟姉妹、わたしはこの神権時代に回復された福音と、回復を通してわたしや皆さんの生活にもたらされたあらゆる祝福に深く感謝しています。わたしたちは祝福された民です。神が生きておられ、イエスがキリストであられるという確かな知識があるからです。

天の祝福が皆さんとともにありますように。皆さんの家庭が調和と愛に満たされますように。悪の力からの守りとなる証を絶えず養うことができますように。

皆さんの謙遜な僕として、わたしは神の御心を行い、神と皆さんに仕えたいと心から願っています。

兄弟姉妹の皆さん、大会を閉会します。安全に家へ帰ることができますように。

皆さんを愛し、皆さんのために祈っています。皆さんの祈りの中に、わたしとすべての中央幹部を加えていただくようお願いいたします。6か月後に再びお会いするまで、主の祝福がわたしたち全員のうえに注がれますように。わたしたちの救い主イエス・キリストの御名により願います。アーメン。

注

1. 教義と聖約25:12
2. 3ニーファイ18:18
3. ヨシヤ24:15

グラムはありませんでしたが、とてもよく似たプログラムが与えられていました。そこには、福音の原則を学び、実践し、報告する機会が含まれていました。最近、わたしの友人であり、模範であるキャシー・アンダーセン姉妹が自身の『ビーハイブ少女用手引き』(Beehive Girl's Handbook)を見せてくれたときに、わたし自身の経験を思い起こす機会となりました。アンダーセン姉妹の使い古した手引きの中から、少しだけ紹介したいと思います。

「真理を愛する」という分野の指針は次のとおりです。

1. 礼儀正しくし、クラスで積極的に受け答えをする。
2. すべての行いにおいて正直であること。学校で知識を身に付けるのは大切だが、誇りを持ち、高潔であり、不正行為をしないことも大切である。授業で「合格」しても、不正を行って人格で「不合格」だったら、真理の意味を学ばなかったのと同じである。
3. 今月、うわさ話をしない、あるいはうわさ話に一切耳を傾けない。それが生涯にわたる習慣となるよう努力する。
4. 家族や友人が持っている多くの長所に気づき、気づいたことを真心から相手に伝える。そうすれば相手はもっと好意を示してくれるであろう。注意——「ゴマすりあるいはおべっか」にはならないよう気をつけること。(Beehive Girl's Handbook [1967-1968年], 59)

時代遅れと感じるかもしれませんが、今読んだことには真理が含まれています。若い女性の「信者」は礼儀正しく、正直で、優しく語り、誠実です。これらは、ささいなこと、あるいは簡単なことのように思われるかもしれませんが、モルモン書の預言者アルマはこう教えています。

「〔こう〕するのはわたしが愚かだからであると、あなたは思うかもしれない。しかし見よ、わたしはあなたに言う。小さな、簡単なことによって大いなることが成し遂げられるのである。そして、小さな手段が度々知者を辱める。」(アルマ37:6)



最近、わたしは新しい『若い女性——成長するわたし』の「徳」の達成条件に取り組むことによって、生ける預言者に従おうとしています。小さくて簡単なことのように見えるかもしれませんが、その「徳質の体験」の3番はすでに、わたしの生活に非常に大きな影響を及ぼしています。そこには以下の研究が求められています。

3. 「アルマ書第5章を〔研究し〕、神殿に参入し、天の御父が……約束された……祝福を受け……られるよう、自らを備えるためにできることや、これから行うことのリストを作る。」(『若い女性——成長するわたし』[挿入], 2参照)

アルマが語った言葉を研究するうちに、謙虚な気持ちになりました。良い羊飼いの羊の群れとして数えられるためには、多くのことをしなければならないからです。わたしは日記に次のようなリストを記しました。

「わたしは、霊的に神から生まれ、わたしの顔に神の面影を受けることを選ばなければならない[14節参照]。

わたしは、わたしを造ってくださった御方の贖いを信じる信仰を働かせることを選ばなければならない[15節参照]。

わたしは、悪人から去り、離れることを選ばなければならない[57節参照]。

わたしは、高慢な心を取り去り、十分にへりくだって罪のない状態で神の御前を歩むことを選ばなければならない。[27-28節参照]

わたしは、変わり、悔い改め、主のもとへ来て命の木の実を食べるようにという主の招きを受け入れることを選ばなければならない[34節参照]。

日記の中で、わたしは以下のことをしようと決意しました。それらのうちの幾つかは、わたしの個人的な課題を表したものです。

「聖文を自分の生活に当てはめながら読む。

前向きになる。不平を言わない。

相手を尊敬し、絶対にばかにしない。

特に、自分にとって最も身近な人々に感謝を伝える。

自分の家庭と生活に御霊を招くことができるよう、もっと規則正しい生活をする。

悔い改め、もっと謙遜になり、自分の霊的状态について考える。

アルマの言葉を当てはめるなら、わたしは変わり、さらに決意を固め、「信者の模範」となることを選択する。」

『成長するわたし』のこの「小さな、簡単な」活動に参加したおかげで、預言者についての証とイエス・キリストに従う決意はいっそう強まりました。この目標を達成することで、教会に出席したり神殿に参入



したりするとき、御霊にもっと敏感になる備えができました。日記に書いた言葉を読み返す度に、わたしは御霊を感じ、台所のテーブルでこれらの課題をしたときの自分の気持ちを思い出します。アルマ書第5章は、今や、わたしの大好きな章の一つとなっています。実際、わたしは『成長するわたし』の体験に取り組むことによって、たくさんの祝福を受けました。

先ほど、アンダーセン姉妹と彼女の『ビーハイブ少女用手引き』についてお話ししました。彼女は、七十人会長会のニール・アンダーセン長老〔現在は、十二使徒定員会会員〕の妻であり、母親、祖母でもあります。彼女は何度も引っ越してきましたが、いつも自分の『ビーハイブ少女用手引き』と、達成したシンボルを縫い付けたバンデロ（訳注——当時の若い女性が肩からかけた懸章）がどこにあるか知っていました。アンダーセン姉妹は夫とともに、世界中で福音を教え、教会の忠実な会員として女性らしさと善良さの良い模範にもなっています。

11歳のとき、アンダーセン姉妹は若い女性のプログラムに参加したくてたまりませんでした。ようやく12歳の誕生日がやると来ると、彼女は『ビーハイブ少女用手引き』を受け取りました。アンダーセン姉妹はこう回想しています。

「手引きの最初の方には次のように書かれていました。『ビーハイブの少女として、また生涯を通じて、目標を高く掲げてください。』（*Beehive Girl's Handbook*, 12）このプログラムはわたしにとってすばらし

い冒険になるということが分かりました。手引きを家に持って帰り、これからの2年間どんな目標を達成する必要があるのか理解できるように最初から最後まで読みました。

選べる目標が80あるということを見ました。胸を躍らせながらもわたしは、『一生懸命頑張ったら、手引きの目標の一つを除いて全部達成することだってできる』と思いました。その一つは『神殿に参入し、……死者のためのバプテスマを受ける』でした（*Beehive Girl's Handbook*, 140）。フロリダには神殿が〔なかった〕ので死者のためのバプテスマが受け〔られませんでした〕。』

アンダーセン姉妹はこの状況について父親に話してみようと決意しました。彼女の手紙はこう続いています。

「父はほんの一瞬、ためらった様子でした。西部に親戚はなく、ユタ州に行く理由は神殿以外ありませんでした。しかし、父は思いやりを込めてこう言ってくれたのです。『キャシー、君がビーハイブの手引きのほかの目標を全部達成したら、ソルトレーク・シティーの神殿まで2,500マイル（約4,000キロ）あるけど、連れて行ってあげるよ。そうしたら、死者のためのバプテスマができて、最後の目標が達成できることになるね。』

わたしは、2年間、ビーハイブの手引きにある目標に取り組み、79の目標を達成しました。父はその間、一生懸命働いて、神殿への旅をするために十分なお金をためました。父はわたしへの約束を守って

くれたのです。

飛行機を使っただけの旅は、当時、わたしたち家族にとっては高すぎました。ですから、ソルトレーク・シティーまで往復5,000マイル（約8,000キロ）の道のりを車で旅行しました。最後に残ったビーハイブの目標を達成するためでした。ソルトレーク神殿に参入し、父から身代わりのバプテスマを受けたとき、この上ない喜びを感じました。そのときの経験は決して忘れないでしょう。

父と母が喜んで神殿をわたしの生活で大切なものとしてくれたことに、わたしは永遠に感謝するでしょう。……賢明な両親は、若い女性の目標に取り組むときに、娘の信仰が強められることをよく理解していたのです。両親が、ソルトレーク・シティーへの長旅を行うに当たって示した信仰と犠牲は、わたしとわたしに続く子孫にきわめて大きな影響を及ぼしたのです。』（“I Can Complete All of the Goals – Except One,” 未発行の原稿）

若いころ、アンダーセン姉妹は模範的な女性、すなわち「信者の模範」となれるような小さくて簡単なことを行おうと懸命に努力しました。そして、彼女はまさにそのとおりの人になりました。皆さん一人一人に同様の機会が与えられています。今日、行おうと決めた小さくて簡単なことが、明日になれば、偉大で栄光に満ちた祝福へと大きく変わります。日々、「信者の模範」として生活するならば、皆さんは幸福になり、自信を増加させることができます。また、証を強め、バプテスマの聖約を守り、神殿の祝福にあずかる備えができます。そして、ついには天の御父のもとに戻ることができるのです。

わたしたち一人一人が、信者の模範となるよう懸命に努力できますように、イエス・キリストの福音に従った生活を送り、主から求められていることをすべて行えますように、また、これらのことを、疑わないうで、信仰をもって、また純粋かつ高潔な心で行えますように、心からへりくだり祈ります。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

# 徳高い人生—— ——一歩ずつ

中央若い女性会長会第一顧問  
メアリー・N・クック

**青少年の時代は、徳高い習慣を身に付ける大切な時期です。そのような習慣があれば、永遠の命を得るのに必要な歩みを進めることができます。**



**母** 親にとって生涯で最も貴い瞬間の一つは、生まれたばかりの娘を腕に抱き、この清い霊は天の御父のみもとから来たばかりなのだと思感するときです。このような瞬間は、わたしたちが確かに天の御父の娘であり、御父のみもとを離れたばかりの子供が、学び、進歩する準備のできた、清い状態で地球にやって来るということを思い出させてくれます。

ある年の母の日に、母がこのすばらしい経験について手紙に書いて伝えてくれました。大学に通うために実家を離れていたときのことです。

「今年の母の日はいつもよりさらに特別です。あなたの『母親』になって21年が過ぎた今、それがどれほどの特権かを思い

巡らしているからです。わたしたちは、あなたは特別だと感じました。メアリーという名前を付けたのは、その名のとおり、清く、優しい人でいてほしいと願ったからです。

同じ名前のメアリーおばさんはあなたのことが大好きでした。まだほんとうに小さかったあなたが、我が家にやって来て最初の聖餐会で祝福を受け、命名されるよう、美しい小さなドレスをほとんど手で〔縫って〕仕上げてくれたのです。」

手紙を読んで、母の最大の望みは、わたしが清く、徳高くあり続けることだったと分かりました。徳とは、「道徳的に高い標準に基づいた思いと行動のパターンです。」(『わたしの福音を宣べ伝えなさい』118)母は、人生には困難が伴うこと、また徳高くあり続けることは生涯にわたって続く課題であることを知っていました。そして、わたしが福音の祝福を受けて、この課題を達成するための導きと助けを得られるように望んでいたのです。

愛する若い女性の皆さんは、これまで多くの良い選りを選びました。これから皆さんは、生涯にわたってこの道にとどまれるよう、徳の習慣を築いていかなければなりません。徳高い人生が送れるよう、そばで皆さんを支え、助けてくれる「信者の模範」となる人(1テモテ4:12)を探し求めてください。

わたしたちが徳高くあることは、地上の両親だけでなく、天の御父にとっても非常

に大切です。それはなぜでしょう。徳高くあることで、平安と強い人格を手に入れ、この世で幸福になることができます。天の御父はわたしたちが多くの選りや困難に直面することを御存じです。徳高く生きることが成功するための備えとなるのです。

皆さんの多くは、生まれた後に子供の祝福を受けた日に、徳高い人生という旅の第一歩を踏み出しました。自らの選りによってバプテスマと確認、聖霊の賜物を受け、ふさわしい状態で毎週聖餐を受け、バプテスマの聖約を新たにしようと努めることは、徳高い人生の歩みを進めるうえで欠かせません。

旅を進める次の一歩は、神殿に入るふさわしさを身に付けることです。神殿では神聖な聖約を新たに交わり、永遠の結婚などの神聖な神殿の儀式を受けます。そのためには徳高くある必要があります。

青少年の時代は、徳高い習慣を身に付ける大切な時期です。そのような習慣があれば、永遠の命を得るのに必要な歩みを進めることができます。

ニーファイ第一書第8章にある示現はとも有名ですが、ここを読むと、永遠の命に至る細くて狭い道にとどまることの難しさが改めて分かります。父リーハイは、神の愛を象徴する命の木(1ニーファイ11:21-22参照)にたどり着こうとした様々な人が直面した困難について息子たちに語りました。その木の「実は人を幸せにする好ましいもので[した]」(1ニーファイ8:10)。

最初の集団は細くて狭い道を歩き始めましたが、道にとどまる助けとなる鉄の棒から手を離してしまい、暗黒の霧の中で道を見失ってしまいました(1ニーファイ8:21-23参照)。

この暗黒の霧の一部分、すなわち、永遠の命に続く道を隠すためにサタンが使う誘惑は明らかに女性に向けられています。サタンは、純潔や道徳的な清さは時代遅れで、母親になることはそれほど重要でないと思わせます。そして、主の神聖な計画の中で女性が果たす役割を理解しにくくすることに成功を収めています。

このような暗黒の霧の中を、道を見失

うことなく進むには鉄の棒が必要です。鉄の棒は神の御言葉を表しています(1ニーファイ15:23-24参照)。わたしたちは、聖文に書かれている真理と戒めを研究し、理解しなければなりません。末日の預言者の言葉に注意深く耳を傾けなければなりません。彼らの言葉は、導きと指示と守りを与えてくれます。また、『若人の強さのために』に書かれている標準を固く守らなければなりません。

リーハイが見た2番目の集団は、鉄の棒につかまっていた。正しい方向を目指して進み、木の実を食べることができました。彼らは真の幸福を味わいましたが、残念ながら、幸福は長くは続きませんでした。周囲を見回し、自分たちをあざけている人々を見たからです(1ニーファイ8:24-27参照)。彼らは仲間からプレッシャーを受けて恥ずかしく思い、屈伏してしまいました。

これこそサタンが若人に使う最大の戦法の一つです。若い女性の皆さん、人がわたしたちの行いや信条をあざ笑うときも強く立つことができるよう、わたしたちは義にあって一つとならなければなりません。

この世のプレッシャーに抵抗する方法は「聖なる場所に立ち、動かされないように」することです(教義と聖約87:8)。誘惑を受けやすく、あざけり笑われそうな状況には近寄らないでください。徳高くある決意をすることで、仲間のプレッシャーに勝つ強さが得られるでしょう。『若人の強さのために』で勧められているように、「天の御父の標準に合わない内容に出会ったときには、映画館やビデオパーティーから立ち去り、コンピューターやテレビのスイッチを切り、ラジオの番組を替え、雑誌を閉じる勇氣を持ってください。」(『若人の強さのために』19)インターネットや携帯電話の不適切な情報、また同様に、下品な音楽、みだらな思いを誘うダンスなどを避けるべきです。あざけられたり、後ろ指をさされたり、孤独を味わったりすることもあるでしょう。それでも、誘惑に打ち勝つ勇氣を持ってください。

皆さんが前進し、鉄の棒にしっかりとつかまり続けられるように助けてくれるもの

は何でしょうか。生活の中で救い主を中心としてください。義にかなった生活を日々の習慣にしてください。

救い主と、救い主が皆さんのためにしてくださったことすべてを知ってください。興味深いことに、最後の集団は命の木のところまで来るとひれ伏しました。彼らはへりくだっていました。救い主の助けなしにたどり着くことはできなかったと悟っていたのです。

徳高くあることができるのは、<sup>あがな</sup>贖いのもたらす清めの力のおかげであることを覚えていてください。わたしたちは皆間違いを犯しますが、「救い主はあなたを愛し、あなたのために御自身の命をささげてください。そのおかげであなたは悔い改めることができる。悔い改めは、イエス・キリストを信じる信仰の表れである。……救い主の贖いの犠牲のおかげで、あなたは罪の赦しを受けられるようになった。……毎週聖餐をふさわしい状態で受けるとともに、霊的な力がもたらされるような徳高い活動で生活を満たすという決心をする。このようにするとき、誘惑に抵抗し、戒めを守り、[清さを保ち、]もっとイエス・キリストのようになる力を増し加えることができる。」(若い女性『成長するわたし』[挿入]3)

日々の義にかなった行いという習慣を築くことは、しっかり鉄の棒につかまり続

ける助けになります。中央若い女性会長会は、世界中のすべての若い女性の皆さんに、次の3つのことを日々の習慣とするように勧めてきました。

第1に毎日、朝と夜に、天の御父に祈ってください。第2に毎日少なくとも5分間、モルモン書を読んでください。そして第3にはほほえんでください。わたしたちには回復されたイエス・キリストの福音があり、それによって真の幸福が得られるからです。

この道を歩む皆さんは独りきりではないことを忘れてはなりません。バプテスマと確認を受けたとき、皆さんは聖霊の賜物を与えられました。聖霊の賜物は、人生のあらゆる場面で導きを与えてくれます。皆さんには聖霊の導きが必要です。徳高く生きることによって、「いつでも、どのようなことについても、どのような所においても」(モーサヤ18:9)聖霊を常に<sup>はんりよ</sup>伴侶とすることができるようになるでしょう。

この道を歩いているのは自分独りだと感じることもあるかもしれませんが、しかし、この世にやって来たときに愛する人たちが周りにいてくれたように、今も、良い影響を与えてくれる人たちが皆さんの周りにたくさんいます。皆さんの親、きょうだいたち、若い女性の指導者、神権指導者、すばらしい友人たち、そして「天使たち[も]あなたがたの周囲にいて、あなたがたを支え」てくれるでしょう(教義と聖約84:88)。







今晚、周りを見回し、この道を歩む皆さんを助けてくれる人たちを探してください。そのような人たちは、この世の中が何を言おうとも鉄の棒にしっかりとつかまっている友達です。神の御言葉や主の預言者の言葉を知り、それに従って生きる友達です。聖なる場所に立ち、この世のプレッシャーにも動じない友達です。救い主と救い主の贖いの犠牲を生活の中心に置き、義にかなった生活をしようと日々努力している友達です。その人たちはあなたにとっての信者の模範です。彼らから学んでください。そして若い女性の皆さん、あなたもその人たちやほかの人たちにとって信者の模範となることができるのです。

ナイジェリアのラゴスに住む、ピーハイブのヒラリーという少女のすばらしい模範を紹介しましょう。何人かのクラスメートから標準のことで、特に慎み深い服装についてからかわれたヒラリーは、『若人の強さのために』のカードを2枚、いつも持ち歩こうと決心しました。友達にからかわれる度に、1枚をプレゼントして、標準について、また自分がなぜその標準に従うのかを説明しています。もう1枚は、標準

に従うことを忘れないよう自分で持ち歩いています。

「徳高いこと、好ましいこと、あるいは誉れあること」(信仰箇条1:13)に満ちた人生を送るために、わたしたちは一致し、助け合わなければなりません。すべての若い女性、母親、そして、この徳高い業に加わりたくと願うすべての女性に、『成長するわたし』に新しく加わった、「徳」の徳質の体験とプロジェクトを修了するように勧めます。

数週間前、86歳になる母に、一緒に「徳」の徳質に取り組んでくれるように頼みました。これはわたしたち二人にとってすばらしい祝福となっています。徳質の体験に取り組みながら、母は1930年代、自身が若い女性だったときに、さらに徳高く生きようと決心したことを話してくれました。わたしたちは徳について、聖文、『家族——世界への宣言』、そして『若人の強さのために』からも一緒に研究しました。そして、徳高く生きようと努力するときに受けた祝福を、それぞれ日記に書き留めました。わたしたちの両方が受けた大きな祝福は、神殿に参入するふさわしさです。若い女

性の皆さん、これは皆さんにとっての次の一歩です。

ソルトレーク神殿を建てるのに、石を一つずつ積み上げながら40年という月日がかかったように、皆さんは一歩ずつ、徳高い人生を築いています。皆さんは従順であるという聖約を交わし、良い選択をしてきました。今、徳の習慣を身に付けるなら、鉄の棒にしっかりとつかまり続けることができるでしょう。人生の旅の間、皆さんが独りきりになることはありません。なぜなら、救い主がいつもともにいてくださるからです。そして皆さんは悔い改めることができます。聖霊の賜物という祝福を得、慰めと導きを受けることができます。人生で出会う信者の模範に頼り、人生の旅に行くほかの人々を助けるようにしてください。

わたしたちが確かに天の御父の娘であることを証します。御父はわたしたちを愛し、どんな状況にあっても、わたしたち一人一人を心にかけてください。16歳であろうと86歳であろうと、御父の最大の望みはわたしたちが永遠の幸福を得ることです。へりくだり、このことをイエス・キリストの御名によって証します、アーメン。

# さあ、わたしたちは 主の山に登ろう

中央若い女性会長  
イレイン・S・ダルトン

**徳高くあるならば、……神殿参入にふさわしくなるための正しい決断をすることができるようになります。**



わたしはよくこのように尋ねられます。「息子が5人、娘が1人だけのお母さんが、中央若い女性会長にどう適任なのでしょう。」わたしの答えはいつも同じです。「1人の完璧な娘がいて、男の子の秘密を全部知っているからです！」息子たちの許可を得て、今夜はその秘密を一つ明かします。それは、徳高い若い男性は徳高い若い女性に心引かれるということです。

伝道前の若い男性に、若い女性に求める第1の特質は何か聞くと、外見といった、この世の標準を基とした特質を挙げる場合があります。でも、伝道地で2年を過ごし、帰還するころには、この同じ若い男性たちは変わっています。焦点となるものが変わり、永遠の伴侶に求める第1の特質は、

皆さんの知らないうちにすっかり変わっているのです。徳高い帰還宣教師は徳高い若い女性に心引かれます。すなわち、イエス・キリストについての証を持ち、清い生活を送る決意をしている女性です。

この心の大きな変化を起こしたものは何でしょうか。この若い男性たちは、自分が何者で、幸福の計画でどのような役割を持っているかを理解しているのです。生活を清めることで、聖霊を常に伴侶とし、導きを受けられるようにしています。また主の聖なる神殿に参入するにふさわしく、徳高くあります。聖文が「信仰に徳を加え」なさいと命じている理由がよく分かります(2ペテロ1:5)。なぜなら実際に「徳は徳を愛し、光は光に結びつく」からです(教義と聖約88:40)。パウロは若い友であるテモテに「純潔にも、信者の模範になりなさい」と勧めました(1テモテ4:12)。今晚わたしはパウロの言葉を皆さんに繰り返します。なぜなら、純潔であることは徳高くあることだからです。

皆さんも覚えていると思いますが、わたしたち会長会は1年ほど前のある山に登り、「徳に立ち返る」ことを呼びかける黄金色の旗を掲げました。老若を問わず世界中の女性に、立ち上がり、光を輝かし、もろもろの国民のための旗となるよう呼びかけたのです(教義と聖約115:5参照)。それを受け「徳」という徳質を「[皆さんの]心にしる[す]」ために(ローマ2:15)、若い女性のテーマと『成長するわたし』の中に

「徳」が加えられました。これは皆さんと皆さんの時代のために、預言者、聖見者、啓示者の言葉と教えから靈感を受けて加えられたものです。ボイド・K・パッカー会長はこう語りました。「教会歴史や世界の歴史の中に、……今日のわたしたちの状況と比較できるものはありません。わたしたちを現在取り囲んでいる悪事や腐敗をしのぐものは……何もないのです。」(“The One Pure Defense” [教会教育システム宗教教育者への説教, 2004年2月6日], 4) 世の中で今ほど徳と純潔が求められている時代はほかにありませんでした。

「徳」という徳質には、ほかの徳質と同様にシンボルカラーがあります。徳を示す色は金色です。金は純粋で、輝きを放ち、派手さはなく、落ち着いた色です。金は尊いものです。金には精錬が必要です。清く、徳高い生活を送るとき、皆さんは日々の経験によって精錬されます。そして、主を「信頼」し(箴言3:5)、主に近づくとき、主は「[皆さんの]心を黄金のようにしてくださる」でしょう(ロジャー・ホフマン, “Consider the Lilies”)。

徳に立ち返るとはどのような意味でしょうか。わたしたちは道徳的な清さと純潔に立ち返るように呼びかけています。徳は清さであり、徳は純潔です。徳という言葉は「徳高さ、道徳的な美点。道徳的な清さ」とも定義されています(聖句ガイド「徳」の項。ルカ8:46も参照)。徳高い生活の核は性的な清さですが、その定義はこの世によってほぼ消し去られました。預言者モルモンは純潔と徳は「あらゆるものに勝って最も大切で貴いもの」であると教えています(モロナイ9:9)。純潔と徳は対になっていて、一方を欠いて他方を持つことはできません。「わたしたちは……徳高くあるべきこと……を信じ」ています(信仰箇条1:13)。

常に徳を保つには、神の子供らしく生き、思いと行動のパターンを高い道徳基準に基づいたものにする必要があります(『わたしの福音を宣べ伝えなさい』118-119参照)。そのような基準は永続するもので、変わることがありません。それらは神の預言者によって教えられてきました。

世の中にあふれている考え方は揺れ動くものですが、主の標準は絶対に確実に何物にも左右されません。この標準は天の御父と御子イエス・キリストのみもとへ導く道からそれないように、わたしたち一人一人に与えられたものです。

教義と聖約第25章の中で、主は愛する娘である皆さんとわたしに「徳の道を歩む」ように勧めておられます(2節)。皆さんは平凡でも、ありきたりでもありません。神の娘なのです。皆さんには命を創造する神聖な力があります。創造の力は神が貴い娘に授けられた最も大いなる賜物の一つです。皆さんは標準を守り、常に徳高くあることによってその力を守らねばなりません。そうすれば、皆さん自身や、皆さんの家族、後の世代が強められ、祝福されます。ブリガム・ヤング大管長は「シオンの力は、その息子、娘たちの徳の中にある」と教えました(*Letters of Brigham Young to His Sons*, デイーン・C・ジェシー編[1974年], 221)。

皆さんには、自分の徳を守る義務があり、ほかの人もその人の内にある神性にふさわしくなるよう助けなければなりません。皆さんはまさに徳の番人です。デビッド・O・マッケイ大管長は「女性は自身の肉体の女王となるべき」であると教えました(*Conference Report*, 1952年4月, 86)。「あなたがたは神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。」(1コリント3:16)わたしは皆さんに尋ねます。「もしわたしたちが徳のために戦わないのであれば、だれが戦うのでしょうか。」

最近、ペルーの若い女性が山に登り、世界に向けて旗を掲げたと聞きました。バージニア州の若い女性と指導者のグループは、証を書いて、ペルーの若い女性と同じように世界に向けて旗を掲げました。カリフォルニアからコスタリカまで、徳高くあり続け、徳に立ち返るように世を導くと決意した多くの皆さんの写真を受け取りました。

わたしは若い女性のころ、若い女性の指導者から、神の娘としてこれからどのように生き、どのような人になりたいかを象



徴するシンボルを選ぶように言われました。それから、そのシンボルを自分たちのバンデロ(当時わたしたちが肩からかけた懸章)に縫い付けました。このバンデロは、わたしたち一人一人が世界に掲げた旗でした。わたしは白いバラをシンボルに選び

ました。バラを選んだのは、花が開き伸びていくにつれて美しさを増すからです。白は清さを表します。皆さん一人一人に勧めます。一つのメッセージを世界に伝えることができるとしたら、自分の旗はどのようなものになるかを深く考えてください。



数年前、娘とわたしは二人の友人とともにティートン山脈に登山に行きました。わくわくする旅となるように、森林警備員に、あまり知られていない道はないか尋ねました。警備員は、道なき道を行くコースを教えてくださいました。草地、小川、巨石群の原野、手付かずの湖を通り抜け、最終目的地の「壁」と呼ばれる巨大な岩まで行くのです。皆その計画に賛成しました。警備員は大体の行き方を説明してから、こう言いました。「山の高い所を通るようにしてください。低い所にある柳の林に入らないでください。クマがいますから。それからケルンを捜してください。そうすれば道が分かりますから。」ケルンとは、環境に配慮して3つの石を積み上げて作った道標です。

翌朝早く出発しました。一度、柳の木々の間を通り抜けましたが、とても心配しました。それから丘の斜面に最初のケルンを見つけ、そこへ行きました。わたしたちはケルンからケルンへとつたって行きました。しばらく歩いてもケルンが見つからないときには、迷ってしまったのかと思いました。ケルンを見つけ、迷っていなかったことを確認する度に安堵あんどしました。巨石群の原野では、岩の上に荷物を持ち上げ、お互いを引き上げるために助け合う必要があります。大変でした。それでも夕方までに

は、手付かずの美しい湖にたどり着きました。わたしたちはそこでテントを張りました。どの方角も絶景でした。骨の折れるハイキングをしてきたかがありました。

けれども翌朝は、風の音で目覚めました。湖にかかった霧で、どこを向いてもほとんど何も見えません。わたしたちはテントをたたみ、寝袋を詰め込むと、湖のわきを通って、目的地の「壁」に向かって進みました。「壁」に到着したときの喜びは、たとえようありません。皆大喜びでした。巨大な花崗岩に登り、岩にキスをしました。ついにたどり着いたのです。

わたしは今朝皆さんの前に立ち、教会の若い女性に、徳に立ち返るために立ち上がるよう呼びかけます。イザヤの言葉を借りて言います。「さあ、われわれは主の山に登〔ろう。〕彼はその道をわれわれに教えられる、われわれはその道に歩もう。」(イザヤ2:3) 徳高い道は「あまり人が通らない道」です(“The Road Not Taken,” *The Poetry of Robert Frost*に収録, エドワード・コネリー・レーサム編〔1969年〕, 105参照)。その道には、人生の草地や、小川、手付かずの湖があり、巨石群の原野さえあります。互いを引き上げるために助け合う必要があります。骨の折れる道かもしれません。でも、喜んで進んで行くな

ら、永遠の報いが待っています。

柳の林の中に降りて行かないでください。山の高い所を歩き続けてください。皆さんは神の貴い娘です。自分の神聖な特質を理解するなら、服装、言葉遣い、優先順位、関心事、すべてが違ってくるはずです。この世から導きを受けようとしなくてください。でも、もしも過ちや罪という雲に取り巻かれ、ほんとうの自分がかすんでしまっても、わたしたちは変わることができるのです。方向を転換して、悔い改め、徳に立ち返れます。わたしたちは柳の上を通ることができます。救い主の贖あがないは、皆さんやわたしのためにあるのです。救い主は一人一人に「〔主〕のもとに来なさい」と招いておられます。

徳高い生活を送るなら、登るために必要な自信と力と強さを得ることができます。また、聖霊を常に伴侶とするという祝福を受けることができます。促しを受け、その促しに従って行動してください。あまり人が通らない道のケルンのように、聖霊は皆さんが行うべきことをすべて示してください(2ニーファイ32:5参照)。聖霊はキリストについて教え、証してくださいます。キリストは道を示し、導いてくださいます(「高きに満ちたる」『賛美歌』112番)。

徳高くあるならば、聖霊を常に伴侶とする権利が得られるだけでなく、神殿参入にふさわしくなるために正しい決断ができるようになります。そのような決断を通して、神殿で聖約を交わし、聖約を守り、昇栄の祝福にあずかれるのです。霊的に備え、天の御父の御前みまへに戻るためにふさわしくなってください。主の山である神殿に参入する備えを、今始めてください。神殿という目標から決して目をそらさないでください。清さと徳をもって主の御前に歩み、主のすべての祝福、すなわち主が持っておられるすべてを手にしてください(ルカ12:44参照)。主の聖なる宮において、皆さんは清められ、教えを受け、力を授けられ、「天使たちが〔皆さんに〕対する務めを果た〔すことでしょう。〕」(教義と聖約109:22)

ウィンストン・チャーチルが第二次世界大戦の重要な局面で述べた次の言葉を知っておきましょう。「すべての人〔そして若

い女性]に特別な瞬間が訪れるだろう。そのとき一人一人が肩をポンとたたかれ、特別な事柄……独特の事柄を……する機会を与えられるのだ。そのときもしも備えが不十分で資格がないために、最もすばらしい瞬間を失うとしたら、何という悲劇であろう。](ジェフリー・R・ホランド「あなたがたは身を清めなさい」『リアホナ』2001年1月号、49参照) 皆さんも肩をポンとたたかれるでしょう。皆さんはその特別な瞬間のために今備えています。皆さんは今、永遠のために備えているのです。

昨年、中央若い女性会長に召されてモンソン大管長の執務室から出ようとしたとき、大管長は白いバラに手を伸ばし、花瓶から1輪取ってわたしにくれました。美しい白いバラを手渡された瞬間、なぜそれが手渡されたか分かりました。若い女性だったころ、わたしは自分の清さの象徴として、個人の旗印として、白いバラを選びました。でも、大管長はどうしてそのことを知っていたのでしょうか。わたしはその大事なバラを持ち帰り、きれいなガラスの花瓶に挿し、毎日見えるようにテーブルに置きました。そのバラのおかげで、わたし自身が清く徳高くあることの大切さについて考え、また、皆さんのことについて考えました。成長し、花開いていく中で、皆さんは自分の清さにより、善を行う力となり、世にあって義にかなった影響力となるでしょう。一人の徳高い若い女性が御霊に導かれるなら、世界を変えることができますと、わたしは心から信じています。

それが皆さんの目標となり、願いとなりますように。皆さんが徳高くあるよう努めるときに祝福がありますように。イエス・キリストの御名により祈ります、アーメン。

# 勇気を持てるように

トーマス・S・モンソン大管長

**皆さんが、人を裁くことをやめる勇気、純潔を守り、徳高い人になる勇気、真理と義を固く守る勇気を持てるよう心から祈ります。**



**愛**する若い姉妹の皆さん、何とすばらしい光景でしょう。この壮大なカンファレンスセンターだけでなく、世界各地の礼拝堂や集会所に、何千もの姉妹たちが集まっています。皆さんに話すこの機会に天から助けがあるよう祈ります。

皆さんの中央若い女性の指導者から、時宜にかなった靈感あふれるメッセージを聞きました。彼女たちは皆さんを導き教えるために召され聖任された、えり抜きの女性です。彼女たちは皆さんを愛しています。それはわたしも同じです。

皆さんは栄光に満ちた時代にこの地上にやって来ました。皆さんの前には限らないチャンスが待っています。皆さんの大半は愛のある家族と心地よい家に住み、十分な食物と衣服に恵まれています。さらに、大抵の人は、驚くべき先進技術の恩恵に浴しています。携帯電話、携帯メ

ール、インスタントメッセージ、電子メール、ブログ、フェイスブックなどのコミュニケーションの手段があります。アイポッドやMP3プレーヤーで音楽を聴いています。これは皆さんが利用している科学技術のほんの一例にすぎません。

これは皆、わたしのような者には少しとっつきにくいものです。わたしが育ったころは、大きなラジオが床に置かれ、テレビはなく、もちろんコンピューターも携帯電話もありませんでした。それどころか、わたしが皆さんの年代のころは、電話回線は大部分が共用でした。電話をかけたい場合は、受話器を取って、まずほかの家族が回線を使っていないかかどうかを確かめなくてはなりません。数家族が一つの回線を共用していたからです。

わたしの世代と皆さんの世代の違いについて話すなら、夜が明けてしまうでしょう。当時と今との間に、大きな変化があったと言うだけで十分です。

現代は様々な機会に満ちたすばらしい時代ですが、皆さんは現代特有の課題にも直面しています。例えば、先ほど挙げた先端技術の手段を使って、サタンは皆さんを誘惑し、偽りのわなにかけようとします。皆さんの行く末を支配しようとねらっているのです。

今日こんにちの世の中で皆さんが立ち向かうことについて考えると、一つの言葉が頭に浮かびます。それはわたしたち皆が必要としている特質であり、この世界にあって、人生のこの時期を過ごしている皆さんには、特に必要なものです。その特質とは、勇気です。

今晚わたしは、生活の3つ面で必要となる勇気について話します。

- 第1は、人を裁くことをやめる勇気です。
- 第2は、純潔を守り、徳高い人となる勇気です。
- 第3は、真理と義を固く守る勇気です。

まず、人を裁くことをやめる勇気について話しましょう。「これがほんとうに勇気の要ることだろうか」と疑問に思う人もいられるでしょう。でも、人を裁いていると言ってもいいような、うわさ話や批判をやめることは、多くの場合に勇気が要るのではないのでしょうか。

残念なことに、ほかの人を批判したりけなしたりすることが必要だと感じる人がいます。そのような人に会ったことがあるでしょうし、将来も会うことでしょう。若い友人の皆さん、そのような状況でどう行動したらよいか迷う必要はありません。救い主は山上の垂訓の中で、「人をさばくな<sup>1</sup>」とはっきりと言っておられます。後に主はこう勧告なさっています。「互いに非難し合うのをやめなさい。」<sup>2</sup> 周りの仲間と一緒にそのような非難や批判をするよう圧力をかけられるとき、同調するのをやめるのは、真の勇気が必要です。

あえて言いますが、皆さんの周りには、皆さんの不親切な言葉や批判のために、よく仲間外れにされる若い女性があります。特に皆さんの年代には、自分たちとは違うと思われる人、自分たちや周りの人の期待に添わない人を避けたり、不親切にしたりする傾向があります。

救い主はこう言われました。

「わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える、互<sup>たがひ</sup>に愛し合いなさい。……

互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう。」<sup>3</sup>

人生の大半を、インドの貧しい人々の間で働いたカトリックの修道女マザー・テレサは、このような真理を語りました。「人を裁いていたら、人を愛する時間がなくなります。」

わたしの友人が、何年も前に経験した、

10代のころの話をしてくれました。彼女のワードにはサンドラという若い女性がいまいました。生まれたときに受けた損傷のため、知的面で幾らかハンディキャップを負っていました。ほかの少女たちの仲間に入らなかったのですが、外見や行動からハンディキャップがあることが分かりました。服も体に合っていませんでした。場違いな発言をすることもありました。サンドラはミューチャルの活動に出席しましたが、彼女のそばにいて、彼女が喜んで迎えられる大事な存在であると感じさせてあげるのは、少女たちではなく、いつも教師の責任でした。

その後、状況が変わりました。そのワードへ同年代の少女が引越して来たのです。ナンシーは自信に満ちた人気のあるかわいらしい赤毛の少女でした。だれとでもすぐ仲良くなりました。少女たちは皆、彼女と友達になりたいと思いました。けれども、ナンシーは交際範囲を制限することはありませんでした。実際、ナンシーはサンドラに特に関心を払って友達になり、どのようなときでもサンドラが仲間に加わっていると感じられるようにしたので、心からサンドラに好意を寄せているようでした。

もちろん、ほかの少女たちは気がつき

ました。そしてなぜこれまでサンドラと友達にならなかったのか不思議に思い始めました。今ではそれは許容できるだけでなく、望ましいことに思えました。そしてナンシーが模範を通して教えてくれたことが分かるようになりました。サンドラは天の御父の大切な娘で、彼女にも貢献できるものがあり、愛と親切な心で接し関心を寄せてもらう権利があったのです。

1年余り後、ナンシーと家族が引越すころになると、サンドラはもう若い女性のグループから外れることはありませんでした。友人によると、それからは彼女も皆も、たとえ自分たちと違ってしようと、仲間外れになる人がいないように配慮したそうです。大切な永遠に変わらない教訓を学んだのです。

真の愛は人の生活と性質を変えることができます。

大切な若い姉妹の皆さん、どうか周りの人たちを裁いたり、批判したりするのをやめる勇気を持ち、すべての人が受け入れられるようにし、愛され大切にされていると感じられるようにする勇気をぜひ持ってください。

次に、純潔を守り、徳高くあるために必要な勇気について話しましょう。皆さんは、道徳的な価値がほとんどないがしろにさ





れ、罪が目にも余るほどあらわになり、細くて狭い道からそれさせようとする誘惑に囲まれた世界に生きています。多くの声が、皆さんはあまりにも流行遅れであるとか、もし不道德な行為というものをまだあると思っているなら、どこかおかしいなどと言ってきます。

イザヤはこう宣言しました。「わざわざなるかな、彼らは悪を呼んで善といい、善を呼んで悪といい、暗きを光とし、光を暗しと……する。」<sup>4</sup>

現代の考え方を受け入れている人々の中で、純潔を守り、徳高くあるには、大きな勇気が必要です。

今日の世の中では、若い男性や女性が結婚前に道徳的な純潔を保つことは、考えに入っていない。だからといって不道德な行為を許容できるでしょうか。絶対にできません。

天の御父の戒めには、交渉の余地はないのです。

長年ABCテレビのナイトラインという番

組で司会を務めているニュース解説者のテッド・コッペルの次の言葉は力強いものです。

「わたしたちは実際に、次のようなスローガンで自分たちを納得させてきました。『やむを得なければ、麻薬を打とう。ただし清潔な針で。』『いつでもだれとでも性的な関係を楽しもう。ただし〔自分は守って〕。』

それは間違っています。答えは「ノー」なのです。格好がよくないとか、賢くないとか、結局、行き着く所は刑務所かエイズ病棟だからという理由ではなく、間違っているからそれらを行わないのです。

モーセがシナイ山から持って来たのは、10の提案ではありません。戒めなのです。それは過去のものでなく、今も生きています。」<sup>5</sup>

愛する若い姉妹の皆さん、永遠の観点を持ち続けましょう。どのようなものでも、永遠の祝福を奪うようなものには、警戒してください。

何でも許される時代に正しい物の見方を保つために、多くの助けを受けることができます。一つの貴重な助けは祝福師の祝福です。頻繁に読み、入念に研究してください。警告に従ってください。その約束にふさわしく生活してください。まだ受けていない人は、いつ受けるかを計画し、祝福師の祝福を受けたら、祝福文を大切にしてください。

もし道を誤ったときには、戻る方法があります。その行程は悔い改めと呼ばれています。わたしたちにその大切な贈り物を与えるために、救い主は命をささげられました。悔い改めの道は困難かもしれませんが、約束は真実です。「たとえあなたがたの罪は緋ひのようであっても、雪のように白くなるのだ。」<sup>6</sup>「わたしは……もはやその罪を思わない。」<sup>7</sup>

何年も前に、以前の大管長ごんいち会は次のように述べました。今日の大管長会も同じ言葉を繰り返します。「青少年の皆さん、清い生活をしてください。清くない生活は、

肉体的にも精神的にも、苦悩と悲嘆、苦痛のみを与え、破滅の道をたどるからです。清い若者は、何とすばらしく、何と天使に近いことでしょう。彼らは、現世では言葉に尽くせない喜びを、来世では永遠の幸福を味わいます。性的な清さは、青少年の最も貴重な財産です。すべての義の基盤なのです。』<sup>8</sup>

皆さんが純潔を守り、徳高くある勇気を持てますように。

リーハイが見た命の木の示現を思い出してみましよう。リーハイは、鉄の棒にすがりながら暗黒の霧の中を押し進み、ついに進んで来てその木の実を食べた多くの人を見ました。すると彼らは「恥じるかのように辺りを見回し」ました。<sup>9</sup> 彼らが困惑した原因について、リーハイは考えました。辺りを見回すと、「水の流れている川の向こう側に、一つの大きく広々とした建物が見えました。

「その建物は、老若男女を問わず人々でいっぱいであった。この人々の衣服の装いは、非常に華やかであった。そして彼らは、……その実を食べている人々を指さし、あざけり笑っている様子であった。」<sup>10</sup>

リーハイの示現の大きく広々とした建物は、神の御言葉<sup>みことば</sup>をあざける世の人々、御言葉を信じ、救い主を愛し、戒めを守る人々たちをあざ笑うこの世の人々を表しています。あざ笑われて恥ずかしく思った人たちは、どうなったのでしょうか。リーハイはこう語っています。「その実を味わった後にあの人々にあざけり笑われたので恥ずかしく思い、禁じられた道に踏み込んで姿が見えなくなってしまった。」<sup>11</sup>

愛する若い姉妹の皆さん、自分の信念から来る勇気を持ち、使徒パウロとともに次のように宣言することができますように。「わたしは福音を恥としない。……それは救<sup>すくい</sup>を得させる神の力である。」<sup>12</sup>

前途に待ち受けている務めを果たすのに自分は不資格であると感じることがないように、使徒パウロの励ましの言葉をも一つ引用します。勇気が得られることでしょう。「<sup>おん</sup>というのは、神がわたしたちに下さったのは、臆<sup>おそ</sup>する霊ではなく、力と愛と慎みとの霊なのである。」<sup>13</sup>

最後に、真理と義を守る勇気を持った模範として、時代を超えて語り継がれてきた勇敢な若い女性の話をします。

皆さんの多くは、旧約聖書のエステル<sup>エステル</sup>の話をよく知っているでしょう。美しいユダヤ人の少女について記された、大変興

味深く、靈感に満ちた話です。エステルは両親を亡くし、年長のいとこのモルデカイとその妻に育てられました。

モルデカイはペルシャ王に仕えていました。王が新しい王妃を探していたとき、モルデカイはエステルを宮殿に連れて行





き、候補者として差し出しましたが、ユダヤ人であるという素性を隠すよう彼女に勧めました。王はほかのだれよりもエステルを気に入り、エステルを王妃にしました。

王宮の大臣の長であったハマンは、モルデカイに怒りを募らせていました。モルデカイがハマンに頭を下げて敬礼しなかったからです。その報復としてハマンは、国中の127の州の中にほかの民と異なる法律を持ち、王の法律に従わない「一つの民」がおり、彼らを滅ぼすべきであると、よこしまな方法で王を説得したのです。<sup>14</sup> ハマンはこの民の名前を王に告げませんが、それはもちろんユダヤ人であり、モルデカイもその一人でした。

王からその件に対処する許可を得たハマンは、各州の知事に手紙を送り、「十二月……の十三日に……すべてのユダヤ人を、若い者、老いた者、子供、女の別なく、ことごとく滅ぼし、殺し、絶や[す]」<sup>15</sup> と言う命じました。

モルデカイは侍従を通して、ユダヤ人に関して発布された詔書についてエステルに告げ、民のために王に哀れみを請い願うように頼みました。最初、エステルはためらい、王宮の内庭へ入ることは法律で禁じられているとモルデカイに話しました。そのようなことをすれば罰として殺されるのです。ただし、王がその者に金の笏を伸べれば生きることができます。

躊躇したエステルに送ったモルデカイの応答は的を射たものでした。彼はこのように書きました。

「あなたは王宮にいるゆえ、すべてのユダヤ人と異なり、難を免れるだろうと思っ

てはならない。  
あなたがもし、このような時に黙っているならば、……あなたとあなたの父の家とは滅びるでしょう。」<sup>16</sup>

そして、次のような鋭い質問をしたのです。「あなたがこの国に迎えられたのは、このような時のためでなかったとだれが知りましょう。」<sup>17</sup>

エステルはモルデカイに、すべてのユダヤ人を集め、彼女のために断食するように頼み、彼女と侍女たちも同様にすると言いました。エステルはこう言いました。「わ

たしは法律にそむくことですが王のもとへ行きます。わたしがもし死なねばならないのなら、死にます。」<sup>18</sup> エステルは勇気を振り絞り、正義のためにしっかりと動じないで立ち向かったのです。

肉体的にも情緒的にも、また霊的にも準備をしたエステルは王宮の内庭に立ちました。王は彼女を見ると、金の笏を伸ばし、求めるものは何でも与えると言いました。エステルは彼女が設けた酒宴に王を招きました。酒宴の間に、エステルは自分がユダヤ人であることを告げ、国内のユダヤ人を根絶しようとするハマンの悪巧みを暴きました。自分と自分の民を救うよう願ったエステルの嘆願は聞き届けられました。<sup>19</sup>

エステルは、断食と信仰と勇気によって、民族を救ったのです。

皆さんは恐らく、エステルのように、信念のために自分の命を危険にさらすよう求められることはないでしょう。しかし、真理と義を固く守るときに、大きな勇気を求められることがあるでしょう。

愛する若い姉妹の皆さん、世の中には絶えず問題がありますが、皆さんが直面するものの多くは、現代特有の問題です。でも、皆さんは天の御父の最も強い子供たちに数えられており、「このような時のため」<sup>20</sup> に地上に来よう取っておかれました。主の助けがあれば、皆さんはどのようなこととも乗り越える勇気を持つことができます。世の中が暗闇のように見えるときがあっても、皆さんは道を照らすかがり火となる福音の光を持っているのです。

皆さんが、人を裁くことをやめる勇気、純潔を守り、徳高い人になる勇気、真理と義を固く守る勇気を持てるよう心から祈ります。そうするときに、皆さんは「信者の模範」<sup>21</sup> になり、愛と平安と喜びに満ちた生活を送ることができるでしょう。愛する若い姉妹の皆さんがそうなりますように、イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. マタイ7：1
2. 教義と聖約88：124
3. ヨハネ13：34-35

4. イザヤ5：20
5. テッド・コッペル、デューク大学卒業式の演説、1987年
6. イザヤ1：18
7. エレミヤ31：34
8. 大管長会、Conference Report、1942年4月、89
9. 1ニーファイ8：25
10. 1ニーファイ8：26-27
11. 1ニーファイ8：28
12. ローマ1：16
13. 2テモテ1：7
14. エステル3：8
15. エステル3：13
16. エステル4：13-14
17. エステル4：14
18. エステル4：16
19. エステル5-8章参照
20. エステル4：14
21. 1テモテ4：12

# 指導者の言葉

## 大会を生活に取り入れる

**総** 大会の教えをあなたと家族の生活に取り入れるにはどうしたらよいでしょうか。話し合ったり、個人で深く考えたりするきっかけとして、以下の言葉や質問を使ってみてはいかがでしょうか。

<http://www.generalconference.lds.org> で大会説教を読んだり、聞いたり、見たりすることができます。また、<http://www.mormonmessages.org> で、大会のハイライトを見たり、分かち合ったりすることができます。



という願いを表しましょう。」データー・F・ワークトドルフ管長（75ページを見ましょう）

●「わたしは、聖霊の力によって、イエスがキリストであり、神の愛しておられるおん子であられることを、完全に、はっきりと知っています。」ニール・L・アンダーセン長老（78ページを見ましょう）

●「みなさんも、神殿が見えている間は決して道に迷うことはありません。混乱に満ちた世にいても、神殿はみなさんとみなさんの家族に、どこに進めばよいかを教えてください。」ゲリー・E・ステイブソン長老（101ページを見ましょう）

●「家の中でいちばん愛する家族へのわたしの態度は、尊敬の気持ちの模範といえるでしょうか。……人への尊敬と神への敬虔さには深い関係があります。」マーガレット・S・リファース（11ページを見ましょう）

## 子供向け

●「愛する兄弟しまい、おそれはありません。元気を出してください。未来はみなさんの信仰と同じように希望に満ちています。神は生きておられ、わたしたちのいのりを聞き、こたえてくださることを宣言します。おん子イエス・キリストは、わたしたちの救い主、あがない主です。天の祝福がわたしたちを待ち受けています。」トーマス・S・モンソン大管長（89ページを見ましょう）

●「みなさんもわたしも今日からとしての道を歩むことができます。けんそんになり、心から天のおん父にいのり、おん父に近づき、おん父について学びたい



## 青少年向け

● インターネットについて、トーマス・S・モンソン大管長は「インターネットのおかげで、非常に多くの有益で重要な情報を得ることができます」と述べました。しかし、「人々を堕落させる悪い目的で」インターネットを使っている人に対して、それによって「文字どおり霊が破壊され[る]」と警告しました。(112ページ参照)

● ホームティーチングの後輩同僚として、あなたは何をすべきでしょうか。あなたの友達が教会から離れ始めたら何をしますか。そのような状況について語ったヘンリー・B・アイリング管長の言葉を読んでください。(63ページ参照)

● 「現代を『わたし』時代と呼んだ人がいます。だれもが『自分の得になるだろうか』と考えているような利己的な



時代です。」とダリン・H・オークス長老は述べました。しかし、「末日聖徒は、……無私の奉仕を実践しているという点で人々の注意を引く人々の集まりです。」(93ページ参照)

● 「インターネットでデジタル検索しても証は得られませんし、信仰を携帯メールで送ってもらうこともできません」とM・ラッセル・バラード長老は述べました。バラード長老は証を得るための新しい科学技術はないと言い、証を得るプロセスを教えました。(31ページ参照)

● 若い男性は、ほんとうはどのような若い女性に心引かれるのでしょうか。イレイン・S・ダルトン姉妹は隠された「男の子の秘密」の一つを明らかにし、徳という徳質を再び大切にしよう話しています。(120ページ参照)



(46ページ参照)

● ロバート・D・ヘイルズ長老はこう教えました。「この世のものを手に入れる欲望は、主に心に向けることによってしか克服でき[ません。]常習癖という飢えは主への愛によってしか取って代わられることはありません。」救い主の愛を感じたときのことを思い出してください。それは、日常生活の中で感じる飢えやむなしさよりもどのような点で強い力を持つでしょうか。(7ページ参照)

● 神殿の聖約と儀式について話した後で、デビッド・A・ベドナー長老はお話の最後の方で幾つかのことを勧めました。あなたに当てはまるのはどれですか。ベドナー長老の勧めについてあなたは何をしますか。(97ページ参照)

## 成人向け

● ヘンリー・B・アイリング管長のビジョップの話を読んでください。アイリング管長は、どのように人に愛を示し、奉仕したのでしょうか。家族としてどのようにその模範に従えるでしょうか。人に仕えるためにできる具体的な事柄について話し合ってください。(23ページ参照)

● ディーター・F・ワークトドルフ管長は電球の教訓について話しました。この話からどのような教訓が得られるでしょうか。その教訓はあなたの生活にどのように当てはまりますか。(59ページ参照)

● L・トム・ペリー長老は次のように教えました。「自分自身で隣人に警告する代

わりに専任宣教師が警告してくれるのを待っている、教会を発展させる絶好の機会を逃してしまいます。」あなたが手を差し伸べることができそうな人について考えてください。どのようにして、その人にあなたの証を伝えることができるでしょうか。(109ページ参照)

● ラッセル・M・ネルソン長老は救い主の祈りから学べる教訓について話しました。救い主の模範を基にすれば、あなた自身の祈りはどのように改善できるでしょうか。



## 大会で話された実話や物語の索引

以下に総大会で話された経験談を幾つか選びました。個人の研究や家庭の夕べ、その他の教える機会に活用してください。  
数字は説教の最初のページです。

話者	実話や物語	テーマ
ロバート・D・ヘイルズ長老	ヘイルズ姉妹は、買うだけの余裕がないドレスを買わないことを選び、その後も、必要のないコートを買わないことを選んだ。7	負債、財政管理、賢明な生活
アラン・F・パッカー長老	パッカー長老が若かったころ、喚声の中でフットボールのコーチの声を聞き分けた。17	聖霊、啓示
D・トッド・クリストファーソン長老	ペルーに住む家族は地震ですべての持ち物を失ったが、強く明るい気持ちを保った。19	信仰、霊的な強さ
ヘンリー・B・アイリング長老	アイリング管長のビショップは、健康上の試練に遭いながらも人々に仕えた。23	試練、奉仕
M・ラッセル・バラード長老	バラード長老は、父親から反対の助言を受けていたにもかかわらず、ある型の車を販売することに決めた。31	選択の自由、経験、信仰、学ぶこと
クエンティン・L・クック長老	チャールズ・ディケンズは末日聖徒の移民たちに感動した。34	模範
ラファエル・E・ピノ長老	アルバレス家族の3歳の娘が川で命を落としたが、家族は神殿の聖約から慰めを得た。41	試練、贖罪、 <sup>しよくざい</sup> 慰め、死、信仰、希望
リチャード・G・スコット長老	スコット長老とスコット姉妹は、二人の子供の死に際し、神殿の約束から慰めを得た。43	試練、子供、死、希望、結び固め
リチャード・C・エッジリービショップ	会員たちが仕事を見つけられるように助けたワード雇用スペシャリスト。53 会員が自営業を始められるように助けた長老定員会の会員たち。53	慈愛、神権、自立
クラウディオ・R・M・コスタ長老	幾つもの試練に遭っても引き続き奉仕し、教会に忠実であった夫婦。56	神権、自立、奉仕
ディーター・F・ウークトドルフ管長	飛行機の乗組員が 小さな電球が切れたことに気を取られたために墜落事故が起きた。59	試練、決意、義務、信仰 義務、優先順位、誘惑
ヘンリー・B・アイリング管長	決死の覚悟で、墜落した仲間を守った兵士たち。63	勇気、義務、奉仕
トーマス・S・モンソン大管長	ニューヨーク市の女性が祈って、宣教師の訪問を受けた。67 高校の音楽隊の隊員が病気になったが、神権の祝福によって癒された。67	祈り 神権
スティーブン・E・スノー長老	ロバート・ガードナー・ジュニアは生涯を通じて変化と試練によく対応した。81	変化、試練、信仰
バーバラ・トンブソン	トンブソン姉妹の庭の木が倒れたとき、ワードの会員が助けてくれた。83	優しさ、奉仕
トーマス・S・モンソン大管長	モンソン大管長の曾祖父母が ソルトレーク盆地までの旅の途中で息子を亡くした。89 神権の祝福を求めた盲目の男性。89	試練、死、忍耐力、信仰、開拓者 神権
アン・M・ディブ	東プロシアから西ドイツまで旅する間、試練に耐えた女性。89 神殿に参入することを含め、『ビーハイブ少女用手引き』の80の目標をすべて達成した若い女性。114	試練、信仰 目標、従順、神殿活動

# わたしたちの時代のための教え

メルキゼデク神権と扶助協会の第4日曜日のレッスンは、「わたしたちの時代のための教え」を学ぶ時間です。各レッスンは、最新の総大会特集号の説教から一つまたは複数の説教を基に準備できます。ステーク会長および地方部会長は、レッスンに用いる説教を指定することができます。または、この責任をビショップおよび支部会長に委任することもできます。これらの指導者は、メルキゼデク神権者の兄弟と扶助協会の姉妹が同じ日曜日に同じ説教を学ぶことの大切さを強調する必要があります。

第4日曜日の集会の出席者は、教会機関誌の、最新の総大会特集号をよく研究し、クラスに持参するよう奨励されています。

## 説教に基づいてレッスンを準備する際の提案

- 説教を研究し教えるに当たり、聖なる御霊がともにあるよう祈ってください。教師はほかの資

料を使ってレッスンを準備したくなるかもしれませんが、大会説教は承認された教科課程用資料です。教師の務めは、人々が最新の総大会で教えられた福音を学び、それに従って生活できるように助けることです。

- クラスの生徒の必要に合った原則と教義を探しながら、説教の内容を検討してください。また、そのような真理を教えるのに役立つ説教から、物語や参照聖句、声明を探してください。
- 原則と教義をあなたがどのように教えるかを示す大まかな計画を立ててください。計画には、クラスの生徒が以下のことを行ううえで役立つ質問を取り入れてください。
  - 説教に含まれる原則と教義を探す。
  - その意味について考える。
  - 理解したことや考え、経験、あかし証を分かち合う。
  - それらの原則と教義を実生活に応用する。■

## 月 第4日曜日のレッスン教材

2009年5月—  
2009年10月 『リアホナ』2009年5月号掲載の説教\*

2009年11月—  
2010年4月 『リアホナ』2009年11月号掲載の説教\*

\*これらの説教は、<http://www.lds.org> にアクセスすることにより、(多くの言語で)インターネット上で視聴および閲覧することができます。(訳注— <http://www.ldschurch.jp> からアクセスできます。『福音ライブ러리』[総大会説教]の順にクリックしてください。総大会号を閲覧するには『福音ライブ러리』[リアホナ]の順にクリックし、2009年5月号のアイコンをクリックしてください。)

# 中央補助組織会長会

## 扶助協会



第一顧問  
シルビア・H・オールレッド



会長  
ジュリー・B・ベック



第二顧問  
バーバラ・トンブソン

## 若い女性



第一顧問  
メアリー・N・クック



会長  
イレイン・S・ダルトン



第二顧問  
アン・M・ティブ

## 初等協会



第一顧問  
マーガレット・S・リファース



会長  
チェリル・C・ラント



第二顧問  
ビッキー・F・松森

## 日曜学校



第一顧問  
デビッド・M・マッコンキー



会長  
ラッセル・T・オスガソープ



第二顧問  
マシュー・O・リチャードソン

## 若い男性



第一顧問  
ラリー・M・ギブソン



会長  
デビッド・L・ベック



第二顧問  
エードリアン・オチョア



## 新しい 指導者が 総大会で支持 される

2009年4月4日から5日にかけて、世界中の教会員がインターネット、ラジオ、テレビ、衛星放送を通して第179回年次総大会に出席した。

94か国語で放送された同大会で、大管長会は新たに十二使徒定員会の会員、七十人会長会、および七十人の会員が召されることを発表した。大管長会はまた、中央若い男性と中央日曜学校の会長会の再組織も発表している(支持と解任を受けた指導者の一覧は27ペー

ジを参照)。

昨年12月のジョセフ・B・ワースリン長老(1917-2008年)の死去に伴う空席を埋めるために、七十人会長会の先任会員であるニール・L・アンダーセン長老が召された(アンダーセン長老の経歴は134ページを参照)。

七十人会長会にはドナルド・L・ホールストロム長老が召された(ホールストロム長老の経歴は134ページを参照)。

七十人第一定員会には次の6人が召された。七十人第二定員会のマービン・B・アーノルド長

老(アーノルド長老の経歴についてはエンサイン[“Ensign”]および『リアホナ』2003年5月号を参照)、<sup>チェ</sup> <sup>ユン</sup> <sup>フワン</sup> 崔 崙 煥 長老、ブレント・H・ニールソン長老、デール・G・レンランド長老、マイケル・T・リングウッド長老、ジョセフ・W・シターティ長老(経歴は135ページ以降を参照)。

七十人第二定員会の会員として7人が召された(経歴は137ページ以降を参照)。38人が地域七十人から解任され、40人が新たに地域七十人として召されている。■



## ニール・L・アンダーセン長老

十二使徒定員会

中 央幹部として奉仕してきた16年間、ニール・リンデン・アンダーセン長老はモンソン大管長が「主は御自身が召された者を、ふさわしくされる」と教えるのを何度も聞いてきました(ハロルド・B・リー大管長の言葉の引用、トーマス・S・モンソン「神を尊ぶ者を、神は尊ばれる」『聖徒の道』1996年1月号、56参照)。今ほど、アンダーセン長老がこの言葉に頼っているときはありません。

七十人の先任会長として奉仕していたアンダーセン長老はこう説明します。「このような召しを受けるに足る備えができていない人などいないでしょう。圧倒される思いです。自分はふさわしくないと感じます。主がわたしをあるべき姿に形作ってくださいよう、主の御前にあって十分にへりくだり、従順でいられるよう祈っています。」

アンダーセン長老は1951年8月9日、アメリカ合衆国ユタ州ローガンでライル・P・アンダー

セン、キャサリン・アンダーセン夫妻のもとに生まれました。長老は家族とともに働き、大切な価値観を学ぶことのできた日々感謝しています。「家族で経営していた小さな農場では、家の全員が働きます。労働が人生に充足感をもたらすものであることを早い時期から学べたのは祝福です。」

19歳とき、アンダーセン長老はフランスで伝道するよう召されました。伝道中、会員たちの深い献身とモルモン書のもたらす改宗の力によって、長老ははぐくんできた証はさらに強くなりました。

伝道から帰還した後、アンダーセン長老はブリガム・ヤング大学で優秀な成績を収め、ヒンクレイ奨学金を獲得し、学生自治会の副会長に選ばれました。

大学では、その後の人生に最大の影響をもたらすであろう人物と出会います。将来の妻となるキャシー・スー・ウィリアムズです。二人は1975年3月20日、ソルトレーク神殿で結婚しました。

アンダーセン長老は心からの笑みをたたえてこう語りま

す。「彼女と結婚した途端、人生の標準が一気に高くなりました。欠かさずに祈りと聖文研究を行い、戒めをきちんと守りました。妻はわたしと子供たちにとっても大きな影響を及ぼしてくれました。彼女には、純粹で強く鍛えられた信仰があるのです。」

1975年にブリガム・ヤング大学を卒業すると、1977年にはハーバード大学で経営学修士号を取得しました。その後、キャシーが子供のころに住んでいたフロリダに夫婦で移り住み、広告、不動産開発、ヘルスケアの分野で仕事に励みました。長老は後に、フロリダ州タンパステークで会長として奉仕しています。

1989年、37歳のとき、アンダーセン長老はフランス・ボルドー伝道部の会長として再びフランスの地を踏みます。「新しい文化に飛び込み、外国語に取り組んだ4人の子供たちは勇敢でした。わたしたちは、王国を築かれる主の御手を間近で見ることができました。」

1993年4月、アンダーセン長老は41歳で七十人第一定員会に召されました。長老は、伝



道部会長としての数年間も含め、教会の割り当てのために過去20年のうち10年を海外で過ごしています。「世界中のすばらしい教会員が大好きになりました。各国の人々の信仰、献身、証は、わたしたちにとってすばらしい模範となっています。」

アンダーセン長老と姉妹は4年間ブラジルに住み、これまで以上に主の業が広がるのを目の当たりにしました。また、生涯の友人を得てきました。後に、アンダーセン長老はメキシコおよび中央アメリカを管理する十二使徒を補佐しました。教会本部で奉仕していた間に、教会の視聴覚部を指揮し、『証——一つの群れ、一人の羊飼ひ』の撮影を監督したほか、2001年にはMormon.orgの立ち上げを指揮しました。

アンダーセン長老は過去16年間、大管長会や十二使徒の指導の下で学ぶというたぐい

まな機会に恵まれたと話し、そのことに感謝しています。「モンソン大管長はわたしやほかの多くの人々にとってすばらしい教師です。大管長は救い主と同じように人に手を差し伸べるよう教えています。そして、誠実な祈りの答えとして自分が主の御手に使われたと知ることほど大きな喜びはないと絶えず強調しています。」

聖なる使徒職に召され、大いにへりくだりながら、アンダーセン長老は救い主に対する自身の確固とした証を総大会で述べました。「聖なる使徒職を受けるために不可欠な資格の一つに関しては、わたしは慰めを感じています。主はこれをわたしに恵んでくださいました。わたしは、聖霊の力によって、イエスがキリストであり神の愛子であられることを、完全に、はっきりと知っています。」(『主のみもとに來なさい』『リアホナ』2009年5月号、78)◆



## ドナルド・L・ホールストロム長老

### 七十人会長会



七十人会長会のドナルド・ラリー・ホールストロム長老は、教会での奉仕を通して、非常に強い証と、生涯にわたって世界の人々と文化を愛する心を得ています。

1949年7月27日、アメリカ合衆国ハワイ州ホノルルでジェームズ・ホールストロム、ベティー・ジョー・ランバート・ホールストロム夫妻のもとに生まれたホールストロム長老は、様々な文化に触れながら子供時代を送りました。中国、日本、韓国、フィリピン、サモア、トンガ出身の友達がいました。長老はこう回想しています。「わたしたちは、それぞれに違った料理や文化を共有し、お互いを受け入れていました。」

5歳のとき、ホノルルステークのタバナクルでデビッド・O・マッケイ大管長(1873-1970年)が話すのを聞きました。「会衆が『主の方には誰が立つや』(『主の方には』『賛美歌』165番)と歌うのを聞き、立ち上がって『ぼく、ぼくが主の方に立つよ』と言いたくなりました」と語る

長老は後に、このステークの会長になっています。

1969年から1971年までイングランド中央伝道部で奉仕した後、ホールストロム長老はユタ州プロボのブリガム・ヤング大学に通い、カナダ・アルバータ州出身のダイアン・クリフトンと出会います。二人は1972年7月22日にカナダのアルバータ州カードストーン神殿で結婚し、4人の子供がいます。ホールストロム長老は経済学の学位を取得して卒業し、ハワイに戻って不動産コンサルタント会社の社長を務めました。

2000年4月に七十人第一定員会に召されたホールストロム長老は、アジア北地域会長会で、また最近ではアジア地域会長会で奉仕しました。アジア地域には中国、インドのほか23か国が含まれ、地球の総人口の半分が住んでいます。

ホールストロム長老は、広大な「教会開拓の最も端の地域」で開拓者として暮らす聖徒たちに深い感銘を受けています。彼らの多くはいちばん近い神殿に参入するためにも長い旅をしています。

「この世の文化より福音の文化を優先して受け入れる人々の信仰と勇気にいつも鼓舞されています。人々が自分の生活と家族の中に福音を確立するのを見るのはすばらしいことです」と長老は語っています。

◆



## チェ ユンフワン 崔 崙煥 長老

七十人



**回** 復された教会に自分の家族を導いてくれたのは二人の14歳の少年だったと、七十人の崔崙煥長老は語っています。

崔長老は1957年5月18日、崔東憲、李貞順夫妻のもとに生まれました。父親は崔長老とほかの子供たちにキリスト教の好きな教派を選ばせてくれましたが、夕食を取りながらそれぞれが信じる教えについて議論することがよくありました。崔長老の父親はこの状態を変えたいと思っていました。そして、崔長老の14歳の弟が信仰していたモルモン教に感銘を受け、家族で宣教師の話聞きました。家族はもう一人の14歳の少年、ジョセフ・スミスについて学び、全員でバプテスマを受けました。

崔長老は子供のころから韓国軍の将官になることを夢見ていました。そこで、ビショップから伝道の備えについて話すよう頼まれたとき、崔長老はこの依頼を断りました。代わりに別の若い男性が話をしましたが、長老は後ろめたい気

持ちになりました。

「わたしは伝道に出る必要があると聖霊が教えてくださいました」と語る長老は準備をし、伝道に出ました。そして軍役のために途中で3年間の中断を挟み、長老は2年間、宣教師として奉仕しました。崔長老は今日まで、長老と夫人の具本京姉妹が「主から来るものを決して否定することはありません」と話しています。

崔長老は1988年ブリガム・ヤング大学ハワイ校でビジネス情報管理の学士号を、1989年にはユタ州立大学でビジネス情報システムと教育学の修士号を取得しました。長老は両方の大学で講師を務めたほか、営業マネージャー、またベンチャー企業の投資ディレクターとしても働きました。韓国における教会の地区実務マネージャーも務めています。

崔夫妻はともに韓国のソウルで生まれ育ちました。二人は1982年9月25日に結婚し、1年後にハワイ州ライエ神殿で結び固めを受けました。夫妻には3人の息子がいます。七十人第一定員会に召される前、崔長老はビショップリック顧問、ビショップ、高等評議員、ステーキ伝道部会長、ステーキ会長顧問、ステーキ会長、地域七十人を歴任しています。◆

## ブレント・H・ニールソン長老

七十人



**七** 十人のブレント・ハッチ・ニールソン長老は、救い主の次の勧告を家族のモットーにしていると話しています。「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。」(マタイ6:33)

長老はこの聖句についてこう話しています。「おかげで、人生についてしっかりとした考え方ができるようになりました。これらのことを第一にすれば、後のことは正しい場所に落ち着くようです。」

ニールソン長老は27歳のときにビショップに召されました。30歳のときステーキ会長に召され、6人の子供を育てながら20年にわたってステーキ会長会での責任を果たしてきました。

ニールソン長老夫人のマルシア・アン・ブラッドフォード・ニールソン姉妹はこう語ります。「わたしたちが最も愛しているのは子供たちです。福音に加えて、子供たちは最高の幸せをもたらしてくれます。」

ニールソン姉妹は夫について、多くの責任を抱えながらも、子供たちと過ごす時間を必ず取る、素晴らしい父親であると話しています。家族の好きな活動は旅行に行ったりボートに乗ったりすることです。

ニールソン夫妻は1978年6月、ソルトレーク神殿で結婚しました。一家は30年にわたってアメリカ合衆国アイダホ州ツインフォールズに住んでいます。

1954年12月8日、アイダホ州バーリーでノーマン・ニールソンとルシル・ニールソン夫妻のもとに生まれた長老は、「すばらしい両親に育てられました」と話しています。

七十人第一定員会に召される前、ニールソン長老はフィンランドで専任宣教師として伝道したほか、ワード若い男性会長、高等評議員、アイダホ地域の地域七十人を歴任しました。

ニールソン長老は1978年にブリガム・ヤング大学で英語学の学士号を取得しました。1981年にはユタ大学で法学博士号を取得。1985年から、法律事務所での弁護士および共同経営者として勤務しています。

◆

## デール・G・レンランド長老

七十人



デール・グナー・レンランド長老は、主に従うこと以上に大切なことはないということを人生の早い時期に学びました。長老の両親、マッツ・レンランド、マリアナ・レンランド夫妻は、模範によって長老にこの原則を教えました。二人は第二次世界大戦の終結後間もなく、スウェーデンのストックホルムで出会いました。「結婚したい、でも神殿でしか結婚したくない」と思った二人は、フィンランドとスウェーデンの故郷を後にしてユタに移住し、ソルトレーク神殿で結び固めを受けました。

1952年11月13日に合衆国のユタ州ソルトレーク・シティーで生まれたレンランド長老は、主の勧告に従って豊かな祝福にあふれた家庭で育ちました。レンランド長老は2度、両親の母国で生活するという祝福にもあずかりました。最初は長老が10代で、大工だった父親が教会の建築宣教師としてスウェーデンに召されたときであり、2度目はその数年後に、長老自身がスウェーデンの教会

の専任宣教師に召されたときです。

レンランド長老は自分の所属ワードで妻となるルース・リパート姉妹と知り合い、1977年6月に、ソルトレーク神殿で結び固めを受けました。夫妻は娘とともに強いきずなで結ばれた家庭を築き、ともに働き、遊び、奉仕してきました。

「わたしたちは家族として物事を行うのが大好きです」と、レンランド長老は語ります。「わたしたちは何でも、そのように計画します。ゴルフをするときは、スリーサム(訳注——ゴルフで、一人対二人の試合。一人は自分のボールで競技し、ほかの二人は一つのボールを交互に打って競技する)でプレーし、スコアを共有します。」

レンランド長老は、ユタ大学で医学の学士号と博士号を取得し、ジョンズ・ホプキンス大学で内科医学と心臓病学の実習を終えました。長老は教師、研究者、また臨床医として心不全と心臓移植を専門分野とする医学の経歴を積み上げてきました。

七十人第一定員会で奉仕する召しを受ける前に、レンランド長老は、ビショップ、ステーキ会長、高等評議員として奉仕し、また七十人第五定員会で地域七十人として9年間奉仕しました。長老と家族は現在、ユタ州ソルトレーク・シティーに住んでいます。◆

## マイケル・T・リングウッド長老

七十人



韓国のソウルでの伝道を終わるころ、マイケル・タリー・リングウッド長老は、病気のためにアパートから出ることができない同僚とともに一日を過ごし、勉強と熟考と祈りのさらなる機会を与えられました。

「わたしは確信が必要だと感じました」と、この度七十人第一定員会会員になったリングウッド長老は語ります。長老はかつてないほど長く祈っていましたが、確信が得られませんでした。聖文の勉強をしても確信は得られませんでした。しかし最後に、伝道中に記してきた日記を見たとき、確信を得ました。

「読んだすべての記録に、わたしは御霊について重要なことを何かしら書いていたのです。わたしが受けたメッセージはこうでした。『わたしは何度もあなたに告げてきた。あなたは何度確信が必要なのか。』それがわたしの祈りに対する答えでした。わたしはこの証が何度も繰り返し与えられていたことに気づきました。主は

いつもそこにおられたのです。わたしが御霊と、聖霊の証とを以前から感じていたことを、主はわたしに思い起こさせてくださいました。」

この教訓は、ビショップ、高等評議員、大祭司グループリーダー、若い男性会長、スカウト隊長、ステーキ会長、韓国ソウル西伝道部の会長としての半生と召しを通じてリングウッド長老の支えとなってきました。

中央幹部としての召しを受ける前、リングウッド長老は、幾つかの会社で役員として働きました。また、ブリガム・ヤング大会計学部理事会の一員も務めました。

リングウッド長老は、1958年2月14日、合衆国のユタ州プロボで、ハワード・リー・リングウッド、シャロン・リー・リングウッド夫妻のもとに生まれました。そして、ユタ州ソルトレーク・シティーで育ち、ブリガム・ヤング大学に通い、そこで1983年に会計学の学士号を取得しました。また、1982年12月27日に、ユタ州ジョーダンリバー神殿でロザリー・ネルソン姉妹と結婚しました。二人には5人の子供がいます。◆

## ジョセフ・W・シターティ長老

七十人



ジョセフ・W・シターティ長老は、福音に関する単純な事柄を何度も繰り返し行うことで幸せが得られると信じています。「わたしは教会の指導者の勧告に疑問を抱きません」と、長老は語ります。「指導者から求められることを行うとき、物事は常にうまく行きます。」そのような単純な事柄を行うと、救い主との一致が得られ、「その一致の根底はわたしたちの家族にあります」と、語ります。

1952年5月16日にケニアのブンゴマでネイサン・シターティ、レナ・シターティ夫妻のもとに生まれたシターティ長老は、34歳のとき、職場の同僚に誘われて、妻のグラディス・ナンゴニ姉妹と5人の子供たちと一緒に、同僚の自宅で行われていた教会の集会に出席しました。シターティ家族は、組織化された宗教に幻滅を感じていましたが、末日聖徒のこの小さなグループには特別な何かを感じました。そのため、彼らは毎週通い続けました。そして6か月後の1986年、家族は教会に加入し

ました。

「バプテスマを受ける前から、わたしたち夫婦は教会で話をしたり教えたりするよう依頼されました」と、シターティ長老は語ります。長老は、自分が子供たちの前で話していることは正しいことかどうか、ぜひとも知る必要があると感じました。こうして、シターティ長老は次第に御霊を認識するようになり、いつも御霊を感じられるようにすることが不変の目標となったのです。

シターティ長老は、1975年にナイロビ大学で機械工学の学士号を取得しました。また、会計学および財政金融学の学位も持っています。そして、世界的な石油ガス会社において幾つかの役職を得て働きました。さらに最近、アフリカの教会国際広報ディレクターとして奉仕してきました。

シターティ長老と姉妹は、1976年7月に結婚し、1991年12月に南アフリカ・ヨハネスバーグ神殿で結び固めを受けました。現在はケニアのナイロビに住んでいます。

七十人第一定員会に召されたとき、シターティ長老は、ナイジェリア・カラバル伝道部の会長として奉仕していました。それ以前は、支部会長と伝道部会長の顧問として、また支部会長、地方部会長、ステーキ会長、地域七十人として奉仕しました。◆

## ウィルフォード・W・アンダーセン長老

七十人



七十人のウィルフォード・ウェイン・アンダーセン長老のことを、「ほんとうに話しやすい人です」と、妻のキャスリーン・ベニオン・アンダーセン姉妹は語ります。「彼の最大の長所の一つは、偏った判断をせず、周りの人々に安心感を与えることだと、わたしは思います。」

アンダーセン長老は、1949年8月22日、合衆国のアリゾナ州メサで、ダール・アンダーセン、アーマ・ファーンズワース・アンダーセン夫妻のもとに、8人いる子供のうち、第3子として生まれました。召しを受けたときも、長老はメサに住んでいました。アンダーセン長老は、多くの宗派の人々とともに働いた父親と、メキシコのチワワ出身で長老に現地の言葉を教えてくれた母親から、様々な異なる背景を持つ人々を愛することを学んだと語ります。

アンダーセン長老は、アルマがアルマ書第32章の中で述べているプロセスと同じ方法で自分の証を得たと確信しています。少年時代に、長老の心

の中に種が植えられたのです。

「わたしは早い時期に最初の芽生えを感じました」と長老は言います。「その芽はこれまでの人生を通じて生長し続け、木になり、実を結びました。わたしはその実を食べ、わたしの人生は喜びで満たされました。」

アンダーセン長老は、2009年4月4日に七十人第二定員会に召されたとき、北アメリカ南西地域における地域七十人として、七十人第六定員会で奉仕していました。これまでに、2002年から2005年までのメキシコ・グアダハラハラ伝道部の会長、ステーキ会長とステーキ会長顧問、ステーキ幹部書記、高等評議員、ビショップ、ビショップリック顧問、アルゼンチン南伝道部専任宣教師などの教会の召しを歴任してきました。

アンダーセン長老は共通の友人を介して妻に出会いました。二人は1975年4月にユタ州プロボ神殿で結婚し、現在9人の子供がいます。アンダーセン長老は、1973年にブリガム・ヤング大学で経営管理の学士号を、また1976年にJ・ルーベン・クラーク法科大学院で法務博士号を取得しました。そして、1979年以降、不動産投資会社の共同経営者を務めてきました。◆

あおやぎこういち

## 青柳弘一長老

七十人



**青**柳弘一長老は、長野県松本市で育ち、17歳のとき、高校の英語クラブに入りました。ある日長老は、自転車での通学途中、街頭に立っていた一人の青年から1枚の紙を受け取りました。それは無料英会話クラスのちらしでした。その若い男性は末日聖徒の宣教師だったのです。

青柳長老は、こう語っています。「教会の宣教師たちのように、とても前向きで、とても明るく、とても楽天的な人にそれまで会ったことがありませんでした。わたしは彼らのようになりたいと思いました。」長老は松本の教会に集い始め、ここでも同じように会員たちの喜びと愛の精神に感動しました。やがて、青柳長老は1962年にバプテスマと確認を受けました。

2年間神奈川大学に通った後、青柳長老は帰郷しました。家業が立ち行かなくなり、両親が長老の学費を払えなくなってしまったのです。このことがきっかけとなって、長老は1965

年から1967年まで北部極東伝道部で建築宣教師として奉仕することになりました。1年後、3つの仕事を掛け持ちして貯金した後、1968年から1970年まで同じ地域で専任の伝道宣教師として奉仕するよう召されました。

青柳長老は、1970年9月に、松本で長老が最初に通っていた支部の会員、百瀬城子姉妹と結婚し、その同じ年のうちにソルトレーク神殿で結び固めを受けました。日本不動産専門学校で資格を取得した後、青柳長老は東京にあるアジア北地域教会管理本部で不動産課長、建築課長として働きました。その後、国内の二つの会社で営業主任、またセールスマネージャーとしても働きました。

七十人第二定員会に召される前、青柳長老は、支部会長、ステーキ会長、伝道部会長、ビショップ、結び固め執行者、地域七十人など、多くの召しを受けて奉仕しました。

青柳長老は、1945年3月24日、矢ヶ崎三男、青柳スエノ夫妻のもとに生まれました。青柳長老と姉妹には4人の子供がいます。現在、千葉県に住んでいます。◆

## ブルース・A・カールソン長老

七十人



**七**十人のブルース・アレン・カールソン長老は、16歳になるまで教会の活動に参加できませんでした。しかし、母親が聖文を読み、福音の賛美歌を歌うことによって長老と二人のきょうだいに福音を教え、長老のその後の霊的成長に貢献しました。教会に関するこの最初の教えが霊的な基礎となり、それはカールソン長老のこれまでの人生を支え続けました。

カールソン長老は、1949年10月3日、合衆国のミネソタ州ヒビングで、クリフォード・カールソン、ヘレン・カールソン夫妻のもとに生まれました。ミネソタ森林管理部で働いていた父親が昇進する度に、カールソン長老は、州内の北半分の各地を、何度も引っ越しながら子供時代のほとんどを過ごしました。家族がミネソタ州プレーナードへ引っ越したとき、母親のヘレン・カールソン姉妹(若いときにバプテスマを受けていた)はようやく子供たちを近くにある教会の小さな支部に連れて行くことができるよう

になりました。

改宗後、カールソン長老は、1971年に、ダルスにあるミネソタ大学で学士号を取得し、1979年にはネバダ州のネリス空軍基地にある合衆国空軍戦闘機兵器学校を卒業し、1989年に合衆国海軍大学で、優秀な成績で修士号を取得しました。

合衆国空軍の一員であったカールソン長老は、37年の経歴の大部分を戦闘機に乗って過ごしました。そのほか、合衆国防総省とワシントンD.C.で幾つかの上級職務に就いて働きました。長老は、1972年8月8日にソルトレーク神殿でビッキー・リン・マーテズ姉妹と結婚し、3人の子供がいます。カールソン長老は妻や子供たちとともに、愛する人々に仕え、また、仕えている人々を愛することに人生をささげてきました。

カールソン長老はこれまで、長老定員会会長、ビショップ、高等評議員として、また教会の軍務諮問委員会のアドバイザーとして奉仕してきました。七十人第二定員会に召されたときは、合衆国のテキサス州サンアントニオの所属ワードで日曜学校教師として奉仕していました。◆

## ブラッドリー・D・フォスター長老

七十人



七十人第二定員会のブラッドリー・ドゥエイン・フォスター長老の証は、両親の証を聞いたことで芽生えました。

フォスター長老は言います。「父方の祖父も母方の祖父も、教会員となってすぐに移民としてアメリカに渡って来ました。一方はドイツ、もう一方はイングランド出身です。大変苦しい旅でした。わたしが証を得たのは、父方、母方両方の祖父母が教会のために大きな犠牲を払ったことを両親から聞いたからです。わたしは子供時代に、両親の言葉を信じました。」

1949年3月5日、合衆国のアイダホ州アイダホフォールズで、ドゥエイン・フォスター、メルバ・フォスター夫妻のもとに生まれたフォスター長老は、隣接する町リグビーで育ちました。専任宣教師としてテキサス南伝道部で働いていたとき、ある宗派の聖職者と出会い、長老の証はさらに強くなりました。その聖職者は若い宣教師であった彼に、天国に行けるのは

テキサスにある自分の小さな教会の会員だけだと言ったのです。

「それ以外の人たちに対して、天の御父がそのように不親切であられるとは想像できませんでした。その夜の祈りの中で、御父の計画と愛はすべての人のためにあることを、天の御父はわたしの心に証してくださいました。そのとき、世界に向けたわたしたちのメッセージが真実であることを知りました。」

伝道から帰還するとすぐに、フォスター長老はリックス・カレッジ(現在のプリガム・ヤング大学[BYU]アイダホ校)で基礎獣医学を専攻しました。1971年には、リグビーで農業関連のビジネスを始めました。1971年5月14日、アイダホ州アイダホフォールズ神殿でシャロル・リン・アンダーソン姉妹と結婚し、4人の子供がいます。フォスター長老はこれまで、アイダホ州ジャガイモ委員会、ノースウエスト農業金融役員会、BYUアイダホ校の学長昇格評議会で奉仕してきました。

フォスター長老はまた、長老定員会会長、ステーキ伝道部会長、ビショップ、高等評議員、ステーキ会長、カリフォルニア州アルカディア伝道部会長の召しを果たしています。◆

## ジェームズ・B・マルティノ長老

七十人



1968年に教会員となつてわずか3か月後、ジェームズ・ボイド・マルティノ長老は友人に勧められてほかの宗派の聖職者と会うことになりました。そのときその聖職者から質問を浴びせられましたが、ほんの少ししか答えられませんでした。

17歳だったジェームズは心を揺さぶられるはしましたが、教会への決意を翻すことはありませんでした。それどころか「よく振らなければ効き目がない処方薬のように、そのときのわたしの証も揺さぶられる必要があったのです。この経験は、福音を勉強して信仰を強めようと、わたしを奮い立たせてくれました」と長老は語ります。

この度、七十人第二定員会の会員に召されたマルティノ長老はそのとき以来、福音を研究することで祝福されてきたと語ります。

マルティノ長老は、1951年3月28日、合衆国のテキサス州デントンで、フランク・ニルソン・マルティノ、ベティー・ジーン・ニューマン・マルティノ夫妻

のもとに生まれました。幼いころからのガールフレンドであるジェニー・マリー・バロン姉妹が教会員となって1年たった1973年8月18日にユタ州オグデン神殿で結婚しました。夫妻には5人の子供がいます。

マルティノ長老は、1974年にプリガム・ヤング大学でビジネスの学士号を取得。卒業後は服飾関係の同族会社で働き、1989年から2000年までは取締役兼最高経営責任者を務めました。

今回の召しを受けたときは、合衆国テキサス州オーブリーに在住し、七十人第六定員会の会員として北アメリカ南西地域で働いていました。その前の2000年から2003年まではベネズエラ・マラカイボ伝道部会長を務めました。

マルティノ長老は教会において、グアテマラ・エルサルバドル伝道部専任宣教師、ステーキ幹部書記、ステーキ若い男性会長、セミナー教師、ビショップ、ステーキ会長、高等評議員、伝道部会長の顧問として奉仕してきました。◆

## ケント・F・リチャーズ長老

七十八



ケント・ファーンズワース・リチャーズ長老は、利己心がなければ人はより豊かな人生を送れると信じています。「利己心を遠ざけてください。自分の外に目を向ける方が、はるかに満たされます。」

合衆国ユタ州ソルトレーク・シティーで生まれ育ち、外科医として32年を過ごしたりチャーズ長老は、人々の肉体的な必要をケアすることで、教会での奉仕に備えられてきたと言います。

「外科医としてわたしがほんとうにしていることは、人に仕える方法を見つけ出すことです。わたしたちが王国で行っているのは、まさにそのことなのです。」

1946年2月25日、C・エリオット・リチャーズ、マーガレット・ファーンズワース・リチャーズ夫妻のもとに生まれたりチャーズ長老は、1968年8月にソルトレーク神殿でマーシャ・ガー姉妹と結婚しました。合衆国ユタ州ノース・ソルトレークに在住する夫妻には8人の子供がいま

す。人生最大の幸せは家族によってもたらされると信じ、生涯を通じて家族中心の生活を保つことに努力してきました。

「まだ若い父親だったころ、十二使徒定員会のリチャード・L・エバンス長老(1906-1971年)が『息子たち以外に興味はありません』と言ったのを覚えています。それはわたしにとって、まず家族に注意を向ける必要があるという教訓でした。」

リチャーズ長老は1969年に医学学士号を、1972年には医学博士号とともにユタ大学より取得しました。開業医として働く傍ら、ユタ大学臨床学教授、LDS病院外科部長、保健団体の専務ならびに理事会の会員としても活躍しました。

リチャーズ長老は七十八人第二定員会の召しを受ける以前は、南メキシコ伝道部の専任宣教師、スカウト隊長、長老定員会会長、ビショップ、高等評議員、ステーキ会長、テキサス州サンアントニオ伝道部会長として奉仕しました。◆

## グレゴリー・A・シュワイツァー長老

七十八



七十人のグレゴリー・アラン・シュワイツァー長老は、救急医療の専門医として重態の患者を数多く診てきました。そして、危機に瀕した負傷者とその愛する人々を助ける天の御父の優しさを見る祝福にあずかってきました。

「幕を通過して行った多くの患者の手を取ってきました。」死に直面すると、多く人は天の御父に頼ります。「御父こそ彼らがつかもうとする最後の希望だからです。」

シュワイツァー長老は1948年4月2日、合衆国ユタ州オグデンでハービー・シュワイツァー、グロリア・シュワイツァー夫妻のもとに生まれ育ち、北ドイツ伝道部で専任宣教師として働きました。1972年、生物学の学士号を得てユタ大学を卒業し、1975年に同校から医学学位を取得しています。卒業後の研究を5年間、合衆国コロラド州デンバーにあるフィッツシモンズ陸軍医療センターの合衆国陸軍医療部隊で行いました。

シュワイツァー長老と妻のジョアン・エリザベス・ロースーン姉妹は1972年6月24日、ユタ州オグデン神殿で結婚しました。夫妻には5人の子供がいます。

ある夜更けに、ドイツで伝道中の末の息子が大量の脳出血を起こし、助かる見込みはないと電話で告げられました。「主の奇跡的な御手により、12回に及ぶ手術を経て、息子の命は助かりました。それから数年かけて、息子は全快しました。このような主の祝福を人生で経験すると、何であれ主から望まれる奉仕を断ることなど決してできません」とシュワイツァー長老は語ります。

七十八人第二定員会の召しを受ける前には、シュワイツァー長老は、ビショップ、高等評議員、ステーキ会長、ロシア・エカテリンブルク伝道部会長を務めました。◆

## ラッセル・T・オスガソープ

中央日曜学校会長



**新**たに中央日曜学校会長に支持されたラッセル・トレント・オスガソープ兄弟は語ります。「教えることは、教会のいかなる成功にも欠かすことのできない鍵です。わたしたちがリーダーシップと呼ぶ事柄の大半は、実は教えることを意味しています。日曜学校とは、教会の教える能力を改善する部門だとわたしは思っています。」

オスガソープ兄弟は教師ですが、それは職業でもあり、また趣味でもあります。教育心理学博士号をはじめとして複数の学位をブリガム・ヤング大学(BYU)から受けています。

現在、BYUの教育心理学部の教授であり、同大学の教育・学習センターのディレクターを務めるオスガソープ兄弟の目標は、学生が学習能力を高め、職員がその最大限の能力を発揮して教えることができるよう支援することです。

オスガソープ兄弟は、合衆国ユタ州ソルトレーク・シティーで1946年12月4日、ウェスレー・オスガソープ、アイバ・ラッセル・オ

スガソープ夫妻のもとに生まれました。タヒチで伝道し、1969年8月7日、ソルトレーク神殿でローラ・ロリー・セディウィック姉妹と結婚。夫妻には3人の息子と2人の娘がいます。

サウスダコタ州ラピッドシティ伝道部会長として務めるまで、ステーキ若い男性会長、ビショップリック顧問、プロボ宣教師訓練センターの支部会長、BYU学生ステーキの会長として奉仕しました。この召しを受けたとき、オスガソープ兄弟は、七十人第五定員会で奉仕していました。

オスガソープ兄弟は、自身の証が成長した過程について話しています。「わたしはこれまでに何度も、様々な場面で主の御手を見てきました。子供のときでさえ、わたしには神の助けがあると知っていました。タヒチで伝道したときも同じです。主が父親であるわたしを導いてくださっていると知った瞬間もありました。そして伝道部会長として奉仕しているときにも、主が宣教師たちを大いなる者にしてくださっているのを見る度に、日々神の力と愛を思い起こすことができました。」◆

## デビッド・M・マッコンキー

中央日曜学校会長会第一顧問



**こ**れまで、中央日曜学校会長会第一顧問のデビッド・メリル・マッコンキー兄弟は、日曜学校で奉仕する機会はほとんどありませんでしたが、長年にわたる神権指導者としての経験を通して、福音を教えることに関する大切な視点を持つことができました。

マッコンキー兄弟は「教義とは、わたしたちの行動と人格のすべての土台です」と言います。「わたしたちは教義を学び、理解し、さらに戒めを守ることによって信仰を強めます。戒めが何であるかを理解して初めて、戒めを守ることができるのです。」

子供のころからマッコンキー兄弟にとって、戒めを守ることが真っ先に行くべきことでした。マッコンキー兄弟は、1948年10月13日、合衆国ユタ州ソルトレーク・シティーでフランス・ブリトン・マッコンキー、ベス・メリル・マッコンキー夫妻のもとに生まれ、南アフリカ伝道部に召されるまで、ユタ州バウンティフルで育ちました。

マッコンキー兄弟は1971年9月、ソルトレーク神殿でジョアン・アルプレヒト姉妹と結婚し、7人の子供がいます。ユタ大学より1974年に歴史学の学士号を、1977年に法学博士号を取得し、同年、ソルトレークを基盤とする法律事務所に就職しました。

マッコンキー兄弟はこれまで、アロン神権、日曜学校で奉仕し、また、ビショップ、高等評議員、ステーキ会長顧問として働きました。この七十人の召しを受けたときはステーキ会長を務めていました。奉仕を通して、教えることが教会の中で果たしている重要な役割を知りました。「教会では、すべての指導者とすべての親が教師です」と語ります。

教師として最も大切な責任は、御霊の促しを聞き、従うことだとマッコンキー兄弟は言います。「教える方法はたくさんありますが、いちばん大切なことは、主なら何をお教えになるかを知るために、御霊のささやきに敏感であることです。そうして初めて、教師は主の御手に使われる者となって重荷を軽くし、祈りにこたえることができるのです。教会のすべてのクラスで、そのようにしなければなりません。」◆

## マシュー・O・リチャードソン

中央日曜学校会長第二顧問



マシュー・オットセン・リチャードソン兄弟は、教育者になるつもりはありませんでした。ですから、主が自分を生涯にわたる教師の業に備えようとしておられることに気づいたときには、当然のことながら非常に驚きました。

「わたしは、自分の益のために物事を柔軟に受け入れることを学びました。」リチャードソン兄弟はそう語ります。「天の御父は、わたしの人生に関する詳細はもちろん、あらゆる事柄についてより遠大な観点から見られます。」

リチャードソン兄弟は、1982年にデンマーク・コペンハーゲン伝道部から帰還すると、宣教師訓練センターでデンマーク語を教え始めました。ブリガム・ヤング大学(BYU)の学費を得るためでした。1983年7月に、ソルトレーク神殿でリサ・ジーン・ジャクソン姉妹と結婚しました。やがて友人たちからセミナーで教えるよう勧められました。

「1年間教えたら、ほかのことに挑戦しようと思っていました。」

1年はやがて7年となり、今なお教え続けています。」リチャードソン兄弟はそう語ります。「これは驚きでした。」

リチャードソン兄弟は、コミュニケーションの学士号、教育指導分野の修士号と博士号をすべてBYUで取得しました。セミナーの常勤教師として働くことを生涯の召しと感じたこともありましたが、BYUで教会歴史および教義クラスの教授として教えることにも同様の情熱を感じています。BYUでは、宗教教育学部の副学部長を4年にわたって務めました。教室で過ごしてきた長年の経験は、新たな召しを果たすに当たって、生徒と教師の両方の立場を理解できるよう助けてくれます。

リチャードソン兄弟は、1960年12月12日、ユタ州ソルトレーク・シティで、エドワード・ミルトン・リチャードソンとアンドレア・ラビナ・オテセン・リチャードソン夫妻のもとに生まれました。これまで若い男性会長、長老定員会会長、日曜学校教師、ビショップ、若い男性／若い女性の教科課程執筆委員会の一員として奉仕してきました。家族とともにユタ州オレムに住んでいます。

この召しを受けたときに、4人の子供のうちいちばん下の子からこう尋ねられました。「お父さんとこれからもキャッチボールはできるの。」献身的な父親、夫、教師であるリチャードソン兄弟は、これからもキャッチボールをする時間はあることを約

## デビッド・L・ベック

中央若い男性会長



長年にわたる奉仕の間に、教会の数多くの青少年と面接してきたデビッド・リロイ・ベック兄弟は、青少年を高く評価しています。

「彼らと親しく語り合い、胸の内を打ち明けられた経験があります。すばらしい青少年です。」新しい中央若い男性会長はそう語ります。「天の御父が彼らをどれほど愛しておられ、どれほど大切に思っておられるかを感じることができます。実に多くの若い男性がわたしのヒーローです。彼らは試練の時にあっても、ほんとうに忠実だからです。」

ベック兄弟は、ブラジル・リオデジャネイロ北伝道部会長、ステーク会長、ビショップ、高等評議員、ビショップリック顧問、長老定員会会長、初等協会教師として奉仕してきました。この召しを受けたときは、ユタ州バウンティフルのワードで伝道主任を務めていました。

ベック兄弟は、1953年4月12日、ユタ州ソルトレーク・シティで、ウェイン・ベックとエブリ

ン・ムーン・ベック夫妻のもとに生まれました。ベック兄弟が10歳のときに、父親はブラジル伝道部会長に召されました。両親と専任宣教師の両方が、彼の手本の役割を果たしました。「若いころに、この業がどれほど胸躍るものかを経験しました。」ベック兄弟はそう語ります。ベック兄弟は、後にブラジル北部中央伝道部の専任宣教師として奉仕しました。

「わたしは教会の若い男性が、忠実であり、アロン神権とメルキゼデク神権、さらには神殿のすばらしい祝福のすべてにふさわしい者となるよう望んでいます。」ベック兄弟はそう語ります。「心身ともに健康なすべての若い男性が、専任宣教師の奉仕を通じて人々をキリストのみもとに導く喜びを経験してほしいと願っています。」

ベック兄弟は、1976年にソルトレーク神殿でロビン・エリクセン姉妹と結婚し、4人の子供がいます。「わたしたちは一緒に時を過ごすのが大好きです」とベック兄弟は語ります。ベック兄弟は、製造および配送を業務とする会社の重役を務めています。また、工業大学の理事会で奉仕しています。ユタ大学で電子工学の学士号、技術管理の修士号を取得しています。◆



## ラリー・M・ギブソン

中央若い男性会長会第一顧問



**高**校を卒業したとき、ラリー・マイナー・ギブソン兄弟はアリゾナ州のグランドキャニオンにあるハバスパイを旅することになりました。そこで数日間モルモン書を読み、自分の証について祈り、考える機会がありました。ギブソン兄弟は、教会が真実であると常に感じていましたが、世の中に出て行く前に、自分にしっかりとした焦点と基盤があることを確認したかったのです。

「その期間に、非常に神聖なことを幾つか経験しました。」ギブソン兄弟はそう語ります。「その経験は、学校や伝道に行くに当たって、助けとなりました。」

ギブソン兄弟は、1966年から1968年までイギリス南伝道部で専任宣教師として奉仕し、1968年9月にユタ州マントイ神殿でシャーリー・バートン姉妹と結婚しました。その後、教会で様々な召しを受けて奉仕しました。今回の召しを受けたときは、ステーキ会長として奉仕していました。それ以前に

は、ステーキ会長顧問、高等評議員、ビショップ、ワードおよびステーキ若い男性会長として奉仕しました。

ギブソン兄弟は、1971年にブリガム・ヤング大学でコンピューター科学の学位を取得して卒業しました。1974年には、同大学で情報科学の修士号を受けました。

ギブソン兄弟は、幾つかのテクノロジー企業の会長兼最高経営責任者(CEO)を務めてきました。最近では、売上げが合衆国の上位500社に入る大企業の取締役副社長ならびに最高技術責任者(CTO)を務めていました。

ギブソン夫妻と6人の子供たちは、スキューバダイビング、熱気球、サイクリング、ハイキング、キャンプ、旅行が趣味です。ギブソン夫妻は現在、ユタ州ハイランドに住んでいます。

ギブソン兄弟は、1947年2月26日にネバダ州ボルダーシティーで、ロバート・オーウェンとタイス・マイナー・ギブソン夫妻のもとに生まれました。◆

## エードリアン・オチョア

中央若い男性会長会第二顧問



**若**いころ、エードリアン・オチョア・クインタナ兄弟は、人生において謙遜であることの必要性を理解し、それ以来、何に焦点を当てればよいかははっきりと分かるようになりました。

「初めてアルマ32:15を読んだとき、やむを得ず謙遜になるのではなく、御霊の導きに従うならば、多くの祝福を受けられるということを知りました。」オチョア兄弟はそう振り返ります。「この約束に従おうと決心したとき、わたしの人生にそれまでとはまったく違う指針ができました。」

中央若い男性会長会の第二顧問として、オチョア兄弟は謙遜であり続けることの必要性を理解しています。

オチョア兄弟は、1954年3月7日、カリフォルニア州サンフランシスコで、エドワード・オチョアとコンスエロ・オチョア夫妻のもとに生まれました。少年時代をカリフォルニア州ロサンゼルスとメキシコのチワワで過ごしました。この二つの場所で積んだ経験は、後の人生に役

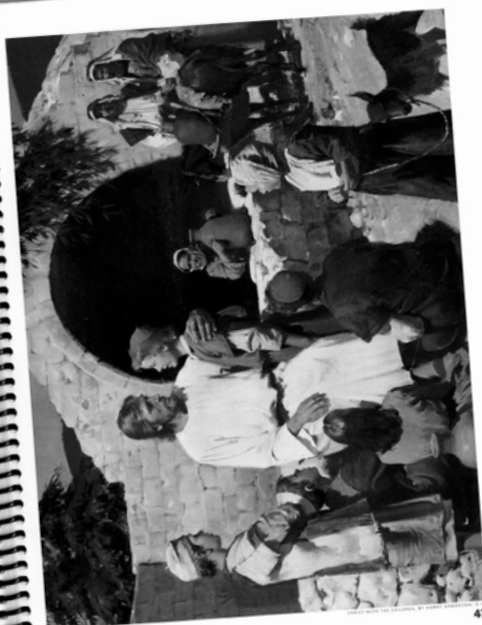
立ちます。

オチョア兄弟は、合衆国とメキシコの広告および映画製作会社に勤務し、世界の頂点に立つ500社のうち数社の多岐にわたる販売キャンペーンを展開してきました。オチョア兄弟は、ロサンゼルスで過ごした時期は、メディアがどのように機能するかを学ぶ良い機会だったと言います。同様に、メキシコで過ごした時期には、「異なる空気を吸い」、自然の中で時を過ごす機会が与えられたと信じています。「両方の最も良いものを味わうことができました。」オチョア兄弟はそう語ります。

メディアに関心があったオチョア兄弟は、コミュニケーションの学士号、ビジネスおよびマーケティングの修士号を取得しました。

青年期には、メキシコで特別広報宣教師として奉仕する召しを受け、政府の指導者と会談したり、メディアを使って福音を宣べ伝えたりしました。

オチョア兄弟とナンシー・ビラリアル夫人は、メキシコ・メキシコシティー神殿で結び固めを受け、現在はユタ州ハイランドに住んでいます。5人の子供がいます。オチョア兄弟は、大祭司グループリーダー、ステーキ会長、地域広報ディレクター、地域七十人、ホンジュラス・サンペドロスラ伝道部の会長として奉仕しました。◆



新しい『福音の視覚資料集』により、従来の『福音の視覚資料セット』よりもはるかに安い価格で福音の視覚資料が入手できるようになる。

## 全世界の利用者のために制作された『福音の視覚資料集』

福音の視覚資料が家庭や教師にも簡単に手に入るようにしてほしいという、全世界からの要望が高まるのにこたえるため、教会は137枚から成る『福音の視覚資料集』を制作した。これは従来の『福音の視覚資料セット』に比べ、はるかに安く購入することができる。この資料集には、8つの言語で書かれた目録および参照聖句が付いており、ほかの50言語による目録の追加挿入ページもある。

「『福音の視覚資料集』は、家庭と教会の両方において、福音を教えるために使用できる新たな素晴らしい教材です。」中央初等協会会長のチェリル・C・ラント姉妹はそう語る。「わたしたちは皆、特に子供は物事を視覚から学びます。このような美しい絵や写真を見ることによって、わ

たしたちは注意を向け、焦点を絞り、言葉に表されていない福音の諸原則を数多く学ぶことができるのです。また、見ることでよりよく感じられるようになること、別の表現をすれば、学習の過程に御霊を招くことができることを知っています。」

新しい『福音の視覚資料集』は、合衆国およびカナダ国内では3ドル50セント(あるいは、20枚つづりの各ケースが1ドル50セント)。日本における販売価格は300円である。これに比べ、既存の『福音の視覚資料セット』はケース入りが2,200円、ケース無しが1,800円である。

「わたしたちは、できるかぎり費用が安くなるような形で、この資料を制作しました。」教科課程企画開発スペシャリストのマイケル・マドセン兄弟はそう語る。「すべての会員がこの資料集を



持てるような価格にしました。」

このらせんとじの資料集(縦22センチ、横28センチ)には、旧約・新約聖書、モルモン書、教会歴史に登場する聖文の物語を描いた絵、さらには教会および福音のその他の側面をとらえた写真が含まれている。資料集の中の絵には、「子供たちに教えるアダムとエバ」「使徒を聖任するキリスト」「祈りをささげるエノス」「最初の示現」「ソルトレーク神殿」「末日の預言者」などがある。

中央扶助協会会長のジュリー・B・ベック姉妹は、この資料集は視覚資料セットを大幅に改善したものだと言っている。視覚資料セットは重く、運びづらく、1枚1枚がバラバラになるのに比べ、資料集は持ち運びが容易で、サイズが小さいので鞆に入れて教会に持って行くことができ、しかも、1枚1枚がとじられている。

「すべての教室で使用することができます。初等協会の分かち合いの時間でも使うことができます。家庭の夕べや家族の聖文学習、ディボーションで使うこともできます。個人学習で使うこともできます。」ベック姉妹はそう語る。

マドセン兄弟は、この資料集は日曜学校で使うこともできれば、セミナーやインスティテュートのクラスの補助教材として使うこともできる、と付け加えている。両親は子供たちが寝る前に、この資料集を使って聖文の物語を読んで聞かせることもでき、教会で子供たちが静かにしてられるように使うこともできる。

『福音の視覚資料集』

のプロモーションに関するインタビューの中で、七十人のスペンサー・J・コンディー長老は視覚資料が持つ力について触れ、この資料集に収録されている絵の一つが、トーマス・S・モンソン大管長の執務

室の壁に飾られていることを説明した。モンソン大管長は、その絵を見るときに、「救い主はわたしに何をしよう望んでおられるだろうか」と自問することがあると話したことがある。このように救い主に思いを向けることによって、モンソン大管長は靈感を受け、多くの質問に対する答えを受けるのである。

「この資料集」がすべての家庭、すべての教室に備えられるよう望んでいます。」ラント姉妹はそう語る。「信仰と証を増し加えようと努力するとき、また、周りの人を鼓舞し、家族を強めようと努力するとき、わたしたちのレッスンや生活に祝福をもたらす力がこの資料集にはあるのです。」

『福音の視覚資料集』は、教会配送センターを通じて、あるいはインターネット [gospelart.lds.org](http://gospelart.lds.org) で入手することができます。■



### 七十人会長会

前列左から、ロナルド・A・ラズバンド長老、クラウデイオ・R・M・コスタ長老、ステイブ・E・スノー長老、ウォルター・F・ゴンサレス長老。  
後列左から、L・ホイトニー・クレートン長老、ジェイ・E・ジェンセン長老、ドナルド・L・ホールストロム長老。



第179回年次総大会において支持され十二使徒定員会の新しい会員となったニール・L・アンダーセン長老を、2008年4月に同定員会会員として支持されたD・トッド・クリストファーソン長老(右)が歓迎する。